

令和5年度  
地域福祉に関する市民意識調査  
調査結果報告書

令和6年3月



## 目次

### 1 調査の概要

(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査対象者.....	1
(3) 調査期間.....	1
(4) 調査方法.....	1
(5) 調査票の配布・回収状況.....	1
(6) 調査報告書の見方.....	2

### 2 調査結果

#### 第1章 18歳以上の市民意識調査

(1) 回答者の属性.....	3
(2) 地域意識や課題について.....	7
(3) 地域福祉活動について.....	34
(4) 制度や施設の認知度について.....	40
(5) 地域防災への取り組みについて.....	48
(6) 地域福祉の推進について.....	58
(7) 社会福祉協議会について.....	66
(8) 今後の地域福祉について.....	73

#### 第2章 15～17歳の若年者意識調査

(1) 回答者の属性.....	86
(2) 福祉教育について.....	89
(3) 地域意識や課題について.....	94
(4) ボランティアについて.....	100
(5) 地域の福祉課題について.....	105
(6) 社会福祉協議会について.....	107
(7) その他.....	109

#### 第3章 自治会長、民生委員・児童委員の市民意識調査

(1) 回答者について.....	110
(2) 地域について.....	112
(3) 他団体との連携について.....	121

資料編

調査票

18 歳以上市民用 .....	146
若年者（15～17 歳）用 .....	158
自治会長 民生委員・児童委員用.....	165

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

本調査は、第5次刈谷市地域福祉計画の策定にあたり、市民の福祉に対する意識、地域の課題や福祉活動などの状況を把握し、基礎資料とすることを目的として実施しました。

## (2) 調査対象者

調査の種類	調査対象者	対象者数
18歳以上の市民調査	18歳以上の市民	2,500
若年者調査	15～17歳の市民	1,000
自治会長、民生委員・児童委員調査	自治会長	23
	民生委員・児童委員	161

## (3) 調査期間

令和5年10月19日（木）～11月7日（火）にかけて実施しました。

## (4) 調査方法

郵送により調査票を配布しました。調査回答は、郵送またはWEB回答により回収しました。

## (5) 調査票の配布・回収状況

調査の種類	配布数	有効回収数	うちWEB	有効回収率
			回収分	
18歳以上の市民調査	2,500	1,500	320	60.0%
若年者調査	1,000	547	173	54.7%
自治会長、民生委員・児童委員調査	184	176	14	95.7%

## (6) 調査報告書の見方

### ① 「n」について

- ・グラフや表中の「n」とは、Number of Case の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。「n=〇〇〇」として掲載し、各比率はnを100%として算出しています（回答者総数または該当者数）
- ・クロス集計では、表側の「無回答」を省略しているため、単純集計における全体の回答者数（n）と各項目の回答者数（n）の合計は一致しない場合があります。

### ② 「%」について

- ・構成比（%）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して算出した数値であるため、単数回答（1つだけに○をつけるもの）の設問であっても、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・また、複数回答（いくつでも○をつけるものなど）の設問の場合は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。
- ・複数回答の場合、各項目の比率の合計は100.0%を超えることがあります。
- ・なお、集計結果は特記しない限り「無回答」を含みます。

### ③ 選択肢の記載について

- ・表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、意味の変わらない範囲で省略している場合があります。

### ④ クロス集計表について

- ・クロス集計表内において、最も多い回答と2番目に多い回答は塗りつぶしを行っています。

(例)

	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	興味のある活動・行事がないから	時間的な余裕がないから	地域との関係をあまり持ちたくないから	活動・行事の情報を知らないから	行ったことがないので参加しにくいから	知らない人ばかりで参加しにくいから	活動に関心がないから	その他	無回答
全体	934	18.7	<b>45.6</b>	6.0	20.1	21.8	<b>26.1</b>	24.7	8.9	0.6
性別										
男性	393	19.1	<b>43.0</b>	5.3	21.9	19.3	22.1	<b>27.7</b>	8.9	0.5
女性	535	18.5	<b>47.3</b>	6.4	18.9	23.7	<b>29.0</b>	22.8	9.0	0.7
年齢別										
18歳～29歳	163	19.6	<b>58.9</b>	6.1	29.4	19.6	22.7	<b>31.3</b>	3.7	1.2
30歳～39歳	130	21.5	<b>58.5</b>	9.2	25.4	26.9	<b>36.2</b>	28.5	4.6	-
40歳～49歳	139	19.4	<b>58.3</b>	5.8	17.3	15.1	<b>32.4</b>	19.4	7.2	-
50歳～59歳	168	15.5	<b>54.2</b>	6.5	15.5	22.0	<b>25.6</b>	23.8	8.9	0.6
60歳～69歳	136	21.3	<b>33.1</b>	8.8	17.6	23.5	<b>25.0</b>	22.1	8.1	0.7
70歳以上	193	16.1	<b>18.7</b>	1.0	16.6	<b>23.8</b>	19.2	<b>23.3</b>	18.1	1.0
地区別										
北部地区	269	19.0	<b>41.3</b>	4.5	18.6	17.1	23.8	<b>24.2</b>	10.4	1.1
中部地区	353	17.6	<b>50.7</b>	5.9	20.1	23.5	<b>28.0</b>	24.4	7.4	0.3
南部地区	291	18.9	<b>44.7</b>	6.5	21.3	24.7	<b>26.8</b>	25.8	9.3	0.7

## 2 調査結果

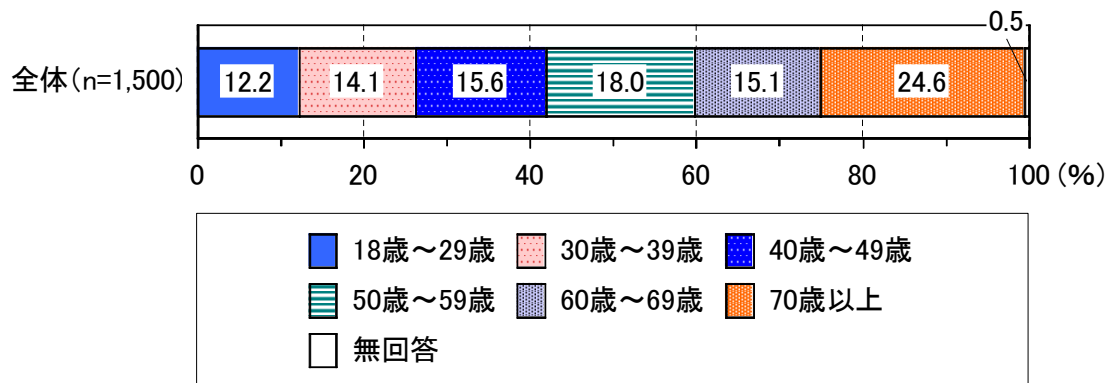
### 第1章 18歳以上の市民意識調査

#### (1) 回答者の属性

##### ①年代

問1 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、次のどれですか。(単数回答)

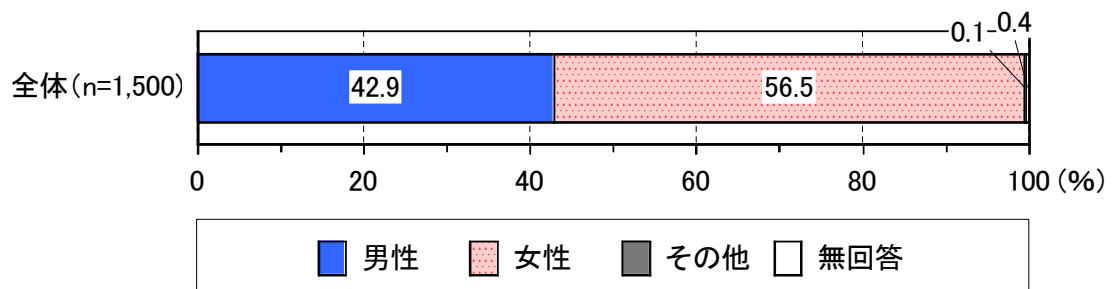
年代は、「70歳以上」が24.6%と最も多く、次いで「50歳代」が18.0%となっています。



##### ②性別

問2 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

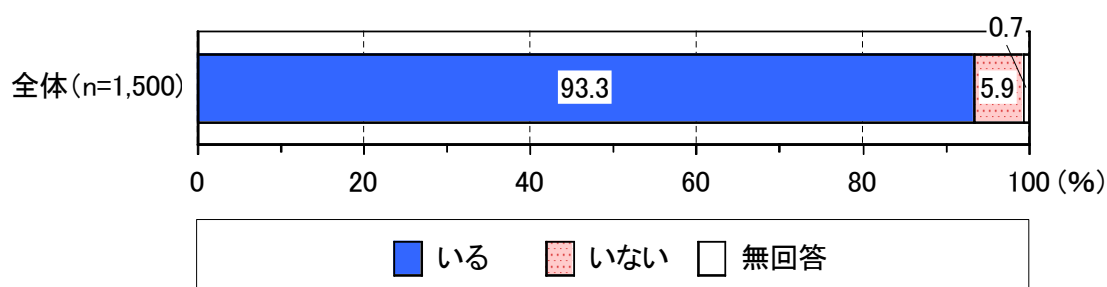
性別は、「男性」が42.9%、「女性」が56.5%となっています。



### ③家族構成

問3 あなたは現在同居されている方はいますか。(単数回答)

同居者は、「いる」が93.3%、「いない」が5.9%となっています。

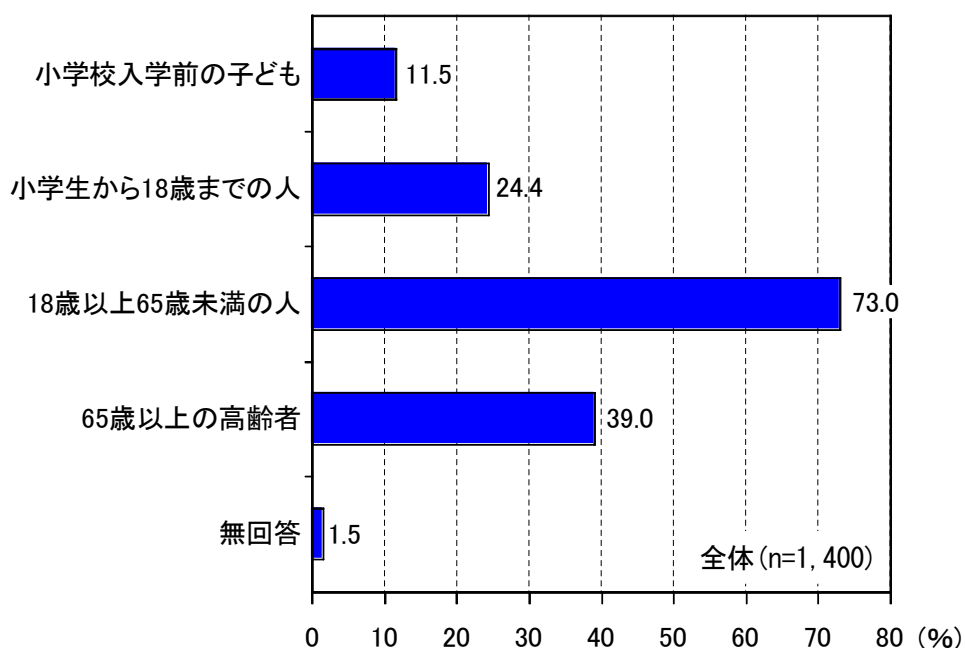


### ④同居家族

<問3で「いる」と回答した人対象>

問4 あなたの世帯では、次のような方が同居されていますか。(複数回答)

同居者は、「18歳以上65歳未満の人」が73.0%と最も高くなっています。「65歳以上の高齢者」は39.0%、「小学生から18歳までの人」が24.4%、「小学校入学前の子ども」が11.5%となっています。

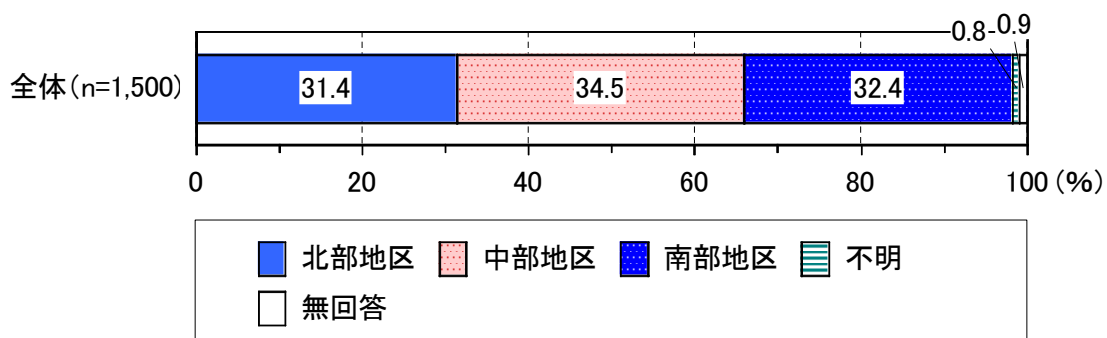
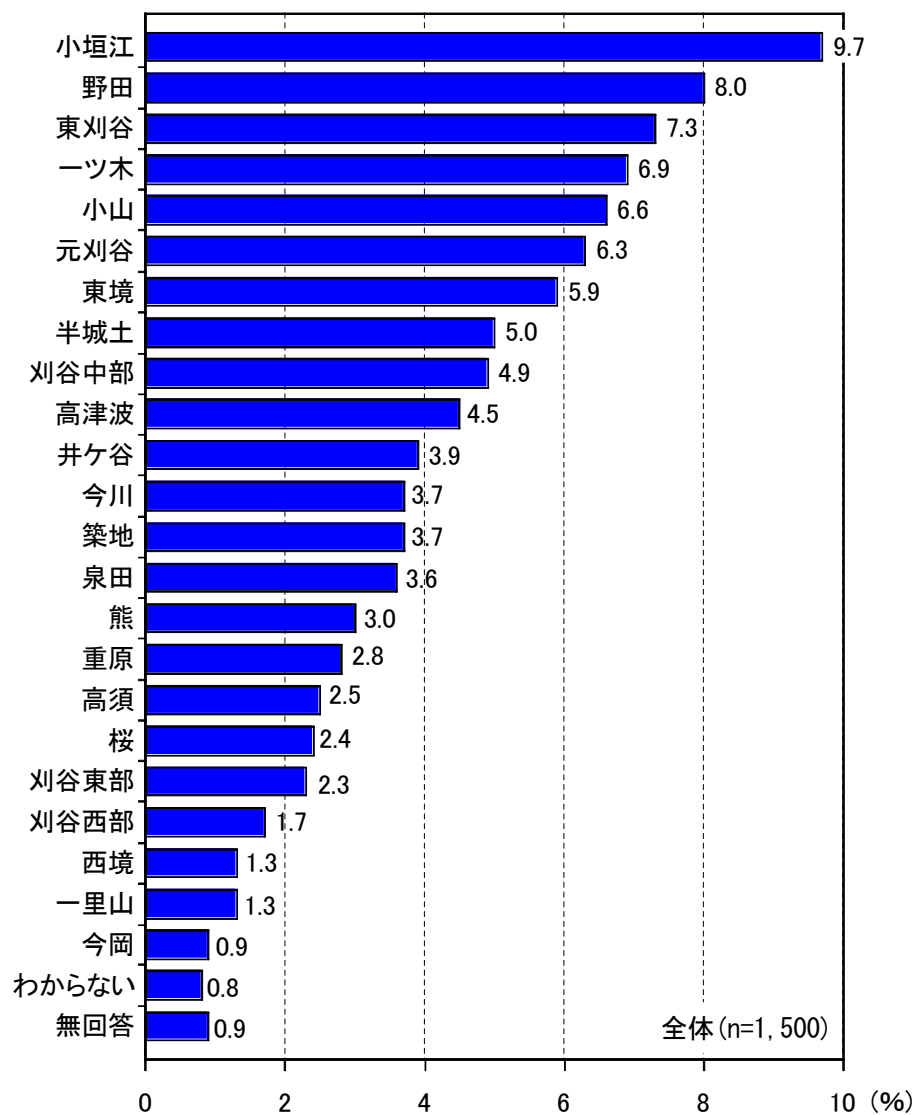




⑤居住地

問5 あなたの居住地（自治会別）は次のどれですか。（単数回答）

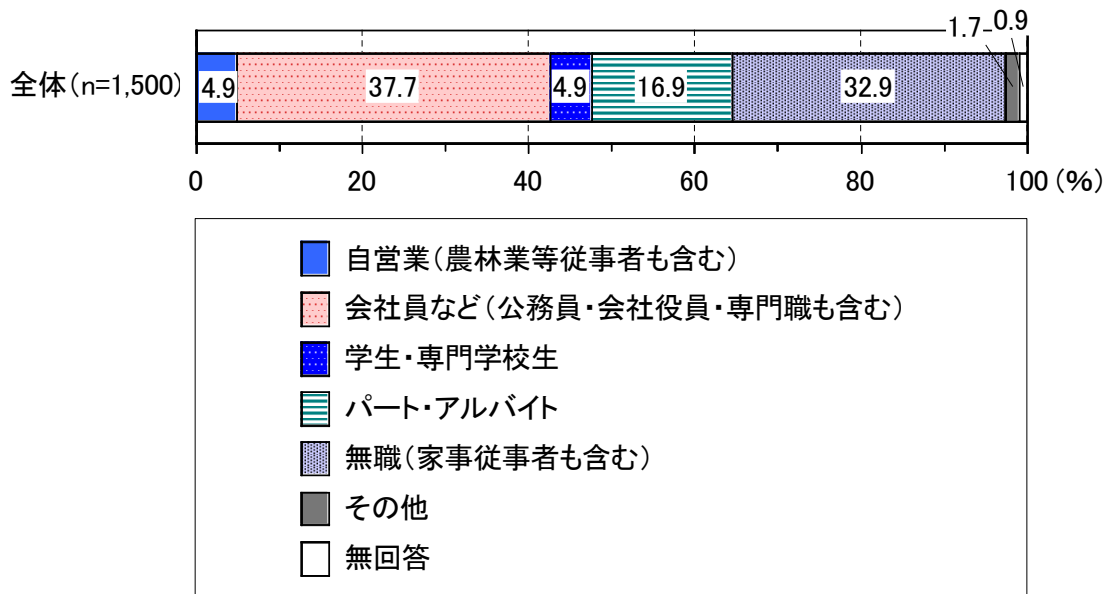
居住地区は、「小垣江」が9.7%と最も高く、「野田」が8.0%、「東刈谷」が7.3%となっています。



⑥就業・就学状況

問6 あなたの就業・就学状況は次のどれですか。(単数回答)

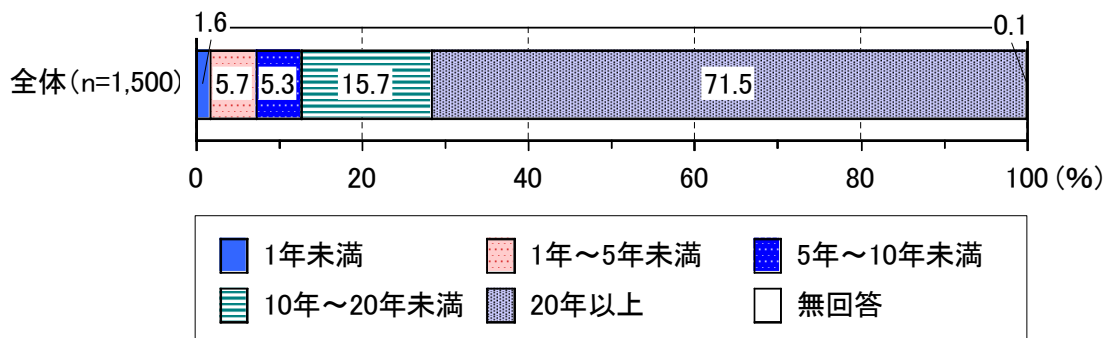
就業・就学状況は、「会社員など（公務員・会社役員・専門職も含む）」が37.7%で最も多く、「無職（家事従事者も含む）」が32.9%、「パート・アルバイト」が16.9%となっています。



⑦居住年数

問7 あなたは、刈谷市に住んで通算して何年になりますか。(単数回答)

居住年数は、「20年以上」が71.5%を占め、最も高くなっています。



## (2) 地域意識や課題について

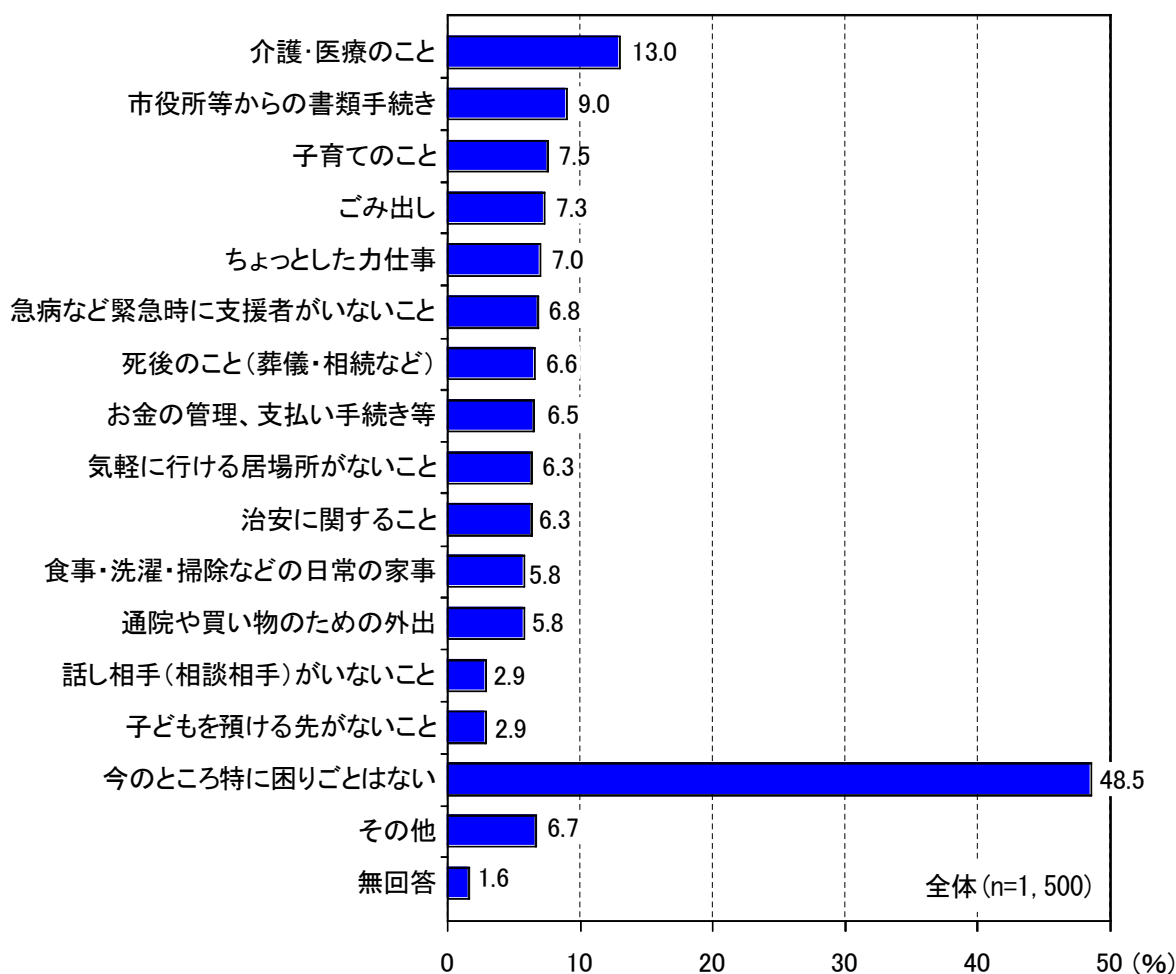
### ① 困りごと

問8 あなたが日常生活を送る上で、現在お困りのことはどんなことですか。  
(複数回答)

日常生活における困りごとは、「介護・医療のこと」が13.0%、「市役所等からの書類手続き」が9.0%となっています。「今のところ特に困りごとはない」が48.5%と半数近くを占め、最も高くなっています。

年齢別でみると、18歳～29歳は「ごみ出し」「お金の管理、支払い手続き等」「市役所等からの書類の手続き」がいずれも11.5%、「気軽に行ける居場所がないこと」が9.3%と高くなっています。30歳代、40歳代は「子育てのこと」、50歳代以上は「介護・医療のこと」が高くなっています。

「介護・医療のこと」「ちょっとした力仕事」「死後のこと(葬儀・相続など)」は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向にあり、「ごみ出し」「お金の管理、支払い手続き等」「市役所等からの書類手続き」は若い世代ほど高い傾向にあります。



	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	食事・洗濯・掃除などの日常の家事	ごみ出し	通院や買い物のための外出	ちよつとした力仕事	お金の管理、支払い手続き等	市役所等からの書類手続き	話し相手(相談相手)がないこと	気軽に行ける居場所がないこと	急病など緊急時に支援者がいないこと
全体	1,500	5.8	7.3	5.8	7.0	6.5	9.0	2.9	6.3	6.8
性別										
男性	644	4.3	7.0	4.7	4.0	6.7	11.0	2.2	5.3	6.1
女性	848	6.8	7.5	6.7	9.2	6.3	7.4	3.5	7.1	7.4
年齢別										
18歳～29歳	183	4.9	11.5	6.0	1.6	11.5	11.5	2.2	9.3	3.8
30歳～39歳	211	12.3	16.1	8.5	1.9	12.3	11.8	5.2	7.1	9.5
40歳～49歳	234	10.7	7.7	2.6	6.0	9.4	12.0	2.1	5.1	8.5
50歳～59歳	270	4.1	6.7	2.6	7.4	4.4	6.3	3.3	4.8	5.2
60歳～69歳	226	1.3	4.0	1.8	6.6	2.7	5.3	4.0	7.1	8.0
70歳以上	369	3.3	2.2	11.1	13.0	2.4	8.4	1.6	5.7	6.2
地区別										
北部地区	471	6.6	7.6	6.8	6.8	6.6	10.6	2.3	3.6	6.4
中部地区	517	5.0	7.0	5.2	7.0	5.2	7.7	2.9	8.3	6.8
南部地区	486	5.6	7.0	5.8	7.4	7.8	8.8	3.3	6.8	7.0

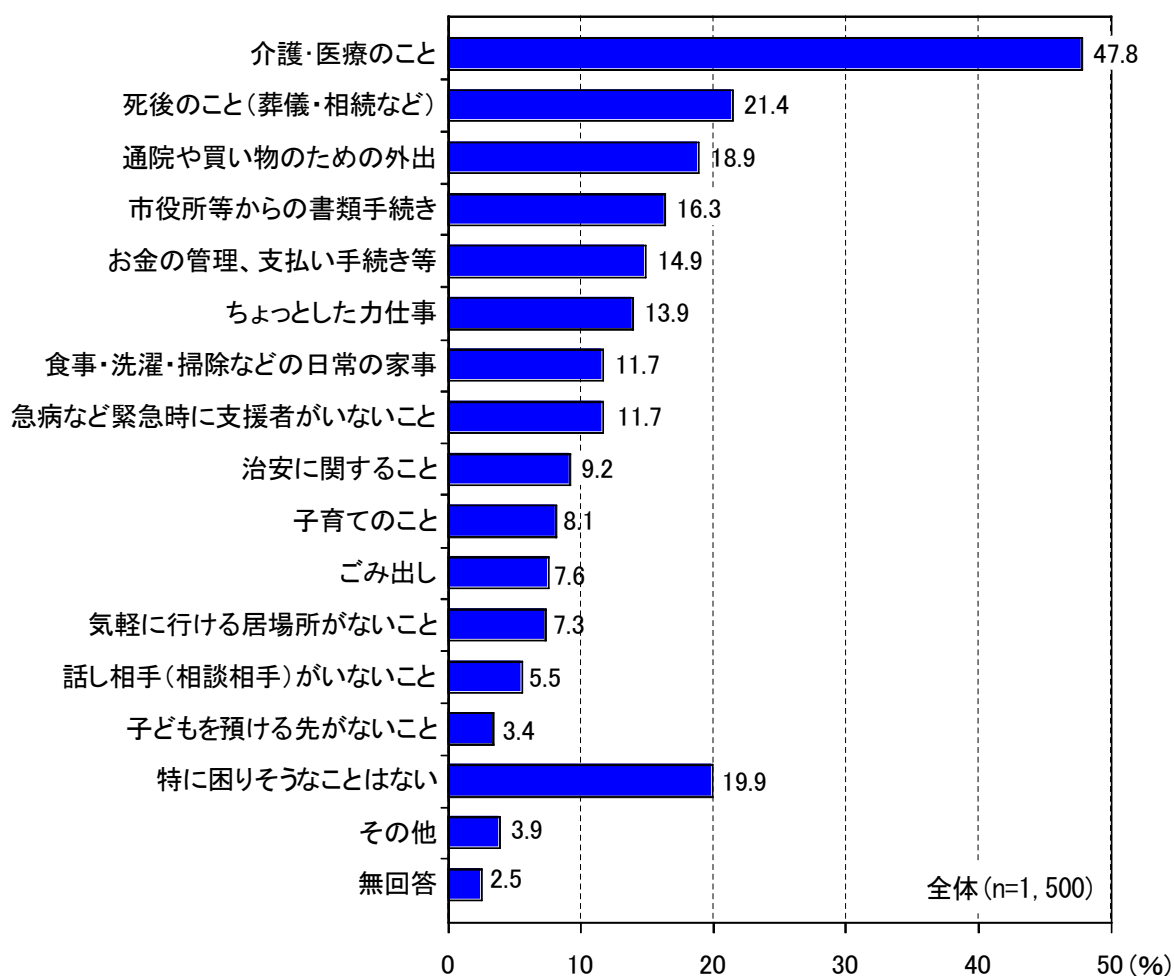
	回答者数(人)	回答割合(%)							
	n=	子どもを預ける先がないこと	子育てのこと	治安に関すること	介護・医療のこと	死後のこと(葬儀・相続など)	今のところ特に困りごとはない	その他	無回答
全体	1,500	2.9	7.5	6.3	13.0	6.6	48.5	6.7	1.6
性別									
男性	644	2.2	7.3	7.0	13.2	7.6	48.0	7.6	1.2
女性	848	3.4	7.8	5.9	13.0	5.9	48.9	5.9	1.9
年齢別									
18歳～29歳	183	2.2	2.7	3.3	3.8	2.2	54.6	7.1	1.1
30歳～39歳	211	10.4	25.1	10.0	8.1	3.3	32.7	8.5	0.5
40歳～49歳	234	6.4	17.5	5.6	9.8	4.7	44.9	6.8	0.9
50歳～59歳	270	0.4	4.8	9.6	17.4	6.7	52.2	7.0	0.7
60歳～69歳	226	0.4	-	6.6	18.1	10.6	53.5	8.0	2.7
70歳以上	369	-	0.3	3.8	16.3	9.5	51.2	4.3	2.7
地区別									
北部地区	471	3.4	6.6	6.6	13.8	6.8	49.0	7.4	1.1
中部地区	517	2.7	8.1	5.0	11.4	6.2	47.4	6.0	2.5
南部地区	486	2.5	8.0	7.6	14.2	6.8	49.2	6.6	1.2

## ②将来の不安

問9 あなたが日常生活を送る上で、将来不安なこと（困りそうなこと）はどんなことですか。（複数回答）

将来不安なこと・困りそうなことは、「介護・医療のこと」が47.8%と最も高く、次いで「死後のこと（葬儀・相続など）」が21.4%となっています。

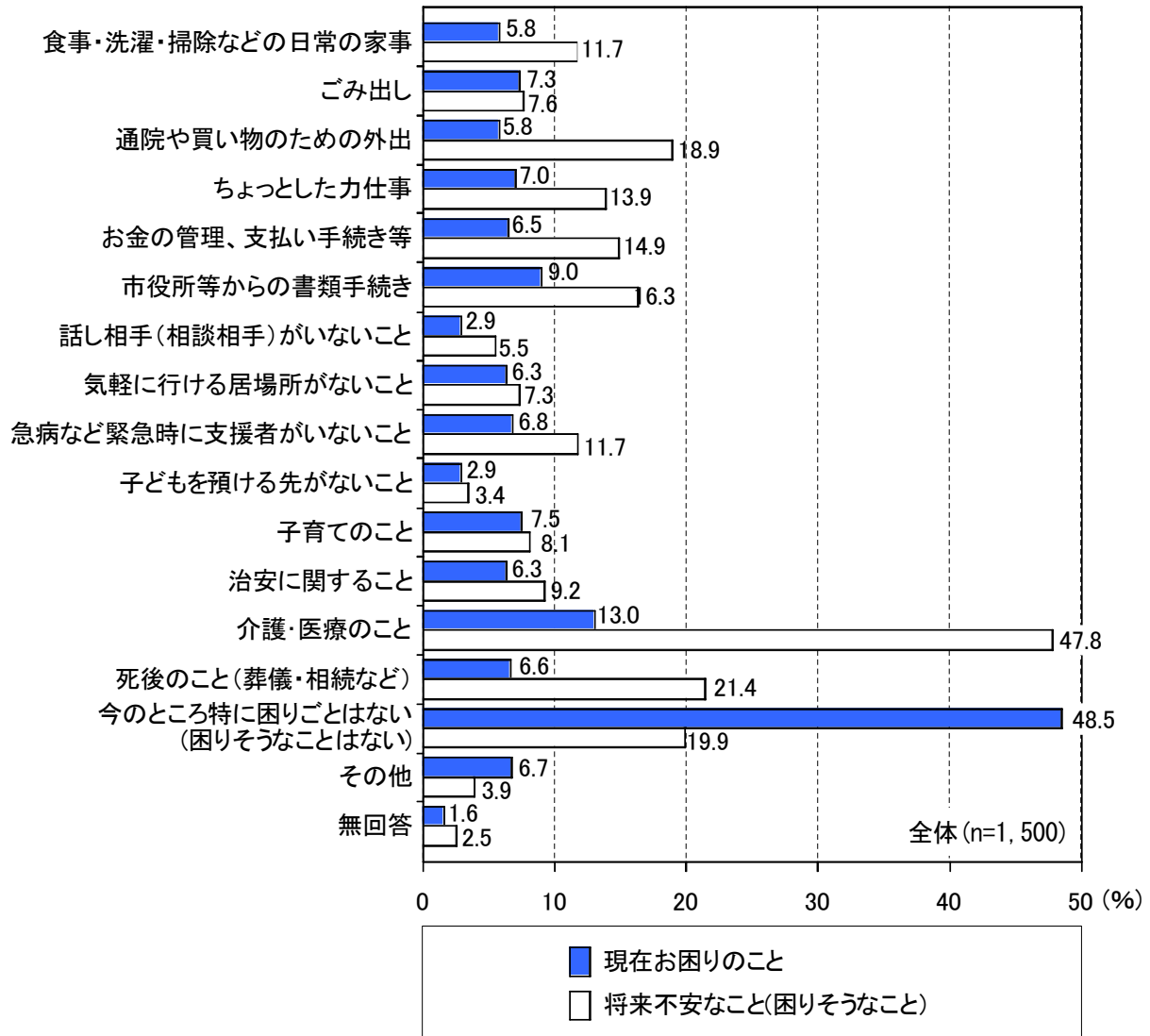
年齢別で見ると、各年代とも「介護・医療のこと」が最も高くなっています。18歳～29歳は「特に困りそうなことはない」、30歳代は「子育てのこと」、40歳代から60歳代は「死後のこと（葬儀・相続など）」、70歳以上は「通院や買い物のための外出」が高くなっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	食事・洗濯・掃除などの日常の家事	ごみ出し	通院や買い物のための外出	ちょっとした力仕事	お金の管理、支払い手続き等	市役所等からの書類手続き	話し相手(相談相手)がないこと	気軽に行ける居場所がないこと	急病など緊急時に支援者がいないこと
全体	1,500	11.7	7.6	18.9	13.9	14.9	16.3	5.5	7.3	11.7
性別										
男性	644	11.2	4.5	14.9	8.2	13.8	16.6	3.7	4.8	9.3
女性	848	12.3	9.9	22.1	18.3	15.7	16.0	7.0	9.3	13.6
年齢別										
18歳～29歳	183	13.1	7.7	11.5	4.4	27.3	26.2	7.7	4.9	9.3
30歳～39歳	211	10.4	10.0	15.6	10.9	19.0	14.2	10.0	9.0	14.7
40歳～49歳	234	10.7	7.3	16.2	16.7	20.5	18.4	7.3	9.0	17.5
50歳～59歳	270	10.0	7.0	19.3	13.7	12.2	12.6	3.7	7.8	8.9
60歳～69歳	226	10.2	5.8	16.4	15.5	11.5	14.2	4.4	8.0	12.8
70歳以上	369	14.9	7.9	27.6	17.9	6.8	14.9	3.0	6.0	8.9
地区別										
北部地区	471	12.7	7.0	21.2	12.7	16.3	18.0	4.2	6.2	10.2
中部地区	517	12.4	6.6	17.0	13.2	12.2	14.9	7.0	8.7	13.0
南部地区	486	10.3	9.1	19.3	16.0	16.5	16.7	5.1	7.2	11.9

	回答者数(人)	回答割合(%)							
	n=	子どもを預ける先がないこと	子育てのこと	治安に関すること	介護・医療のこと	死後のこと(葬儀・相続など)	特に困りそうなことはない	その他	無回答
全体	1,500	3.4	8.1	9.2	47.8	21.4	19.9	3.9	2.5
性別									
男性	644	1.9	7.0	9.8	45.0	21.1	21.9	4.0	2.0
女性	848	4.6	9.0	8.8	50.2	21.8	18.3	3.8	2.7
年齢別									
18歳～29歳	183	9.8	20.2	9.3	30.1	12.0	29.5	4.4	2.2
30歳～39歳	211	12.8	26.5	11.8	40.8	20.4	18.5	5.2	0.5
40歳～49歳	234	2.6	8.5	9.8	55.6	29.1	15.8	3.8	0.9
50歳～59歳	270	-	3.0	12.2	58.5	21.1	16.3	3.3	1.5
60歳～69歳	226	-	-	7.5	55.3	30.1	15.0	6.2	1.8
70歳以上	369	-	-	6.2	44.2	17.1	24.1	2.2	5.4
地区別									
北部地区	471	2.8	6.2	10.4	46.5	23.1	19.7	3.6	1.7
中部地区	517	4.1	9.5	5.8	49.3	19.3	18.0	4.4	2.3
南部地区	486	3.3	8.6	11.7	48.6	22.4	21.8	3.5	2.9

現時点での困りごとと将来の不安・困りそうなことを比較すると、現時点では「特に困りごとはない」が最も高くなっていますが、将来的には「介護・医療のこと」「死後のこと（葬儀・相続など）」が不安なこととして高くなっています。

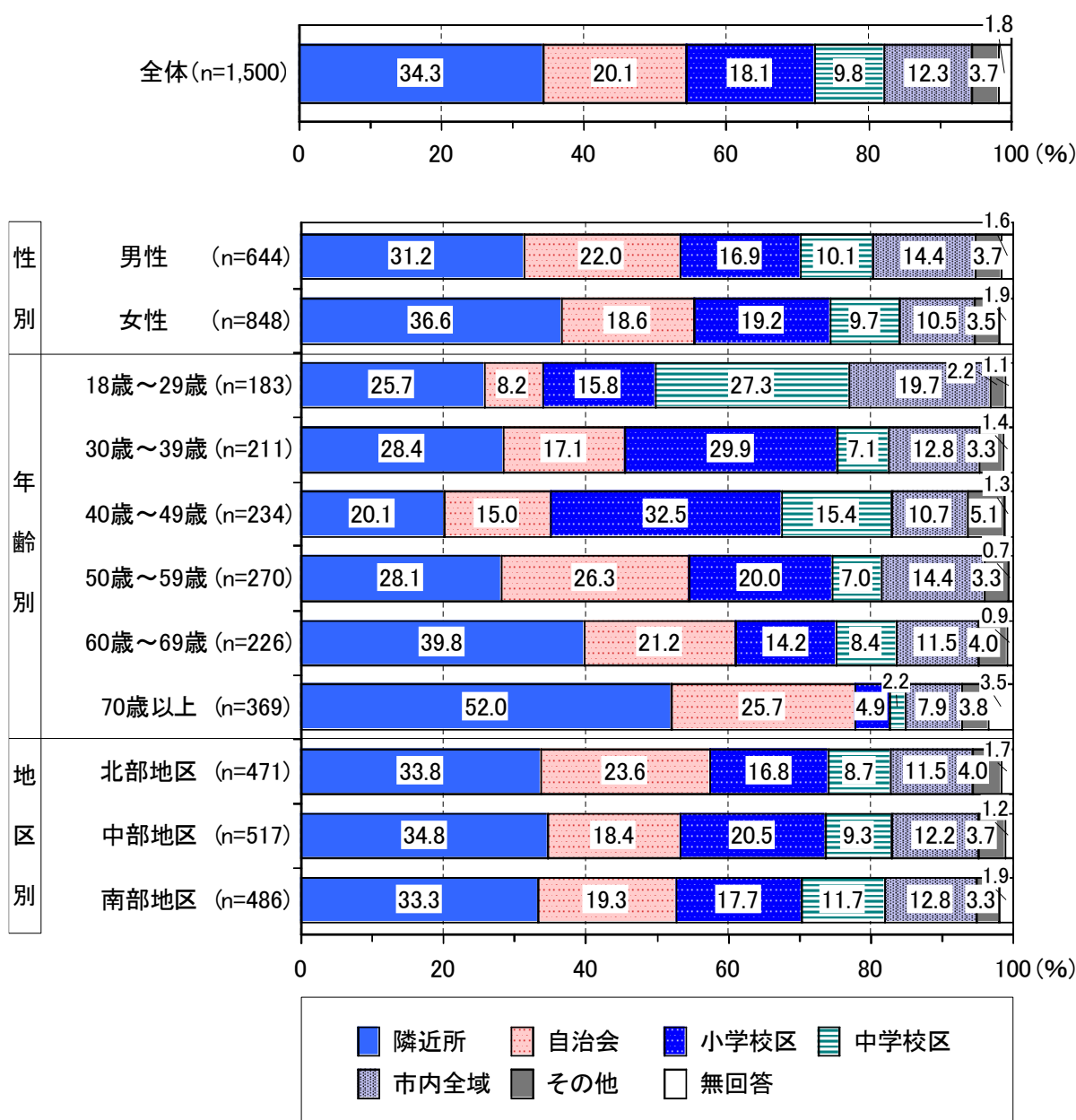


### ③身近に感じる「地域」の範囲

問 10 あなたにとって身近に感じられる「地域」とは、どの範囲をいいますか。  
(単数回答)

身近に感じられる『地域』の範囲は、「隣近所」の 34.3%が最も高く、「自治会」が 20.1%、「小学校区」が 18.1%となっています。

年齢別で見ると、18歳～29歳は「中学校区」、30歳代、40歳代は「小学校区」、50歳代以上は「隣近所」が最も高くなっており、50歳代以上は年齢が上がるにしたがって、「隣近所」の割合が高くなっており、70歳以上では 52.0%と半数を超えています。年齢によって身近に感じる『地域』の範囲が異なることがわかります。





#### ④近所づきあいの程度

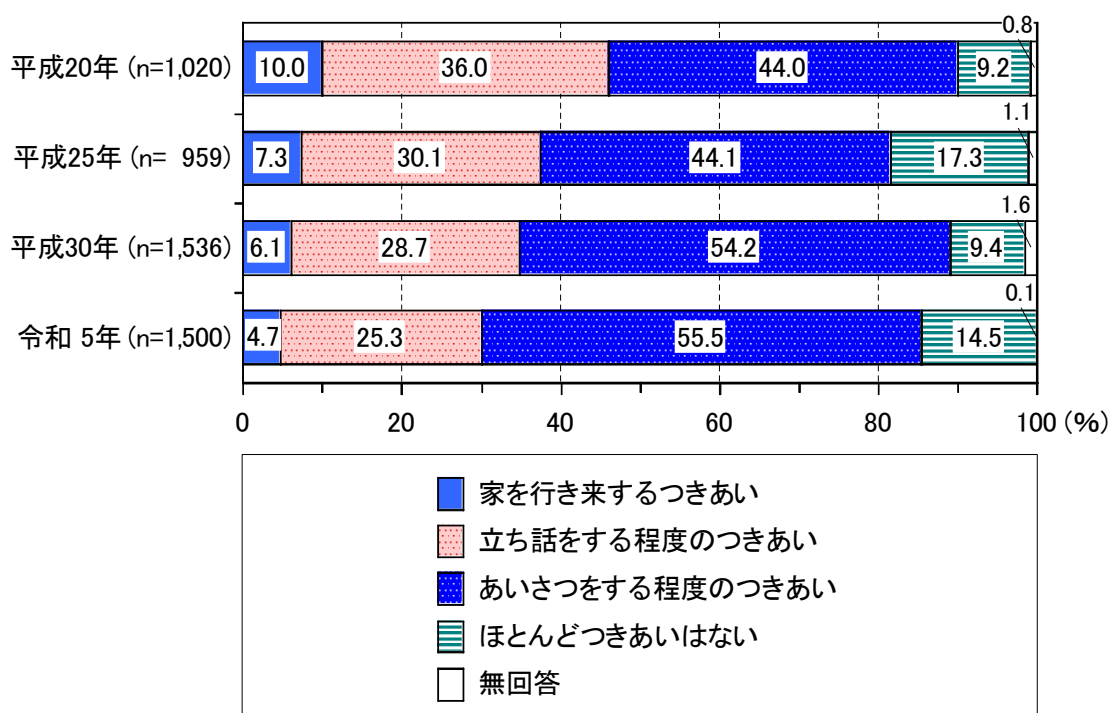
問 11 あなたは、ふだん近所の方とどの程度のおつきあいをしていますか。  
(単数回答)

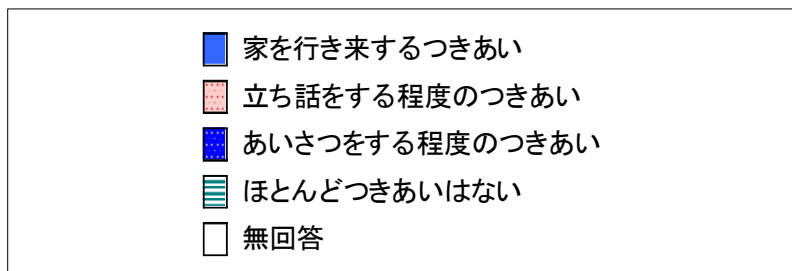
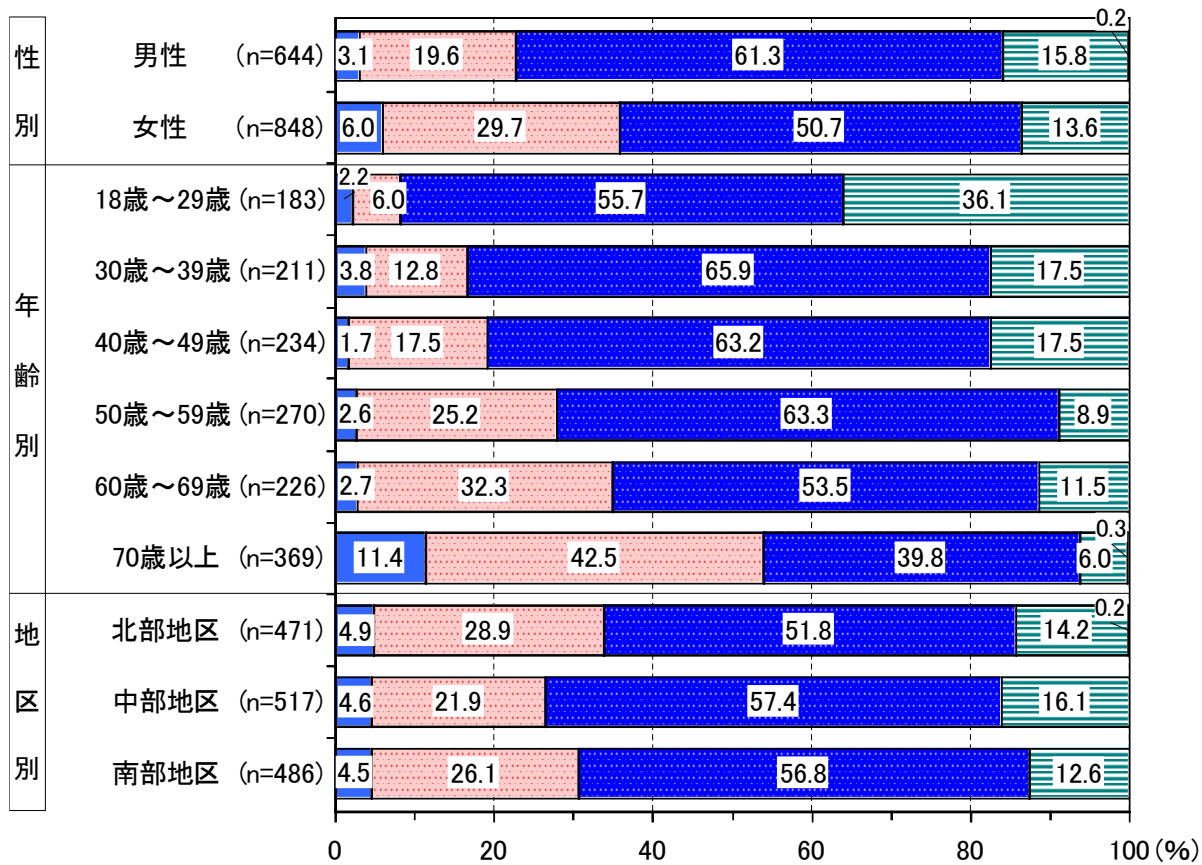
近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度のつきあい」が55.5%と半数を超え最も高く、「立ち話をする程度のつきあい」が25.3%となっています。

平成20年から経年の変化をみると、「あいさつをする程度のつきあい」が最も高いことは変わりませんが、その割合は年々高くなっており、「家を行き来するつきあい」「立ち話をする程度のつきあい」が年々低くなっています。

性別でみると、女性は「立ち話をする程度のつきあい」が男性に比べて10ポイント以上高くなっています。

年齢別でみると、「立ち話をする程度のつきあい」は年齢が上がるにしたがって高くなり、70歳以上が42.5%と最も高くなっています。「ほとんどつきあいはない」は18歳～29歳が36.1%と高くなっています。



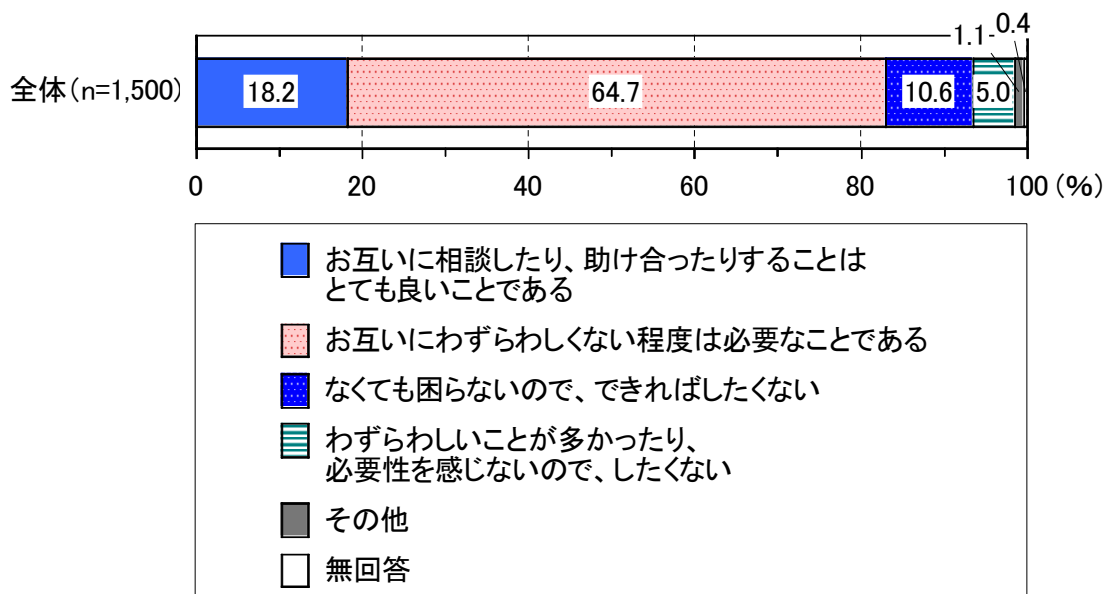


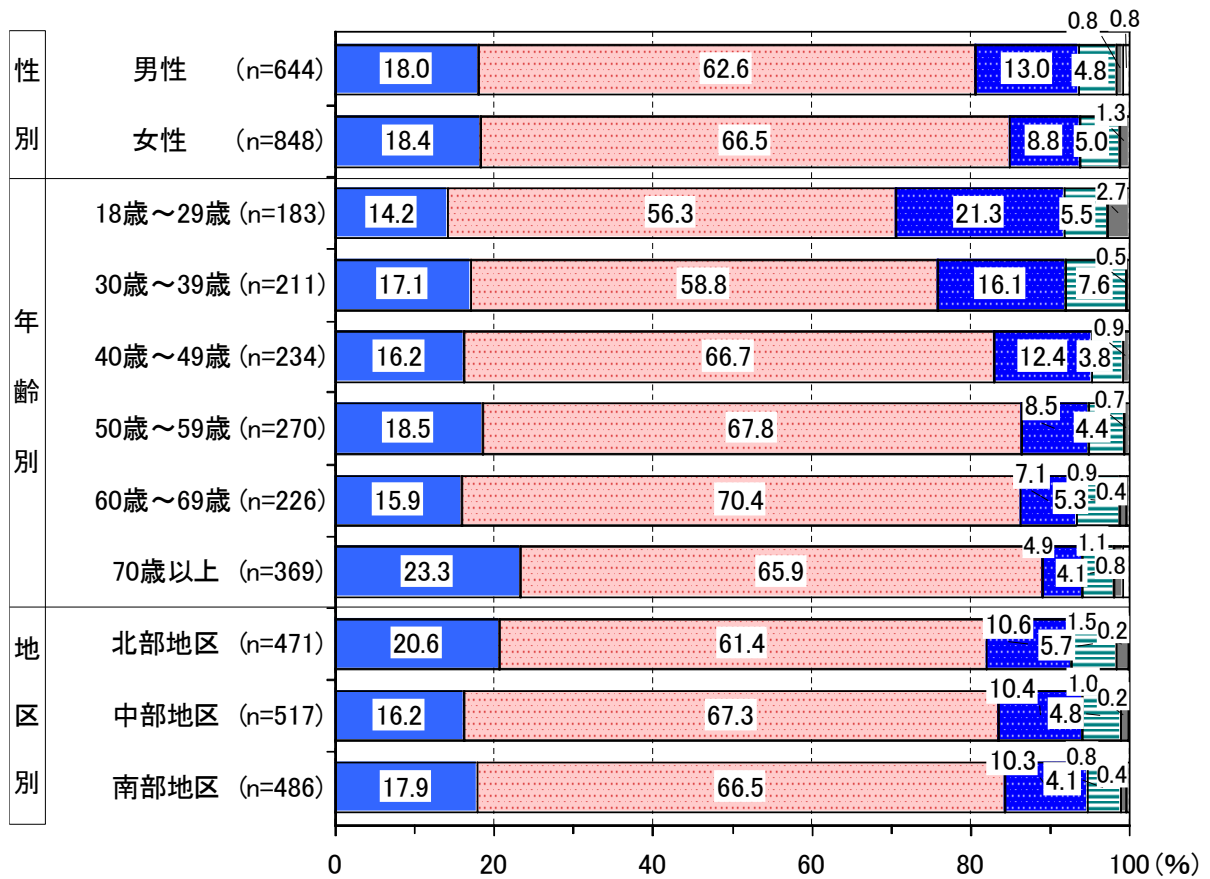
⑤近所づきあいに対する考え

問 12 あなたのご近所とのおつきあいに対する考え方は次のどれに最も近いですか。(単数回答)

近所づきあいに対する考え方は、「お互いにわずらわしくない程度は必要なことである」が64.7%で最も高く、「お互いに相談したり、助け合ったりすることはとても良いことである」が18.2%となっています。「なくても困らないので、できればしたくない」と「わずらわしいことが多かったり、必要性を感じないので、したくない」を合わせた『近所づきあいをしたくない』は15.6%となっています。

年齢別で見ると、各年齢とも「お互いにわずらわしくない程度は必要なことである」が最も高く、60歳代までは年齢が上がるにしたがって高くなる傾向があります。一方「なくても困らないので、できればしたくない」は18歳～29歳が21.3%と他の年齢に比べて最も高く、年齢が上がるにしたがって低くなる傾向があります。



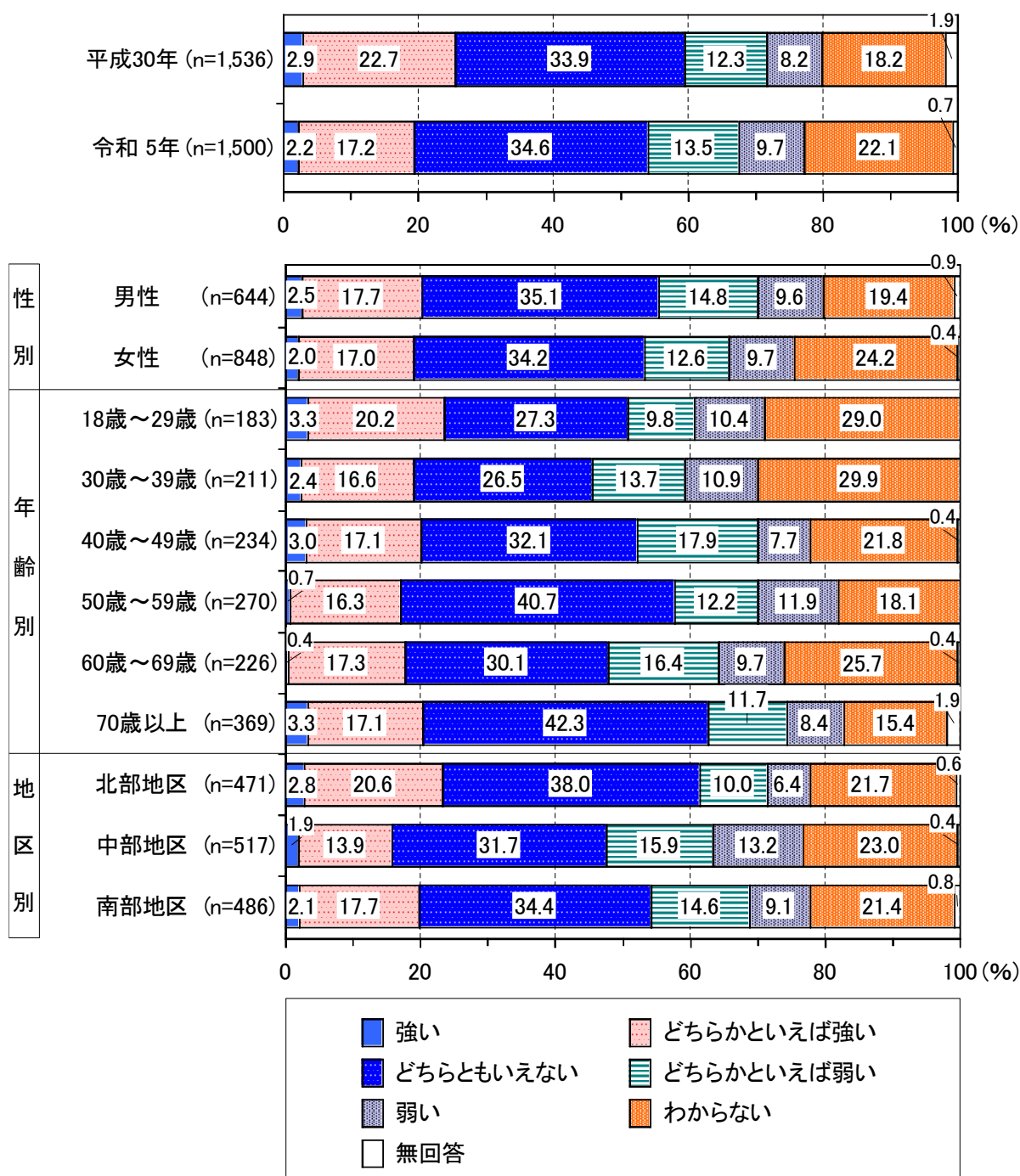


- お互いに相談したり、助け合ったりすることはとても良いことである
- お互いにわずらわしくない程度は必要なことである
- なくても困らないので、できればしたくない
- わずらわしいことが多かったり、必要性を感じないので、したくない
- その他
- 無回答

⑥地域のつながりの強さ

問 13 あなたの住んでいる地域は、住民同士による助け合いや支え合いが行われるなど、地域のつながりが強いと思いますか。(単数回答)

地域のつながりの強さは、「強い」と「どちらかといえば強い」を合わせた『強い』は 19.4%で、「弱い」と「どちらかといえば弱い」を合わせた『弱い』は 23.2%となっています。

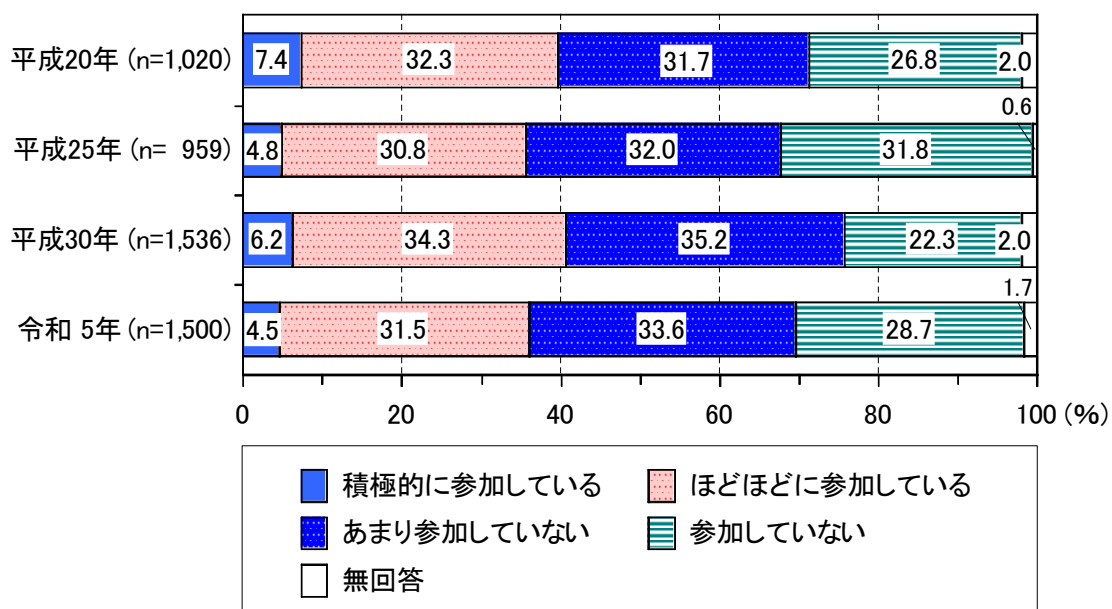


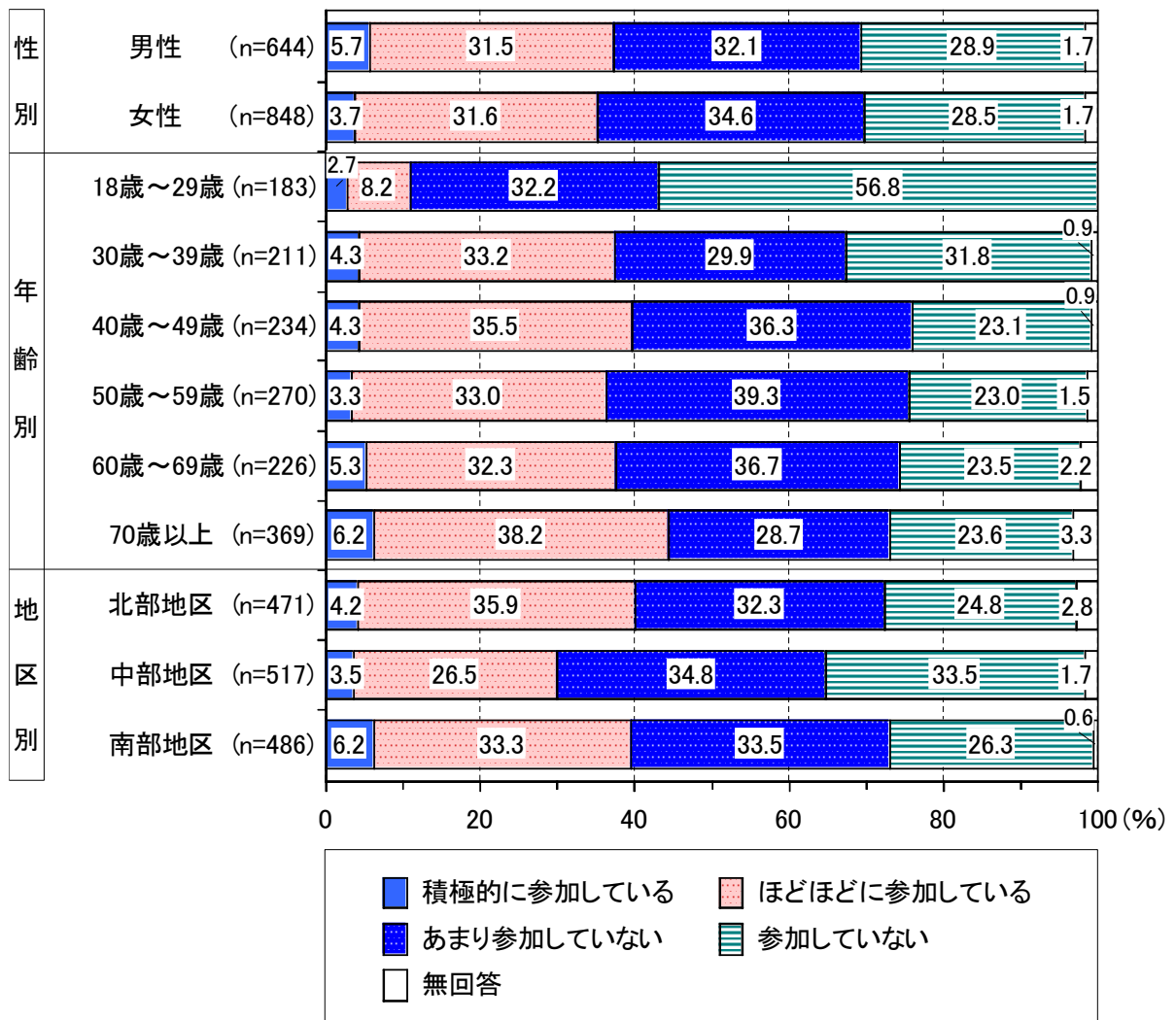
⑦地域の活動や行事への参加状況

問 14 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。(単数回答)

地域の活動や行事への参加状況は、「積極的に参加している」と「ほどほどに参加している」を合わせた『参加している』は36.0%、「あまり参加していない」と「参加していない」を合わせた『参加していない』は62.3%です。

年齢別でみると、18歳～29歳は「参加していない」が56.8%と他の年齢に比べて最も高く、「あまり参加していない」を合わせた『参加していない』が89.0%となっています。30歳代から60歳代は『参加している』の割合に大きな差はなく、70歳以上では『参加している』が44.4%と他の年齢に比べて最も高くなっています。



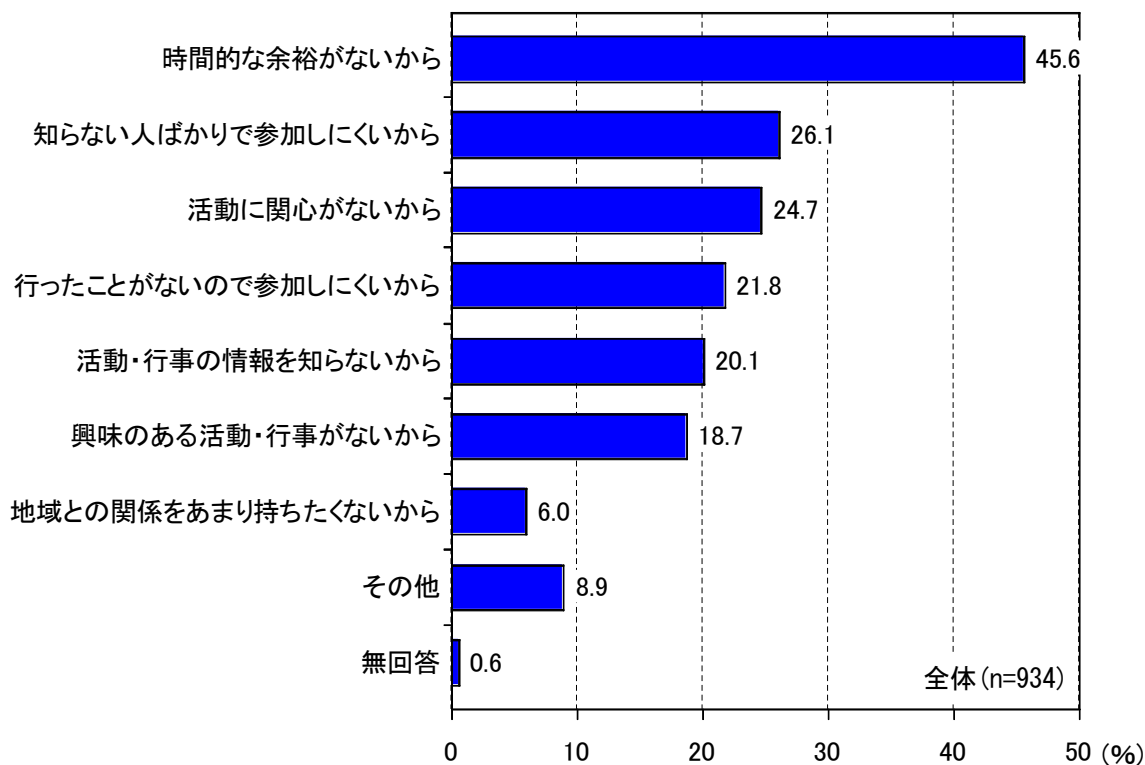


## ⑧地域の活動や行事に参加していない理由

＜問 14 で「あまり参加していない」「参加していない」と回答した人対象＞  
問 15 あまり参加していない、参加していない理由は何ですか。（複数回答）

地域の活動や行事に参加していない理由は、「時間的な余裕がないから」が 45.6% で最も高く、「知らない人ばかりで参加しにくいから」が 26.1%、「活動に関心がないから」が 24.7%、「行ったことがないので参加しにくいから」が 21.8%、「活動・行事の情報を知らないから」が 20.1%となっています。「知らない人ばかりで参加しにくいから」「行ったことがないので参加しにくいから」「活動・行事の情報を知らないから」といった“知らない”“わからない”ことが理由として多く挙げられています。

年齢別で見ると、60 歳代までは「時間的な余裕がないから」、70 歳以上は「行ったことがないので参加しにくいから」が最も高くなっています。次いで、18 歳～29 歳と 70 歳以上は「活動に関心がないから」、30 歳代から 60 歳代は「知らない人ばかりで参加しにくいから」となっています。18 歳～29 歳から 30 歳代は「活動・行事の情報を知らないから」が他の年齢に比べて高くなっています。



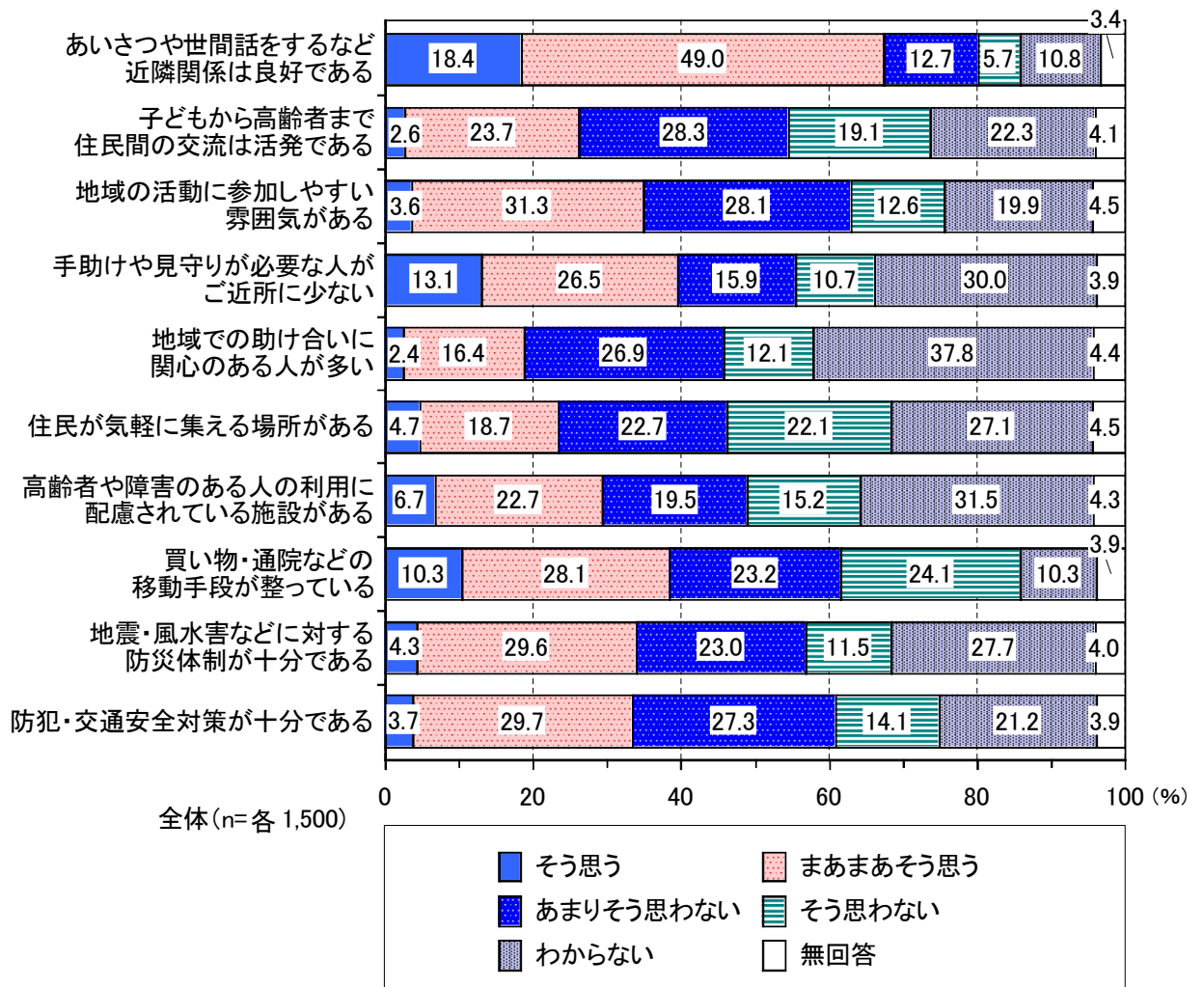


	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	興味のある活動・行事がないから	時間的な余裕がないから	地域との関係をあまり持ちたくないから	活動・行事の情報を知らないから	行ったことがないので参加しにくいから	知らない人ばかりで参加しにくいから	活動に関心がないから	その他	無回答
全体	934	18.7	<b>45.6</b>	6.0	20.1	21.8	<b>26.1</b>	24.7	8.9	0.6
性別										
男性	393	19.1	<b>43.0</b>	5.3	21.9	19.3	22.1	<b>27.7</b>	8.9	0.5
女性	535	18.5	<b>47.3</b>	6.4	18.9	23.7	<b>29.0</b>	22.8	9.0	0.7
年齢別										
18歳～29歳	163	19.6	<b>58.9</b>	6.1	29.4	19.6	22.7	<b>31.3</b>	3.7	1.2
30歳～39歳	130	21.5	<b>58.5</b>	9.2	25.4	26.9	<b>36.2</b>	28.5	4.6	-
40歳～49歳	139	19.4	<b>58.3</b>	5.8	17.3	15.1	<b>32.4</b>	19.4	7.2	-
50歳～59歳	168	15.5	<b>54.2</b>	6.5	15.5	22.0	<b>25.6</b>	23.8	8.9	0.6
60歳～69歳	136	21.3	<b>33.1</b>	8.8	17.6	23.5	<b>25.0</b>	22.1	8.1	0.7
70歳以上	193	16.1	<b>18.7</b>	1.0	16.6	<b>23.8</b>	19.2	<b>23.3</b>	18.1	1.0
地区別										
北部地区	269	19.0	<b>41.3</b>	4.5	18.6	17.1	23.8	<b>24.2</b>	10.4	1.1
中部地区	353	17.6	<b>50.7</b>	5.9	20.1	23.5	<b>28.0</b>	24.4	7.4	0.3
南部地区	291	18.9	<b>44.7</b>	6.5	21.3	24.7	<b>26.8</b>	25.8	9.3	0.7

⑨地域や周辺的环境

問 16 あなたの住んでいる地域や周辺的环境についてどう思いますか。  
(単数回答)

10項目の住んでいる地域や周辺的环境について、「そう思う」と「まあまあそう思う」を合わせた『そう思う』、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』をみると、『そう思う』が『そう思わない』よりも高い項目は、“あいさつや世間話をするなど、近隣関係は良好である”“手助けや見守りが必要な人がご近所に少ない”の2項目です。一方、『そう思わない』が『そう思う』よりもかなり高い項目は“住民が気軽に集える場所がある”、“子どもから高齢者まで住民間の交流は活発である”、“地域での助け合いに関心のある人が多い”の3項目が挙げられます。



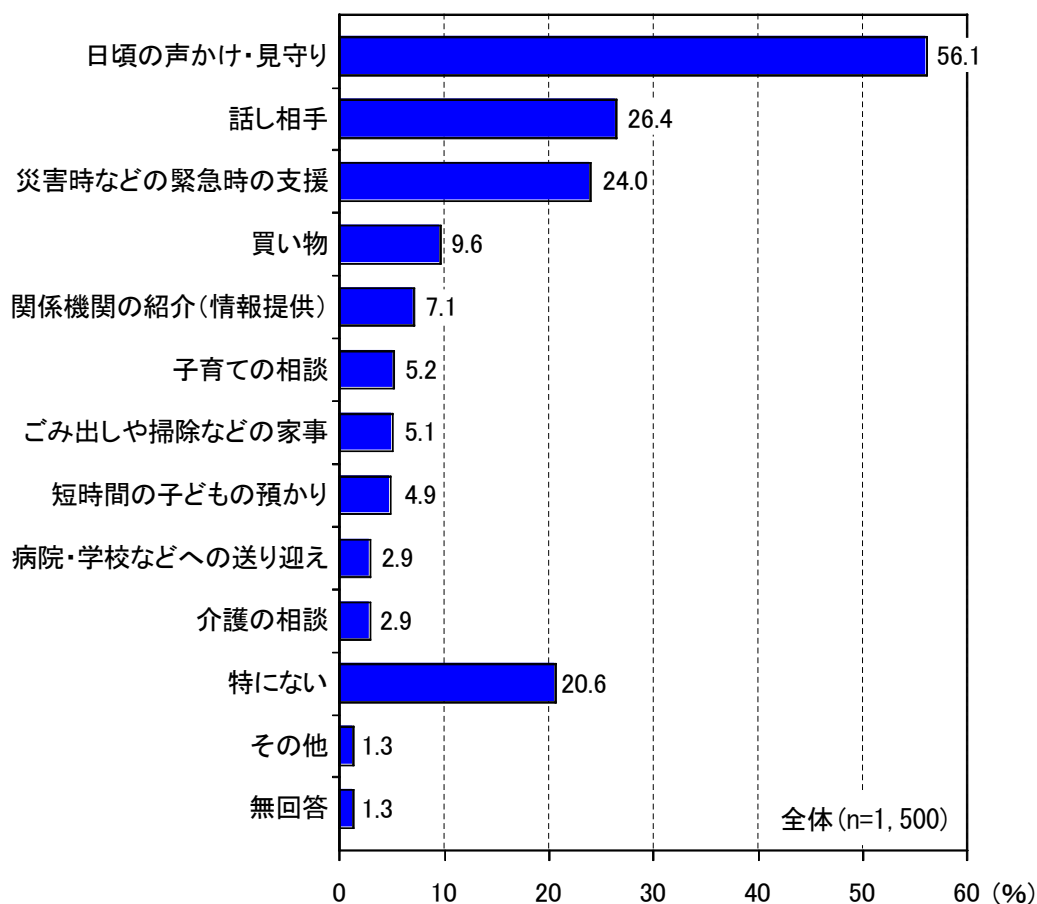
⑩助け合い活動でできること

問 17 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。(複数回答)

助け合い活動でできることは、「日頃の声かけ・見守り」が56.1%と最も高く、「話し相手」26.4%、「災害時などの緊急時の支援」24.0%となっています。一方、「特にない」は20.6%です。

性別で見ると、男女とも「日頃の声かけ・見守り」が最も高くなっており、特に女性は61.1%と男性に比べて10ポイント以上高くなっています。次いで、男性は「災害時などの緊急時の支援」、女性は「話し相手」となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代でも「日頃の声かけ・見守り」が最も高くなっています。30歳代から60歳代は「災害時などの緊急時の支援」となっています。「子育ての相談」は40歳代、「買い物」は50歳代、「話し相手」は70歳以上が特に高くなっています。18歳～29歳は「特にない」が29.0%と他の年齢に比べて高くなっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)						
	n=	日頃の声 かけ・見 守り	話し相手	買い物	ごみ出し や掃除な どの家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談
全体	1,500	56.1	26.4	9.6	5.1	2.9	4.9	5.2
性別								
男性	644	49.7	23.1	8.1	4.3	3.3	4.0	2.2
女性	848	61.1	28.9	10.7	5.7	2.7	5.4	7.5
年齢別								
18歳～29歳	183	48.6	23.5	6.6	4.4	1.6	4.9	1.6
30歳～39歳	211	60.7	27.0	6.2	1.9	1.4	6.6	8.5
40歳～49歳	234	55.1	23.1	11.1	5.1	1.3	6.4	12.4
50歳～59歳	270	64.8	22.2	15.6	5.2	4.4	6.7	6.3
60歳～69歳	226	56.2	26.1	8.0	7.1	5.3	2.7	3.5
70歳以上	369	51.5	32.8	8.9	6.0	3.0	2.7	0.8
地区別								
北部地区	471	54.1	25.1	8.3	5.7	2.3	4.0	6.2
中部地区	517	57.3	26.1	9.9	3.9	3.5	6.2	4.6
南部地区	486	58.0	28.0	10.5	6.0	3.1	4.3	5.1

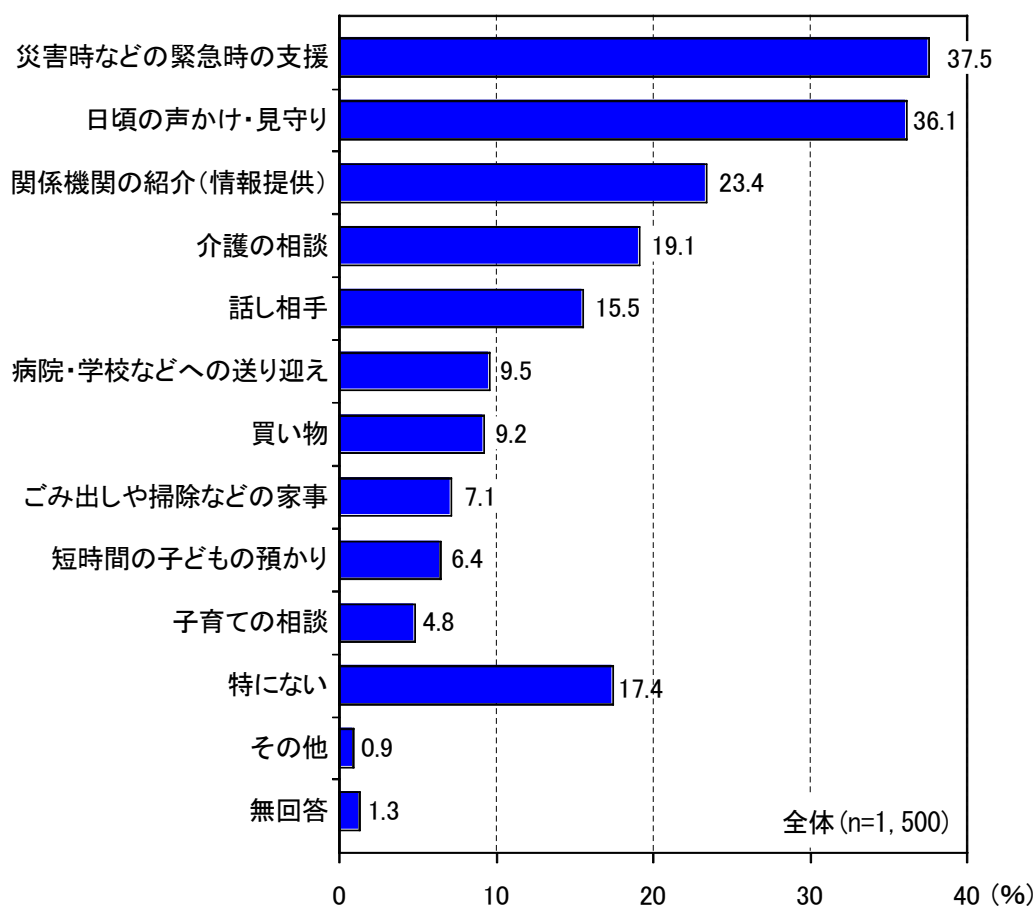
	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	介護の相 談	関係機関 の紹介 (情報提 供)	災害時な どの緊急 時の支援	特にな い	その他	無回答
全体	1,500	2.9	7.1	24.0	20.6	1.3	1.3
性別							
男性	644	2.0	8.7	30.4	23.6	1.2	1.6
女性	848	3.7	5.9	19.2	18.0	1.4	1.1
年齢別							
18歳～29歳	183	1.1	6.6	20.8	29.0	0.5	0.5
30歳～39歳	211	1.9	7.6	28.4	16.1	-	-
40歳～49歳	234	3.8	6.0	27.8	20.1	0.4	0.4
50歳～59歳	270	1.9	7.0	24.4	15.9	1.5	0.4
60歳～69歳	226	4.4	6.6	27.0	21.2	0.4	1.8
70歳以上	369	3.8	8.1	19.0	22.0	3.5	3.3
地区別							
北部地区	471	2.1	6.8	22.5	22.7	1.3	1.3
中部地区	517	3.3	8.5	26.7	16.2	1.5	1.4
南部地区	486	3.5	6.2	23.0	22.2	1.2	1.2

⑪困ったときに支援してほしいこと

問 18 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、以下に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。(複数回答)

自分が困ったときに支援してほしいことは、「災害時などの緊急時の支援」が37.5%と最も高く、「日頃の声かけ・見守り」が36.1%、「関係機関の紹介(情報提供)」23.4%となっています。

年齢別で見ると、18歳～29歳、30歳代、70歳以上は「日頃の声かけ・見守り」、40歳代から60歳代は「災害時などの緊急時の支援」が最も高くなっています。50歳代は「関係機関の紹介(情報提供)」「介護の相談」、40歳代までは「短時間の子ども預かり」、30歳代までは「子育ての相談」が他の年齢に比べて高くなっています。

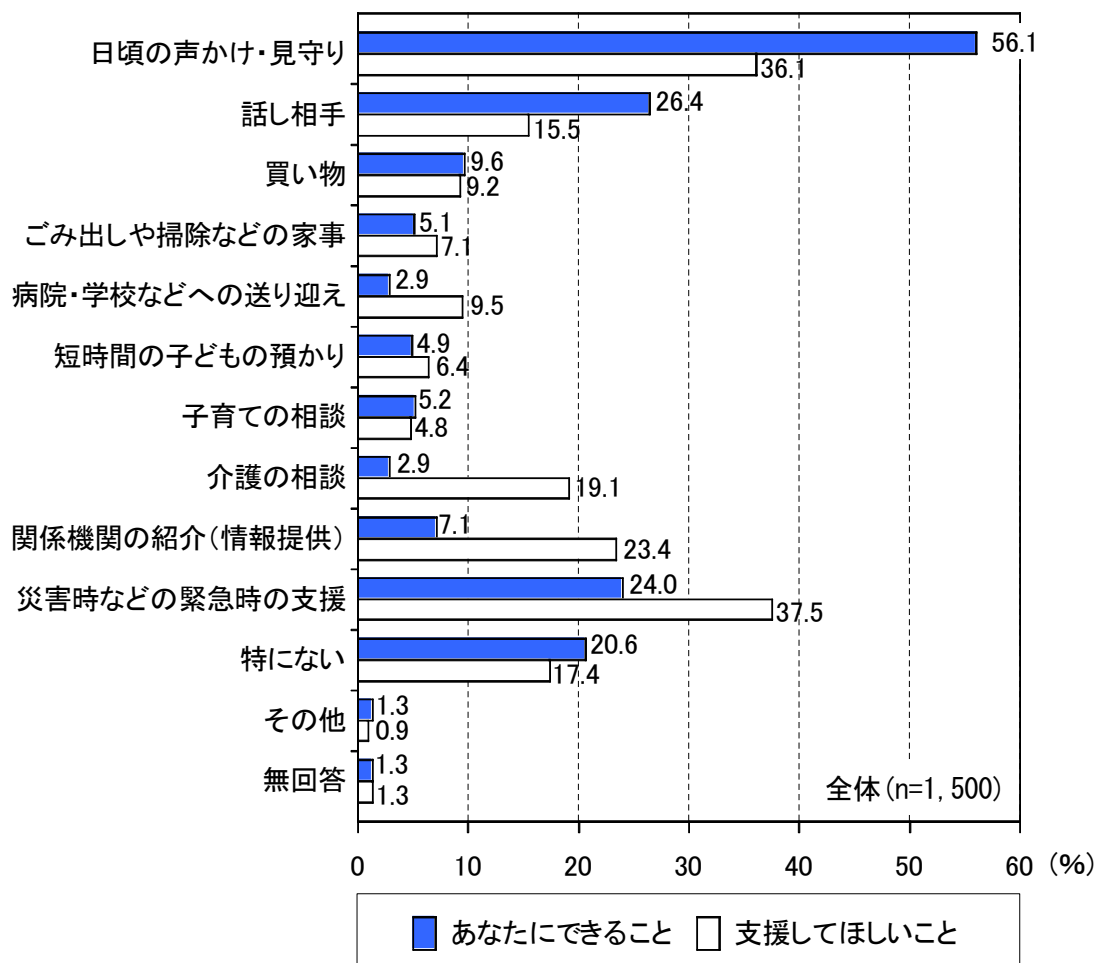


	回答者数(人)	回答割合(%)						
	n=	日頃の声 かけ・見 守り	話し相手	買い物	ごみ出し や掃除な どの家事	病院・学 校などへ の送り迎 え	短時間の 子どもの 預かり	子育ての 相談
全体	1,500	36.1	15.5	9.2	7.1	9.5	6.4	4.8
性別								
男性	644	34.0	15.4	9.0	7.1	9.8	5.1	4.0
女性	848	37.9	15.7	9.4	7.2	9.3	7.4	5.4
年齢別								
18歳～29歳	183	36.6	20.2	10.4	8.7	9.8	10.9	13.7
30歳～39歳	211	37.0	20.4	8.1	8.1	9.0	17.5	11.8
40歳～49歳	234	34.6	10.3	9.4	6.4	13.2	12.0	4.3
50歳～59歳	270	35.2	13.3	8.9	5.9	8.9	2.2	3.0
60歳～69歳	226	38.9	17.3	6.6	7.1	8.0	1.3	1.3
70歳以上	369	35.8	14.4	11.1	7.3	8.7	0.5	0.3
地区別								
北部地区	471	36.3	13.6	9.1	6.6	9.1	5.7	4.2
中部地区	517	36.0	15.3	9.5	7.5	11.0	8.3	6.0
南部地区	486	37.0	17.1	9.5	7.6	8.6	5.1	4.3

	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	介護の相 談	関係機関 の紹介 (情報提 供)	災害時な どの緊急 時の支援	特にな い	その他	無回答
全体	1,500	19.1	23.4	37.5	17.4	0.9	1.3
性別							
男性	644	20.0	21.7	38.0	18.2	1.1	1.4
女性	848	18.5	24.9	37.4	16.3	0.7	1.3
年齢別							
18歳～29歳	183	17.5	21.3	28.4	19.1	1.1	0.5
30歳～39歳	211	10.0	22.7	33.6	13.3	-	1.4
40歳～49歳	234	17.5	21.8	44.4	16.7	0.9	0.4
50歳～59歳	270	23.7	30.4	43.7	14.1	0.4	0.4
60歳～69歳	226	20.4	25.7	39.8	17.3	0.9	1.8
70歳以上	369	22.5	19.8	34.1	20.9	1.6	2.7
地区別							
北部地区	471	20.4	25.1	36.3	20.2	0.4	1.3
中部地区	517	18.8	22.6	41.4	13.9	1.4	1.7
南部地区	486	18.7	23.3	35.4	17.3	0.8	0.6

助け合い活動で“あなたができること”と自分が困ったときに“支援してほしいこと”を比較すると、「日頃の声かけ・見守り」「話し相手」は“あなたができること”の割合が高く、“支援してほしいこと”との間に大きな差があります。

“支援してほしいこと”が“あなたができること”を大きく上回っているものとしては、「災害時などの緊急時の支援」「関係機関の紹介（情報提供）」「介護の相談」「病院・学校などへの送り迎え」が挙げられます。

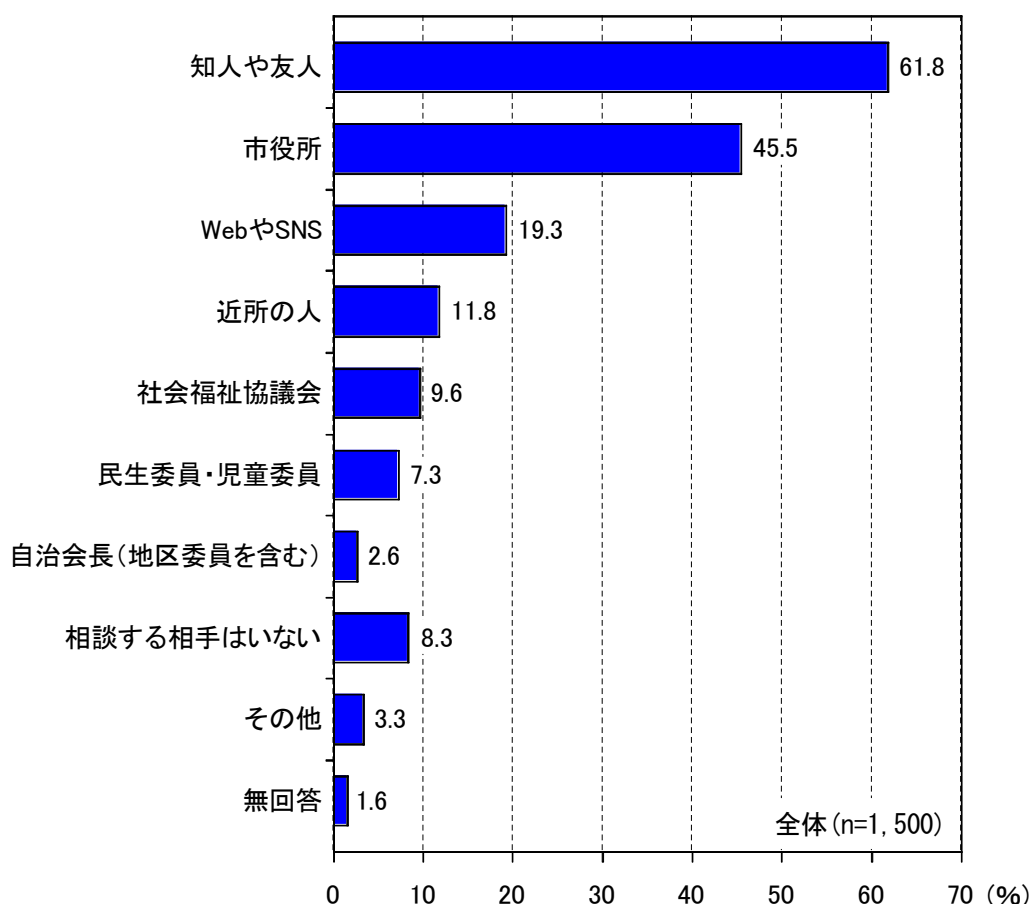


## ⑫生活の困りごとの相談相手

問19 あなたは、介護、子育て、生活支援の問題で困った場合に、相談するのはどこ（どなた）ですか。ただし、家族と親族は除きます。（複数回答）

困ったときの相談相手は、「知人や友人」が61.8%と最も高く、「市役所」が45.5%、「WebやSNS」が19.3%となっています。一方、「相談する相手はいない」が8.3%となっています。

年齢別で見ると、「知人や友人」が60歳代までは最も高くなっていますが、年齢が上がるにしたがってやや低くなる傾向があります。70歳以上は「市役所」が最も高く、「近所の人」「民生委員・児童委員」「社会福祉協議会」が他の年齢に比べて高くなっています。18歳～29歳は「WebやSNS」が37.7%で他の年齢に比べてかなり高くなっています。





	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	知人や友人	近所の人	民生委員・児童委員	自治会長(地区委員を含む)	社会福祉協議会
全体	1,500	<b>61.8</b>	11.8	7.3	2.6	9.6
性別						
男性	644	<b>54.7</b>	12.0	6.8	4.3	9.6
女性	848	<b>67.1</b>	11.7	7.5	1.3	9.7
年齢別						
18歳～29歳	183	<b>76.0</b>	7.7	1.6	1.1	4.4
30歳～39歳	211	<b>77.7</b>	4.7	2.4	0.9	3.8
40歳～49歳	234	<b>71.4</b>	6.8	1.7	1.7	6.4
50歳～59歳	270	<b>59.3</b>	11.5	6.3	1.1	11.1
60歳～69歳	226	<b>56.2</b>	15.5	8.8	2.7	11.9
70歳以上	369	<b>45.0</b>	18.7	15.7	6.0	15.2
地区別						
北部地区	471	<b>57.7</b>	11.7	8.5	2.5	7.4
中部地区	517	<b>64.0</b>	11.4	5.8	3.1	10.8
南部地区	486	<b>63.4</b>	12.6	7.6	2.3	10.7

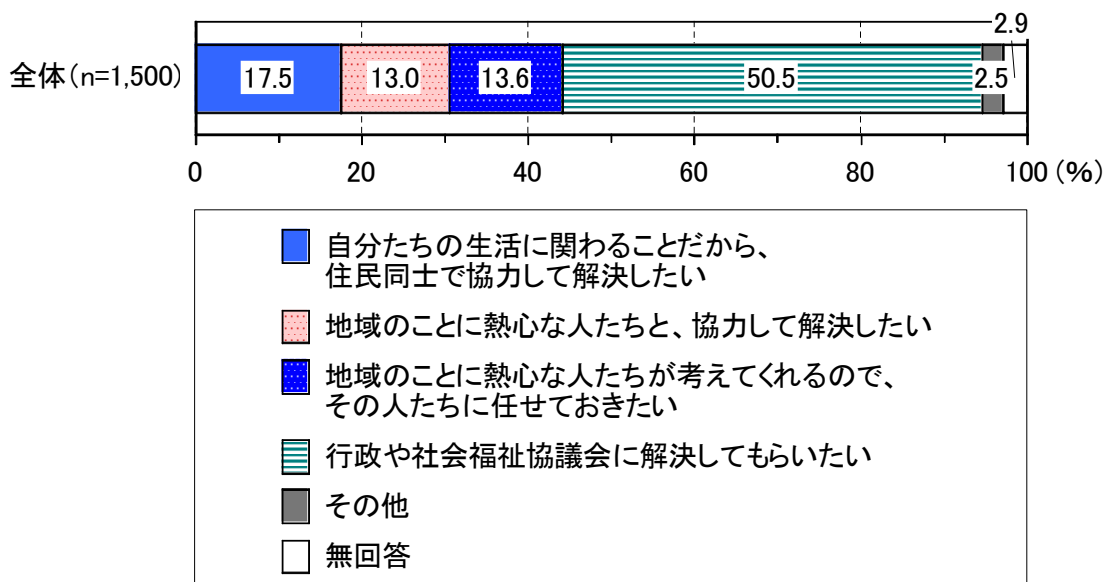
	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	市役所	WebやSNS	相談する相手はいない	その他	無回答
全体	1,500	<b>45.5</b>	19.3	8.3	3.3	1.6
性別						
男性	644	<b>44.1</b>	17.4	10.6	2.8	1.7
女性	848	<b>46.6</b>	21.0	6.7	3.7	1.4
年齢別						
18歳～29歳	183	<b>27.3</b>	<b>37.7</b>	6.0	1.6	1.1
30歳～39歳	211	<b>37.4</b>	28.4	6.6	4.7	-
40歳～49歳	234	<b>39.3</b>	27.8	10.3	4.3	0.4
50歳～59歳	270	<b>54.8</b>	24.4	7.0	3.0	0.4
60歳～69歳	226	<b>52.7</b>	11.5	9.7	3.1	1.8
70歳以上	369	<b>52.0</b>	1.1	9.2	3.3	4.1
地区別						
北部地区	471	<b>41.0</b>	18.0	9.6	3.0	1.9
中部地区	517	<b>50.3</b>	20.7	5.6	3.5	1.9
南部地区	486	<b>45.1</b>	19.1	9.7	3.5	0.8

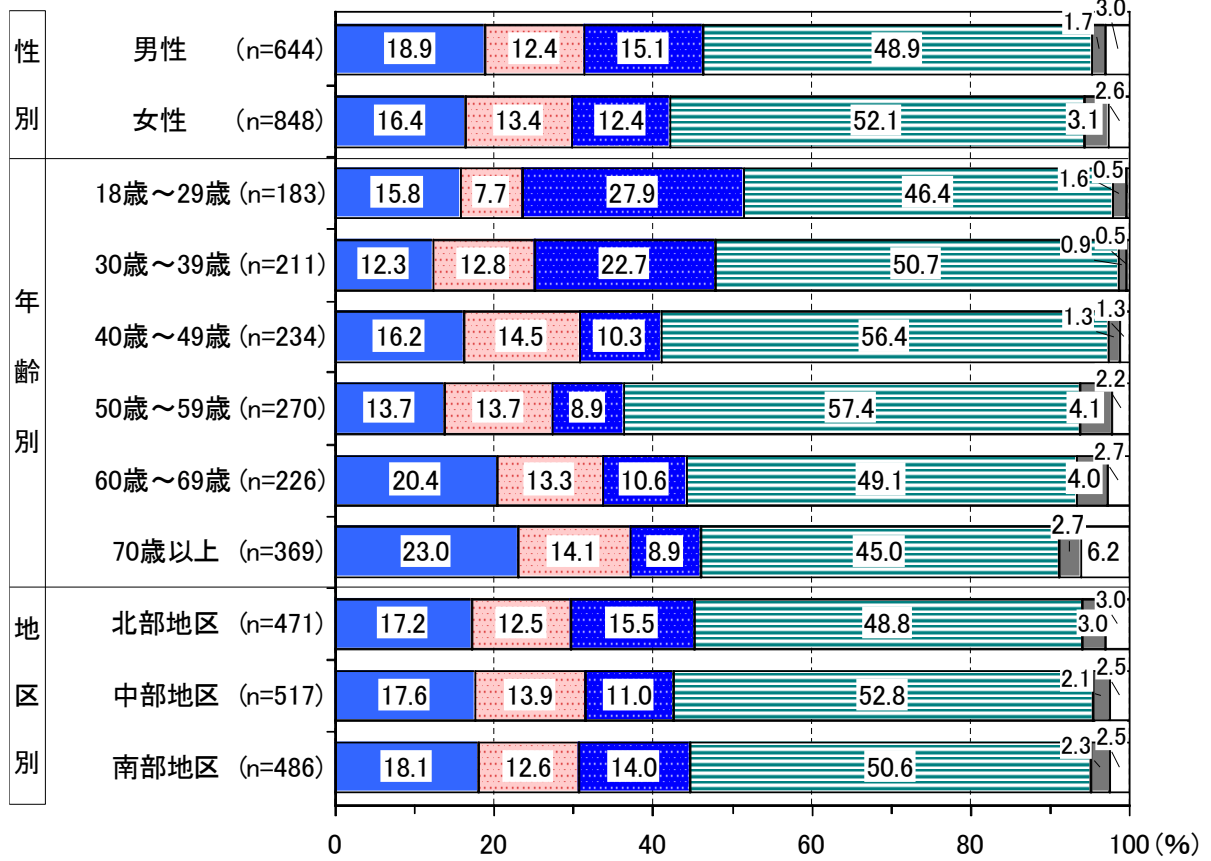
⑬地域課題の解決方法について

問 20 あなたは、住んでいる地域で困っていることや問題になっていることをどのような方法で解決すればよいと思いますか。(単数回答)

地域課題の解決方法は、「行政や社会福祉協議会に解決してもらいたい」が50.5%と半数を超えて最も高くなっています。次いで「自分たちの生活に関わることから、住民同士で協力して解決したい」が17.5%、「地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい」が13.6%、「地域のことに熱心な人たちと、協力して解決したい」が13.0%となっています。

年齢別で見ると、各年齢ともに「行政や社会福祉協議会に解決してもらいたい」が最も高くなっていますが、特に40歳代、50歳代が他の年齢に比べて高くなっています。「自分たちの生活に関わることから、住民同士で協力して解決したい」は70歳以上が23.0%、60歳代が20.4%と他の年齢に比べて高くなっています。30歳代までは「地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい」が他の年齢に比べて高くなっています。



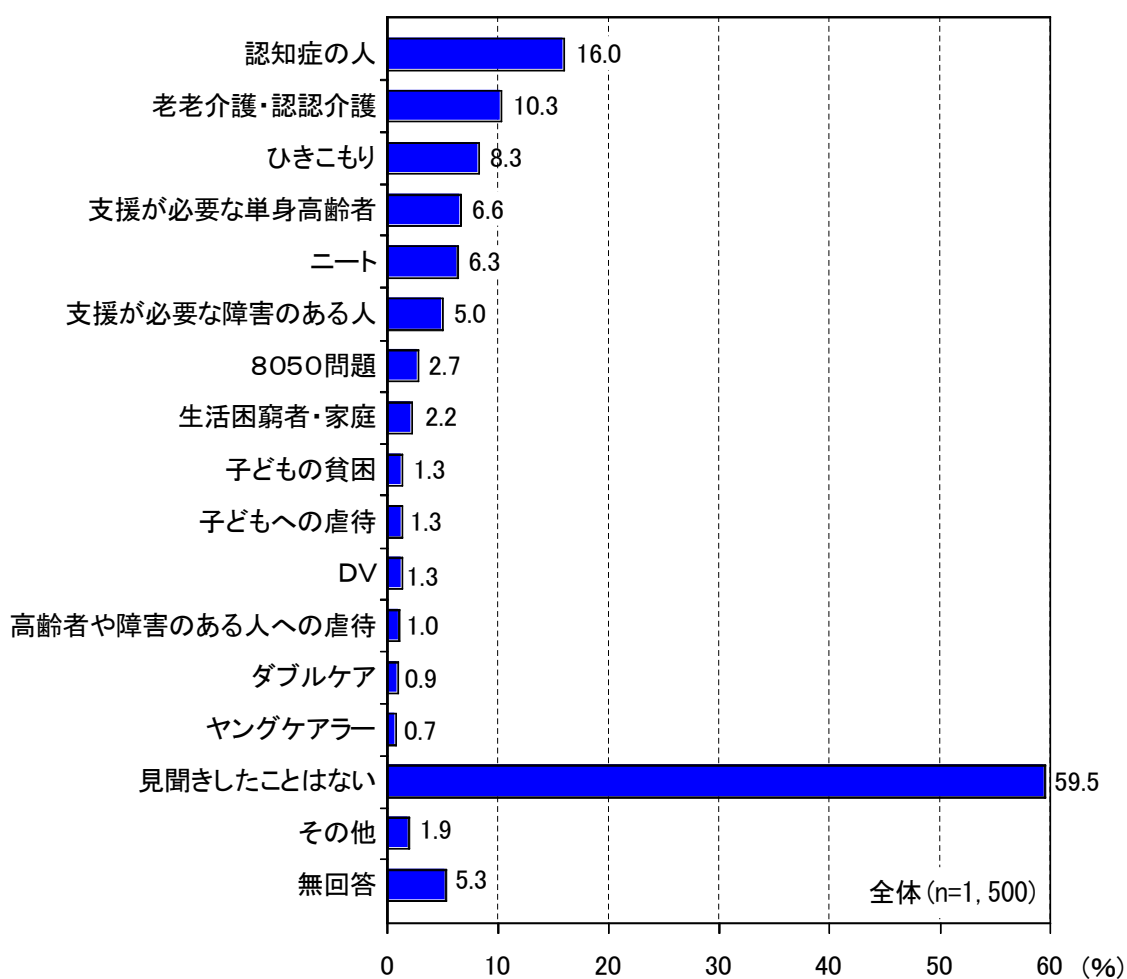


- 自分たちの生活に関わることだから、住民同士で協力して解決したい
- 地域のことに熱心な人たちと、協力して解決したい
- 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
- 行政や社会福祉協議会に解決してもらいたい
- その他
- 無回答

⑭地域で困難を抱える人の把握

問 21 あなたは、ご近所（家族は除く）で、以下の様な人を見聞きしたことがありますか。（複数回答）

近所で見聞きしたことがある人は、「見聞きしたことはない」が 59.5%と最も高くなっていますが、「認知症の人」が 16.0%、「老老介護・認認介護」が 10.3%、「ひきこもり」が 8.3%などとなっており、回答はわずかな割合ですが、様々な支援を必要としている人が地域にいることが認識されています。



	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	ひきこもり	ニート	8050問題	認知症の人	支援が必要な単身高齢者	支援が必要な障害のある人	ヤングケアラー	ダブルケア	老老介護・認知介護
全体	1,500	8.3	6.3	2.7	16.0	6.6	5.0	0.7	0.9	10.3
性別										
男性	644	8.1	5.6	3.0	15.5	5.9	4.8	0.5	0.2	9.8
女性	848	8.5	6.8	2.5	16.2	7.0	5.1	0.9	1.5	10.6
年齢別										
18歳～29歳	183	10.9	8.2	2.2	14.2	4.9	6.0	3.3	2.2	9.3
30歳～39歳	211	5.7	5.7	3.3	13.3	7.1	4.3	0.5	2.8	6.2
40歳～49歳	234	9.4	8.5	3.4	14.1	5.1	5.1	0.4	0.4	6.4
50歳～59歳	270	7.4	6.7	1.9	11.1	7.0	3.0	0.4	0.7	5.2
60歳～69歳	226	7.5	4.4	2.7	22.1	7.5	5.3	0.4	0.4	15.5
70歳以上	369	8.9	5.1	2.7	19.2	7.0	6.0	0.3	-	16.0
地区別										
北部地区	471	9.3	6.2	2.8	18.0	7.0	5.5	0.4	1.3	11.0
中部地区	517	6.6	4.8	2.1	13.7	7.4	5.6	1.0	1.0	9.7
南部地区	486	9.3	8.0	3.3	16.7	5.3	3.7	0.8	0.4	10.3

	回答者数(人)	回答割合(%)							
	n=	生活困窮者・家庭	子どもの貧困	高齢者や障害のある人への虐待	子どもへの虐待	DV	見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	1,500	2.2	1.3	1.0	1.3	1.3	59.5	1.9	5.3
性別									
男性	644	2.2	1.2	0.8	0.6	0.6	60.4	1.9	4.3
女性	848	2.2	1.3	1.2	1.8	1.8	59.1	2.0	5.9
年齢別									
18歳～29歳	183	3.3	2.7	1.1	2.2	2.7	66.1	2.2	1.1
30歳～39歳	211	2.4	1.4	0.5	0.9	0.9	69.2	-	3.8
40歳～49歳	234	1.3	1.7	0.9	3.0	1.7	63.2	2.1	2.1
50歳～59歳	270	1.9	1.1	1.5	1.9	0.7	65.6	2.6	4.1
60歳～69歳	226	2.7	1.3	0.9	0.4	0.9	52.2	1.3	6.2
70歳以上	369	2.2	0.3	1.1	-	1.1	49.1	2.7	9.8
地区別									
北部地区	471	1.9	0.8	1.7	1.5	1.7	57.3	1.5	4.7
中部地区	517	2.7	1.9	0.8	1.2	1.2	60.9	2.5	5.2
南部地区	486	2.1	1.0	0.6	1.2	1.0	59.9	1.9	5.6

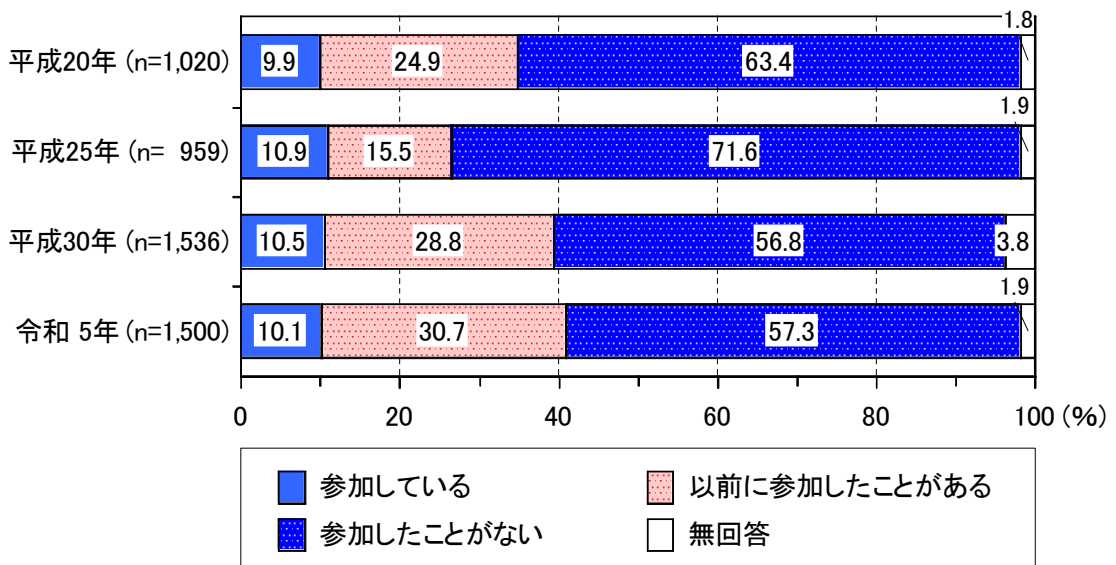
### (3) 地域福祉活動について

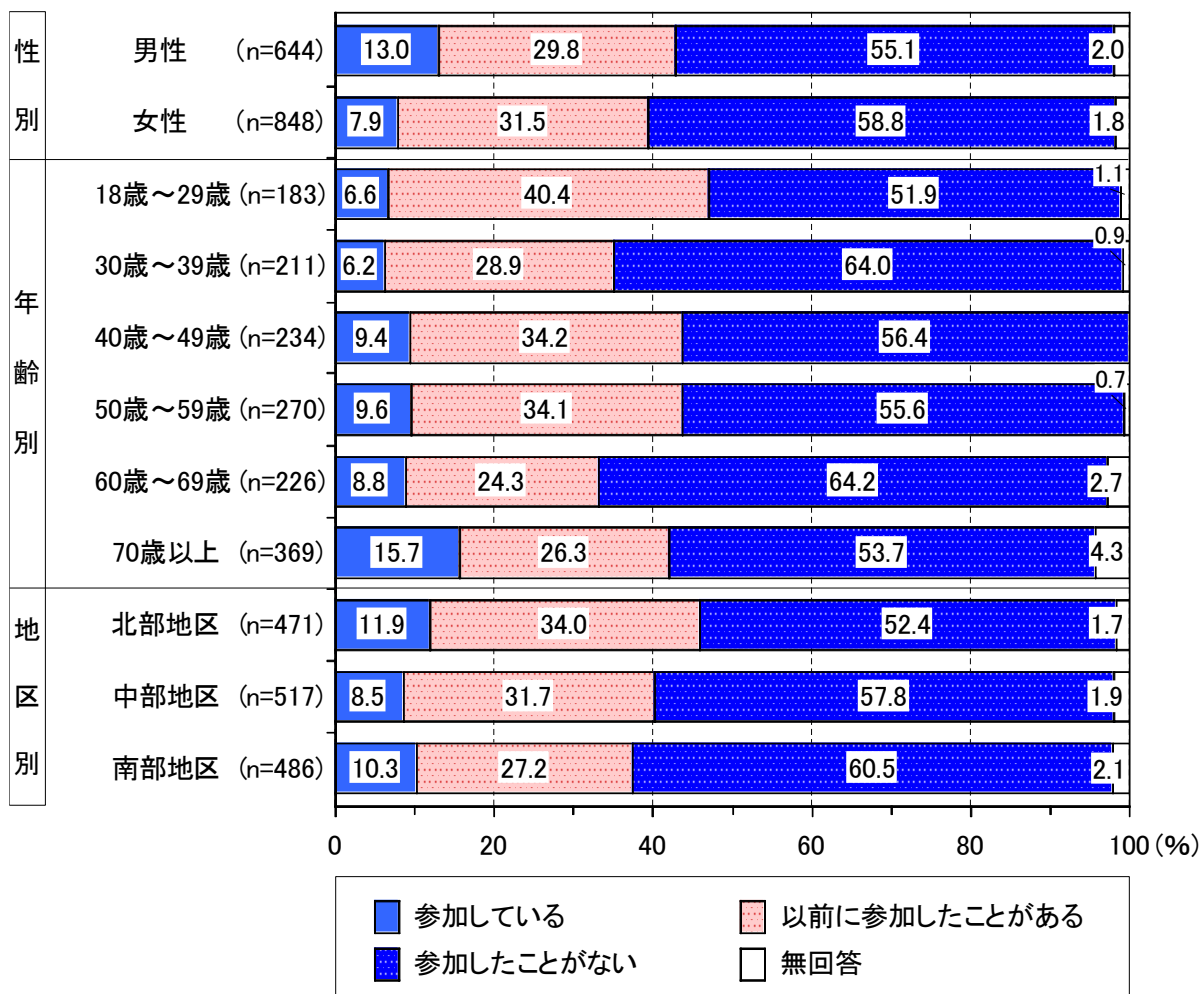
#### ①ボランティア活動の参加状況

問 22 あなたは、今までにボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したことがありますか。(単数回答)

ボランティア活動や地域の支え合い活動の参加状況は、「参加している」が10.1%、「以前に参加したことがある」が30.7%で、40%程度の人はいずれも『参加経験がある』と回答しています。

年齢別でみると、「参加している」は18歳～29歳と30歳代は6%台、40歳代から60歳代は9%前後、70歳以上は15.7%と最も高くなっています。18歳～29歳は「以前に参加したことがある」が40.4%で最も高く、『参加経験がある』が半数近くを占めており、年齢別で最も高くなっています。『参加経験がある』は40歳代、50歳代、70歳以上では40%を超えており、30歳代、60歳代が30%台と他の年齢に比べてやや低くなっています。

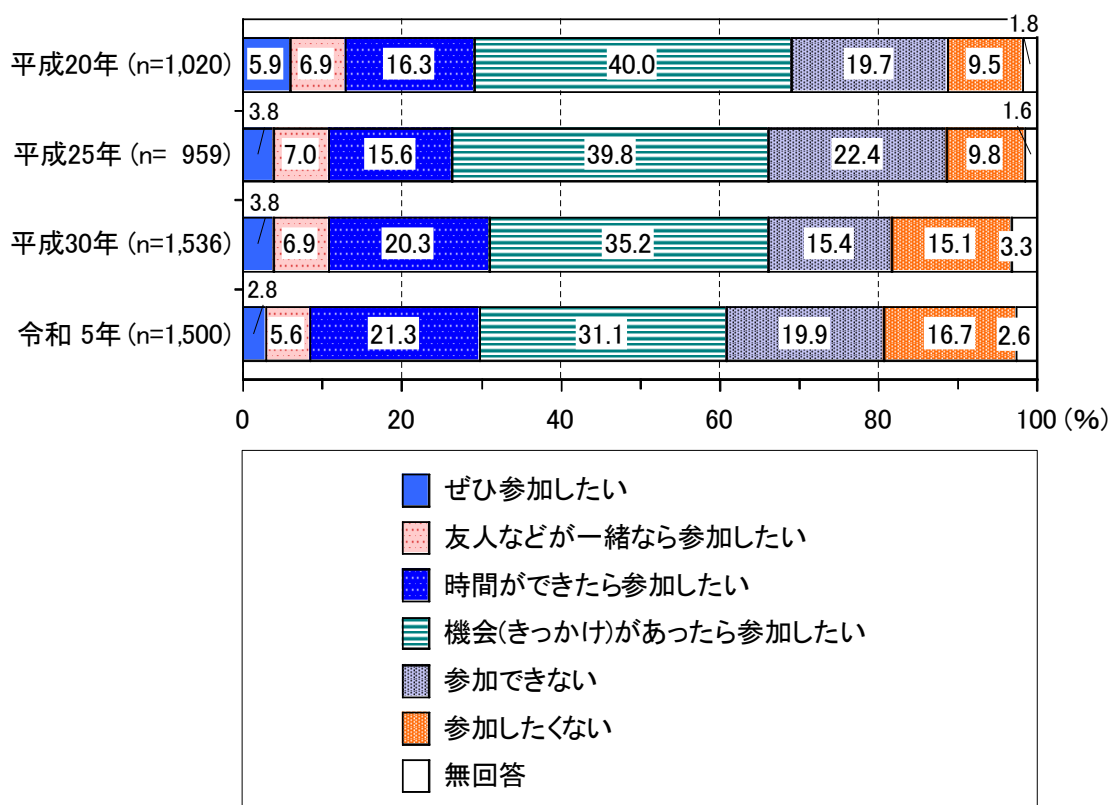




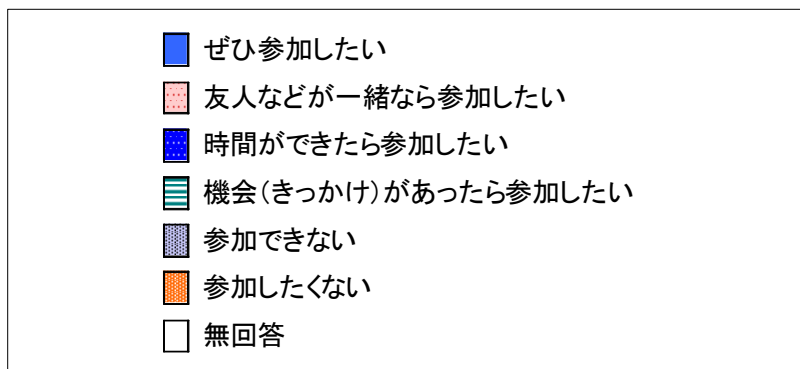
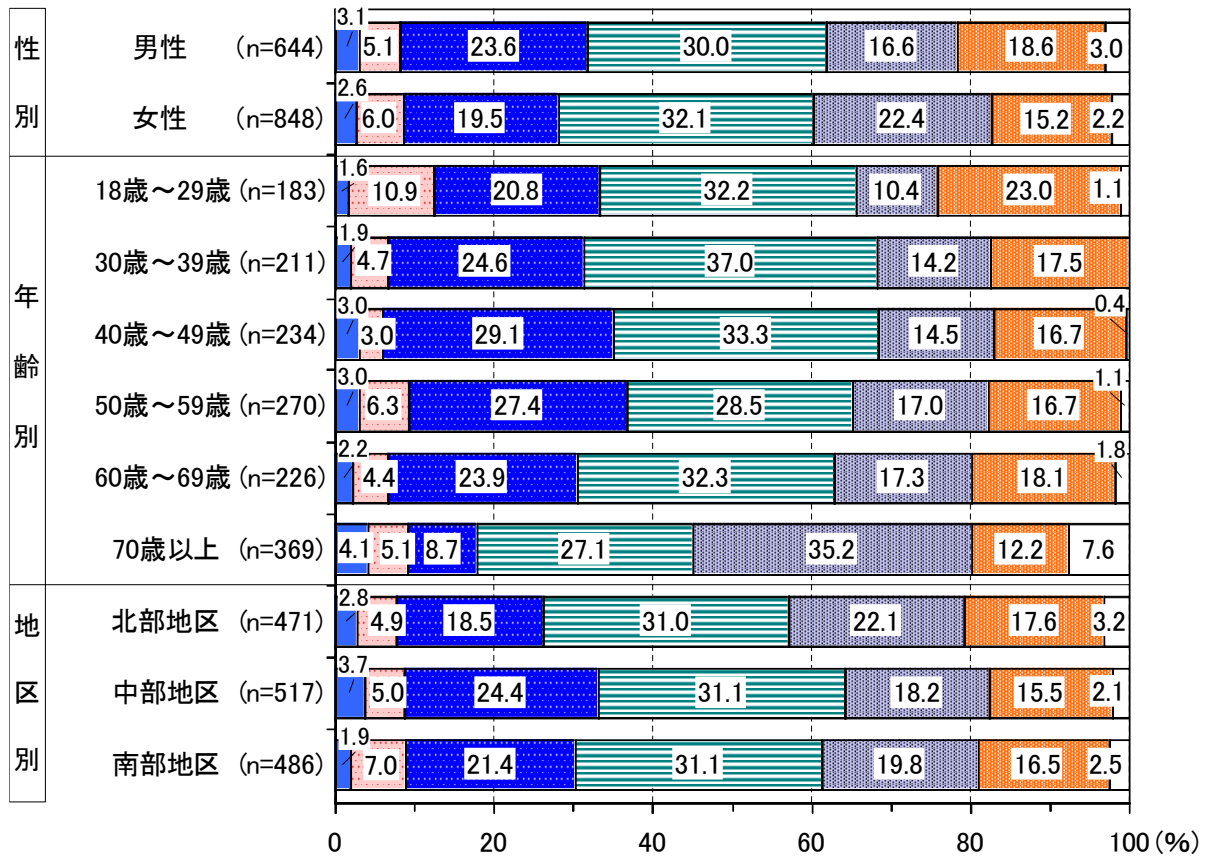
## ②ボランティア活動の参加意向

問 23 あなたは、今後ボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したいと思いますか。(単数回答)

今後、ボランティア活動や地域の支え合い活動への参加意向は、「ぜひ参加したい」は2.8%となっていますが、「友人などが一緒なら参加したい」と「時間ができたら参加したい」と「機会(きっかけ)があったら参加したい」をすべて合わせた『参加したい』は60.8%を占めています。一方で、「参加できない」と「参加したくない」を合わせた『参加できない・したくない』が36.6%となっています。





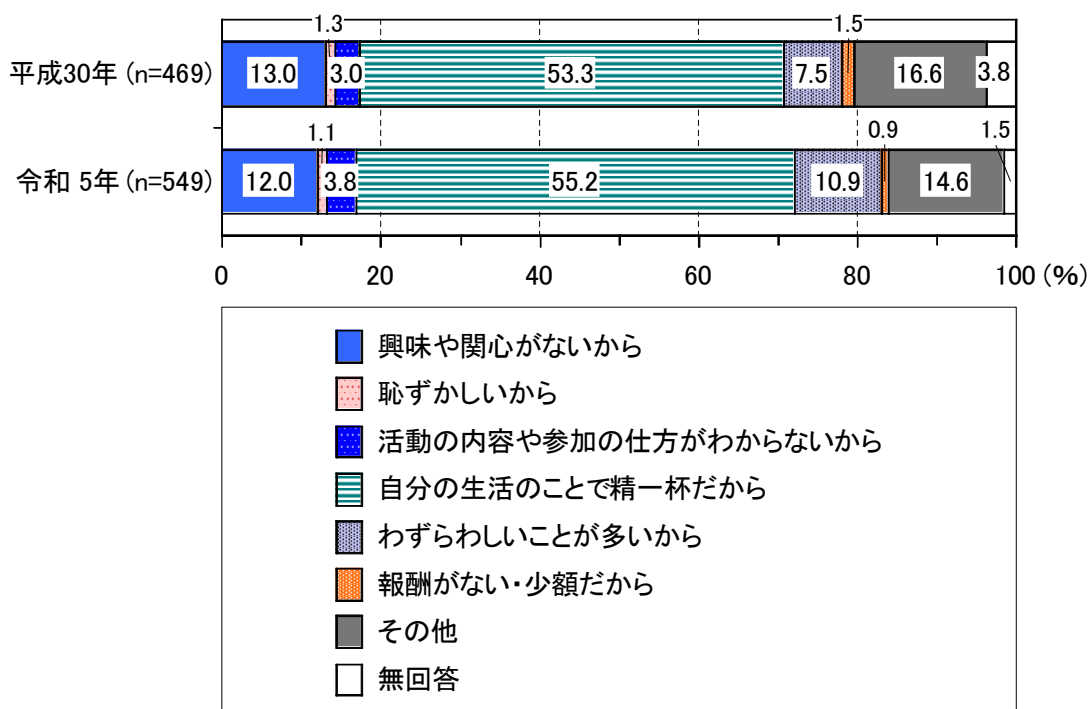


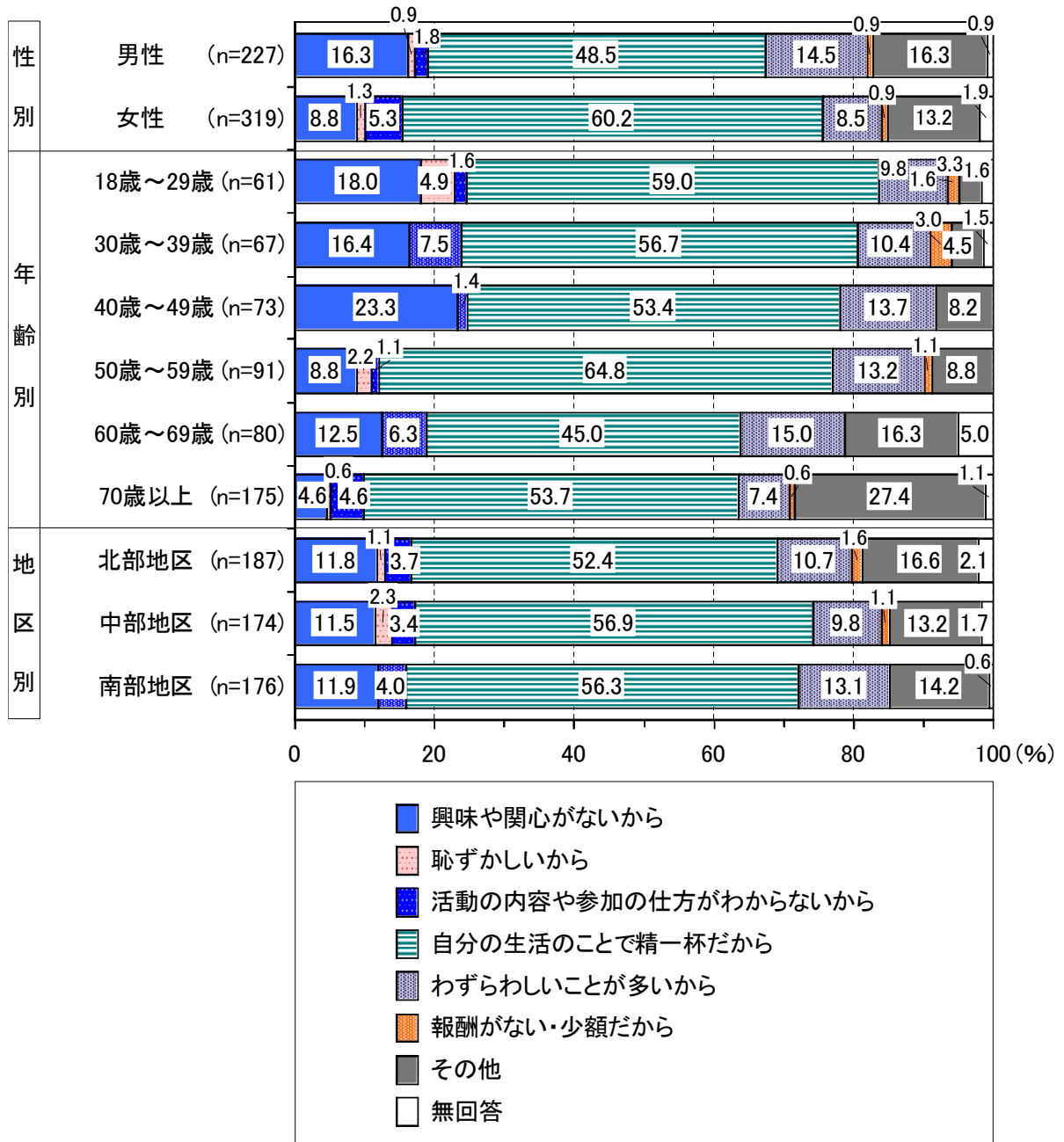
### ③ボランティア活動に参加できない、したくない理由

<問 23 で「参加できない」「参加したくない」と回答した人対象>  
 問 24 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(単数回答)

前問でボランティア活動や地域の支え合い活動に「参加できない」「参加したくない」と回答した主な理由は、「自分の生活のことで精一杯だから」が55.2%と半数を超えて最も高くなっています。次いで「興味や関心がないから」が12.0%、「わずらわしいことが多いから」が10.9%となっています。

年齢別で見ると、各年齢とも「自分の生活のことで精一杯だから」が最も高くなっています。「興味や関心がないから」は、40歳代以下で高くなっています。





#### (4) 制度や施設の認知度について

##### ①地域包括支援センターの認知度

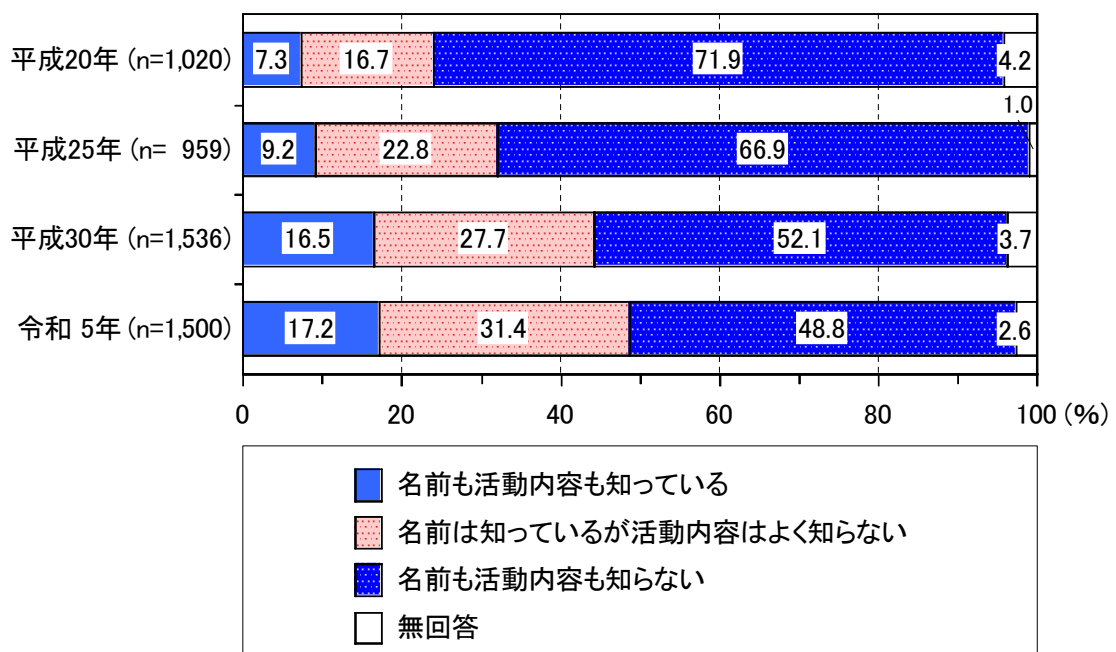
問 25 刈谷市には6つの地域型地域包括支援センターがありますが、地域包括支援センターを知っていますか。(単数回答)

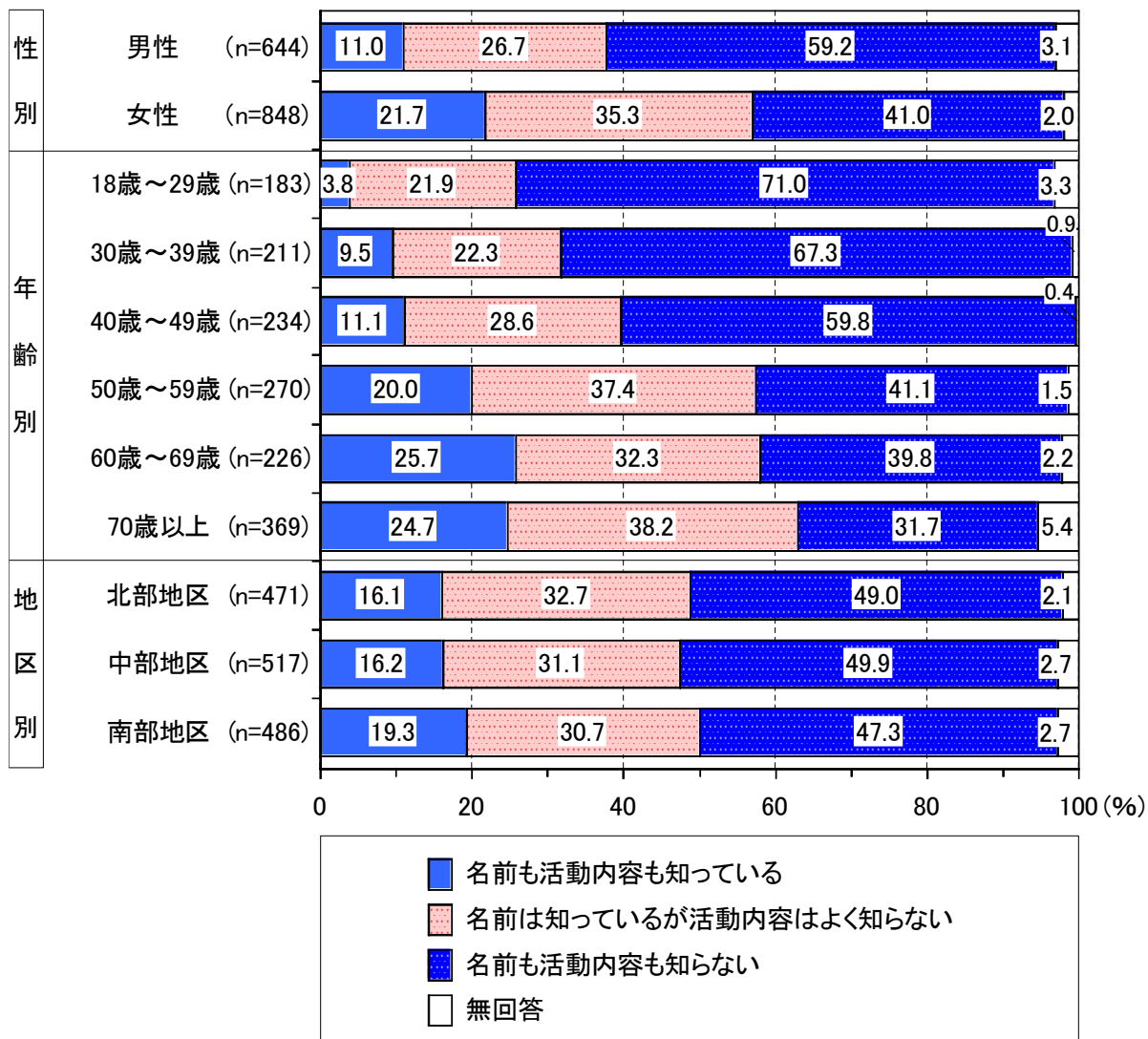
地域包括支援センターの認知度は、「名前も活動内容も知っている」が17.2%、「名前は知っているが活動内容はよく知らない」が31.4%であり、合わせて48.6%とほぼ半数の人が『知っている』と回答しています。

経年変化をみると、『知っている』の比率が回を追うごとに高くなり、認知度が上がっています。ただし、活動内容も知っているは前回からほぼ横ばいであり、まだまだ周知が必要な状況です。

性別でみると、『知っている』は女性が57.0%に対して男性は37.7%と20ポイント近く差があります。

年齢別でみると、『知っている』は18歳～29歳が25.7%ですが、年齢が上がるにしたがって高くなる傾向があり、50歳以上で半数を超え、最も高い70歳以上では62.9%となっています。



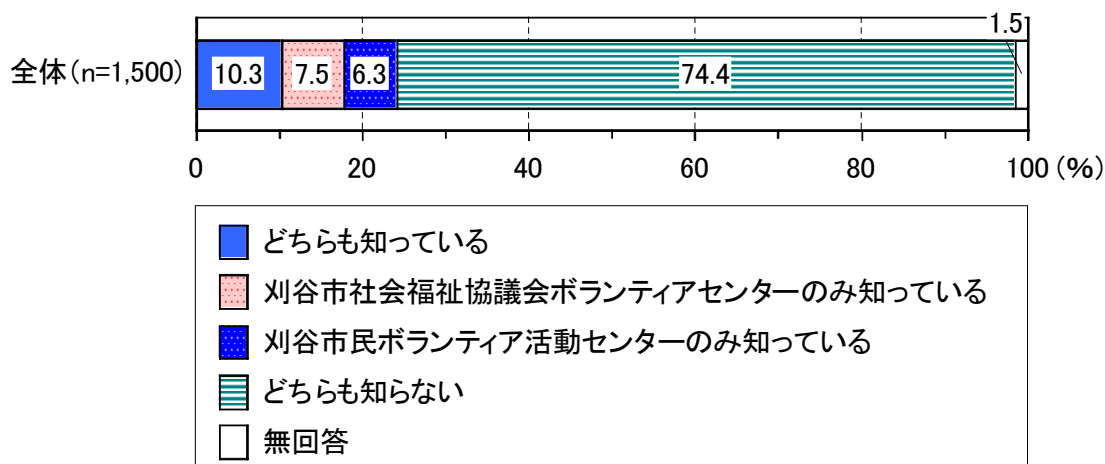


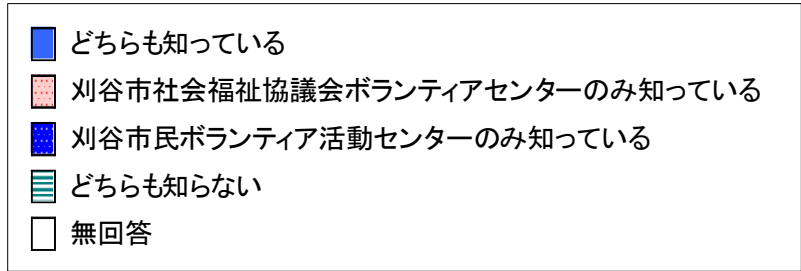
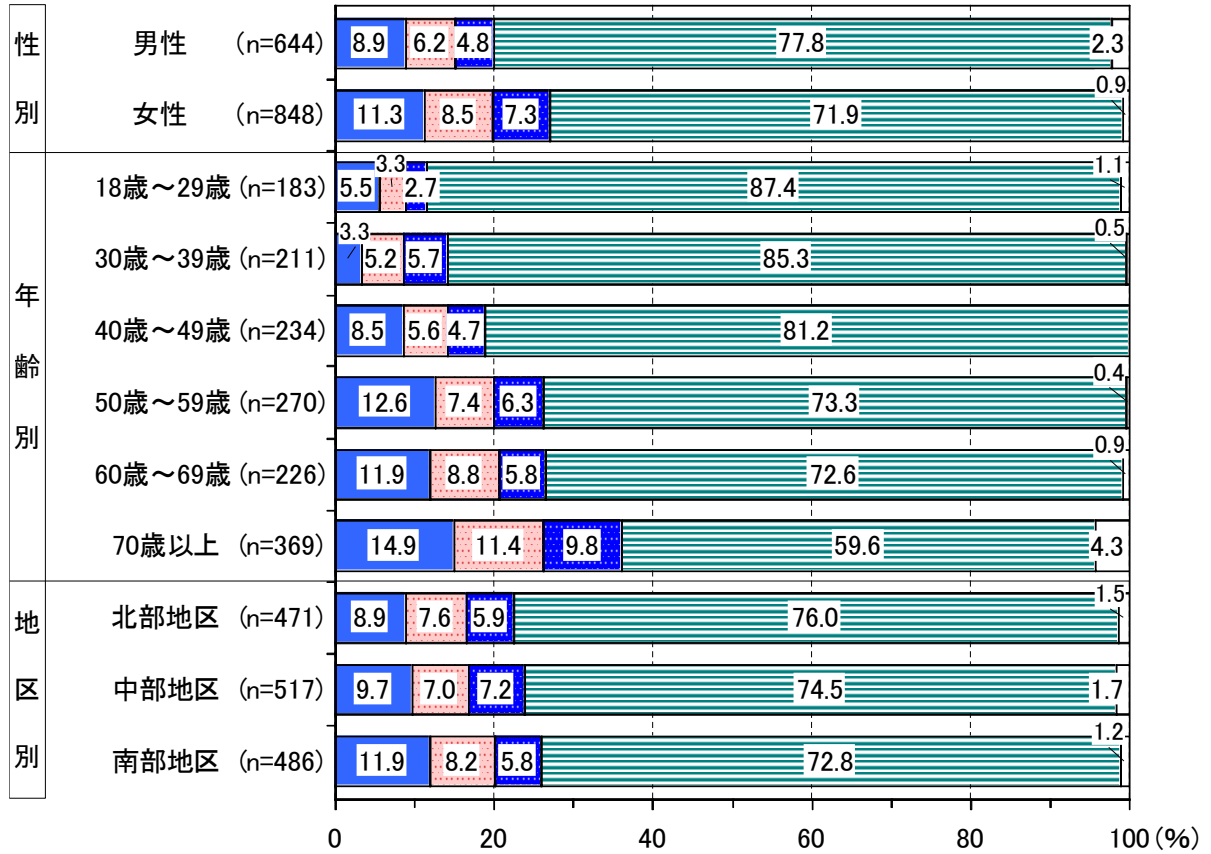
## ②ボランティアセンターの認知度

問 26 あなたは、刈谷市社会福祉協議会ボランティアセンター、刈谷市民ボランティア活動センターを知っていますか。(単数回答)

刈谷市社会福祉協議会ボランティアセンター、刈谷市民ボランティア活動センターの認知度は、「どちらも知っている」と、「刈谷市社会福祉協議会ボランティアセンターのみ知っている」と、「刈谷市民ボランティア活動センターのみ知っている」のいずれかのボランティアセンターを『知っている』と回答した人は合わせて 24.1% となっています。

年齢別でみると、『知っている』は年齢が上がるにしたがって高くなり、70 歳以上では 36.1% となっています。





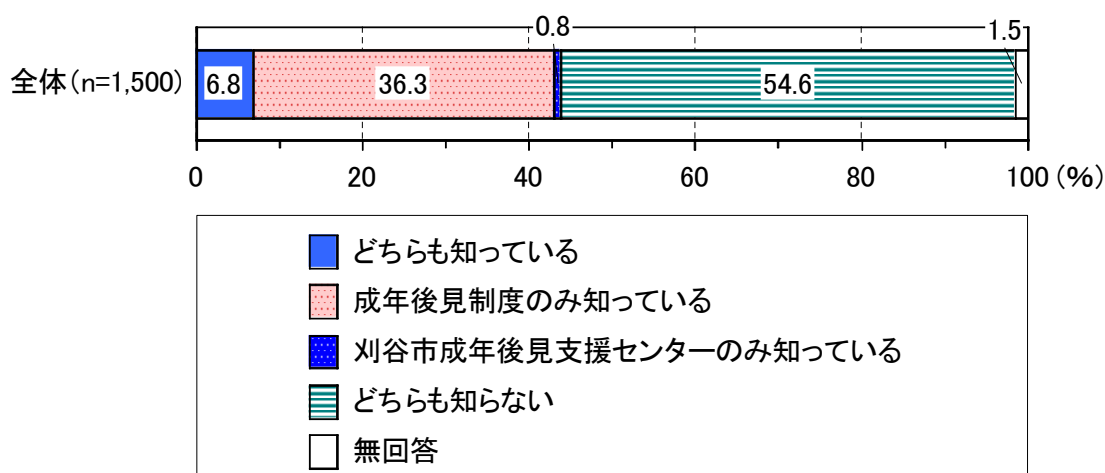
### ③成年後見制度・刈谷市成年後見支援センターの認知度

問 27 あなたは、成年後見制度を知っていますか。また、刈谷市成年後見支援センターを知っていますか。(単数回答)

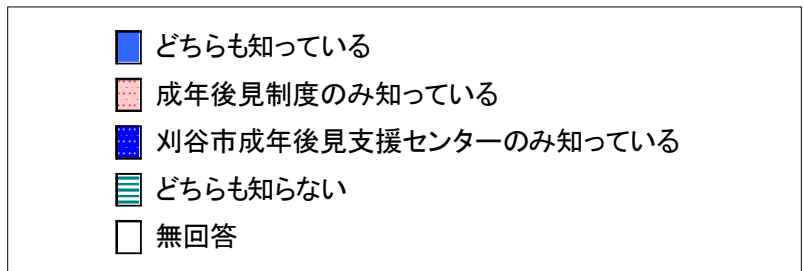
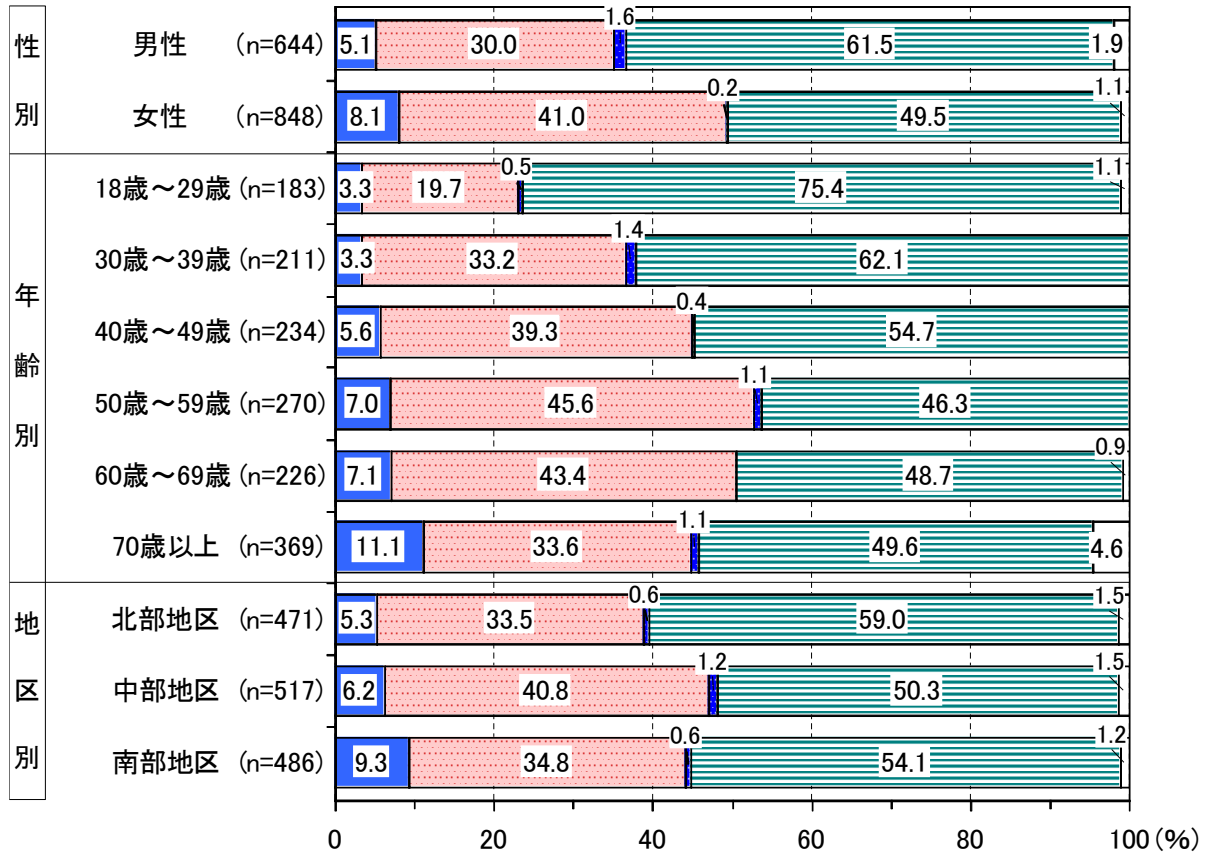
成年後見制度、刈谷市成年後見支援センターの認知度は、「どちらも知っている」と「成年後見制度のみ知っている」と「刈谷市成年後見支援センターのみ知っている」のいずれかの制度やセンターを『知っている』は43.9%です。

性別で見ると、「どちらも知っている」はあまり差がなく、「成年後見制度のみ知っている」は男性が30.0%に対して、女性は41.0%とかなり高くなっています。『知っている』も女性の認知度が高く、ほぼ半数となっています。

年齢別で見ると、『知っている』は18歳～29歳が最も低く、50歳代までは年齢が上がるにしたがって高くなっています。







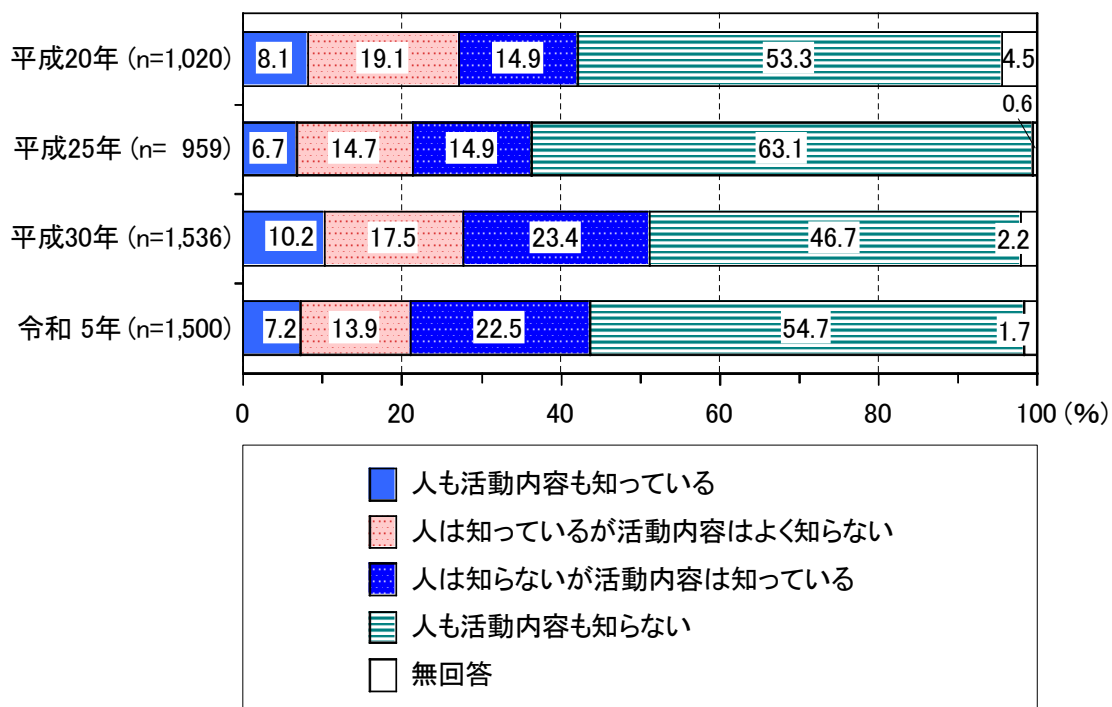
#### ④民生委員・児童委員の認知度

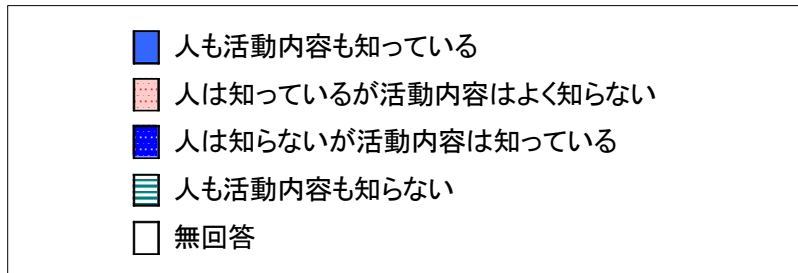
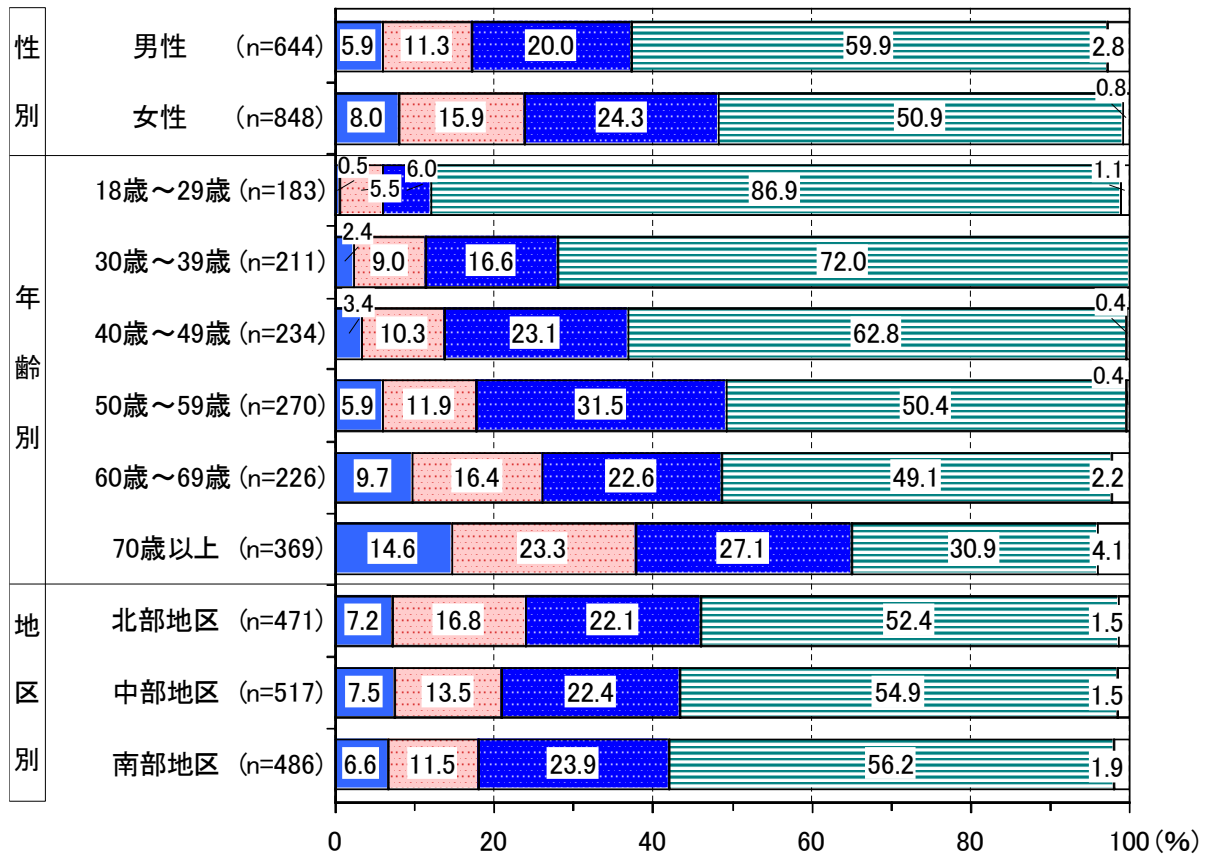
問 28 あなたは、あなたの地域の民生委員・児童委員と活動内容を知っていますか。(単数回答)

地域の民生委員・児童委員と活動内容の認知度は、「人も活動内容も知っている」と「人は知っているが活動内容はよく知らない」と「人は知らないが活動内容は知っている」を合わせた『知っている』は43.6%となっています。

性別でみると、『知っている』は男性の37.2%に対して、女性は48.2%とかなり高くなっています。

年齢別でみると、『知っている』は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向があり、最も高い70歳以上では65.0%となっています。





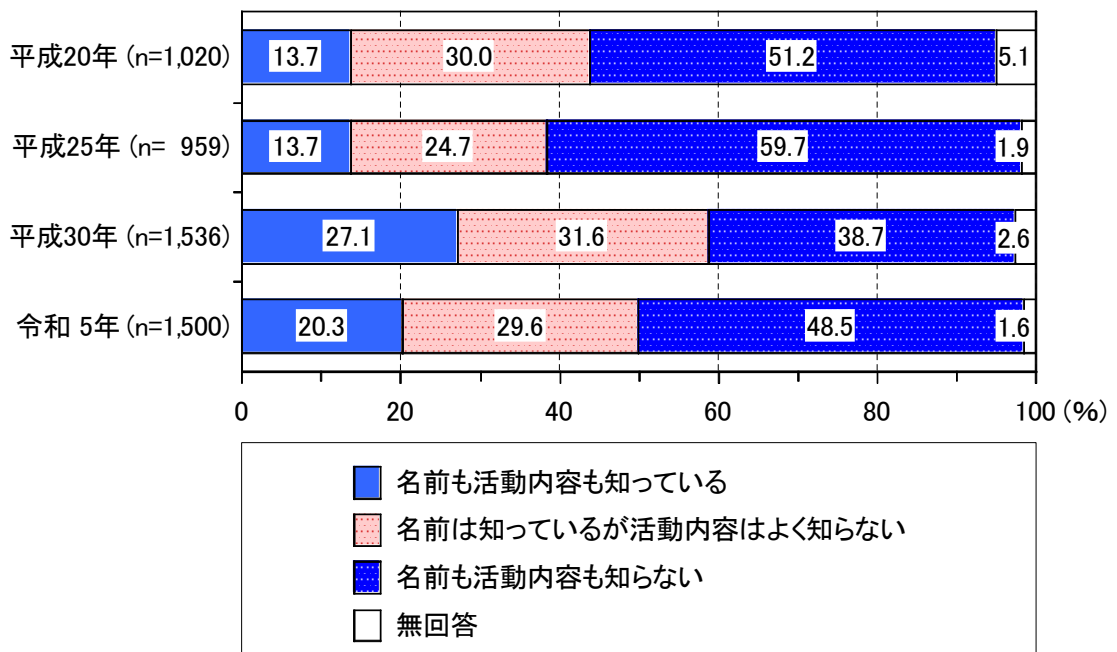
## (5) 地域防災への取り組みについて

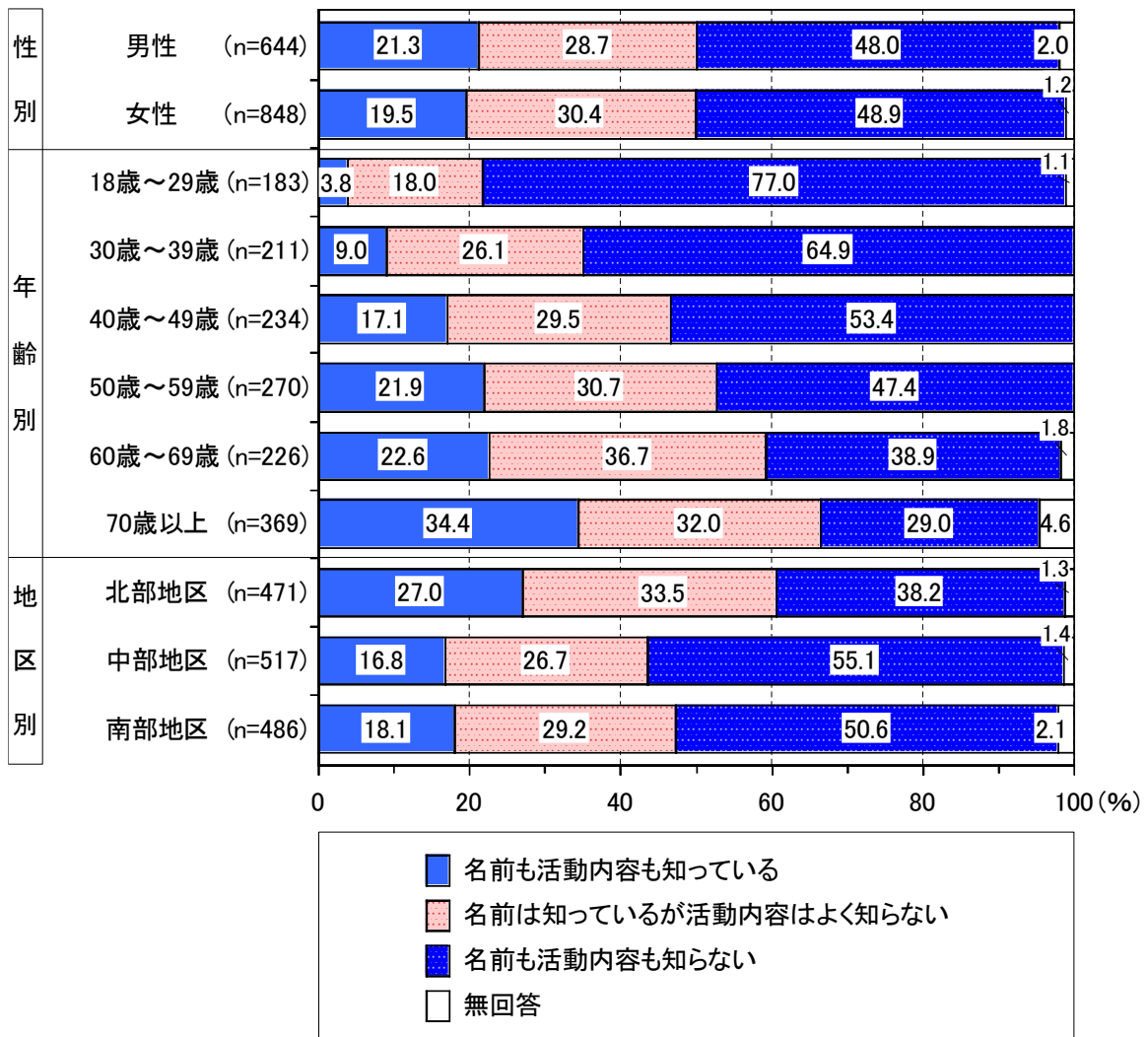
### ①自主防災組織の認知度

問 29 あなたは、地域の自主防災組織を知っていますか。(単数回答)

地域の自主防災組織の認知度は、「名前も活動内容も知っている」と「名前は知っているが活動内容はよく知らない」を合わせた『知っている』は49.9%とほぼ半数を占めています。

年齢別で見ると、「名前も活動も知っている」は年齢が上がるにしたがって高くなり、70歳以上では34.4%と最も高くなっています。『知っている』も同様に、年齢が上がるにしたがって高くなっています。



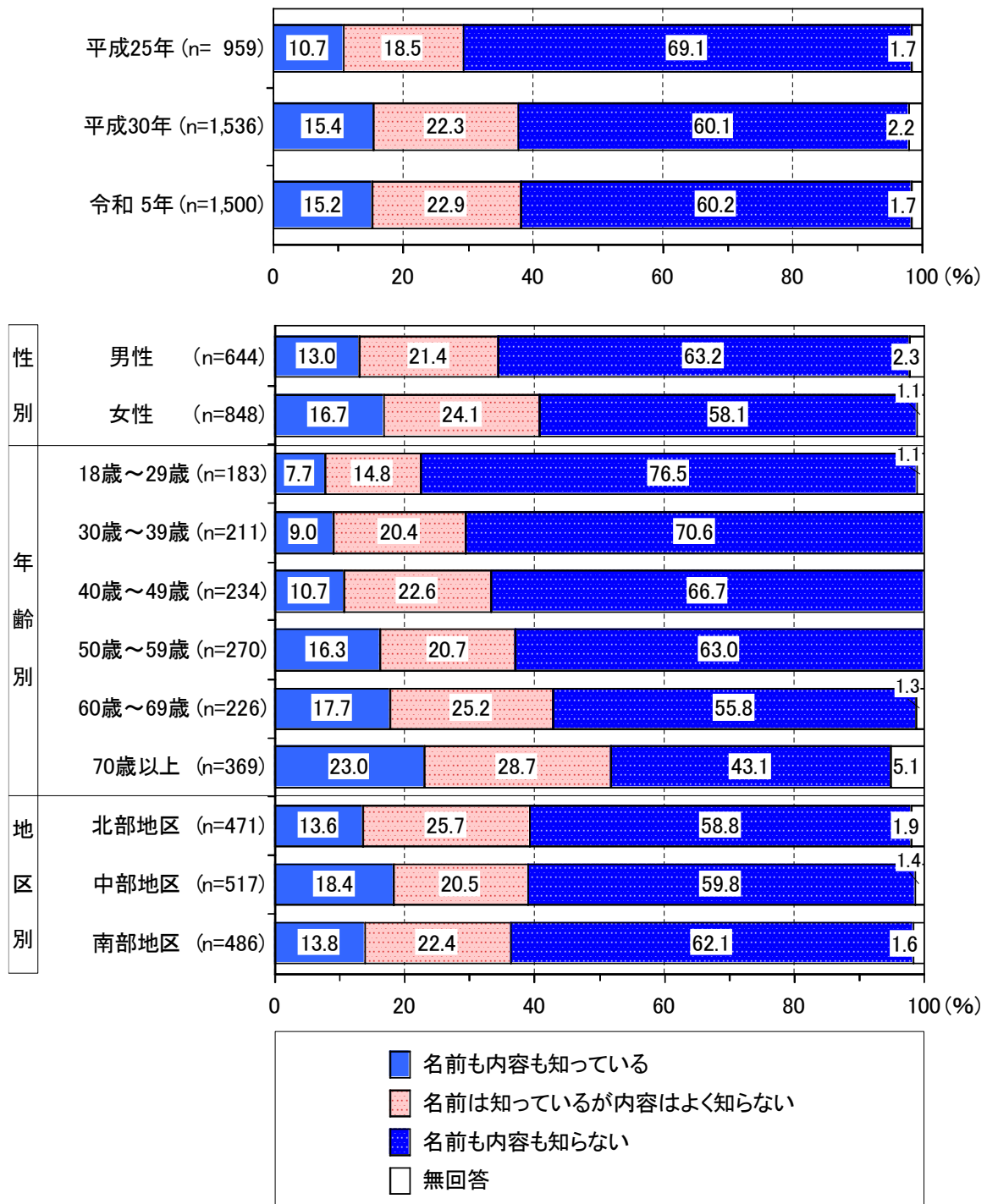


②避難行動要支援者の認知度

問 30 あなたは、避難行動要支援者を知っていますか。(単数回答)

避難行動要支援者の認知度は、「名前も内容も知っている」と「名前は知っているが内容はよく知らない」を合わせた名前か内容のいずれかを『知っている』は 38.1% となっています。

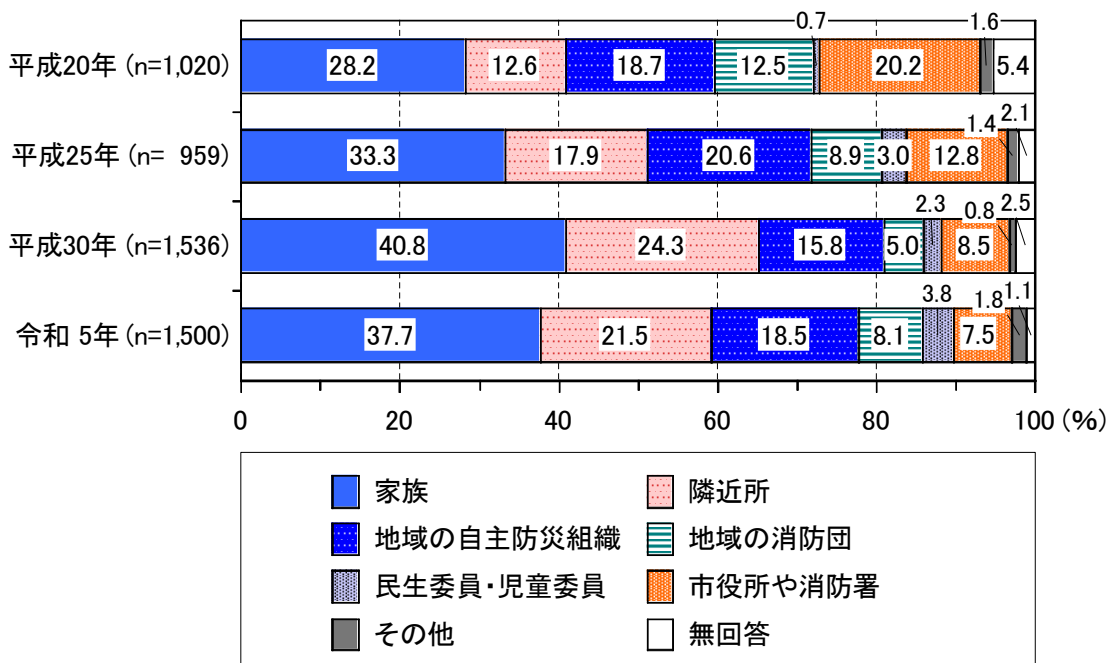
年齢別でみると、『知っている』は年齢が上がるにしたがって高くなり、70 歳以上では 51.7% と半数を超えています。

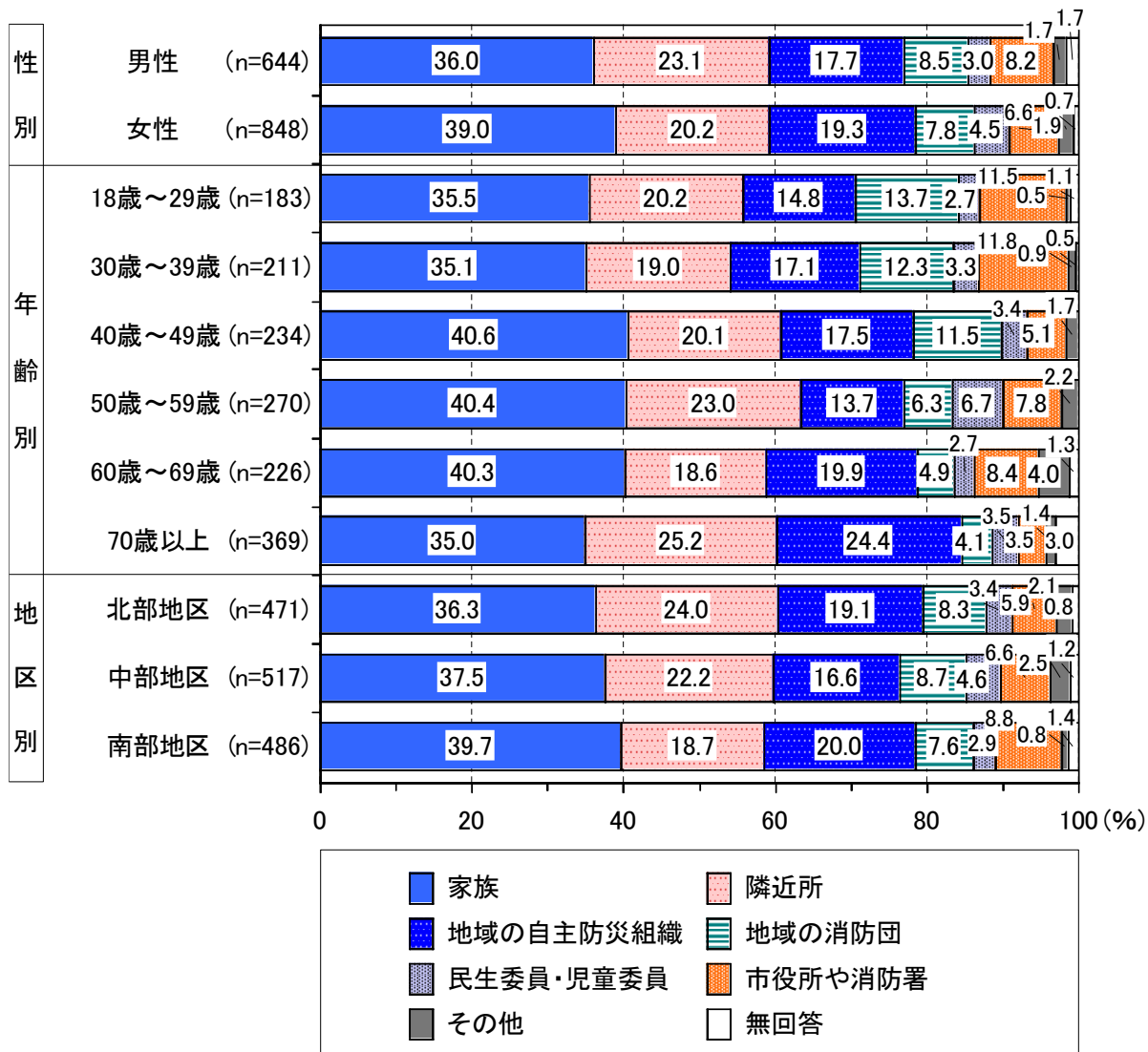


③避難行動要支援者を主に支援するべき人

問 31 万一の災害時に、高齢者や障害のある人など避難行動要支援者への情報伝達、避難所への誘導などを行うのは、主に誰だと考えますか。(単数回答)

災害時に避難行動要支援者を主に支援するべき人は、「家族」が37.7%と最も高くなっています。次いで「隣近所」が21.5%、「地域の自主防災組織」が18.5%、「地域の消防団」が8.1%となっており、これらを合わせた48.1%は、地域のつながりや地域の組織と回答しています。







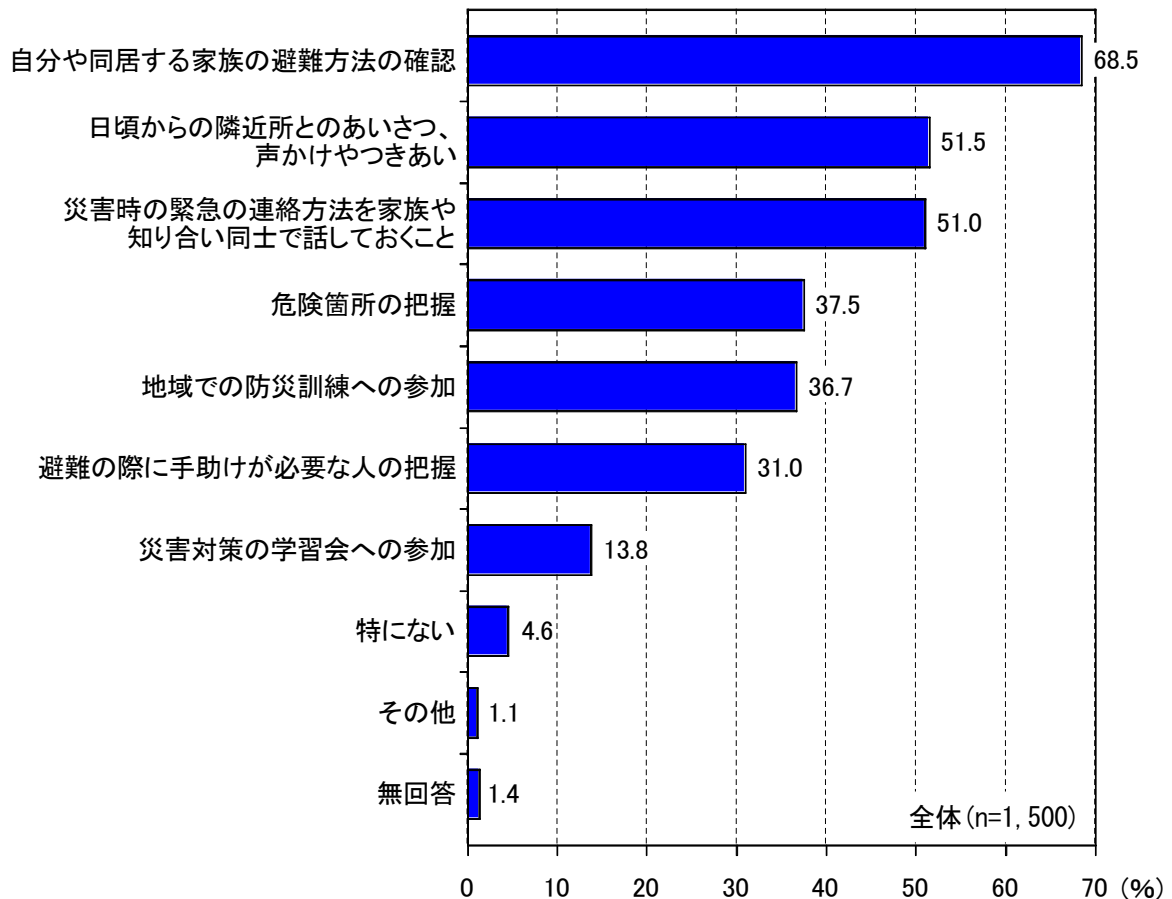
④地域や自身で取り組める防災活動

問 32 地震などの災害に備えて、日頃からどのような取り組みがあれば地域での助け合いがしやすいと思いますか。(複数回答)

災害に備えて、地域で“日頃からあるとよい取り組み”は、「自分や同居する家族の避難方法の確認」が68.5%と最も高く、次いで「日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」の51.5%と「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」の51.0%がほぼ同じ割合となっています。

性別でみると、「自分や同居する家族の避難方法の確認」が男女とも最も高くなっており、女性は73.6%と男性の62.1%に比べてかなり高くなっています。女性は「日頃から隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」が55.5%、「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が53.7%となっており、男性よりも高くなっています。

年齢別でみると、各年齢とも「自分や同居する家族の避難方法の確認」が最も高くなっており、特に50歳代は74.1%と他の年齢に比べて高くなっています。「日頃から隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」は50歳代、70歳以上が他の年齢に比べて高くなっています。

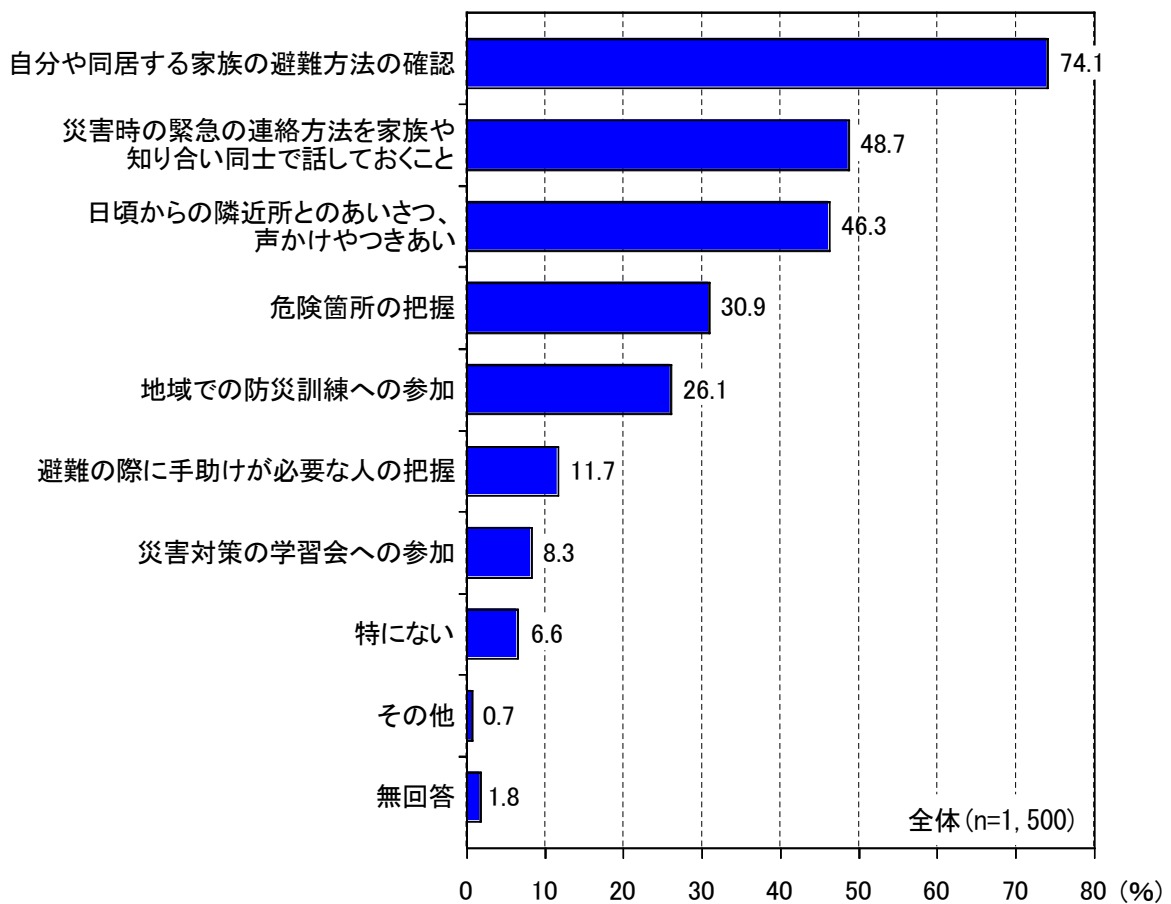


	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	自分や同居する家族の避難方法の確認	災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと	日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい	災害対策の学習会への参加	地域での防災訓練への参加
全体	1,500	68.5	51.0	51.5	13.8	36.7
性別						
男性	644	62.1	48.0	46.3	13.4	34.0
女性	848	73.6	53.7	55.5	14.3	39.0
年齢別						
18歳～29歳	183	73.8	50.3	39.9	10.9	31.1
30歳～39歳	211	71.1	57.8	48.3	9.5	30.8
40歳～49歳	234	70.9	51.7	50.0	14.5	38.9
50歳～59歳	270	74.1	54.4	55.9	20.0	40.4
60歳～69歳	226	65.0	50.0	46.5	15.9	37.6
70歳以上	369	61.5	45.5	59.9	11.7	38.5
地区別						
北部地区	471	68.8	46.9	51.2	11.0	37.2
中部地区	517	68.7	53.0	50.3	14.5	37.1
南部地区	486	69.3	53.7	54.1	15.8	36.4

	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	危険箇所の把握	避難の際に手助けが必要な人の把握	特にない	その他	無回答
全体	1,500	37.5	31.0	4.6	1.1	1.4
性別						
男性	644	35.7	25.9	6.1	1.4	1.7
女性	848	39.0	34.9	3.4	0.9	1.1
年齢別						
18歳～29歳	183	37.7	26.8	5.5	1.6	-
30歳～39歳	211	41.2	28.9	3.3	-	0.5
40歳～49歳	234	38.9	35.5	2.6	2.1	0.4
50歳～59歳	270	42.2	34.4	3.3	-	0.4
60歳～69歳	226	34.1	31.4	5.8	1.3	0.9
70歳以上	369	33.6	29.0	6.0	1.6	4.1
地区別						
北部地区	471	35.2	29.1	4.7	1.3	1.5
中部地区	517	37.9	32.1	4.6	0.8	1.4
南部地区	486	40.1	31.7	3.9	1.2	1.2

問 33 問 32 で回答したもののうち、日頃から「あなた」が取り組めるものはありますか。(複数回答)

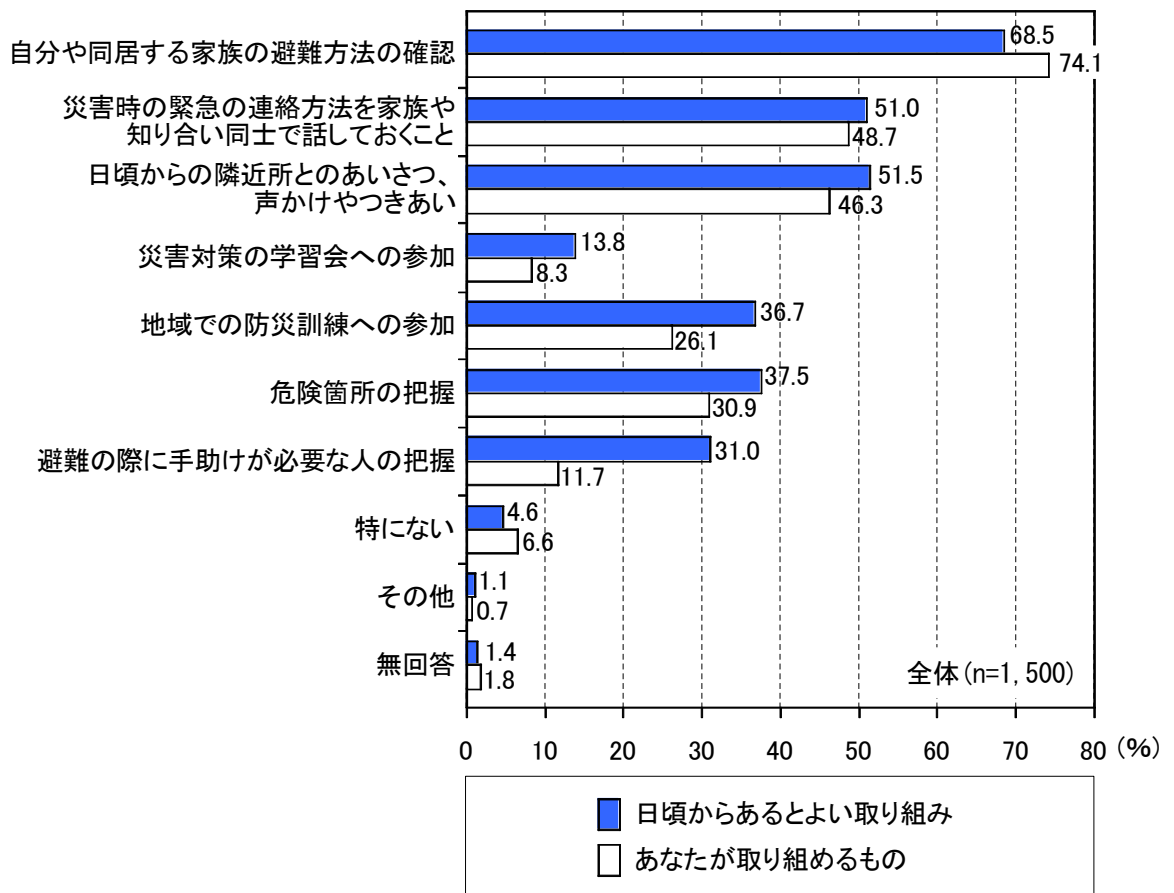
災害に備えて、“あなたに取り組めるもの(回答者自身に取り組めるもの)”は、「自分や同居する家族の避難方法の確認」が74.1%で最も高く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」の48.7%、「日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」の46.3%となっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	自分や同居する家族の避難方法の確認	災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと	日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい	災害対策の学習会への参加	地域での防災訓練への参加
全体	1,500	74.1	48.7	46.3	8.3	26.1
性別						
男性	644	67.5	43.0	40.2	8.5	25.8
女性	848	79.1	53.2	51.1	8.3	26.7
年齢別						
18歳～29歳	183	78.1	45.4	35.0	4.4	10.4
30歳～39歳	211	80.6	51.7	46.0	4.7	17.1
40歳～49歳	234	79.9	53.8	46.6	10.7	26.1
50歳～59歳	270	80.4	49.6	47.8	11.1	28.9
60歳～69歳	226	68.1	48.2	43.4	8.8	32.3
70歳以上	369	64.2	45.5	52.8	8.7	33.6
地区別						
北部地区	471	73.5	46.9	47.6	7.4	27.6
中部地区	517	73.9	49.5	44.1	9.7	27.7
南部地区	486	76.1	50.4	48.8	8.2	23.9

	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	危険箇所の把握	避難の際に手助けが必要な人の把握	特にない	その他	無回答
全体	1,500	30.9	11.7	6.6	0.7	1.8
性別						
男性	644	30.1	11.2	8.7	0.3	2.3
女性	848	31.6	12.0	5.0	1.1	1.3
年齢別						
18歳～29歳	183	31.1	8.2	5.5	1.1	-
30歳～39歳	211	33.6	9.0	3.3	-	0.5
40歳～49歳	234	32.9	11.5	4.7	1.3	0.4
50歳～59歳	270	35.9	11.5	6.7	-	0.7
60歳～69歳	226	29.6	11.9	8.4	-	0.4
70歳以上	369	25.5	15.2	8.9	1.6	5.4
地区別						
北部地区	471	33.1	11.3	5.5	0.6	1.7
中部地区	517	30.8	9.7	6.4	1.4	1.4
南部地区	486	30.0	14.6	7.0	0.2	2.1

災害に備えて、地域で“日頃からあるとよい取り組み”と“あなたが取り組めるもの”を比べると、「自分や同居する家族の避難方法の確認」については、地域での日頃からの取り組みが高い割合で求められています。それ以上に、自分自身が取り組むこととして高い割合を示しています。一方、「避難の際に手助けが必要な人の把握」については、地域の取り組みとして求められる割合が高く、回答者自身での取り組みとの差が大きくなっています。



## (6) 地域福祉の推進について

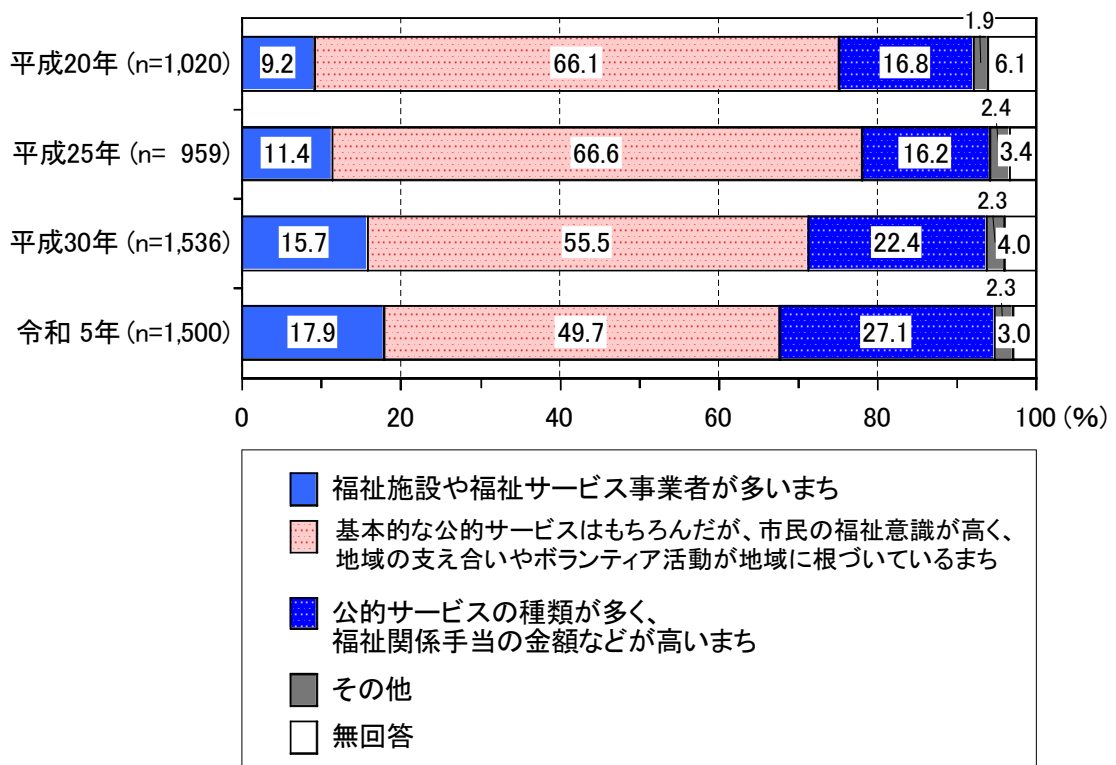
### ①福祉水準が高いまちのイメージ

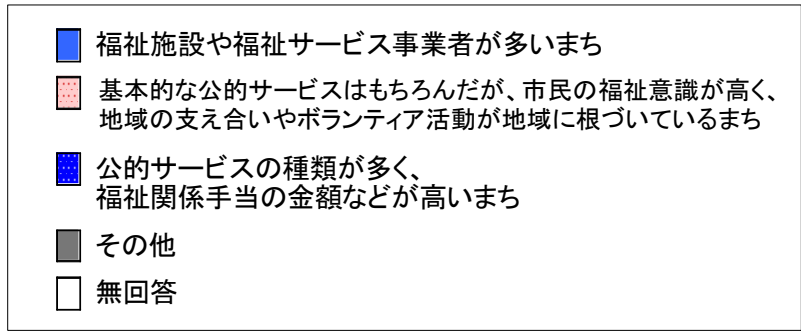
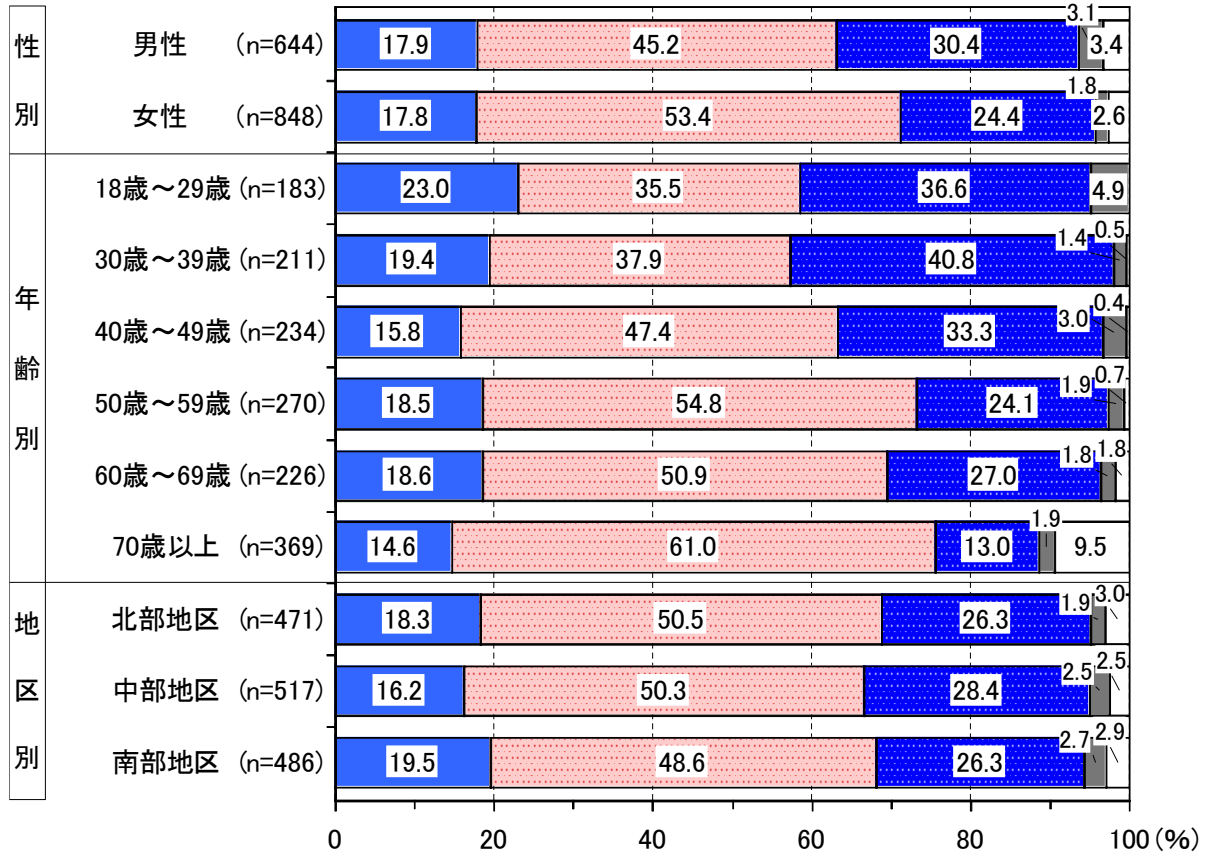
問 34 福祉水準が高いまち（福祉が充実しているまち）とはどのようなまちだと思いますか。あなたの考えに最も近いものは次のどれですか。（単数回答）

福祉水準が高いまちのイメージは、「基本的な公的サービスはもちろんだが、市民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」が 49.7%で最も高くなっています。次いで「公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち」が 27.1%、「福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち」が 17.9%となっています。

経年変化をみると、「基本的な公的サービスはもちろんだが、市民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」は平成 25 年の調査以降徐々に低下して、他の項目の割合が高くなっています。

年齢別でみると、「基本的な公的サービスはもちろんだが、市民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち」は年齢が上がるにしたがって高くなる傾向があり、70 歳以上では 61.0%と最も高くなっています。「公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち」は 30 歳代で最も高く、他の年齢に比べても高くなっています。「福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち」は 18 歳～29 歳が 23.0%と他の年齢に比べて高くなっています。



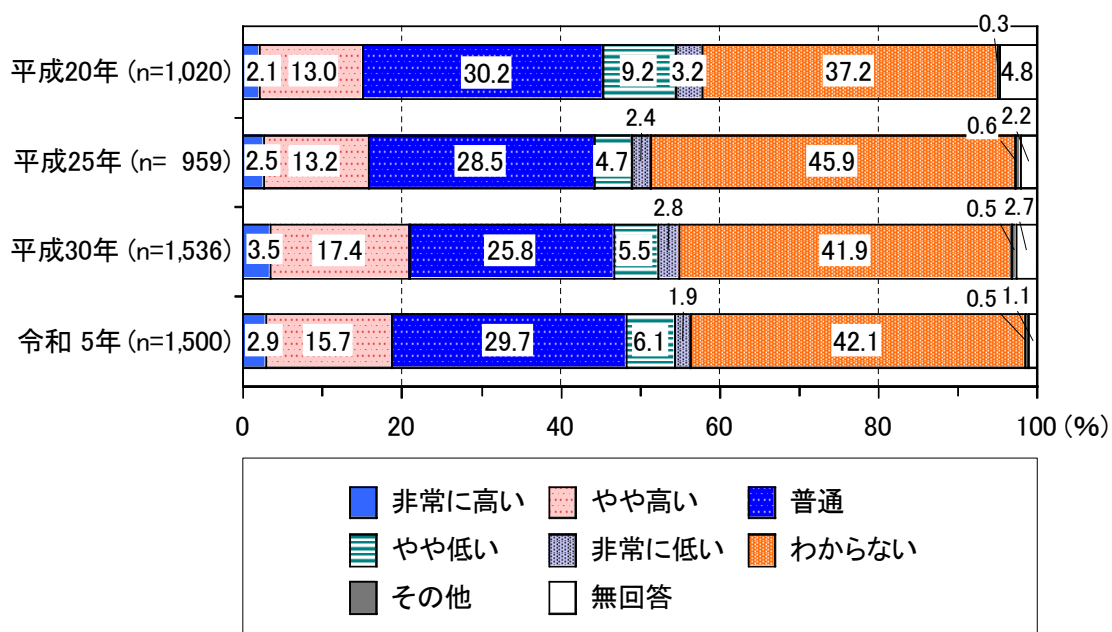


## ②刈谷市の福祉水準

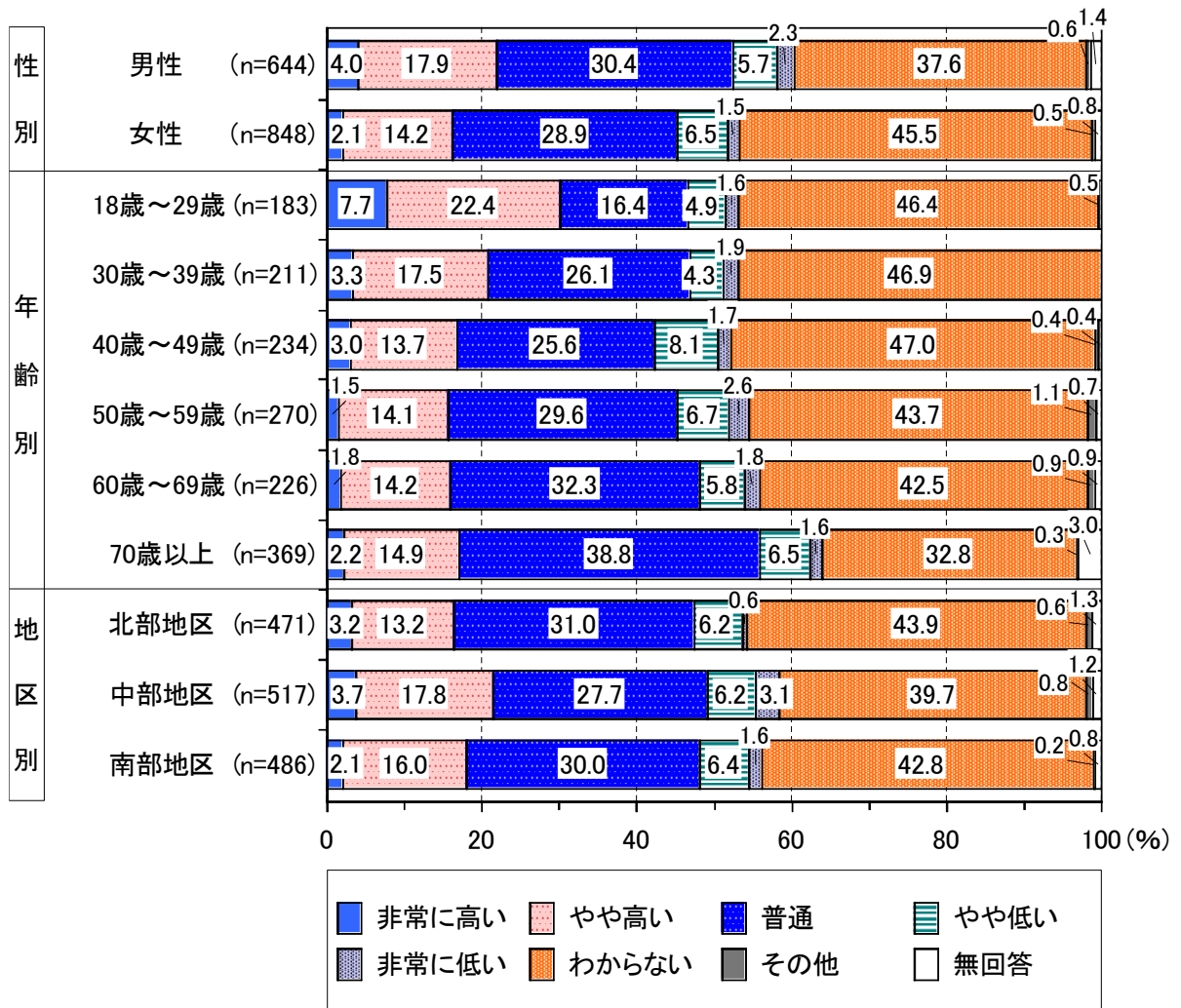
問 35 あなたは、刈谷市の現在の福祉水準（公的・非公的な福祉サービスも含め）についてどのように感じていますか。（単数回答）

刈谷市の現在の福祉水準（公的・非公的な福祉サービスも含め）は、「わからない」が42.1%と最も高く、次いで「普通」が29.7%となっています。

「非常に高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合は18.6%となります。一方、「やや低い」と「非常に低い」を合わせた『低い』は8.0%となっています。年齢別でみると、『高い』の割合は、18歳～29歳では30.1%と高くなっています。





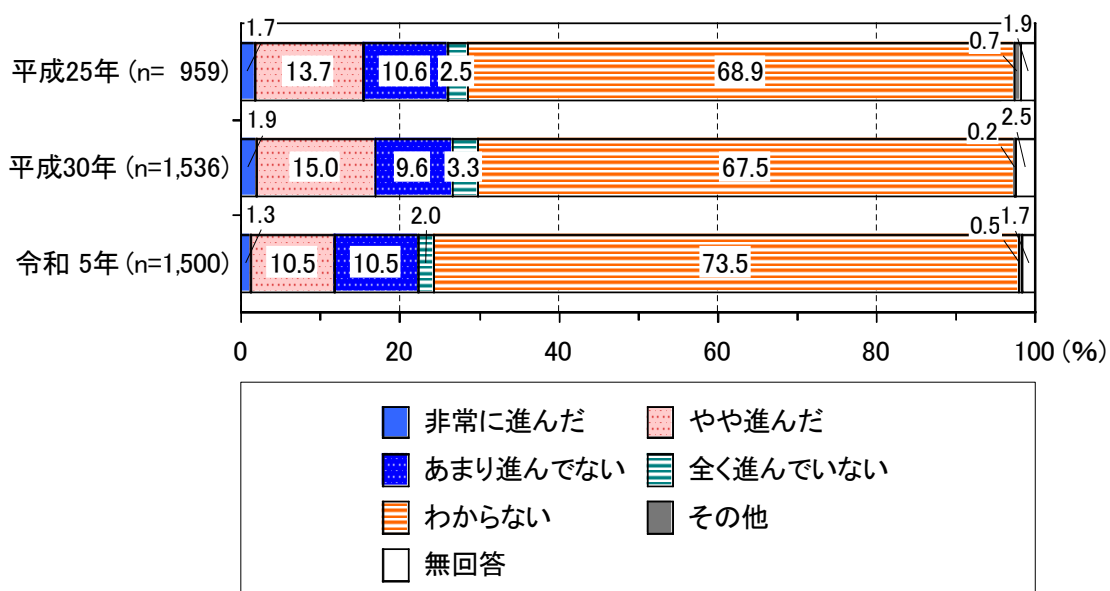


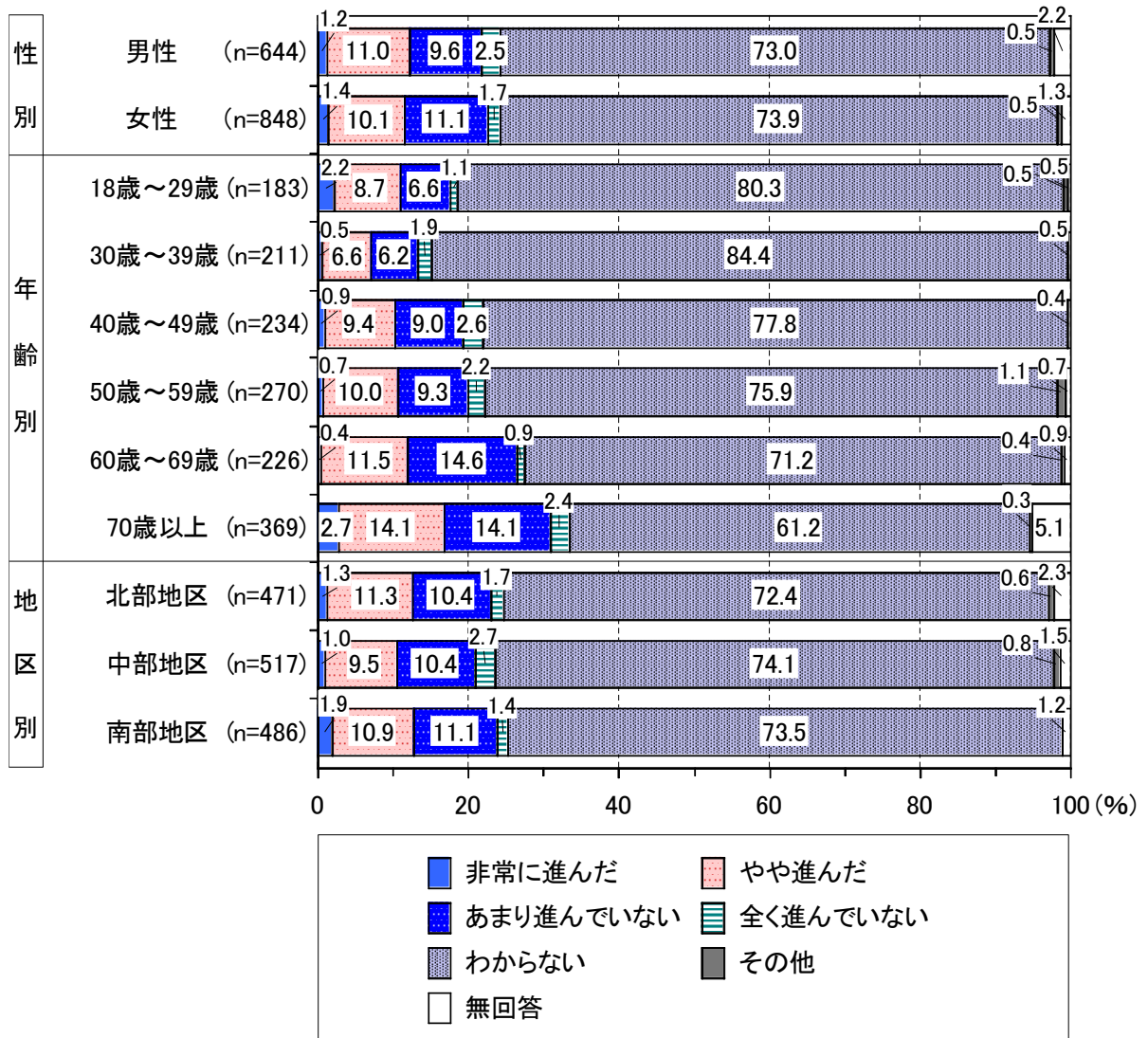
### ③刈谷市の地域福祉の推進度合い

問 36 あなたは、刈谷市の地域福祉（ボランティア活動や地域の支え合い活動など）はこの5年間に進んだと感じていますか。（単数回答）

地域福祉の推進度合いは、「わからない」が73.5%で最も高くなっています。「非常に進んだ」と「やや進んだ」を合わせた『進んだ』が11.8%、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた『進んでいない』が12.5%となっています。

平成30年と比較すると、「わからない」は67.5%から73.5%と6.0ポイント上昇しています。『進んだ』の割合は、16.9%から11.8%と5.1ポイント低下しています。



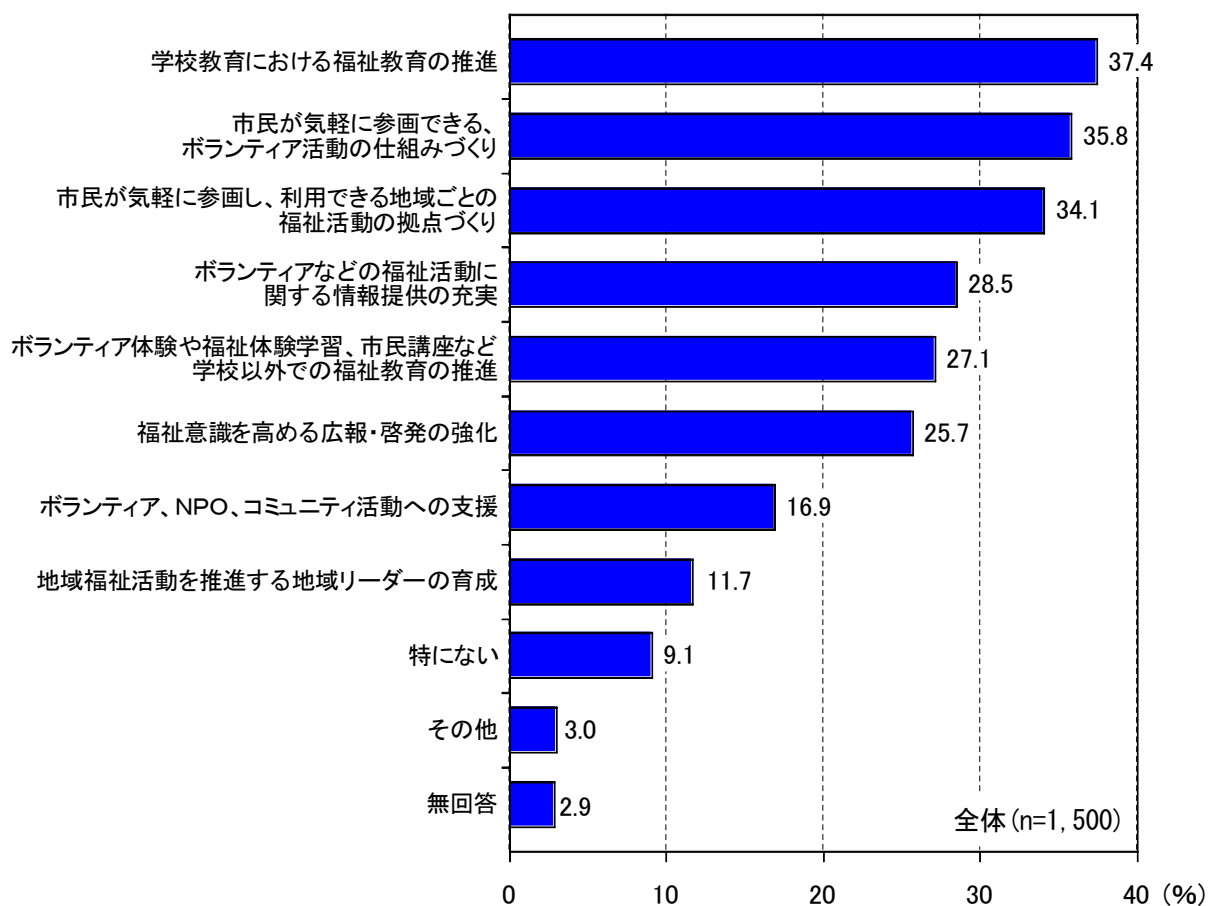


#### ④地域福祉の推進のために必要な取り組み

問 37 地域福祉を推進するために何が重要だと思いますか。(複数回答)

地域福祉の推進のために必要な取り組みは、「学校教育における福祉教育の推進」が37.4%で最も高く、次いで「市民が気軽に参画できる、ボランティア活動の仕組みづくり」の35.8%、「市民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの福祉活動の拠点づくり」の34.1%がともに30%を超えています。

年齢別で見ると、50歳代までは「学校教育における福祉教育の推進」が最も高くなっていますが、60歳代では「市民が気軽に参画できる、ボランティア活動の仕組みづくり」が、70歳以上では「市民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの福祉活動の拠点づくり」が最も高くなっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	学校教育における福祉教育の推進	ボランティア体験や福祉体験学習、市民講座など学校以外の福祉教育の推進	福祉意識を高める広報・啓発の強化	ボランティアなどの福祉活動に関する情報の充実	市民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの福祉活動の拠点づくり	地域福祉活動を推進する地域リーダーの育成
全体	1,500	37.4	27.1	25.7	28.5	34.1	11.7
性別							
男性	644	34.5	22.7	30.0	27.2	30.0	11.5
女性	848	39.9	30.5	22.8	29.8	37.3	11.8
年齢別							
18歳～29歳	183	44.3	23.5	19.7	25.7	20.8	6.6
30歳～39歳	211	45.0	26.1	20.4	24.2	31.3	9.0
40歳～49歳	234	46.6	35.0	29.5	34.2	34.6	9.4
50歳～59歳	270	40.4	32.2	31.1	33.0	34.1	12.2
60歳～69歳	226	29.6	24.8	23.5	26.1	35.4	13.3
70歳以上	369	26.6	22.2	27.1	27.6	41.2	15.4
地区別							
北部地区	471	36.3	23.8	24.6	25.7	32.7	10.8
中部地区	517	38.3	29.0	25.0	30.0	34.6	11.4
南部地区	486	38.3	28.8	28.2	30.0	35.8	13.0

	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	ボランティア、NPO、コミュニティ活動への支援	市民が気軽に参画できる、ボランティア活動の仕組みづくり	特にない	その他	無回答
全体	1,500	16.9	35.8	9.1	3.0	2.9
性別						
男性	644	15.5	33.7	10.1	3.9	2.3
女性	848	17.9	37.5	8.1	2.4	3.3
年齢別						
18歳～29歳	183	12.0	24.6	13.7	2.2	-
30歳～39歳	211	16.6	29.4	10.9	3.3	0.9
40歳～49歳	234	21.4	42.7	5.6	2.1	0.4
50歳～59歳	270	21.1	39.3	5.6	3.3	1.1
60歳～69歳	226	18.6	40.3	10.6	3.5	2.2
70歳以上	369	12.5	35.5	9.5	3.3	8.7
地区別						
北部地区	471	15.5	35.0	9.3	2.3	2.8
中部地区	517	18.6	37.1	8.3	4.4	2.7
南部地区	486	16.7	35.2	9.1	1.9	3.3

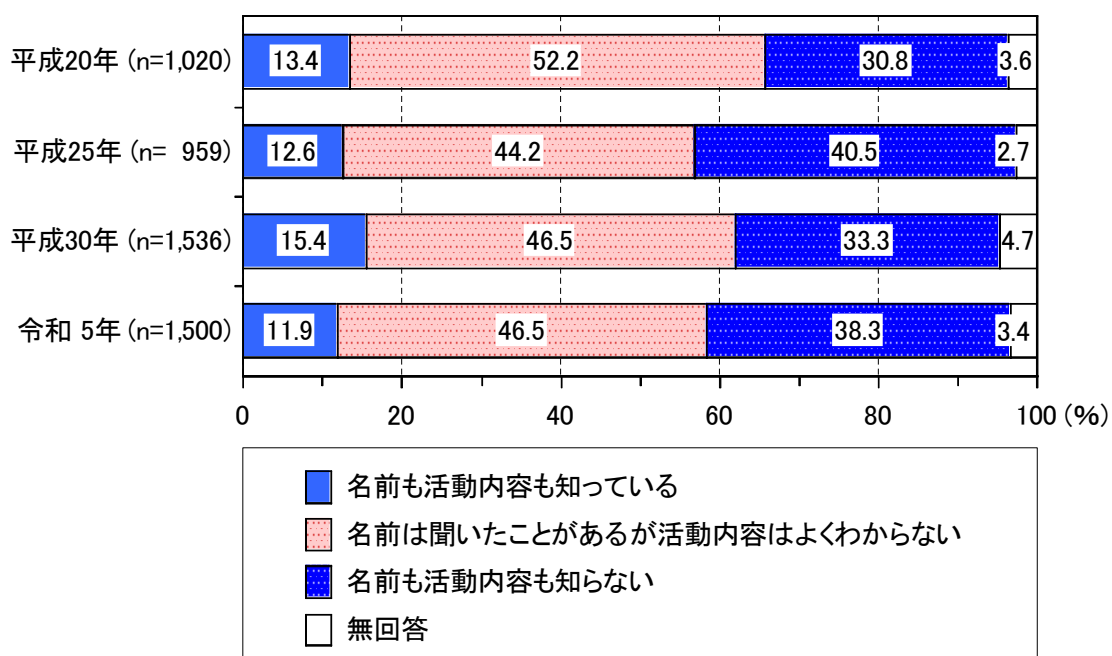
## (7) 社会福祉協議会について

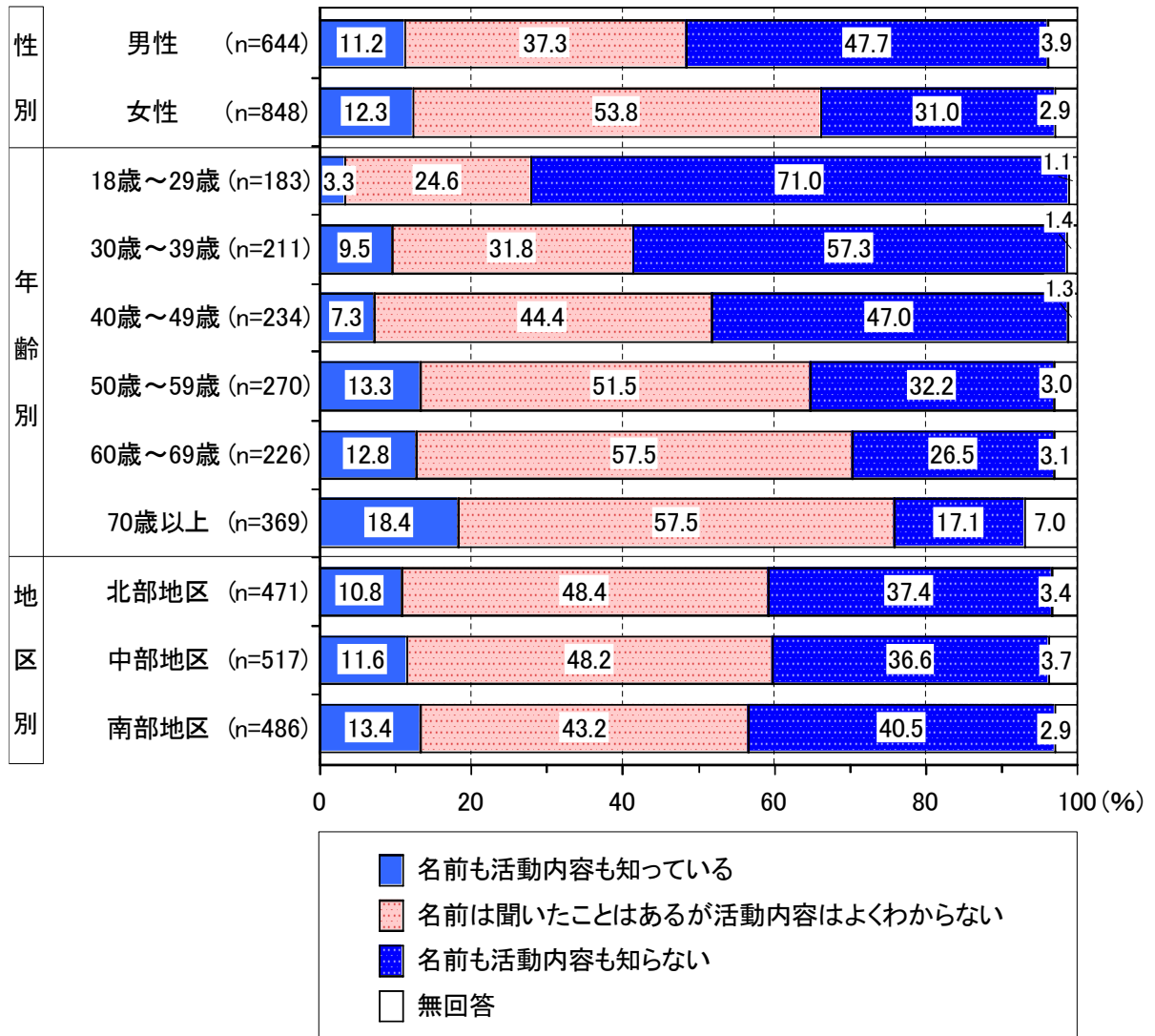
### ①社会福祉協議会の認知度

問 38 あなたは、刈谷市社会福祉協議会を知っていますか。(単数回答)

刈谷市社会福祉協議会の認知度は、「名前は聞いたことはあるが活動内容はよくわからない」が46.5%と最も高く、次いで「名前も活動内容も知らない」が38.3%、「名前も活動内容も知っている」が11.9%となっています。

年齢別で見ると、「名前は聞いたことはあるが活動内容はよくわからない」と「名前も活動内容も知っている」については年齢が上がるにつれて高くなる傾向があります。





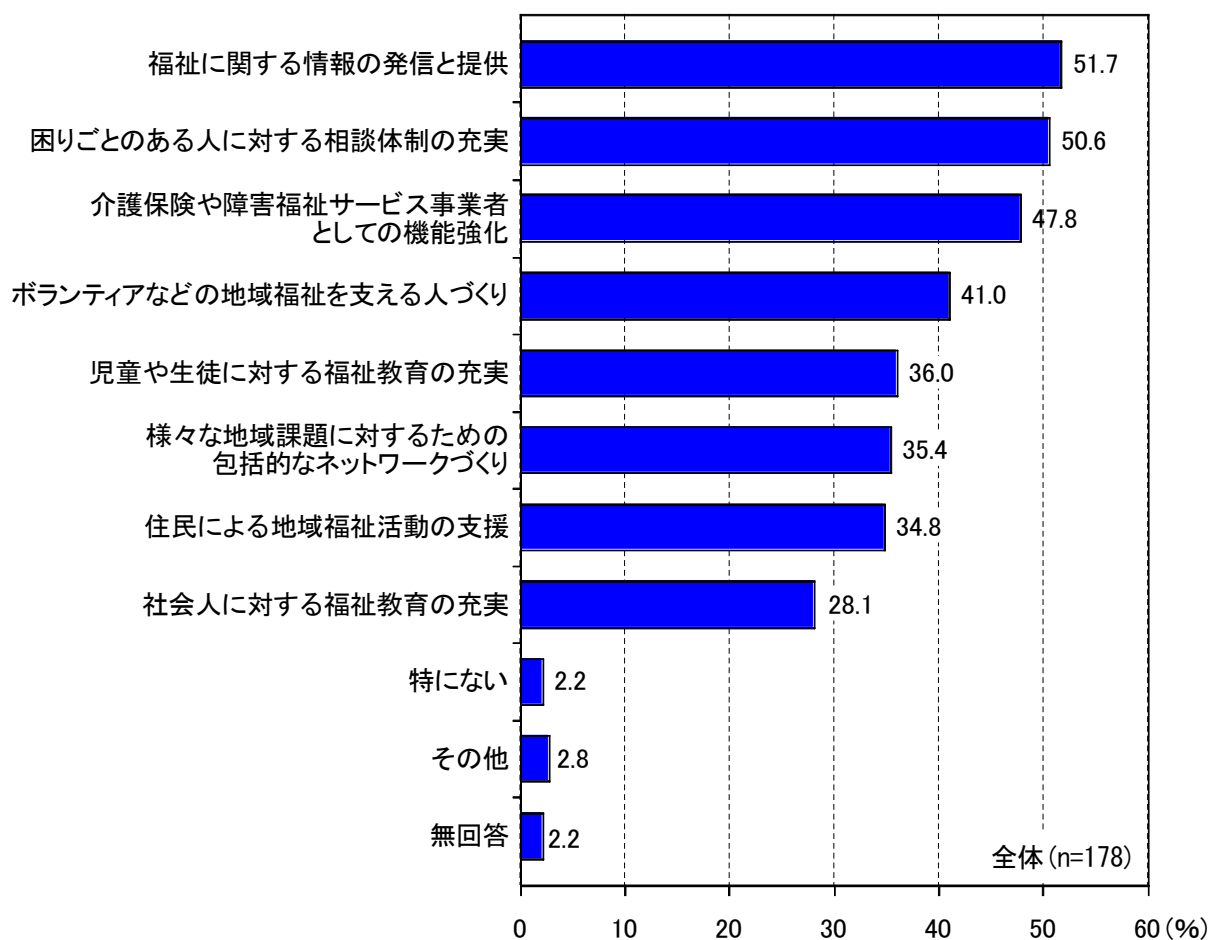
## ②社会福祉協議会への要望

<問 38 で「名前も活動内容も知っている」と回答した人対象>

問 39 刈谷市社会福祉協議会に何を求めますか。(複数回答)

刈谷市社会福祉協議会に求めるものは、「福祉に関する情報の発信と提供」が 51.7%で最も高く、次いで「困りごとのある人に対する相談体制の充実」が 50.6%、「介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化」が 47.8%で、これら3つが高くなっています。

年齢別で見ると、30歳代、40歳代では「介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化」が最も高くなっており、50歳代と70歳以上では「福祉に関する情報の発信と提供」が、60歳代では「ボランティアなどの地域福祉を支える人づくり」が最も高くなっています。





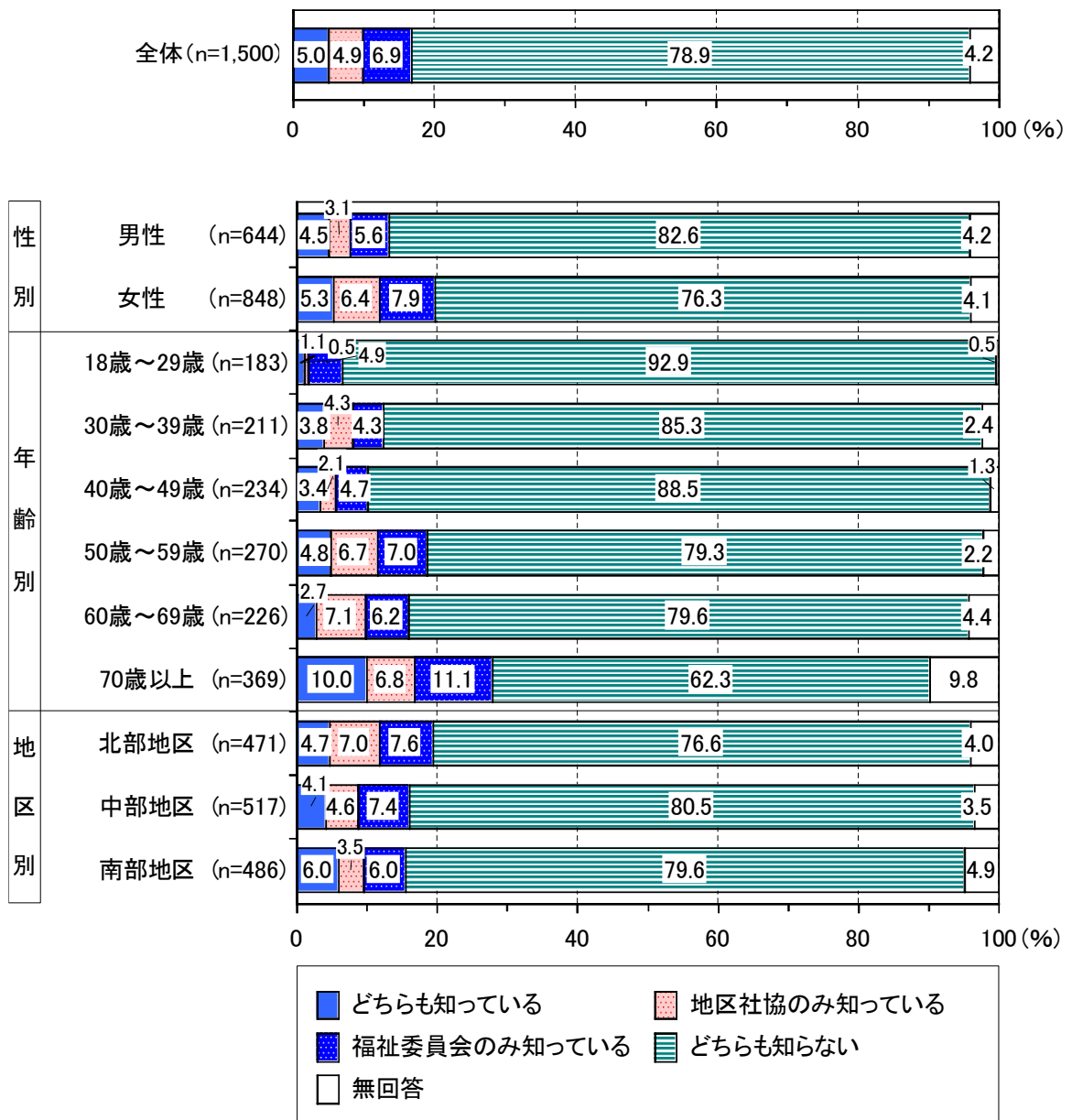
	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	福祉に関する情報の発信と提供	児童や生徒に対する福祉教育の充実	社会人に対する福祉教育の充実	ボランティアなどの地域福祉を支える人づくり	住民による地域福祉活動の支援	様々な地域課題に対するための包括的なネットワークづくり
全体	178	51.7	36.0	28.1	41.0	34.8	35.4
性別							
男性	72	56.9	34.7	29.2	41.7	37.5	37.5
女性	104	49.0	37.5	27.9	40.4	33.7	34.6
年齢別							
18歳～29歳	6	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3
30歳～39歳	20	50.0	55.0	25.0	30.0	30.0	45.0
40歳～49歳	17	47.1	52.9	47.1	35.3	47.1	41.2
50歳～59歳	36	55.6	30.6	22.2	38.9	22.2	33.3
60歳～69歳	29	48.3	41.4	17.2	62.1	37.9	37.9
70歳以上	68	57.4	29.4	32.4	38.2	41.2	32.4
地区別							
北部地区	51	58.8	33.3	21.6	43.1	43.1	31.4
中部地区	60	46.7	30.0	23.3	38.3	31.7	38.3
南部地区	65	52.3	44.6	38.5	41.5	32.3	36.9

	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	困りごとのある人に対する相談体制の充実	介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化	特にない	その他	無回答
全体	178	50.6	47.8	2.2	2.8	2.2
性別						
男性	72	45.8	43.1	1.4	1.4	1.4
女性	104	53.8	51.0	1.9	3.8	2.9
年齢別						
18歳～29歳	6	33.3	16.7	-	16.7	-
30歳～39歳	20	55.0	60.0	-	-	5.0
40歳～49歳	17	58.8	58.8	-	-	-
50歳～59歳	36	47.2	50.0	-	2.8	2.8
60歳～69歳	29	48.3	55.2	3.4	3.4	3.4
70歳以上	68	51.5	39.7	2.9	2.9	1.5
地区別						
北部地区	51	49.0	39.2	2.0	2.0	2.0
中部地区	60	48.3	48.3	1.7	6.7	5.0
南部地区	65	53.8	53.8	1.5	-	-

③地区社会福祉協議会、福祉委員会の認知度

問 40 刈谷市社会福祉協議会では、より身近な地域での支え合いを推進するため、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」といいます。）及び福祉委員会の設立・活動を支援しています。あなたは、地区社協、福祉委員会を知っていますか。（単数回答）

地区社会福祉協議会及び福祉委員会の認知度は、「どちらも知っている」は5.0%、「地区社協のみ知っている」は4.9%、「福祉委員会のみ知っている」は6.9%となっています。

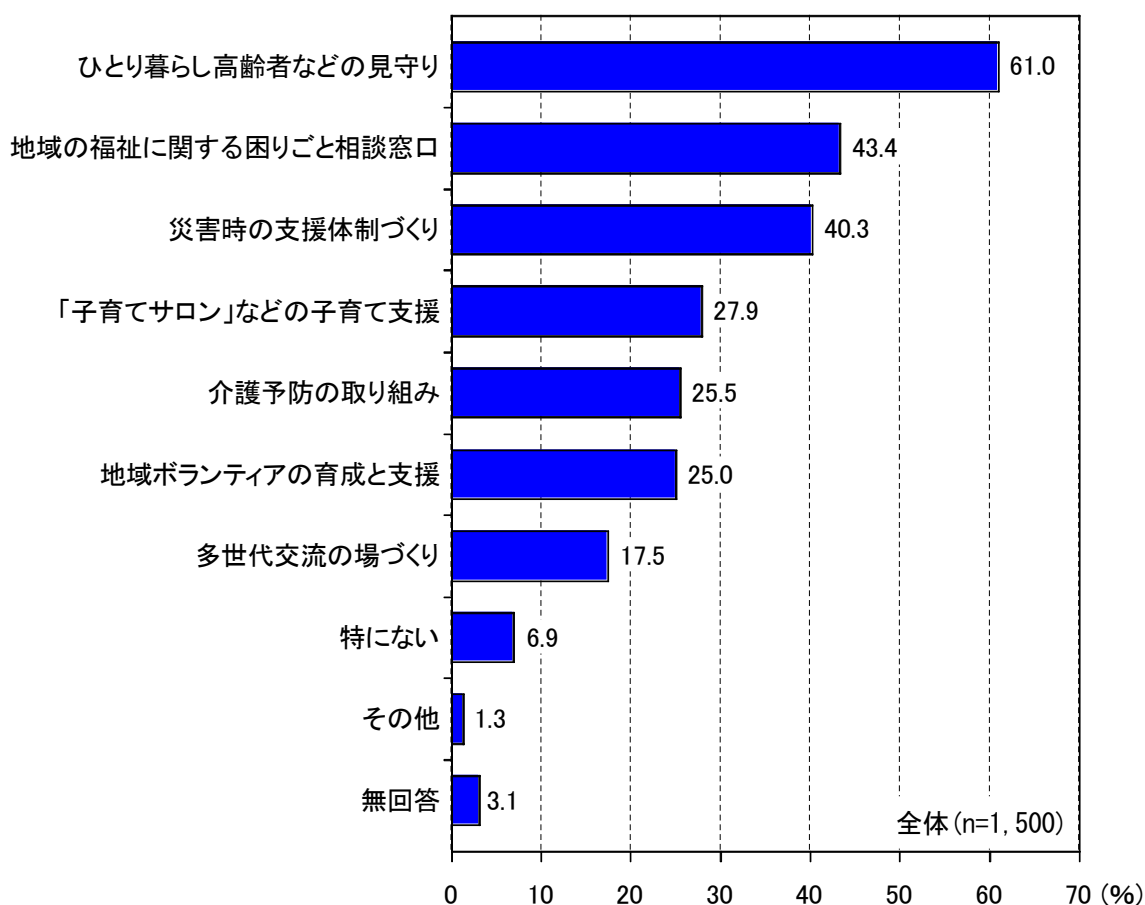


#### ④福祉委員会の活動に求めること

問 41 福祉委員会の活動としてどのようなことができるとよいと思いますか。  
(複数回答)

福祉委員会の活動に求めることは、「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が61.0%と最も高く、次いで「地域の福祉に関する困りごと相談窓口」の43.4%、「災害時の支援体制づくり」の40.3%となっています。

年齢別で見ると、いずれの年代でも「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が最も高くなっていますが、18歳～29歳や30歳代といった若い年代では、「子育てサロン」などの子育て支援が高くなっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	ひとり暮らし高齢者などの見守り	介護予防の取り組み	「子育てサロン」などの子育て支援	多世代交流の場づくり	災害時の支援体制づくり
全体	1,500	61.0	25.5	27.9	17.5	40.3
性別						
男性	644	56.2	22.7	22.7	16.8	40.2
女性	848	65.0	27.8	31.8	18.2	40.4
年齢別						
18歳～29歳	183	49.2	20.2	36.6	15.8	35.5
30歳～39歳	211	57.8	26.1	48.8	18.0	47.9
40歳～49歳	234	67.5	26.9	30.8	26.5	47.0
50歳～59歳	270	67.8	29.3	26.7	15.9	45.9
60歳～69歳	226	60.2	25.7	19.5	17.3	39.8
70歳以上	369	61.0	24.4	16.3	14.1	30.6
地区別						
北部地区	471	59.4	23.6	29.1	15.9	40.3
中部地区	517	62.7	26.9	27.3	18.8	41.8
南部地区	486	61.9	26.1	27.8	18.1	40.1

	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	地域ボランティアの育成と支援	地域の福祉に関する困りごと相談窓口	特にない	その他	無回答
全体	1,500	25.0	43.4	6.9	1.3	3.1
性別						
男性	644	24.4	40.7	8.1	0.9	3.4
女性	848	25.7	45.8	5.9	1.5	2.6
年齢別						
18歳～29歳	183	19.1	34.4	11.5	2.2	0.5
30歳～39歳	211	22.3	34.6	7.6	-	1.9
40歳～49歳	234	28.2	47.9	5.1	0.9	1.7
50歳～59歳	270	30.0	52.2	1.1	1.5	1.9
60歳～69歳	226	25.2	45.1	6.6	1.8	2.2
70歳以上	369	23.8	43.1	9.2	1.4	6.8
地区別						
北部地区	471	21.9	44.4	6.2	1.5	3.4
中部地区	517	27.7	39.7	6.4	1.5	2.9
南部地区	486	25.7	46.9	7.4	0.8	2.7

(8) 今後の地域福祉について

問 42 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、必要だと思う取り組み、見聞きしたことがある取り組み、今後あなたが取り組んでみたいことなどありましたら、教えてください。(自由回答)

交流機会を設けていくことやあいさつ・声かけを行っていくことなど、「1) 地域のつながり」を高めていくことについての意見が多数寄せられました。

このほか、「2) ボランティア」活動への参加に関する意見、「3) 自治会・町内会」に関する意見、移動支援サービスなどの「4) 福祉サービス」に関する意見、地域福祉に関わる「5) 意識啓発」についての意見、「6) 市・社協」に対する意見・提案などが寄せられました。

主な意見は次のとおりです。

1) 地域のつながりに関すること

- ・交流機会、交流場所の確保、あいさつ・声かけを行うこと、日頃からのご近所付き合い、地域活動への参加、多世代交流の実施など

自由意見
強制的ではなく、自発的に気軽に安心して人と知り合える機会をつくり、たくさんの人に参加してもらい、情報の交換・共有をする。あくまでも自由で。 行政の活動内容もしっかり広報してもらって、市民に少しでも興味をもってもらう。
このご時世隣近所もわからないので、難しいとは思いますが… 年に1度くらい各班での顔を見ての防災や困りごと etc の話し合いが持てるといいですね。 各班…回覧板を回す班
最近地区の活動が活発になってきていると思います。 そんな中、興味はあるけど今後活動に参加できるかどうかどうかわからない。でも、少しのぞいてみたいと思ったときに、どうすればよいかわからないので、何もできずにいます。気軽に体験できる場所があるといいです。
環境美化は各自で各家周りのみ行っており、地域の人とは話す機会がゼロ。 集合場所に一度集まってから行うなど、顔を合わせる機会が作れるとよい。 今の家に住んで2年だが、2つ先の家から全く知らない人になっている。
地域のことが全くわからないので、地区での集まり(食事会?)のような物(機会)から必要ではないかと思います。地区にどんな人が住んでいるかも知らないのです。
地域コミュニティ形成のため、お祭りなど誰でも参加しやすいイベント開催、同じ地域の人たちの顔を覚え、交流が生まれることが支え合える地域づくりにつながると思います。
近隣地域にどんな方々がいるのか知らないのです、まず顔を合わせる機会を作る(近隣住民の楽しい集いの会を設定する)

自由意見
地区の清掃日は、清掃終了解散ではなく、終了後、茶話会をしてお互いの現状を話す、知る機会にしてはどうかと思う。
私がみんなで助け合い、支え合える地域を作るためには、もっと地域の人々が参加しやすいようなおもしろい、催しがあると良いと考えます。また、高齢化が進んでいく中で、行政のみに頼っていても厳しいこともあるかと思うので、住民同士が互いに助け合えるよう、あいさつなどで人とのつながりを大事にしていく必要があると思います。
近い場所、皆が気軽に参加できる集まり。(ゲーム、体操、講話を聞く、物づくり(手芸、料理)、年齢を問わず参加できる。)
住民同士の交流を増やす。
祭りなどを通して知人、友人作り。
おまつりとか地域で参加できる行事など頻繁にあればいろんな人が参加できて交流ができると思う!
町内の人達が集まり気らくに話し合える場所がほしい。
不安を感じながら暮らしている人たちが同じ思いをしている人同士で気持ちを吐き出せる場所を作ること。
誰もが立ち寄れる安価なオープンカフェみたいな所があればと思います。
交流の場を作る。
守り、守られ、助け、助けられが地域で最も大切な事と思いますが、自分(自分の家庭)の事で精一杯。車社会となり近所とのコミュニケーションも薄い現代社会、自分の活動できる狭い範囲だが地域の1人でも多くの人と声かけをして、接点を作りたいと考えています。
地域での声かけが手短かにでき、大切なことだと感じています。
日ごろから人と話しておくこと。
日ごろからの隣近所とのあいさつが基礎になると思っています。しかし、それをわずらわしいと思う方もいるため、何が正解なのかがわかりません。
隣に住んでいる人の顔を知っていてあいさつ程度は交わしていること。 近所に確実に信頼できる友人・知り合いがいること。 災害時に声かけできる関係性を築けていることが大切であるとする。お互いが不審者にならないよう、明るくオープンな関係で日常を過ごせるとよい。
隣にどんな人が住んでいるか知らないという話を聞きます。日頃より、近所つきあいをすること、わずらわしいと思うこともあります。近所で会ったら、まずあいさつをすることから始めることが大切だと思います。
近所同士話ができる場をつくるような取組みが必要。 同じ頃入居した家族はよく知っているが、新しく近所に来た人とは殆ど話をしたことがない。 アパートやマンションに住んでいる人などは、どんな人が住んでいるのかもわからないので支援の場が必要では?
普段から近所の方とコミュニケーションを取ることが大切だと思います。
スーパーが無いからスーパーがほしい。JAをなくさないでほしい。0才、1才の2人を育てているから『竹の子会』や『ひよっこ』の親子の集まりは、育児の情報収集や息抜きにありがたい。地域のおじいちゃんおばあちゃんと道ばたで「かわいいね、何か月？」や「大きくなったね!」等の会話をすることで、日々パパと子どもとしか話さない私には、それが楽しみになっている。春日井の『ぐりんぐりん』室内あそび場のようなものが刈谷総合公園にもできるとありがたい。地域福祉ってよくわからないけど、私は隣近所の人と会うとお話し

自由意見
たり、野菜や食べ物をもらったり、自分の地元が昔とかわらず、こういうつきあいでできていることが嬉しいし、幸せです。刈谷が好きです。より良くしようとしてくれてありがとうございます。
ご近所の方や地域の人たちとの横のつながりが大切だと思います。
日頃からの関わり合い
地域で何か活動をする（参加したくなるような） 例えば、不要になったものを上げたりする場を作ったり。ガレッジセールのような。
地域の交流
地域の自主防災活動。地域ボランティア活動に参加すること。
地域の活動に参加したい。
子どもから大人まで気軽に参加できるイベントをもっと増やして地域の方の顔を知って、より交流ができるようになったらいいと思う。
地域全体で取り組んでいける活動。地区の活動を活発化していく。
地域の支え合い活動に機会があったら参加したいと思います。
私は看護師ですが看護師をボランティアで集めて救急時の手当てを、地域の人がやれるように指導したりする活動をしており、専門の人にまかせるのではなく、皆がやれることは何かを考えて老若男女で取り組んでとてもやりがいがありました。 今、それぞれの地域でも行っているのかわかりませんが、そのような動きがあるとよいと思います。
コロナの特効薬ができ、インフルエンザほどの感染症となったら地域の避難訓練など、以前のように参加したい。
防災訓練に参加してみたいです。
住宅ができ住民が増えることは良いのですが、地域のつながりがうすれてきているように思います。時代の流れもあるのではないかと思います。地域のことを今以上に考えていく必要があると思います。
私は近所の人顔をあまり知らない。私のような 20 代の若者は特にそういうことに興味が無いと思う。だからこそ若者が参加できるような取り組みは必要なのかなと思う。
どうすれば昭和の時代のような地域のつながりが持てるのか。若い人々の地域離れが心配。干渉してほしくない人々や人との関わり合いたくない人が増えている。
お年寄りからお子さんにお年寄りの知識を教える場所（機会）を作る。
多世代が気軽に集まることのできる場所。 子ども、高齢者など分けて集まるのではなく、同じ場所に集まることができ、交流が自然とできる空間があるとよい。
同じマンションに住んでいても、個人情報の保護のため、家族構成すらわかりません。過度な個人情報保護が妨げになっているかなと思います。
個人情報が公開されないことによって、地域の人々のことが見えにくくなっている。 情報とボランティアなど地域福祉の内容を高めていけたら良いのでは
プライバシーに配慮しつつ、ご近所の家族構成、環境や状態等知っておきたいです。何かの時に手助けできれば。
みんなで助け合いなどの地域作りは、家にずっと居る人たちなら必要だが、ほとんど寝るだけの家、夜しか家に住んでない場合、ご近所の顔もわからないため、活動のしようがない。自分

自由意見
自身が、生きていくため、死ぬまで働かないと生活できない世の中では、助け合いまで考えられない。
近所の方が年上の方が多く、あいさつくらいのつきあいしかしていませんでした。何かできることがあればお手伝いとかしていこうと思います。
助け合える街になるべき。
地域の活性化
地域にいるいじめっ子を暴走しないよう、みんなで見届けてほしい
高齢化社会の中で、高齢者の独居や老々介護など、私たちの身近で居るはずの人たちが見えていない。外に見せたがらないというのもあるが、周囲で助け合えるまちづくりができたらと思う。「遠くの親戚より近くの人」だ。
突然、市の方（ボランティア）等と訪問されても、ひとり暮らしの方等驚いてしまう事もあります。
一人ひとりに寄り添い安心安全と暮らせる。子どもから老人の方まで笑顔で暮らせる街であってほしいです。

## 2) ボランティアに関すること

- ・ボランティア活動に参加する、参加のための機会・しくみづくり、情報発信、有償ボランティアを考えるなど

自由意見
ボランティアに参加する。
自らが高齢化しているが、身体も不自由なく動けるので、近隣に役に立つことをしても良いと思っています。
できるかぎりボランティア活動する。
防災ボランティアに本年度より参加させていただいております。防災を通じて地域貢献できれば地域の互助の発展になれば良いと思い、活動を進めていきたいと思っています。
年齢的に助けていただくばかりかもしれないけれど、できることがあればその時々にも私も協力するよう、心がけたいと思います。
参加してみたいと思っても、事前に登録しなければならない、申請しなければいけないことが多いので、突発的に（気軽に）参加できる機会があれば良いなと以前から思っていました。
組長や班長になると地域の活動に参加することが増えますが、そうでない時は参加しにくい雰囲気があります。誰でも地域ボランティア活動に参加しやすいシステムを考えていただきたいです。社協の活動もいまいわからないです。
ボランティア活動に気軽に参加できるよう、体験等を通して、興味を持ちやすくし、できること、できないことを見極める方法もあってもよいのではと考えます。
地域ボランティアの活動をもっと SNS で発信する等して、時間のある時に、不定期でも参加できるような仕組みを作ってほしいです。
地域ボランティアの具体的な内容など、よくわかるよう市民館などに表示してもらえるとうれしいです。
もっとボランティアなどに対しての情報を SNS などで広めた方がいいと思います。
どんなボランティア活動があるのか？具体的にわからないので、協力できないですね。（募集もどのようにしているかもわかりにくいです）



自由意見
ボランティアポイントの創設。ポイントは他人へも上げられるし、地域の商店街などで商品と交換できるようなしくみがあってもいいのでは？ 「ありがとうポイント」「(困っている人が投稿する) 困った掲示板」
地区協力者(ボランティア?)に手当を支払い(少々高額でも)必要な方の見回り→月一度でも。うっとおしいと思われる人も多いと思うから少々高額で。
学校安全ボランティア
リタイア後に、小学校で子どもたちの授業に関わるサポートができたらいいなと思います。資格はなくても資料作りや見守り等、サポートできることはたくさんあるように思えます。また、世代を越えた関わりは大切と考えます。
地域の方々に小学生の見守り(交通当番)を毎日やっていただき、本当感謝している。ただ、地域の仕事は半強制で回ってきて、嫌々やっていく体制は変わると思う。 様々な活動でありがたい面、奉仕の気持ちが結局は強制になっていく(全てではないが)のが重さを感じる。もっと軽く、自由な形だといいいのかな。
大変だけ達成感があるものではなく、やると楽しいと思えるような取り組みができると良いと思います。

### 3) 自治会・町内会に関すること

- ・組織改革・活動改革、情報発信、未加入・脱会者の増加、担い手不足など

自由意見
マンネリの自治会活動、反省と新たな行動の両方が見えない現状の改善。 防災リーダーの選出方法の検討。
地区内の婦人会活動は必要ですか??(盆踊りやはた当番) 交通整理当番は、子どもがいない家族には必要ではないかと。時間的余裕が本当にないので困る。
私の町内会では今年度、様々な行事を削り、防災、ボランティア活動に力を入れる方針とのことです。行事の参加は回覧板のアンケートとラインでの回答で、まったく顔の見えない自治会となってしまいました。高齢者には優しくない防災です。日ごろの交流なしでいざ災害が起きた時に助け合う気持ちになれるでしょうか?まずは、地域の交流をコロナ以前の状態に戻れるよう、地域の活動を活発にし、"知り合い"を多く作ることが大切だと思います。 子ども達にも点数稼ぎのボランティア参加証など配ることよりも、思いやりのある、楽しい地域の行事を体験させてあげたいです。市の方からも、伝統ある行事を守るように組長会へ通達していただけたらうれしいです。
町内会で班長などの役を担当すると、無駄な取り組みが多いので、必要最小限に減らしてほしい。町内会費もほかの市町村に比べると高すぎるのでお金の掛かる取り組みを減らし、会費も下げる。そうしないと特に若い世代は地域の取り組みに対しての理解や参加はないと思います。私が入り組んでみたいことといえば、町内で行う取り組みを改革することです。
組織づくり、班ごとに日常の助け合い、支え合いの活動を報告。
・町内会費などの年に徴収されるお金を一人ひとりに回収するのではなく、口座引き落としで徴収すれば班長さんなどの負担が減るのでは。 ・広報の紙面をデジタル化に ・地域の会合をオンラインでも参加可能に。(自宅からでも気軽に参加できるようにする。)

自由意見
2年以内に刈谷に来ましたが、自治会の活動などは高齢の方が中心で行い、若者は参加していない（わからなくてできない、伝統などわからない）印象です。 新しく越して来た人にも地域のやり方など説明してほしいです。
自治会の総会の時に話題にすれば広く行き渡るような気がします。
地域毎にLINEグループを作って、情報を随時発信してほしい。刈谷のLINEがあるのを知っているが、大まかすぎるので、町内のLINEがあれば情報を把握しやすい
常識ある行動をするのが全てです。刈谷市条例のごみ出し日・種類、地域そうじの参加、最低でもこれぐらい守る人が多くなると嬉しいです。
ご近所に自治会に入らず、どんな人が住んでいるのか分からないアパートが増え、災害時等緊急に助け合わなければならない事態が発生した時に、この人たちはどうするのか（この人たちにどうしてあげられるのか）日頃から疑問です。自治会費が高い？自治会活動がわずらわしい（できない）等聞きますが、こういう人たちをまきこんでいく手立てがないものかと思います。ひとまず、私のできることはあいさつ、声かけだと思います。介護の必要な高齢の親をかかえ、自分の好きなことをする時間も大切にしながら、できることがあればボランティアにも参加したいという気持ちは持ち続けたいと思います。
・町内会への入会を必須にする。（入っていないのに、ゴミ出し、行事への参加はルール違反だと思います。） ・回覧板などで困っていることを記入する（助けてほしいことなど）用紙を回す。
地域の担い手として自治会を期待しておられると思いますが、衰退、疲弊しています。引っ越ししてこられる若い方、自治会に加入されません。アパートやマンションの方、管理費で自治会費を払っているらしいが、そうじ、役員されません。自治会に加入している人のみで、そうじ、役員してカラスに荒らされたゴミ置き場の掃除をしている。しかも自治会費払っている。班長になったら、加入者だけでなく、未加入宅の市民だよりも配る（未加入の方が多いい班もあり）いやになります。20年も30年も自治会加入してたお宅がパラパラと抜けていく（相談したのか、数軒単位で脱退されることもあり） 組織だけ作っても、実際に動ける人材がいなければ成り立ちません。ボランティア団体の運営は本当に難しいです。 ひとりの方をささえるのに、30人のボランティアが必要とどこかでききました。みんなで無理なく助け合い、支えあえる社会になってほしいですね。

#### 4) 福祉サービスに関すること

- ・通院・買い物などの移動支援サービス、高齢者の見守りと傾聴、子ども食堂や子ども遊び場、相談できる場の確保など

自由意見
ひとり暮らし高齢者の買い物の手助け。
・地域から出かけるのに不便になった。（くるくるバス？）の本数減、乗り換え場所に次のバスが合わない、スムーズに連絡がとれていない。 ・大型バスでなくて良い。料金払っても良いので、（台数（本数）増）を希望
ひとり暮らしですが今のとこ車に乗れるので不自由はないですが、車が無くなり出かけることの不便が不安です。買い物も遠いので今後は心配です。

自由意見
<p>チョイソコバスに車いすが乗れるように。 大学病院にいけるように。</p>
<p>バスの本数（時間）を増やしてほしいです。</p>
<p>刈谷市は、他の市に比べバス、たんぽぽ、ひまわり等と整っています。感謝しています。 バス停、天満神社付近にも設置してほしいです。</p>
<p>75歳以上にタクシー券を出してください。（せめて2万円くらい） バスは遠くにあり、足腰の悪い方には病院などタクシーを使わなければ大きな出費になり、年金生活者は大変です。</p>
<p>高齢者の移動の支援がほしい。 （バスやタクシーを気軽に安く使いたい）</p>
<p>高齢者の自動車運転による事故が多いので、免許返納してほしい、その案内と支援（代行運転や乗り合いタクシーなど）。 公共バスは目的地まで時間がかかるので、病院やショッピングセンターへの直接運行するバスやタクシーが必要ではないかと思う。</p>
<p>若い時は車で大手スーパーに行けるが、高齢になると地域によって歩いて行ける週2回程度の移動市場（営業時間半日程度）を作してほしい。地域の人と顔見知りにもなれる。</p>
<p>介護予防の取り組み</p>
<p>健康、フレイル予防など、介護にならない予防、楽しい老後について考えていきたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防のために、脳トレをする講座（音読、体操、公文、ピアノ等）があればいいと思います。</li> <li>・保護猫カフェ（のようなもの）があり、そこでボランティアができるような活動があればいいと思います。</li> </ul>
<p>認知症カフェ（アンキカフェ：愛知県豊橋市）→異世代交流も行えて素敵な発想だと思いました。</p>
<p>困りごと、悩み事、話しにくいこと、電話やHPだけではなくもっと身近に「お助けポスト」または掲示板みたいなものがあったらいいのかな。それとは逆に、若者も参加しやすいように「line」を活用してみたり。 ご近所問題にはなるべく第三者が入るとトラブルにならなくてすむのかな。</p>
<p>ひとり暮らし高齢者の見守りと、特に傾聴に取り組んでみたいと思います。</p>
<p>「こえ」をあげられない人がいると思う。</p>
<p>本当に助けが必要な人は、交流会に参加できない気がします。 元気な人たちが、困りごとがないかなど、会いに行って話を聞いて上げれると良いかと思いました。家族に年寄りがないため、高齢者に対し、何をやってあげて良いかの線引きができないので、妊婦マークならぬ介助希望マークがあっても良いかなと思いました。</p>
<p>高齢者及びひとり暮らしが増加し続けるので、安否確認のための動作確認するシステム（センサーなどの利用）を作り、不自然な場合は、お互いの了承のもとに立ち入れる法を作り、アクションをとれるようにできればと思う。</p>
<p>老人のひとり暮らしでは情報が入ってきません。 何か良い取り組みはないでしょうか。</p>
<p>病院への付添</p>

自由意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂の数が増えるといいと思う。歩いて行ける場所にあれば今より多くの困っている人の居場所になると思う。</li> <li>・朝食が食べられない子どもたちに、学校で朝食を提供する取り組みがあればよいと思う。地域のボランティアが行い、子どもの成長を支え合う。</li> </ul>
<p>刈谷市小学生の行き場がない。特に夏休みなど。  中部地区は近くに児童会などもない。それだと、家でゲームになってしまう。  もっと大きな子ども遊べる場所を作ってほしい。  夫の転勤で4つの場所に住みましたが、子どもを育てるのは一番大変だと思ってしまう。</p>
<p>名古屋では、地域（老人が歩ける程度）に集会所でサロン（お話会）があり、デイサービスのミニミニ版がある。デイサービスという言葉に抵抗がある人が多いので。</p>
<p>外国人居住者に対する地域サポートもあればよいなと思います。外国人サポートもあれば、地域の防犯対応になると思います。</p>
<p>SNS を上手に活用できると若い世代が参加しやすいのかな。SNS を苦手とする世代の家庭には、従来通りペーパーで情報伝達。  核家族、共働きがほとんどであり、地域活動が盛んでも参加する人がいなければ意味はなく、参加できるような仕組みの構築。</p>
<p>育児中の人と高齢者が交流できる場所  車に乗れない人のための地域内バス  アパートに住む世帯が外国人が地域活動に参加できる仕組み</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア・シルバー世代による子育て世代支援</li> <li>・50代のセカンドキャリア教育</li> <li>・ボランティアは有償化すべき</li> </ul>
<p>子どもや高齢者の見守り  障害のある人の手助け</p>
<p>情報を。本当に困っている人の助けに。</p>
<p>身体的なことで病院にかかってもなかなか治らないことへのアドバイスをしてもらえるところがあるとよい</p>
<p>若者も含め、ひとり暮らしの者が気軽に訪れ、相談できる場を作りたい。</p>
<p>女性チームのパトロール隊を作って、子どもや独居同人の方に率先して、あいさつや声かけやお話をする。街が元気で明るくなるような雰囲気づくりをする。</p>
<p>介護施設などが家族・地域社会とオープンでつながり利用者の笑顔をひきだせる日々であってほしい。</p>

## 5) 意識啓発に関すること

- ・福祉に関する情報の周知・PR、体験学習、学校での教育など

自由意見
<p>アンケートをうけて、何も知らないなと思いました。まず活動内容を知るという所から初めて、積極的に参加できればと思います。</p>
<p>ほぼ何も知識が無かった。単身者にも情報が行く様なシステムがあるとよいかも。媒体など転入時とか、何らかのタイミングにて。</p>

自由意見
住みよい街だと感じていますが、福祉に関してはいまいち、どんなことをしているのか、サービスがあるのか我々には伝わってこない感じはしています。「こんなときはこんなサービスがあるよ」「こんな窓口があるよ」など多くの方が目に触れる機会を作ってもらえるとよいかと思います。
福祉に関する情報を若い人にも広めていく必要があると思う。福祉に関する情報をほとんど知らないなので、もっと手軽に情報を得られるようにしてほしい。
学校や施設での積極的な活動の開催。 町おこし・フェスティバル・マルシェ等のイベント場でブースを設置して認知を広めていく。 今は全く知らないなので、知ることからできたらと思います。
福祉活動および福祉団体について自分から情報を取りに行っていないこともあるが、市としての活動内容が全く把握できていません。広報活動や機関紙等、かみくだいた周知が必要ではないでしょうか。
刈谷に住んで 12~13 年たちますが、今まで福祉について考えることがなかったため、存在自体を知りませんでした。もっと情報を様々な形で、目に見えるように発信していただけるなど、興味を持つようになると思います。老後のためにもさらなる発展を期待しています。
意識を高めることが大切かな
自分から参加して体験する必要あり。個人でも参加しやすいサービスを提供して、やる気になってもらえる内容提供が必要だと思う。自分から困っていると発信できない方への情報提供（サービスの）できると良いと思った。
ボランティア体験や福祉体験学習の推進
いざという時に、きっと詳しく調べるとは思いますが、その状況になる前にちょっとした知識として、刈谷市民に対して、こんな制度や施設があることをもっと広めてほしい
近所の付き合いが減っているのでよくわからない。学校で教育していった方がいいと思います。
福祉イベントへの参加
情報のネット配信と子どもたちの参加できるボランティア等
困っている方の立場になって、考えないと、自己満足で終わってしまうように思います。また、支える方にもその限界みたいなものがあると思います。 お互いを理解していくことが大事ななと思います。
日常生活の中で福祉という言葉を見たり聞いたりする機会が増えれば、一人ひとりの福祉に対する意識が高まり、何かしらの行動に結びついて支え合える地域が自然と出来ればと思いました。今回のアンケートが来た事で、自分の福祉に対する関心度、意識が高まりました。

## 6) 市・社会福祉協議会等に関すること

- ・市に関しては、市政全般に関する意見、障害者への支援の充実、介護施設の整備、公園整備、広報活動の強化など
- ・社会福祉協議会に関しては、組織の存在の周知、地域情報の提供、地区社協・福祉委員会の活動など

自由意見
他の自治体の取り組みをぜひ調べてみてください。刈谷市はおくれています！

自由意見
刈谷市は、市の貯蓄額が約 310 億円あると聞きました。そのお金は、すべて税金です。必要であること、必要であるもの、刈谷市民が生活する上で安心してらせる町づくりに活用してほしい。
弱者を救済するために、税金を利用してください。
行政が、人的、予算的配分を上げていけるように、予算の運用ができること。「ボランティア」という言葉に頼っていないと進まない、運用できないというのは、少しちがうと思う。
ボランティアで行うには限界があると思うので、市がしっかりと” 仕事” として取り組む必要がある。自分も含め周りとはあまり関わりたくない人間も多いので…。
小予算・人員でやれることは限られる一方、課題山積。 やることを絞って活動されたらどうでしょうか。どれも不十分になるより良いと思います。
名古屋市南区、豊明市などの地域ささえあい活動（おたがいさま活動）を実際に見に行ったことがあります。まだ、刈谷市はそれらの地域に比べて遅れていることが多いと思います。医療職であるので、機会があればボランティア活動もやっていきたいという気持ちはあります。
生活に困っている人がいっぱいいると思う。その日の食べるものにも困ることもあります。お金がなく、子どもにいっぱい食べさせてあげることもできません。このようなアンケートの紙代いくらかかっているのですか。2500 人分にかかるお金を困っている家に支援したらどうですか。税金、住民税減らしたり。刈谷市は高い。
・自分ごととして弱者に対する考え方をとらえる機会がない。 ・刈谷は財政に余裕があるはず、もっと弱者によりそった街づくりを期待したい。
地域に関心を持つ。住民（人）に関心を持つことは重要だと思うが、個人の自律性とそれをサポートするサービスとは何か、もう少し市役所としての深掘りが必要では。 市民にあまり響いてこないのが実態。また言ってもあまり動かない印象イメージ大
障害者への支援の充実
刈谷市は特養や老健、老人ホームにすぐ入れないので、困りました。 利用したい時にすぐ入れる環境を整えてほしいです。
近所の人と交流する機会を作るために、大きくてきれいな公園を作ってほしい（運動器具や遊具がたくさんあるところ）。
地域の社会福祉のホームベースは、公民館などではなく、誰でも気軽に訪れることができる公園だと考えます。公園は、世代に関係なく老人から子どもまで自主的に集まることができ、顔のつながりが太くなると感じます。社会福祉の第一歩としてプレイロットや街区公園の整備をお願いします。
広報活動を強くする
ケアマネさんと民生委員と社協等の違いがわかりません。同じ内容なら、ケアマネさんへ相談したいです。（家族として）年1度の訪問の必要性はありません。突然の訪問（電話）は、怖いんです。高齢世帯では不在（ではない）で何度も訪問され、個人情報をしつこく聞かれることに不快でしかないです。（娘が対応）
高齢者、障害者等の世帯へのごみ戸別収集の対象条件の緩和を望みます。同じ市内とはいえ、異なる地区でのごみ出しは親族の負担が大きいです。
足が不自由になるとゴミ出しも不便になるので、各家の前で集めてほしいです。 今は動けるので、何とか大丈夫なのでよいですが（足不良ながら）こけたらアウトです。
システム化し、コストダウンを図る。

自由意見
<p>金銭面で苦勞している人が多いと思うので、助成金と同時に投資のノウハウなど、自力で資金を増やす正しい知識を子どものうちからしっかりと学ぶのが大事だと思う。不便であると感じた時、助けを求めることは大事だが、そこまでに至らない事前予防を子どもの頃から学んでおけば、自身の人生をより豊かに過ごせることができると思う。問題が起きる前の予防にもっと力を入れた方が良い。</p>
<p>2025 年問題も間近、老人が老人を助ける時代に入るため、少子化対策を急ぐ必要性が考えられる。子を増やすことや独身者を減らす対策を考えなければ先が見えない。 街コンの活性化を期待しています。</p>
<p>今回のアンケートで自分の知らないことが多いなと思いました。もっと情報発信を、ホームページの充実、アナログの紙での情報もお願いします。</p>
<p>SNS を利用して福祉行政をわかりやすく説明しながらネットワークを拡散してほしい。</p>
<p>役割分担をはっきりして、困った時に最初に行く窓口はどこかを市民に知ってもらうこと。窓口をはっきりさせること。</p>
<p>困った時、どこに相談して良いかわからない。</p>
<p>刈谷市に 40 年以上住んでいますが、学生時代から就労し、居住地と学校、職場が遠いことや市役所なども井ヶ谷町からだ遠く、どんな活動をしているのかわからないことが多い。平日は刈谷市におらず、休日は家事に追われる日々で、相談したくてもどこへ、誰に相談すればよいかわかりません。 このようなアンケートがあることで困っている人が助けられる市になってほしいです。本当に困っている人は、相談もできないかもしれません。</p>
<p>組織の存在をもっと市民に知ってもらうようにしてください。それからと思います。</p>
<p>福祉という言葉づかい自体が抽象的でわかりにくいと思う。「刈谷市社会助け合い協議会」くらいに名前を替えて（組織を替えて）困っている人は何で困っていても、まずは相談にいらっしやいくらいの方が、わかりやすく、相談にも行きやすいと思います。</p>
<p>社会福祉協議会の方が、地域のためにいろいろ考えてくださっているのが、このアンケートでわかった気がします。自分は今もう年でお世話になることが多くなると思うので、少しでも目を向けていきたいと思います。</p>
<p>刈谷市社協だよりを読んでおり、情報は入れていますのでわかりますが、実際に自分はあまり活用していません。隣近所の方とも支え合える地域づくりの話はあまりしません。社協だよりにボランティア活用や地域づくりの推進がすすんでいる地域の情報を今後も流していただけるとありがたいです。</p>
<p>自治会の組・班レベルの福祉の充実を確保するデータ（例えば要支援者）を記録。更新して月毎の問題点・活動計画を整理して住民の間で必要な情報を共有するシステムを作る。そのため、例えば組レベルの担当者を輪番制ベースで選出する。このシステムをもとに地区社協の運営を行う。</p>
<p>小生の不勉強もありますが、社会福祉協議会、福祉委員会などの具体的な内容を知りませんでした。すばらしい理念と活動だと思います。もっと市民に PR され、福祉と健康の町、刈谷として飛躍させてください。</p>
<p>福祉委員の名前を地域住民に浸透させる。名前を知らなければ相談もできない。</p>
<p>テーマ毎（子育て、高齢者、防災等）に、対象となる人々が集まり、活動し、助け合い、協力しあうしくみづくりが必要だと思います。現在もいろいろやっているが、委員だけの活動になっていませんか？一般市民の参加が少ないのでは？</p>

自由意見
地区社協、福祉委員会も仕事がかぶっていることが多く、わかりにくいです。

## 7) その他

- ・国の施策、地域福祉・共生社会のあり方など

自由意見
刈谷市の方々の努力というより国からだと感じています。
地域福祉にかかわっている人たちが、安心して働ける社会になるようにしてほしい。労働条件、賃金など
福祉・介護系の人の給料をあげたりする。
昔、民生委員をすすめられましたが、もっと若い人におねがいしたらと思いました。民生委員さんがほぼボランティアとは大変だなと思いました。もっと政治家が国をよくしてほしいと思います。
みんなが誇れる町づくり。 環境・インフラのととのっている町であること。 そうすることによって、助け合い・団結が生まれてくる。
私一人ではできることは小さすぎますが、個人のことだけでなく一人ひとりの考えを行動にできる世界になることを願っています。
近い未来に訪れる課題だと思います。今後よく考えてみたいと思います。
健康で自立可能な社会づくり。
いつ、この日、この時間と決めた活動よりも、「11:00~18:00」とおおまかに決めて活動する方法 他機関との連携
災害・育児・介護
老後に向けてのアドバイスが聞きたいです。(今のうちにやっておくべき事など。)
後期高齢者の夫婦だけの世帯なので地域に迷惑をかけないように、今は一生懸命頑張って暮らしております。
いくつかの思い、考えはありますが、私自身が高齢と心臓病のため、参加することなどはできない現状です。
身体障害者一級になると、何々、一般の行事に参加することは難しく、家の中で過ごさざるを得ない。
野生のネコ(フン、尿)問題→地域住民の無責任なエサやりが多発し近隣の人々が困っている。駐車場の砂利にフンを埋められ衛生的面が心配。パトロール強化をお願いしたい!! 防犯カメラ設置、強化してほしい。
・市がやってくれない公園の草取り、除草剤まき ・草で荒れた土地の所有者への声かけ ・ゴミ出しルールのマナー違反への注意喚起や案内 資源ゴミ回収の高齢者の自宅への回収とりくみ 色々大変です!!
家の周りなどの2S、4Sを推進しているが、もう一步広い地域に拡大できればと思っている。
いろいろな考えがあるので、やりすぎは良くないと思います。



自由意見

今はない。生活をするのに、仕事をしていないといけない。年金だけでは生活できず、将来的に不安を感じている。

90歳以上の両親がおり、これからの介護がある。

本人が認知症で、奥様にききながらケアマネージャーが回答しました。アンケートが奥様の負担なので、次回から止めていただけるとありがたいそうです。

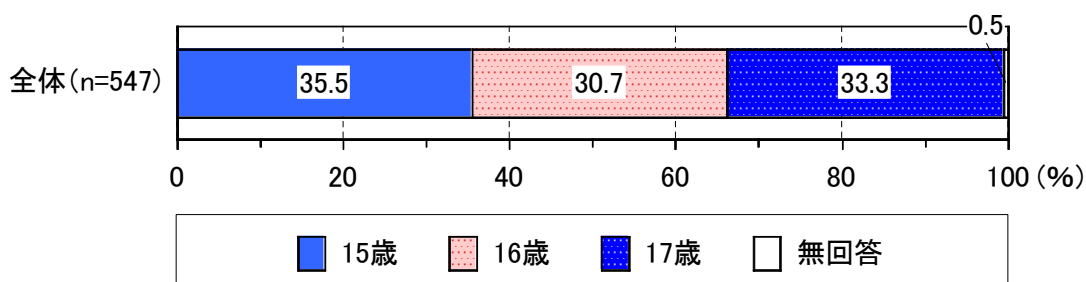
## 第2章 15～17歳の若年者意識調査

### (1) 回答者の属性

#### ①年齢

問1 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、何歳ですか。(単数回答)

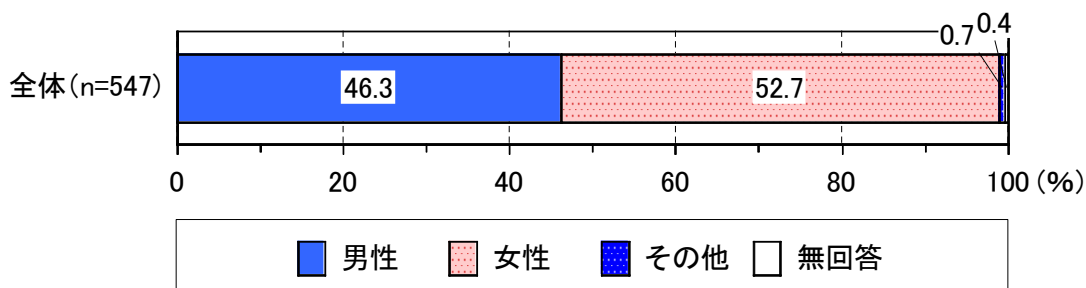
年齢は、「15歳」が35.5%と最も高く、次いで「17歳」が33.3%、「16歳」が30.7%となっています。



#### ②性別

問2 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

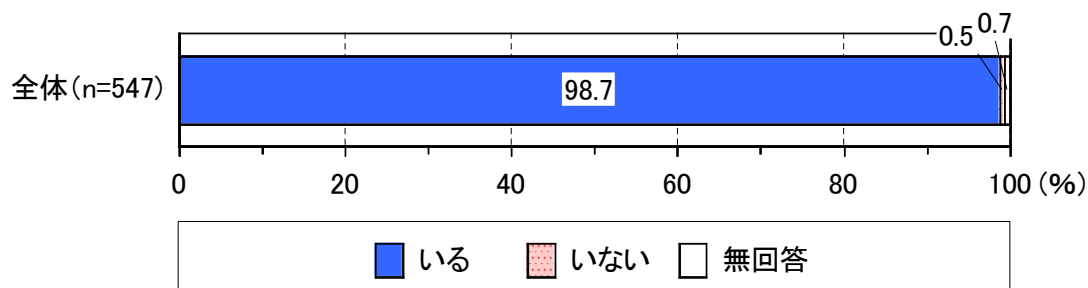
性別は、「男性」が46.3%、「女性」が52.7%となっています。



### ③家族構成

問3 あなたは現在同居されている方はいますか。(単数回答)

同居家族は、「いる」が98.7%、「いない」が0.5%です。

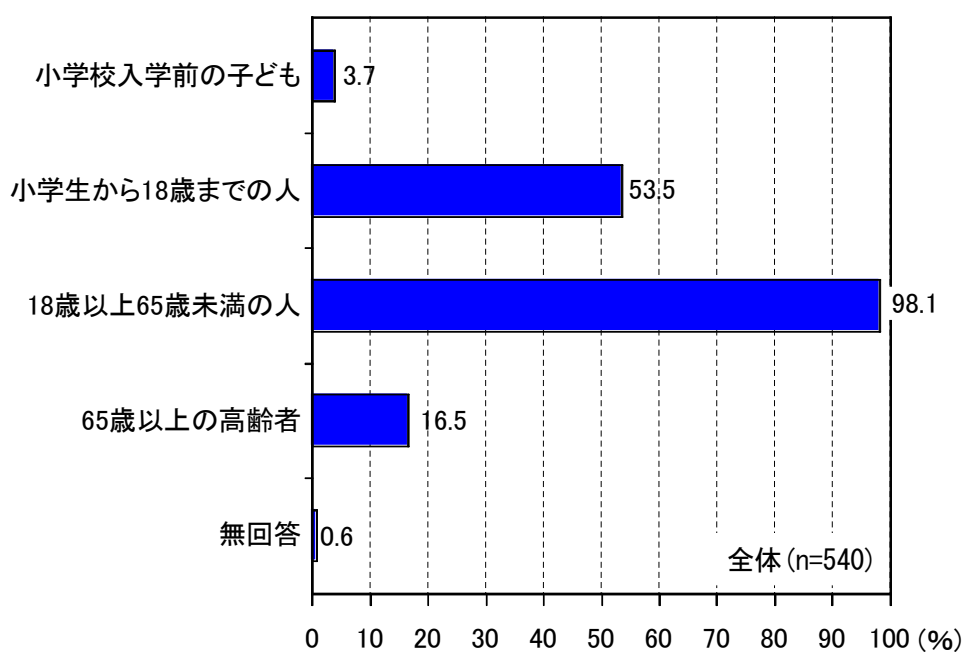


### ④同居家族

<問3で「いる」と回答した人対象>

問4 あなたの世帯では、次のような方が同居されていますか。(複数回答)

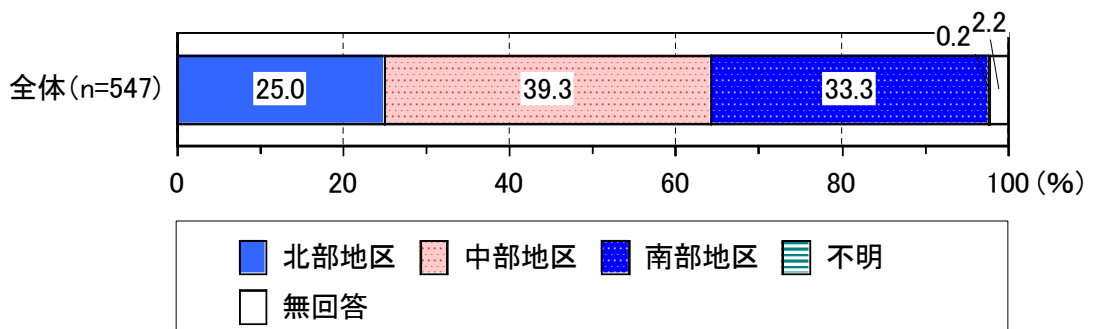
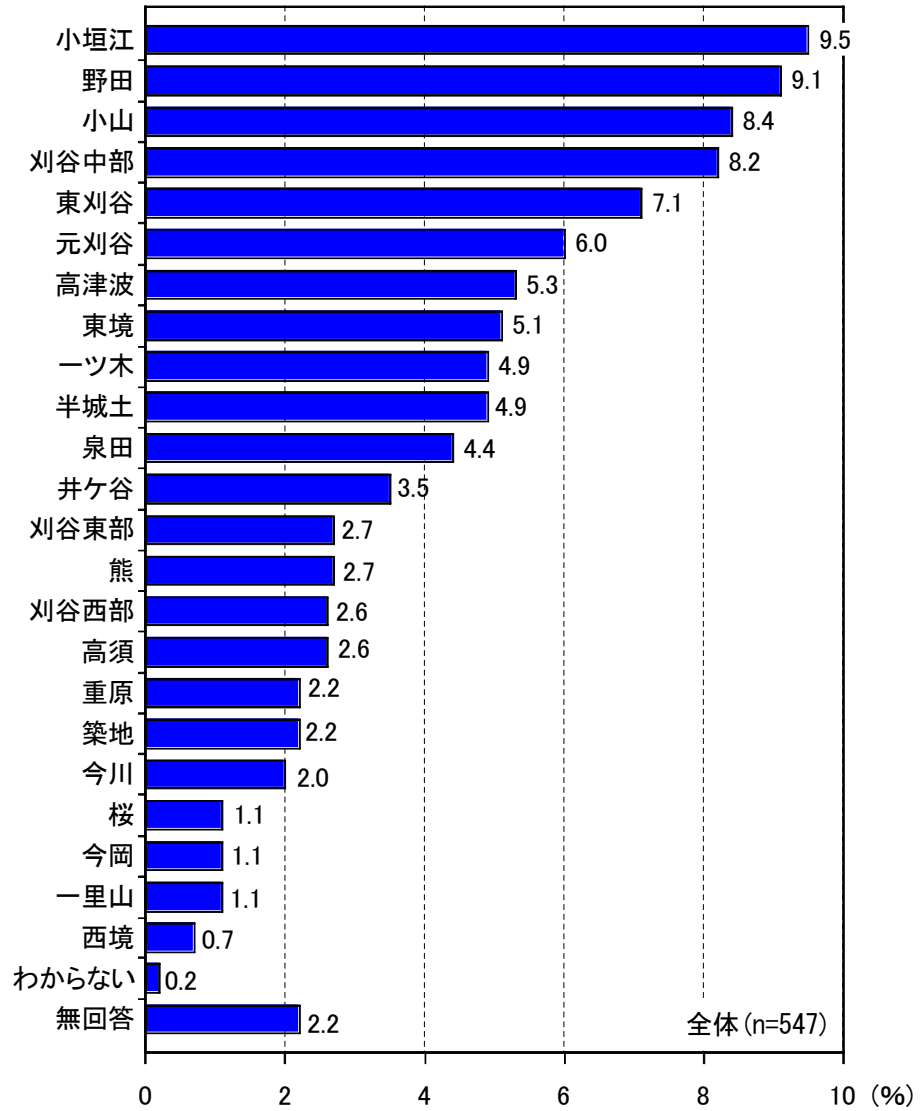
同居者は、「18歳以上65歳未満の人」が98.1%と最も多くなっています。次いで「小学生から18歳までの人」が53.5%、「65歳以上の高齢者」が16.5%、「小学校入学前の子ども」が3.7%となっています。



⑤居住地

問5 あなたの居住地（自治会別）は次のどれですか。（単数回答）

居住地区は、「小垣江」が9.5%と最も多く、「野田」が9.1%、「小山」が8.4%、「刈谷中部」が8.2%となっています。



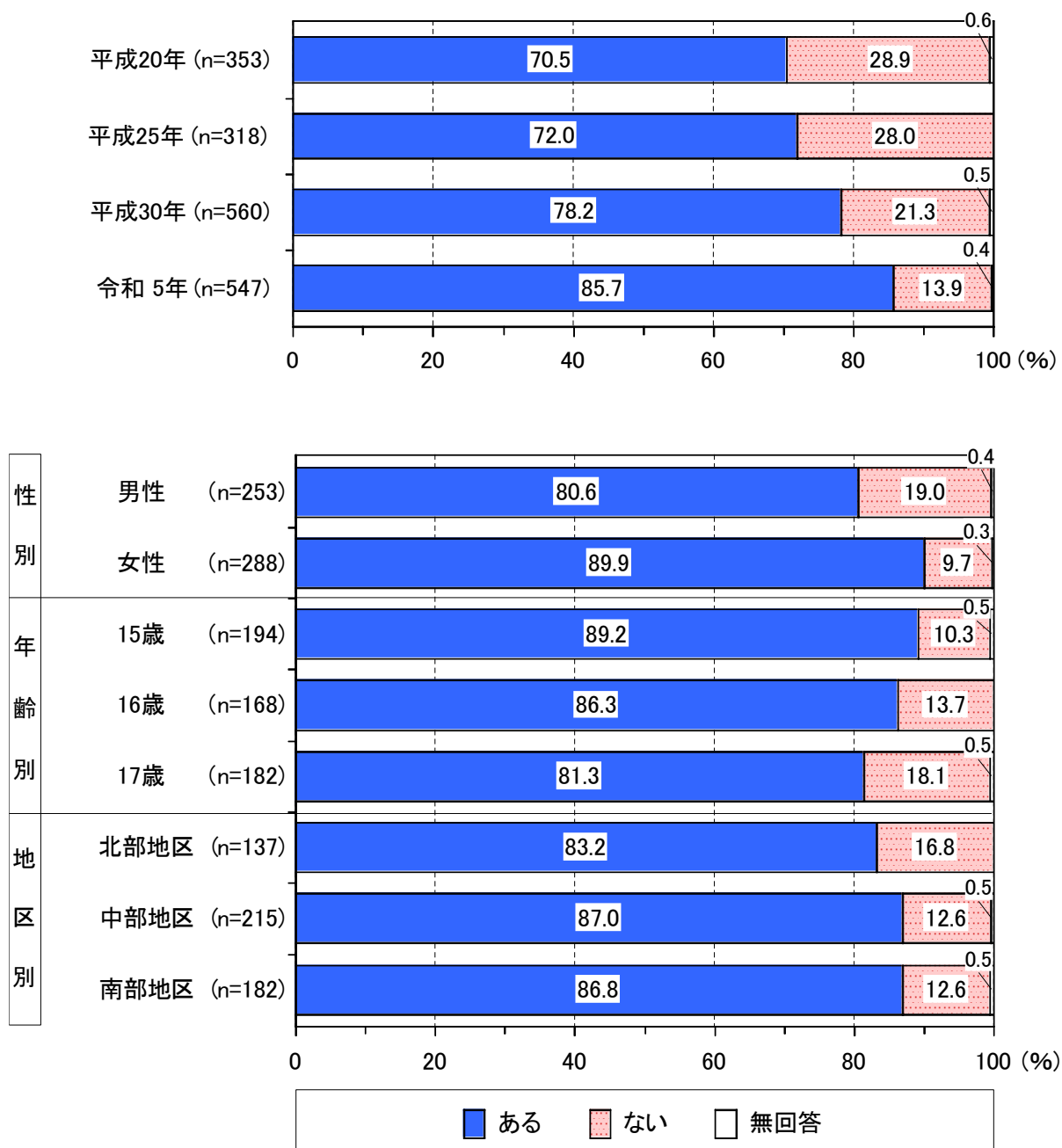
## (2) 福祉教育について

### ①福祉教育を受けた経験の有無

問6 あなたはこれまで学校やボランティア活動などで福祉を学んだことがありますか。

学校やボランティア活動を通して福祉を学んだ経験の有無は、福祉を学んだことが「ある」は85.7%、「ない」は13.9%となっています。

平成20年からの経年の変化をみると、「ある」の割合は年々高くなっています。

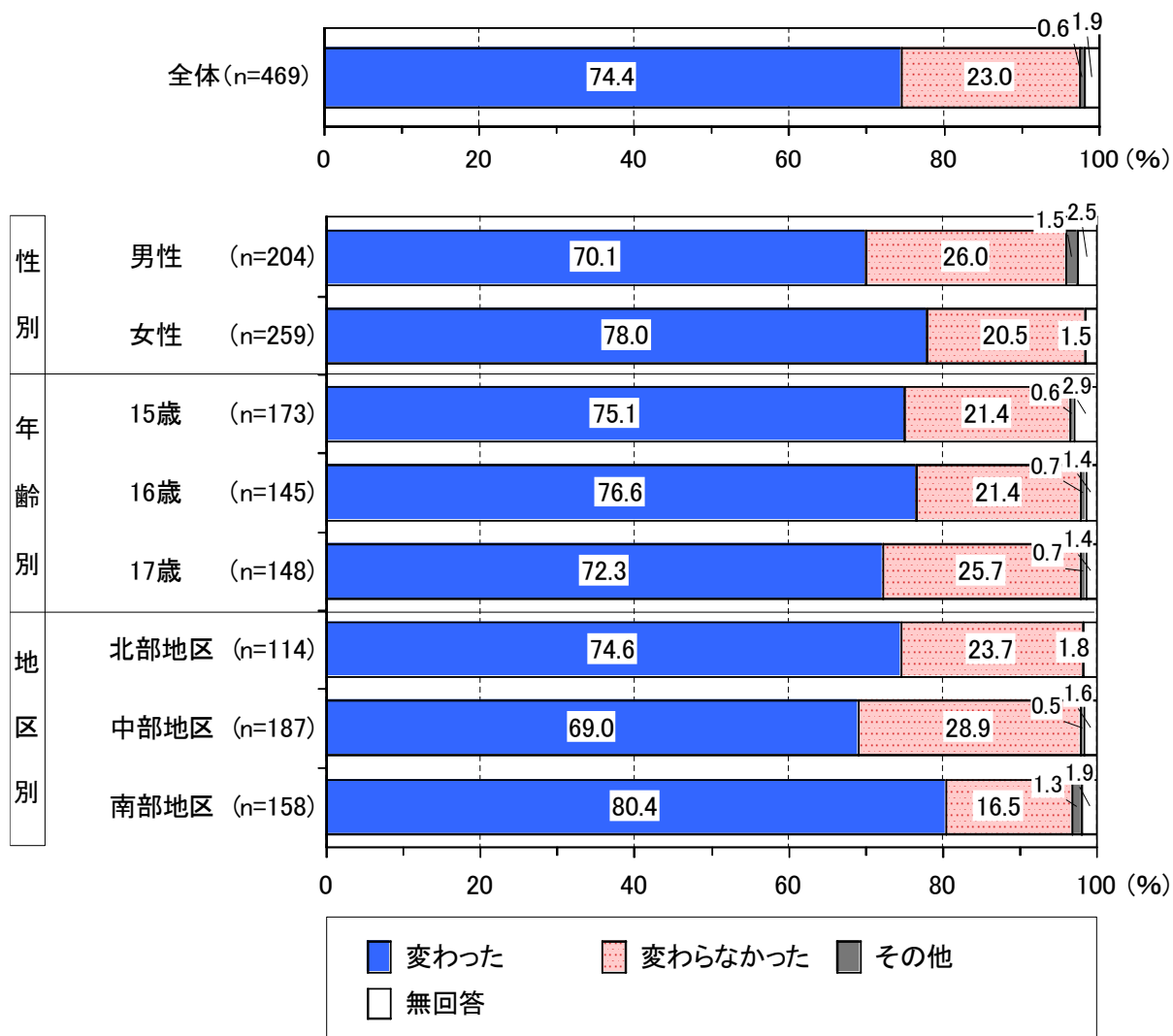


## ②福祉教育を受けた後の意識の変容

<問6で「ある」と回答した人対象>

問7 学んだ前と後で福祉についての意識が変わりましたか。(単数回答)

福祉を学んだ前後での意識の変化は、「変わった」が74.4%、「変わらなかった」が23.0%となっています。



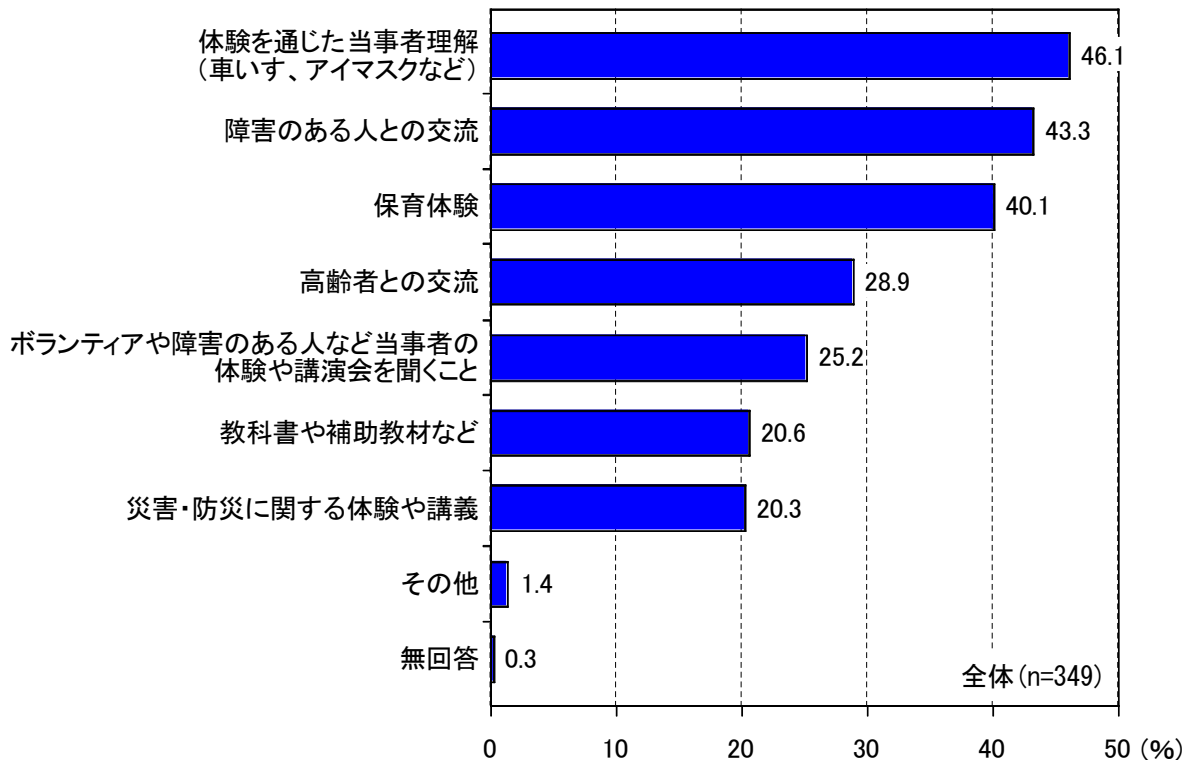
③福祉への意識を変えた福祉教育の内容

<問7で「変わった」と回答した人対象>

問8 どんな福祉教育が意識を変えましたか。(複数回答)

意識を変えた福祉教育の内容は、「体験を通じた当事者理解（車いす、アイマスクなど）」が46.1%、「障害のある人との交流」が43.3%、「保育体験」が40.1%となっています。

性別で見ると、男性は「障害のある人との交流」が45.5%と最も高く、女性は「体験を通じた当事者理解」が54.0%と最も高くなっています。

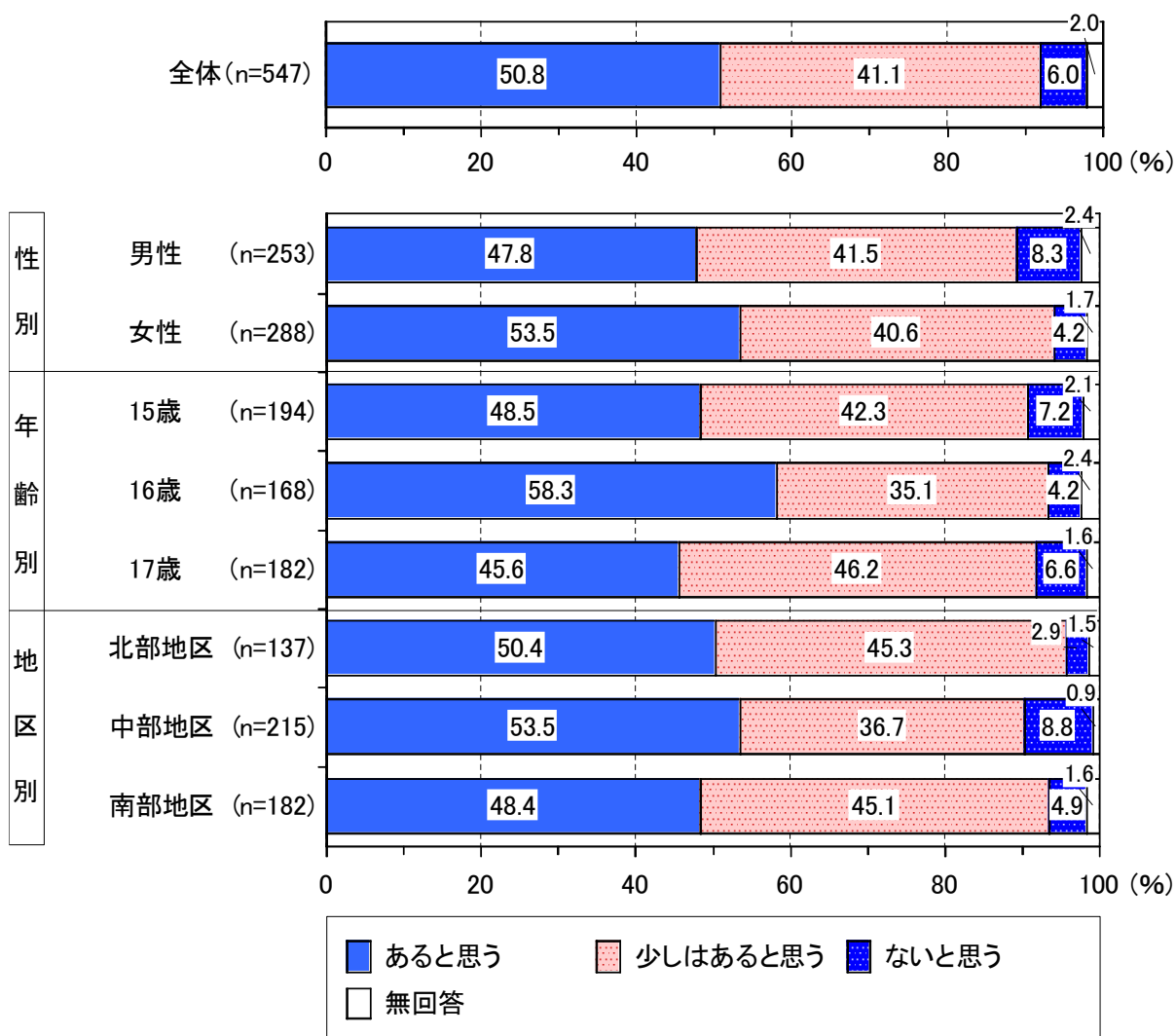


	回答者数(人)	回答割合(%)								
	n=	高齢者との交流	障害のある人との交流	保育体験	ボランティアや障害のある人など当事者の体験や講演会を聞くこと	教科書や補助教材など	体験を通じた当事者理解 (車いす、アイマスクなど)	災害・防災に関する体験や講義	その他	無回答
全体	349	28.9	43.3	40.1	25.2	20.6	46.1	20.3	1.4	0.3
性別										
男性	143	27.3	45.5	36.4	21.0	25.9	35.0	21.7	2.8	0.7
女性	202	30.2	42.1	42.1	28.2	17.3	54.0	19.8	0.5	-
年齢別										
15歳	130	30.8	46.2	50.0	29.2	23.8	40.8	19.2	1.5	-
16歳	111	24.3	41.4	39.6	27.0	18.0	49.5	23.4	-	0.9
17歳	107	31.8	42.1	28.0	18.7	19.6	49.5	18.7	2.8	-
地区別										
北部地区	85	23.5	44.7	47.1	20.0	21.2	49.4	23.5	-	-
中部地区	129	27.1	39.5	34.9	21.7	21.7	47.3	18.6	0.8	0.8
南部地区	127	34.6	44.9	40.2	33.1	19.7	43.3	18.1	3.1	-

④実感としての障害のある人に対する差別や偏見の有無

問9 あなたは、世の中には、障害のある人に対して、差別や偏見があると思いますか。(単数回答)

障害のある人に対する差別や偏見の有無は、「あると思う」と「少しはあると思う」を合わせると91.9%があると回答しています。



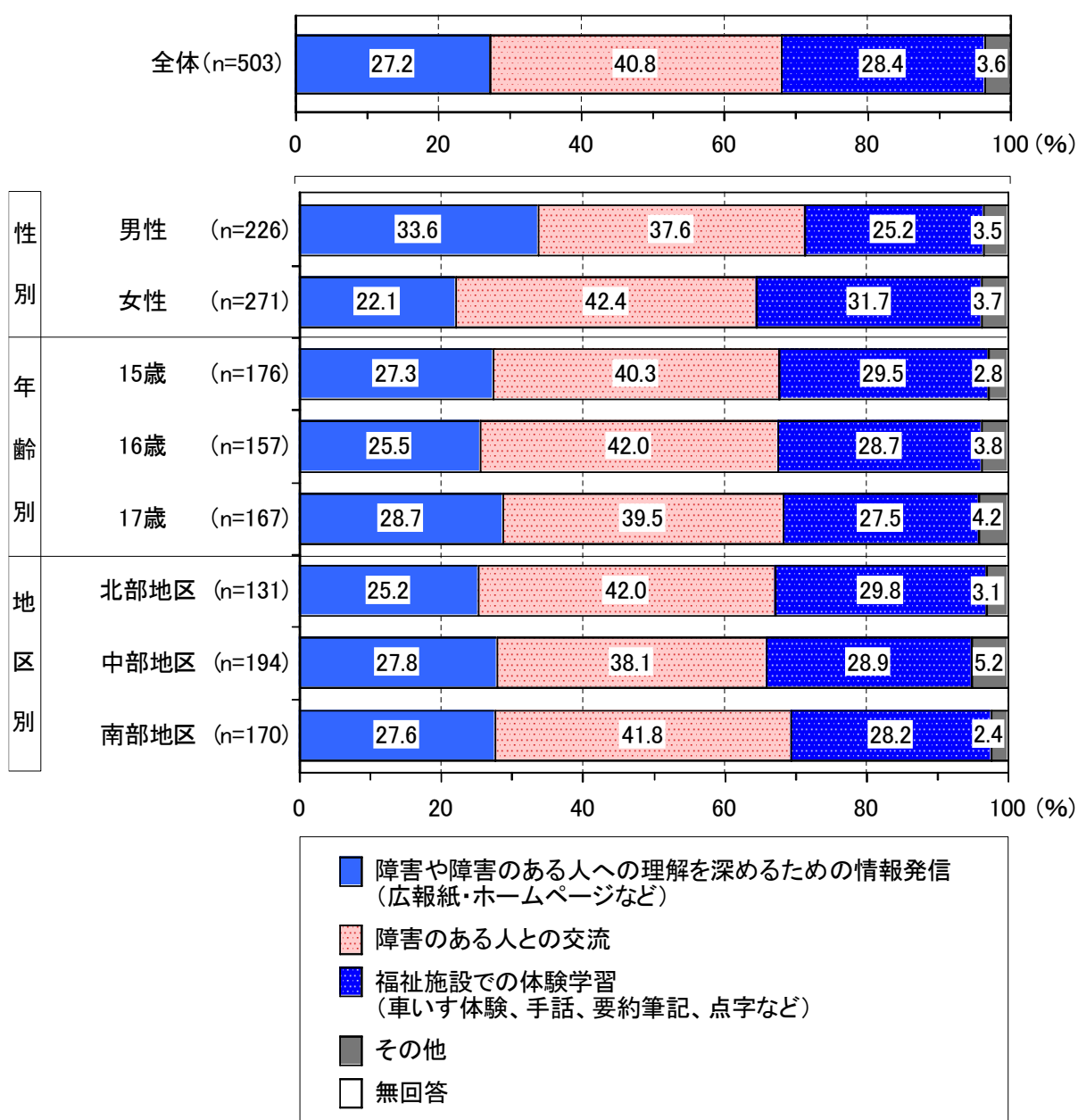


⑤障害のある人に対する差別や偏見を解消するために必要な取り組み

<問9で「あると思う」「少しはあると思う」と回答した人対象>

問 10 あなたは、障害のある人に対する差別や偏見を解消するためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。(単数回答)

障害がある人に対する差別や偏見を解消するために必要な取り組みについては、「障害のある人との交流」が40.8%と最も高く、次いで「福祉施設での体験学習(車いす体験、手話、要約筆記、点字など)」が28.4%、「障害や障害のある人への理解を深めるための情報発信(広報紙・ホームページなど)」が27.2%となっています。

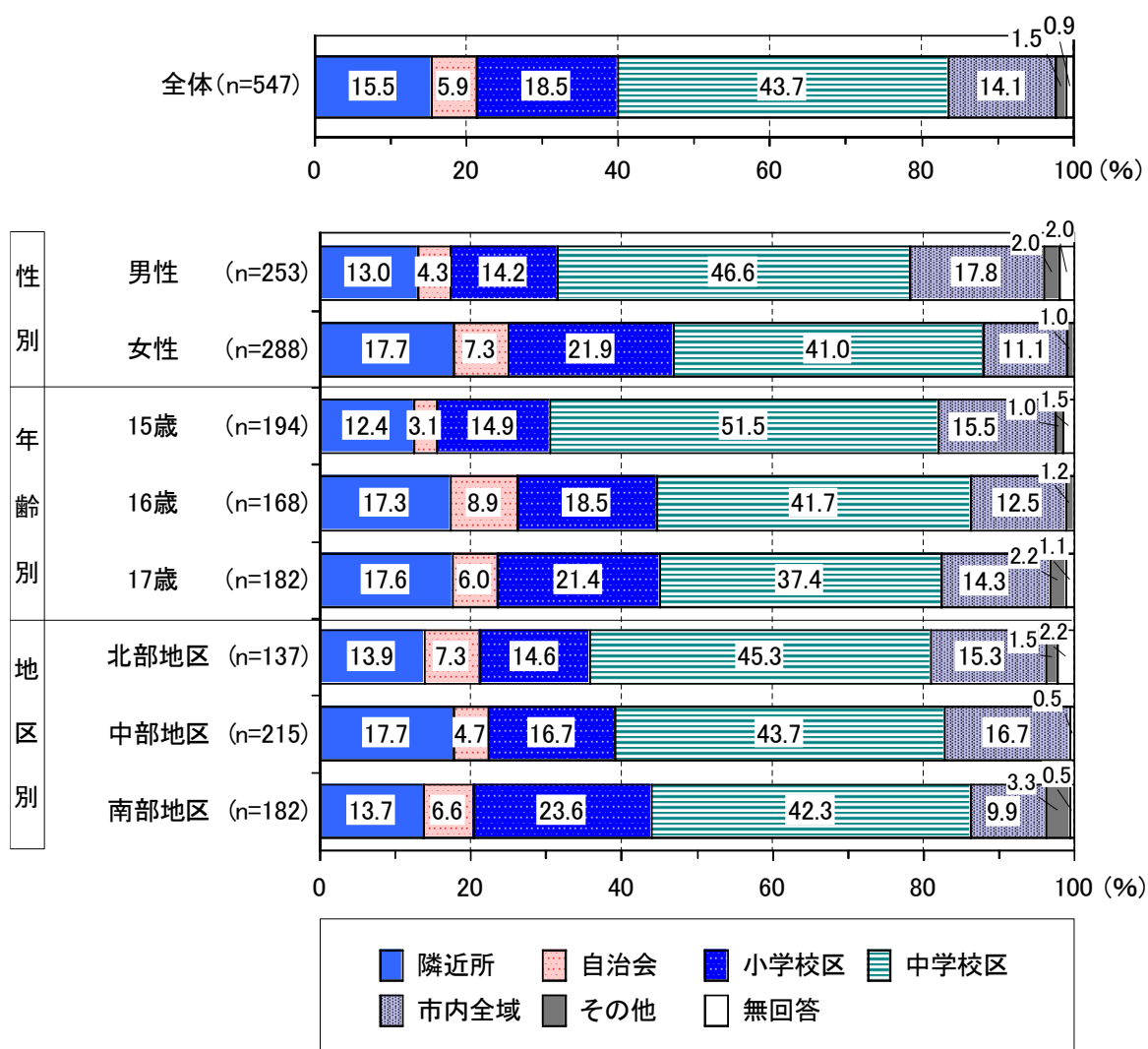


### (3) 地域意識や課題について

#### ①身近に感じる「地域」の範囲

問 11 あなたにとって身近に感じられる「地域」とは、どの範囲ですか。  
(単数回答)

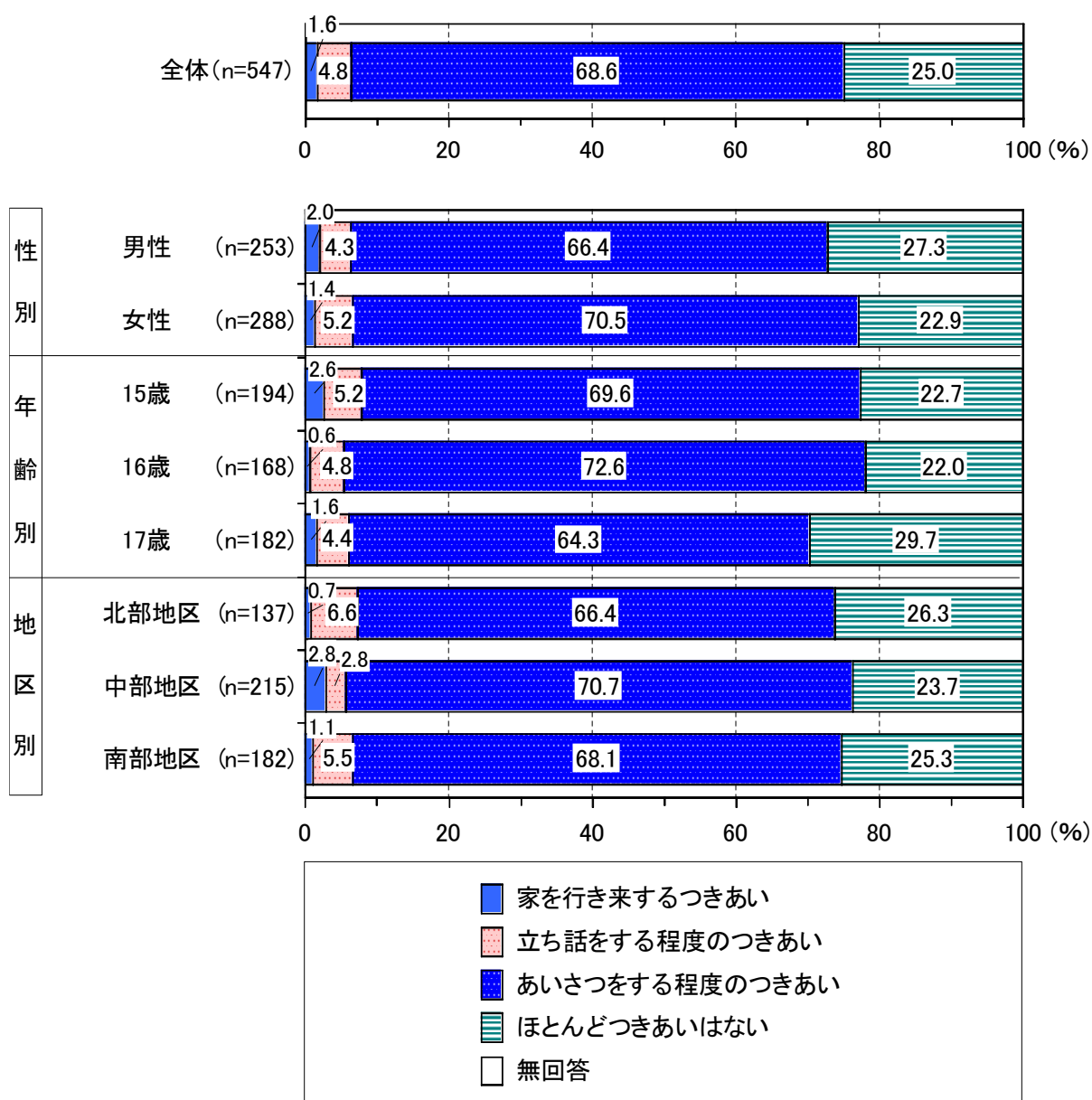
身近に感じられる『地域』の範囲は、「中学校区」が43.7%と最も高く、次いで「小学校区」の18.5%、「隣近所」の15.5%となっています。



## ②近所づきあいの程度

問 12 あなたは、友達以外の近所の方とふだんどの程度のおつきあいをしていますか。(単数回答)

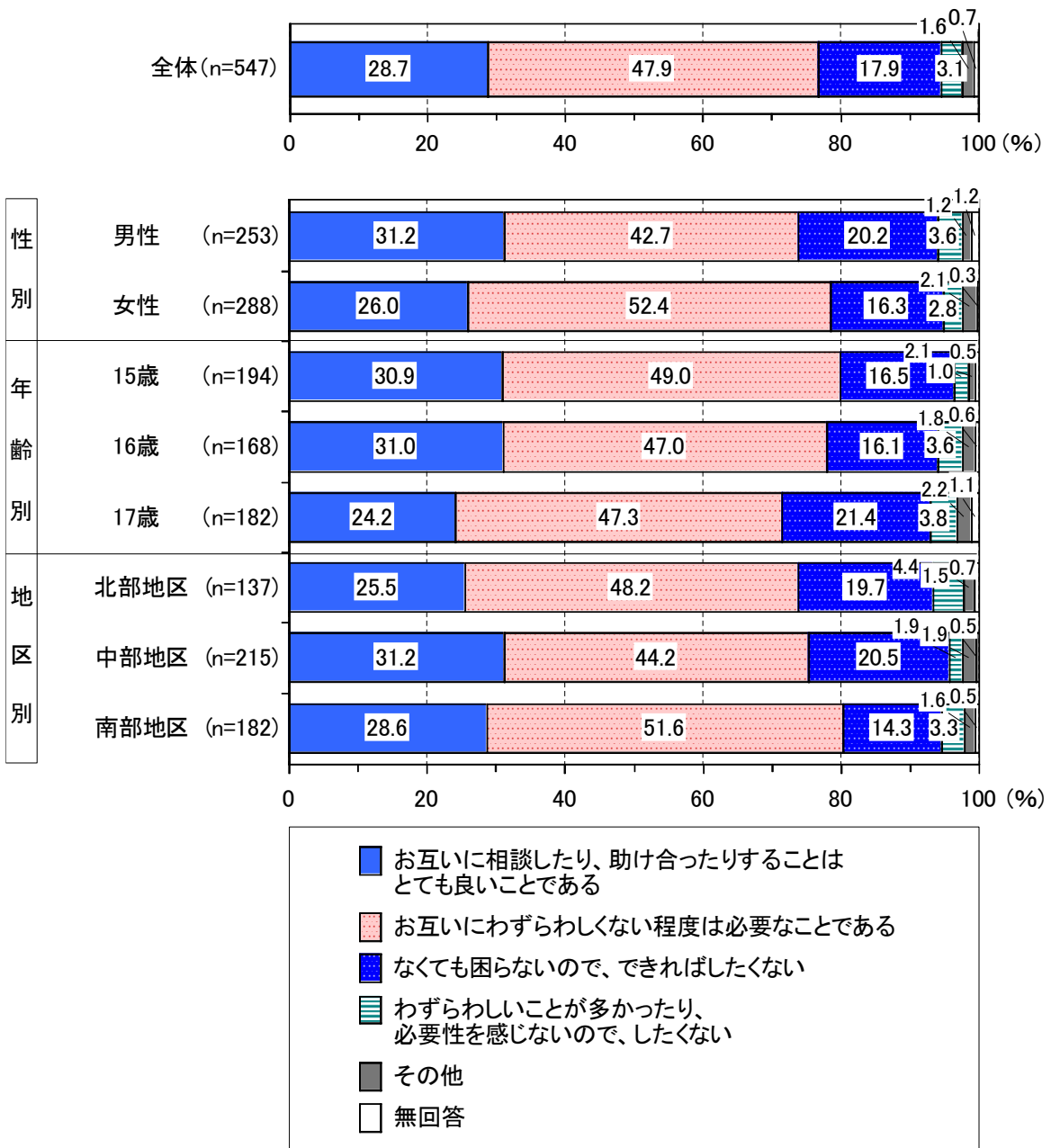
近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度のつきあい」が 68.6%となっており、次いで「ほとんどつきあいはない」が 25.0%となっています。「立ち話をする程度のつきあい」は 4.8%、「家を行き来するつきあい」は 1.6%で少数となっています。



③近所づきあいに対する考え

問 13 ご近所の方と話をしたり、家を行き来したりするなどのおつきあいをする  
ことについて、あなたの考え方は次のどれに最も近いですか。(単数回答)

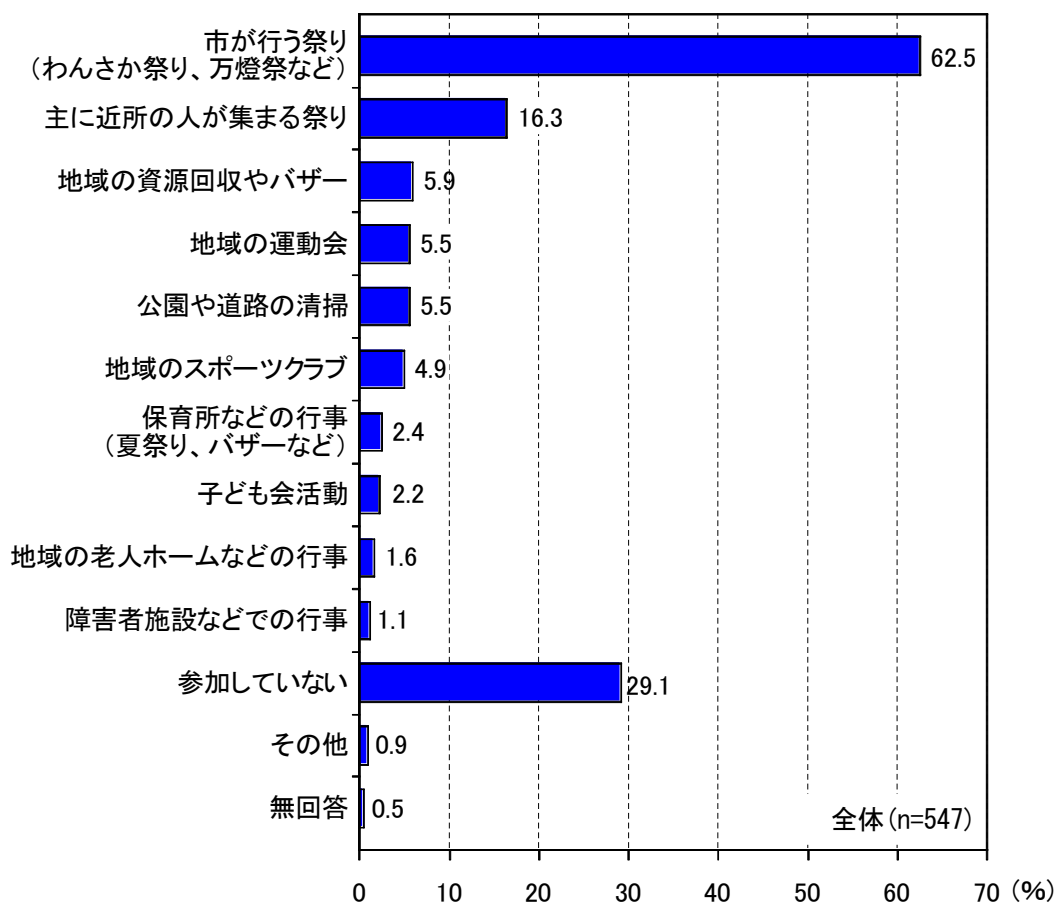
近所づきあいに対する考え方は、「お互いにわずらわしくない程度は必要なことである」が47.9%と最も高く、次いで「お互いに相談したり、助け合ったりすることはとても良いことである」が28.7%となっています。一方、「なくても困らないので、できればしたくない」と「わずらわしいことが多かったり、必要性を感じないので、したくない」を合わせた『近所づきあいをしたくない』は21.0%となっています。



#### ④この1年間に参加した地域のイベントや活動

問 14 あなたがこの1年間に参加した地域のイベントや活動は何ですか。  
(複数回答)

この1年間に参加した地域のイベントや活動は、「市が行う祭り（わんさか祭り、万燈祭りなど）」が62.5%と最も高く、次いで「主に近所の人が集まる祭り」が16.3%となっています。なお、「参加していない」が29.1%となっています。



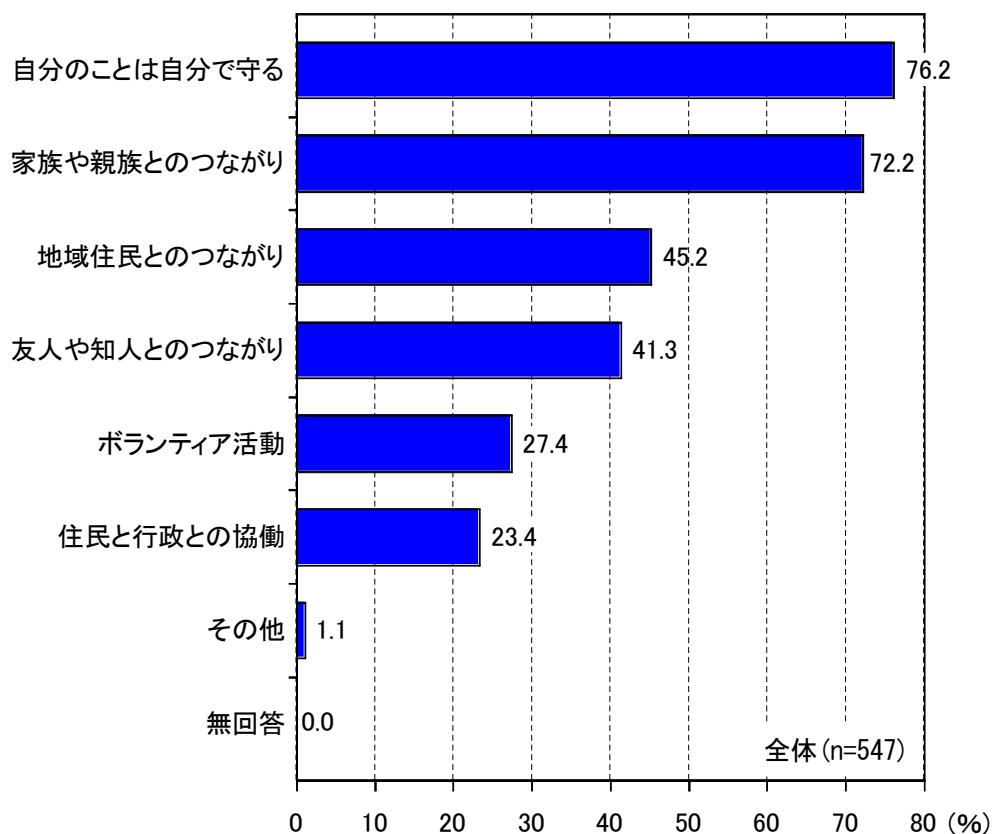
	回答者数(人)	回答割合(%)						
	n=	子ども会活動	地域の運動会	主に近所の人が集まる祭り	市が行う祭り(わんさか祭り、万燈祭など)	保育所などの行事(夏祭り、バザーなど)	地域の老人ホームなどの行事	障害者施設などでの行事
全体	547	2.2	5.5	16.3	<b>62.5</b>	2.4	1.6	1.1
性別								
男性	253	2.4	5.9	16.2	<b>61.3</b>	2.4	0.8	0.4
女性	288	2.1	4.9	15.6	<b>63.5</b>	2.4	2.1	1.4
年齢別								
15歳	194	2.6	12.4	19.6	<b>66.5</b>	4.1	3.1	1.0
16歳	168	1.8	1.8	14.9	<b>67.3</b>	2.4	-	1.2
17歳	182	2.2	1.6	14.3	<b>54.4</b>	0.5	1.6	1.1
地区別								
北部地区	137	1.5	4.4	17.5	<b>63.5</b>	3.6	-	0.7
中部地区	215	3.3	4.7	14.4	<b>72.1</b>	2.3	1.4	0.9
南部地区	182	1.6	7.7	18.1	<b>50.5</b>	1.6	3.3	1.6

	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	公園や道路の清掃	地域の資源回収やバザー	地域のスポーツクラブ	参加していない	その他	無回答
全体	547	5.5	5.9	4.9	<b>29.1</b>	0.9	0.5
性別							
男性	253	7.1	5.9	7.5	<b>31.2</b>	1.2	1.2
女性	288	4.2	5.9	2.8	<b>27.4</b>	0.7	-
年齢別							
15歳	194	11.9	10.8	7.7	<b>20.6</b>	1.5	1.5
16歳	168	1.8	3.6	3	<b>26.8</b>	0.6	-
17歳	182	2.2	2.7	3.8	<b>39.6</b>	0.5	-
地区別							
北部地区	137	5.8	5.8	7.3	<b>31.4</b>	-	0.7
中部地区	215	5.1	3.7	5.6	<b>21.9</b>	1.4	-
南部地区	182	5.5	8.8	2.7	<b>36.3</b>	1.1	0.5

⑤防災で大切なこと

問 15 あなたは、地震などの災害に備えて、どのようなことが大切だと思いますか。(複数回答)

地震などの災害に備えて大切だと思うことは、「自分のことは自分で守る」が76.2%と最も高く、次いで「家族や親族とのつながり」が72.2%となっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)							
	n=	自分のことは自分で守る	家族や親族とのつながり	友人や知人とのつながり	地域住民とのつながり	ボランティア活動	住民と行政との協働	その他	無回答
全体	547	76.2	72.2	41.3	45.2	27.4	23.4	1.1	0.0
性別									
男性	253	73.9	66.4	45.5	37.2	25.7	25.3	0.8	-
女性	288	78.5	77.1	37.8	52.4	29.2	22.2	1.4	-
年齢別									
15歳	194	85.1	73.7	44.8	47.9	32.5	25.3	1.0	-
16歳	168	74.4	73.8	44.0	51.2	23.8	20.8	1.2	-
17歳	182	69.2	69.2	35.2	37.4	25.8	23.6	1.1	-
地区別									
北部地区	137	75.9	73.0	42.3	46.0	25.5	19.0	0.7	-
中部地区	215	77.2	69.3	42.8	47.0	29.8	24.2	0.9	-
南部地区	182	75.3	74.2	37.9	44.0	26.4	25.3	1.1	-

#### (4) ボランティアについて

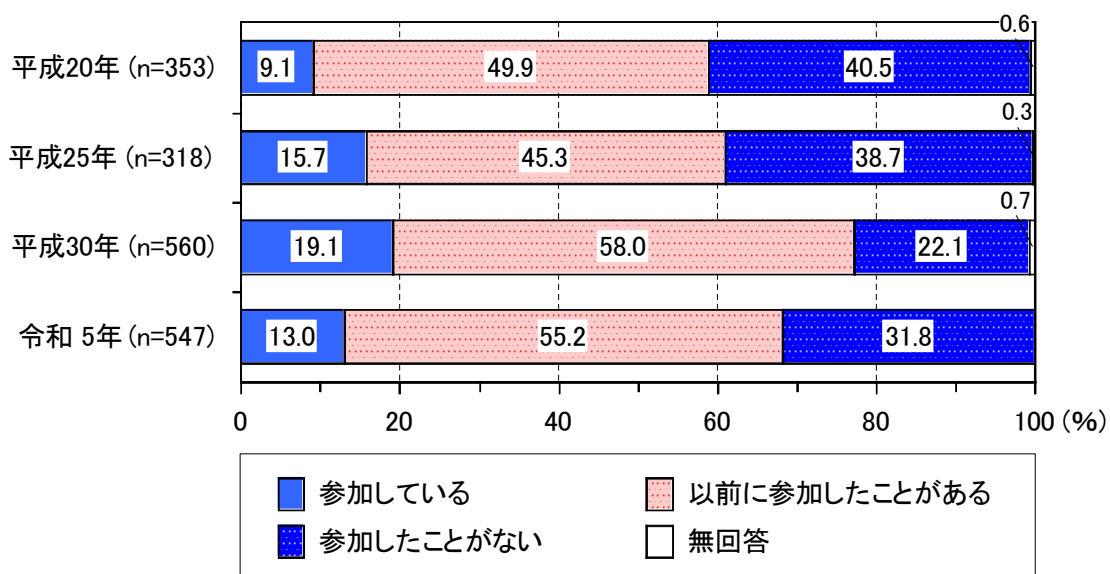
##### ①ボランティア活動の参加状況

問 16 あなたは、今までにボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したことがありますか。(単数回答)

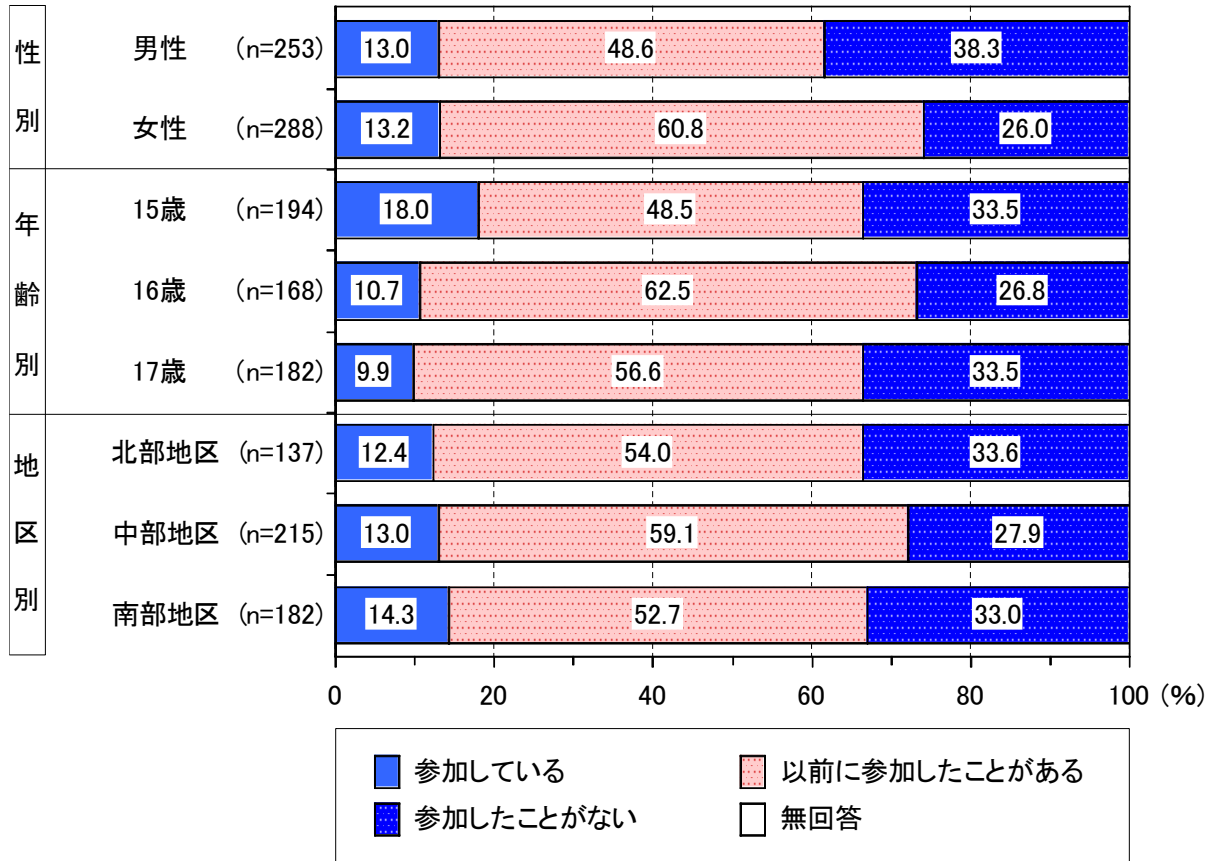
ボランティア活動や地域支え合い活動への参加経験は、「以前に参加したことがある」が55.2%と最も高く、次いで「参加したことがない」の31.8%となっています。なお、「参加している」は13.0%です。

平成20年から経年の変化をみると、「参加している」は、平成30年には19.1%にまで上昇しましたが、令和5年には13.0%と低下しています。

年齢別でみると、15歳では「参加している」が18.0%で、16歳の10.7%、17歳の9.9%と比べ高くなっています。また、16歳では、「以前に参加したことがある」が62.5%と高くなっています。





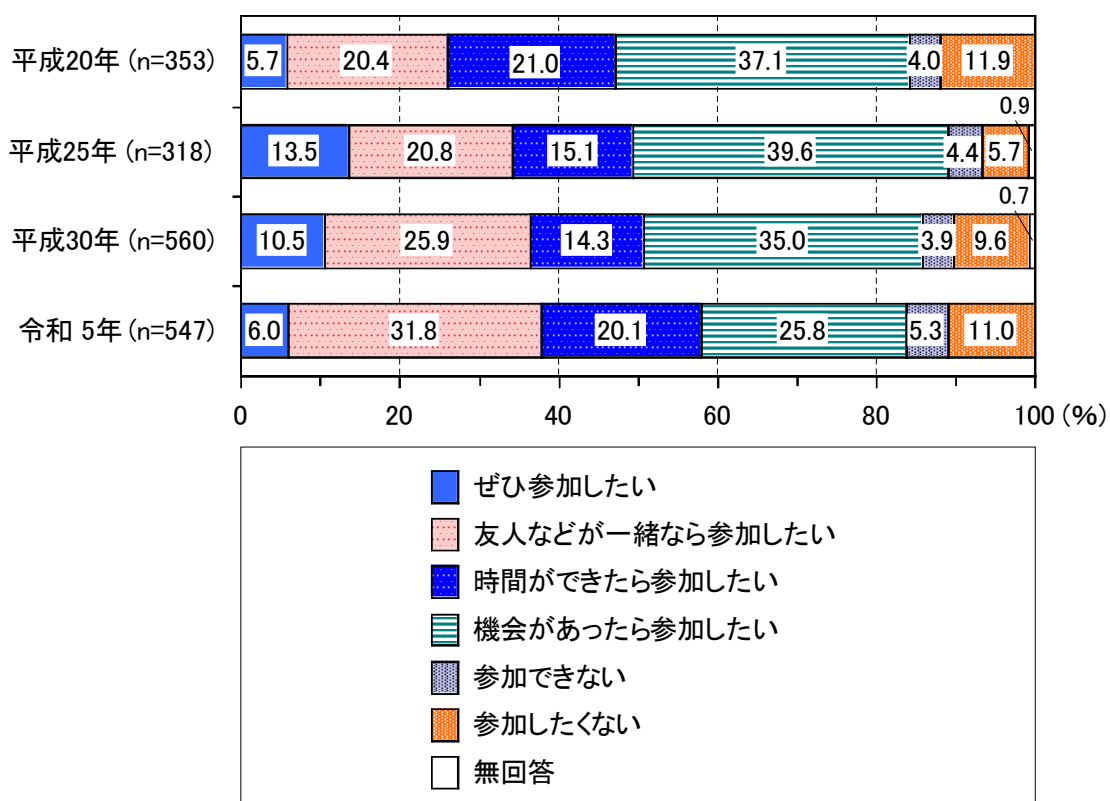


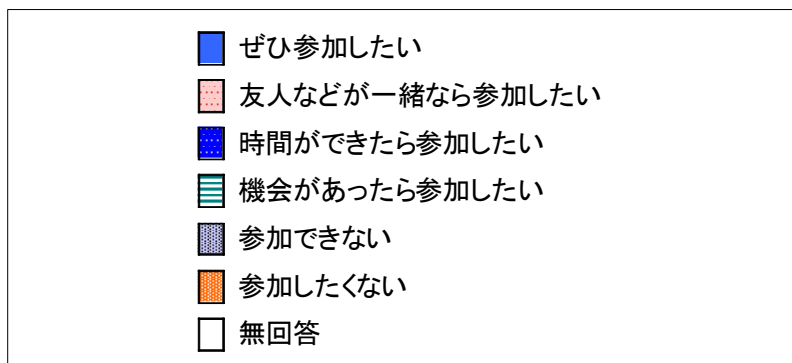
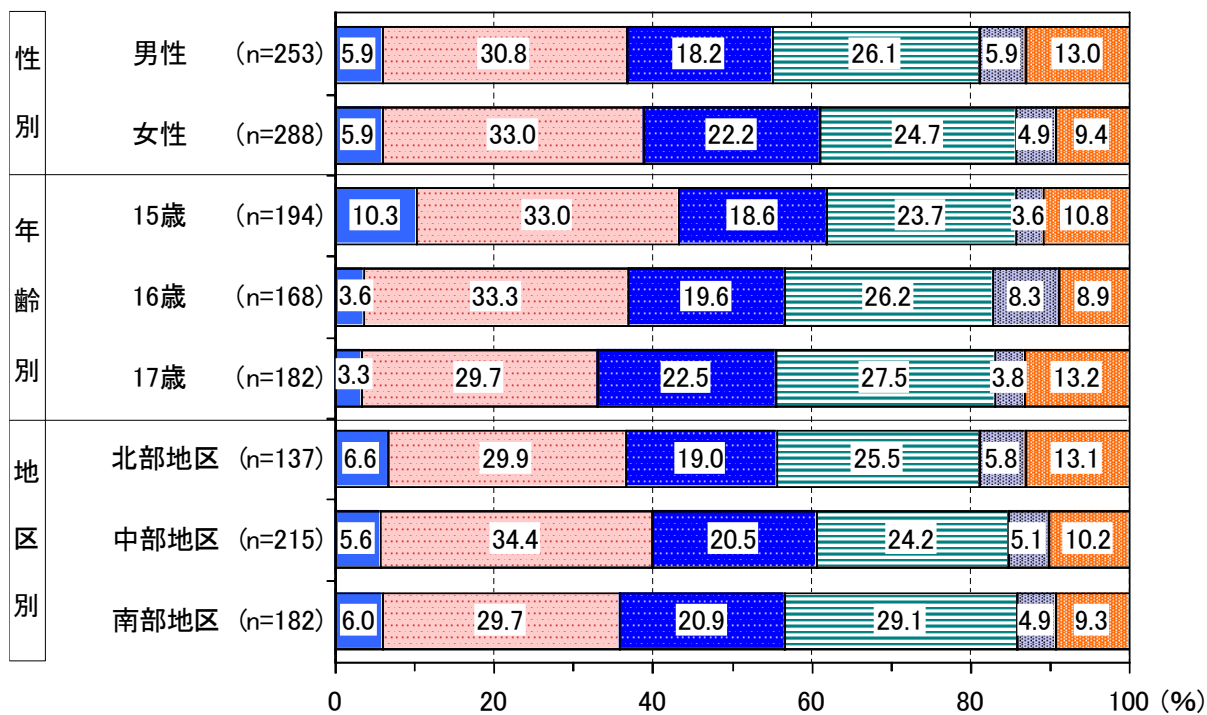
## ②ボランティア活動の参加意向

問 17 あなたは、今後ボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したいと思いますか。(単数回答)

ボランティア活動や地域の支え合い活動への参加意向は、「友人などが一緒なら参加したい」が31.8%で最も高く、次いで「機会があったら参加したい」の25.8%、「時間ができたら参加したい」の20.1%となっています。これらに「ぜひ参加したい」の6.0%を加えた、『参加したい』意向を示す割合は83.7%となっています。

年齢別でみると、15歳では「ぜひ参加したい」が10.3%と他の年齢に比べて高くなっています。



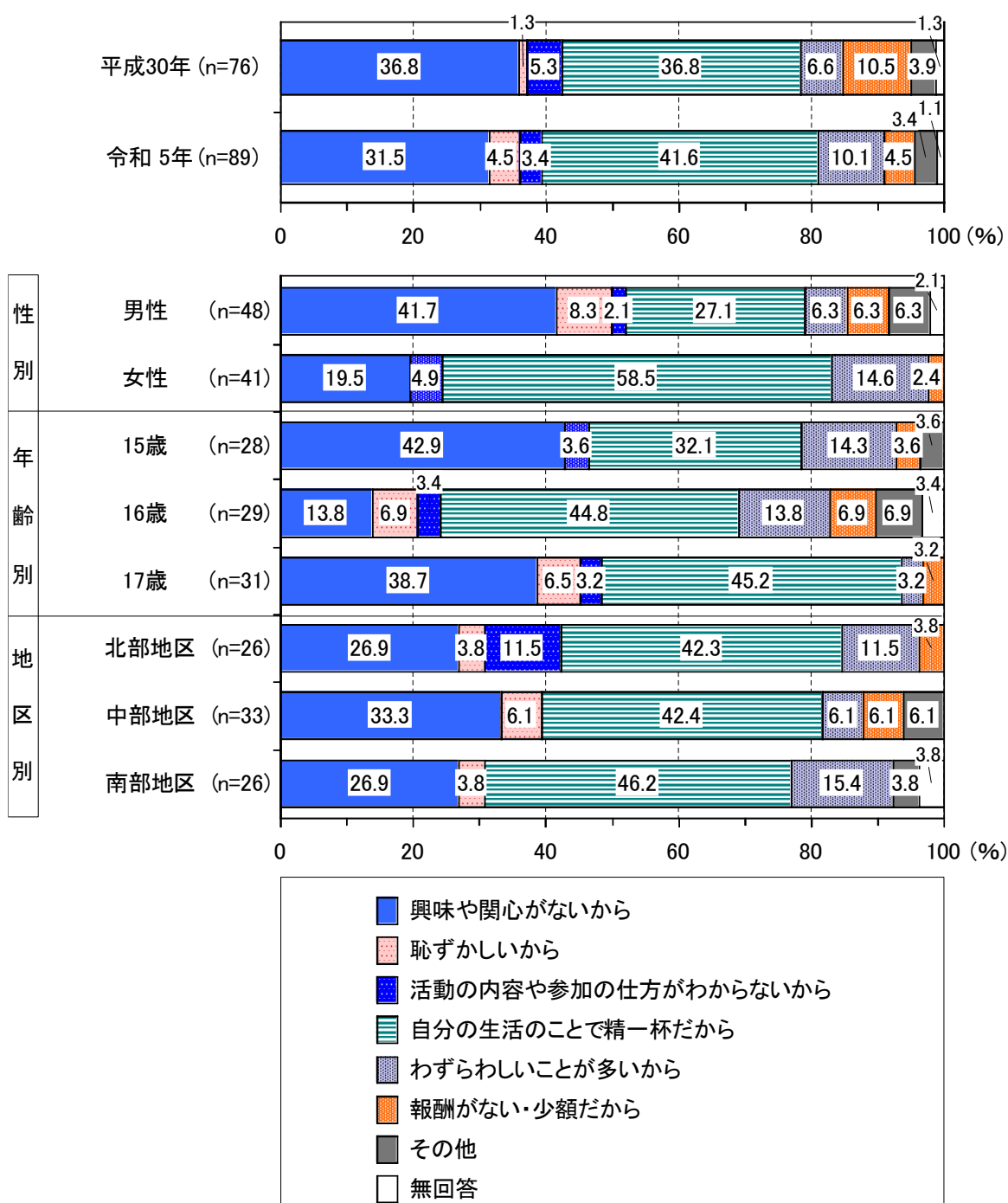


### ③ボランティア活動に参加できない、したくない理由

<問 17 で「参加できない」「参加したくない」と回答した人対象>

問 18 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(単数回答)

ボランティア活動や地域の支え合い活動に参加できない・参加したくない理由は、「自分の生活のことで精一杯だから」が41.6%で最も高く、次いで「興味や関心がないから」の31.5%となっています。



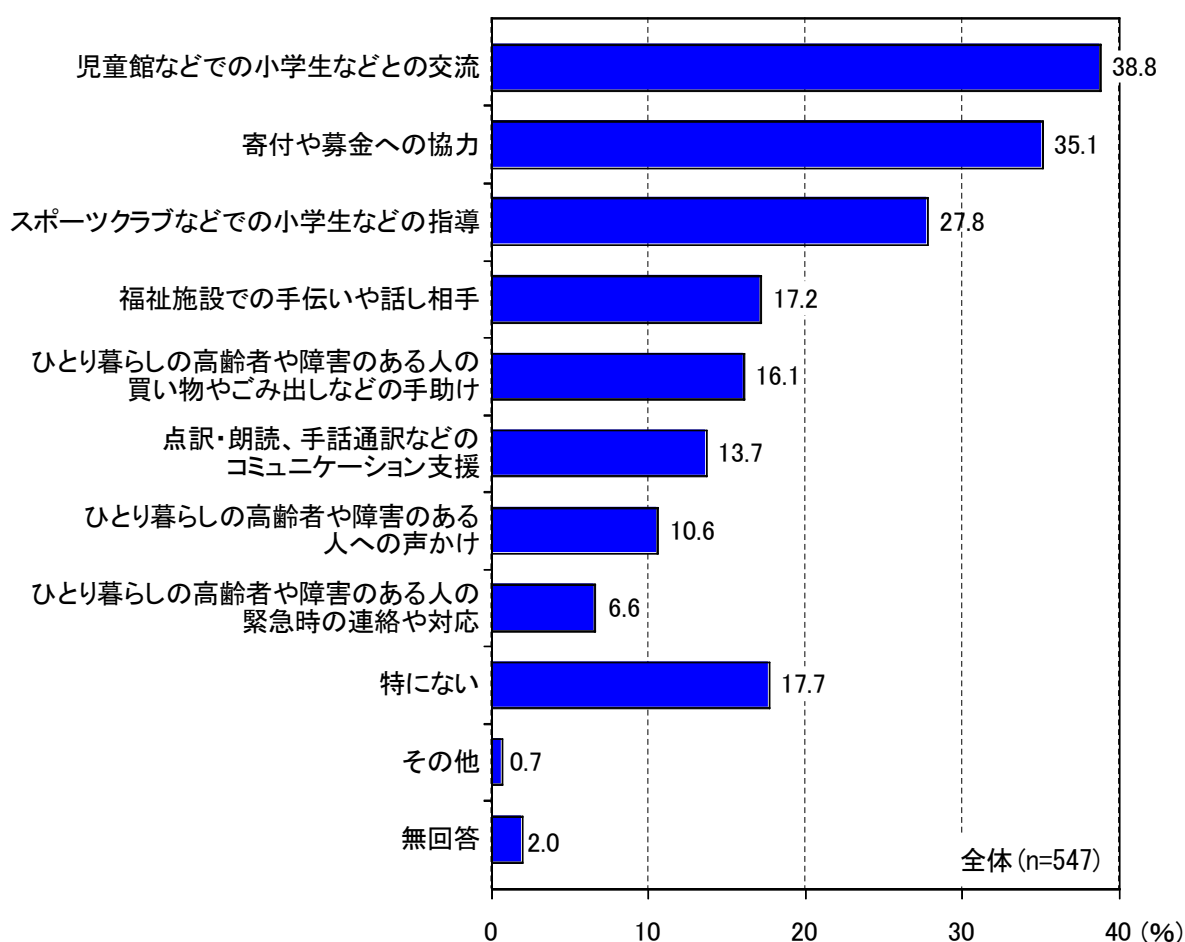
## (5) 地域の福祉課題について

### ①地域福祉活動で今後できること、やってみたいこと

問 19 次の活動の中であなたができることや、やってみたいことがありますか。  
(複数回答)

地域福祉活動で今後できること、やってみたいことは、「児童館などでの小学生などとの交流」が 38.8%で最も高く、次いで「寄付や募金への協力」が 35.1%、「スポーツクラブなどでの小学生などの指導」が 27.8%となっています。

性別でみると、男性では「スポーツクラブなどでの小学生などの指導」が 34.0%で最も高くなっています。一方、女性では「児童館などでの小学生などとの交流」が 44.4%となっています。



	回答者数(人)	回答割合(%)					
	n=	ひとり暮らしの高齢者や障害のある人への声かけ	ひとり暮らしの高齢者や障害のある人の買い物やごみ出しなどの手助け	ひとり暮らしの高齢者や障害のある人の緊急時の連絡や対応	児童館などでの小学生などの交流	スポーツクラブなどでの小学生などの指導	福祉施設での手伝いや話し相手
全体	547	10.6	16.1	6.6	<b>38.8</b>	27.8	17.2
性別							
男性	253	8.7	9.1	6.7	<b>32.4</b>	<b>34.0</b>	10.3
女性	288	12.5	22.2	6.6	<b>44.4</b>	22.2	23.6
年齢別							
15歳	194	14.9	18.0	10.3	<b>40.7</b>	24.7	18.0
16歳	168	11.3	13.7	6.5	<b>42.9</b>	31.0	14.3
17歳	182	5.5	15.9	2.7	<b>33.5</b>	28.0	19.2
地区別							
北部地区	137	7.3	16.8	5.1	<b>41.6</b>	28.5	16.8
中部地区	215	11.6	14.9	7.9	<b>37.2</b>	29.8	18.1
南部地区	182	12.6	15.9	6.6	<b>40.1</b>	24.7	16.5

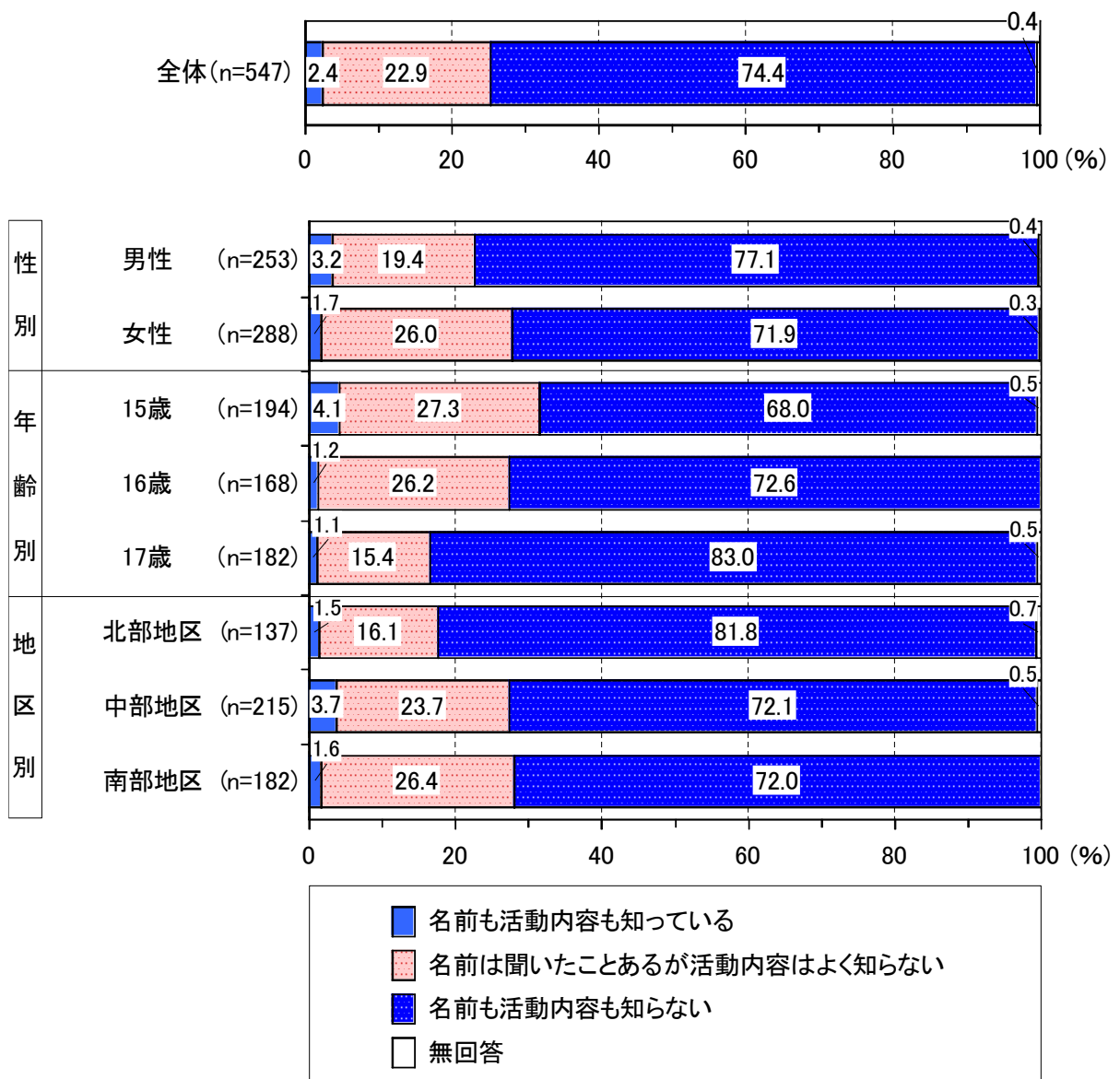
	回答者数(人)	回答割合(%)				
	n=	点訳・朗読、手話通訳などのコミュニケーション支援	寄付や募金への協力	特にない	その他	無回答
全体	547	13.7	<b>35.1</b>	17.7	0.7	2.0
性別						
男性	253	8.3	26.9	24.1	1.2	3.6
女性	288	18.8	<b>41.0</b>	12.5	0.3	0.7
年齢別						
15歳	194	17.0	<b>38.7</b>	16	1.5	3.1
16歳	168	8.9	<b>35.1</b>	17.9	-	2.4
17歳	182	14.8	<b>30.2</b>	19.8	0.5	0.5
地区別						
北部地区	137	13.1	<b>32.1</b>	19.7	-	2.9
中部地区	215	14.0	<b>35.8</b>	14.9	0.9	1.4
南部地区	182	14.3	<b>35.2</b>	20.3	1.1	1.1

## (6) 社会福祉協議会について

### ①社会福祉協議会の認知度

問 20 あなたは、刈谷市社会福祉協議会を知っていますか。(単数回答)

刈谷市社会福祉協議会の認知度は、「名前も活動内容も知っている」が2.4%、「名前は聞いたことあるが活動内容はよく知らない」が22.9%、「名前も活動内容も知らない」が74.4%となっています。



②社会福祉協議会に求めること

<問 20 で「名前も活動内容も知っている」と回答した人対象>

問 21 刈谷市社会福祉協議会に求めることは何ですか。(複数回答)

刈谷市社会福祉協議会に求めることは、「福祉に関する情報の発信と提供」「児童や生徒に対する福祉教育の充実」などとなっています。

社会福祉協議会に求めること	件数 (n=13)
福祉に関する情報の発信と提供	8
児童や生徒に対する福祉教育の充実	6
社会人に対する福祉教育の充実	4
困りごとがある人に対する相談体制の充実	4
介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化	2
様々な地域課題に対するための包括的なネットワークづくり	1
ボランティアなどの地域福祉を支える人づくり	0
住民による地域福祉活動の支援	0
特にない	2
その他	1
無回答	1

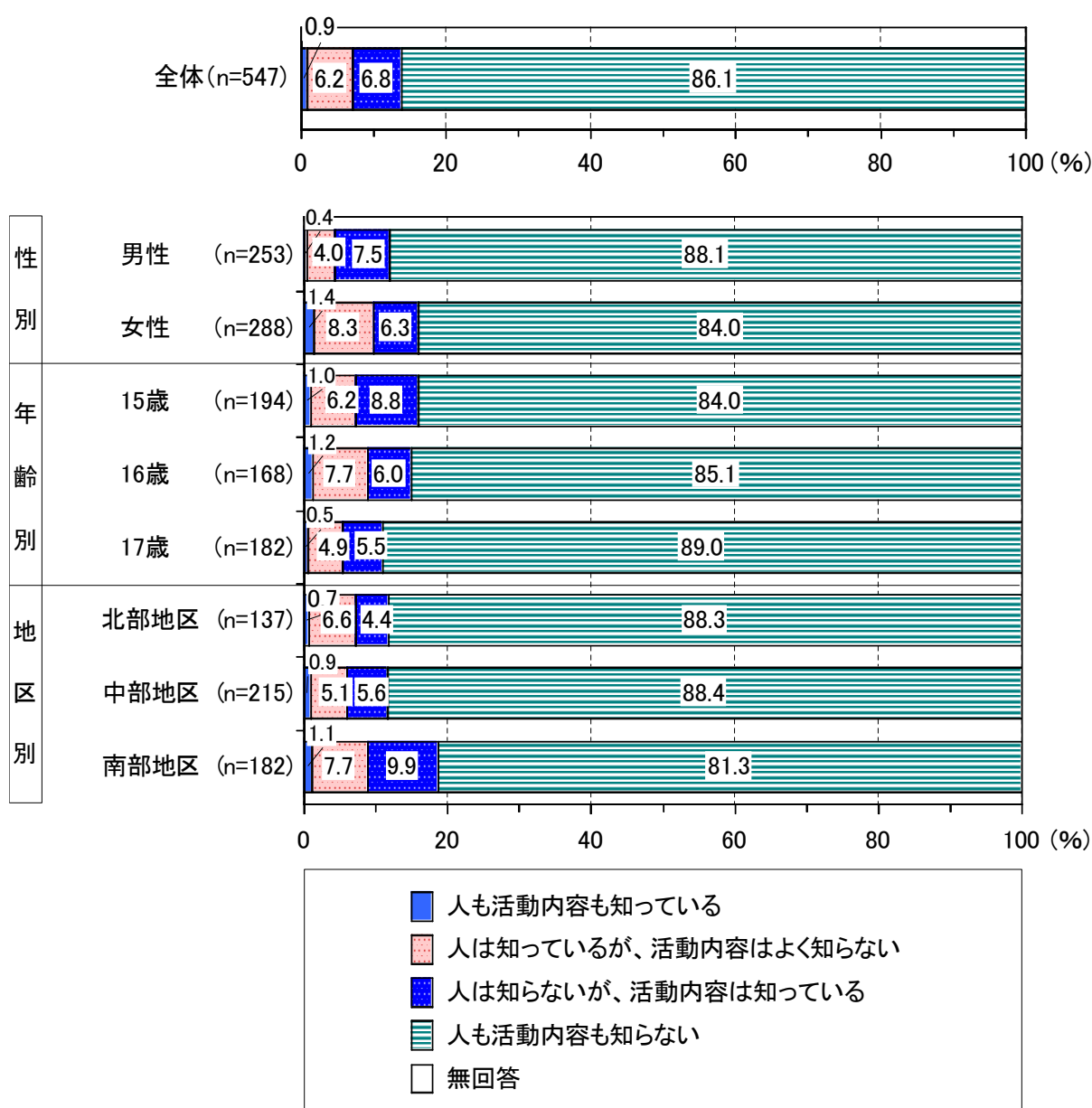


(7) その他

①民生委員・児童委員の認知度

問 22 あなたは、あなたの地域の民生委員・児童委員と活動内容を知っていますか。(単数回答)

民生委員・児童委員と活動内容に対する認知度は、「人も活動内容も知っている」と「人は知っているが活動内容はよく知らない」と「人は知らないが活動内容は知っている」を合わせた『知っている』は13.9%となっています。



### 第3章 自治会長、民生委員・児童委員の市民意識調査

#### (1) 回答者について

##### ①回答者の役職

問1 回答区分をお答えください。

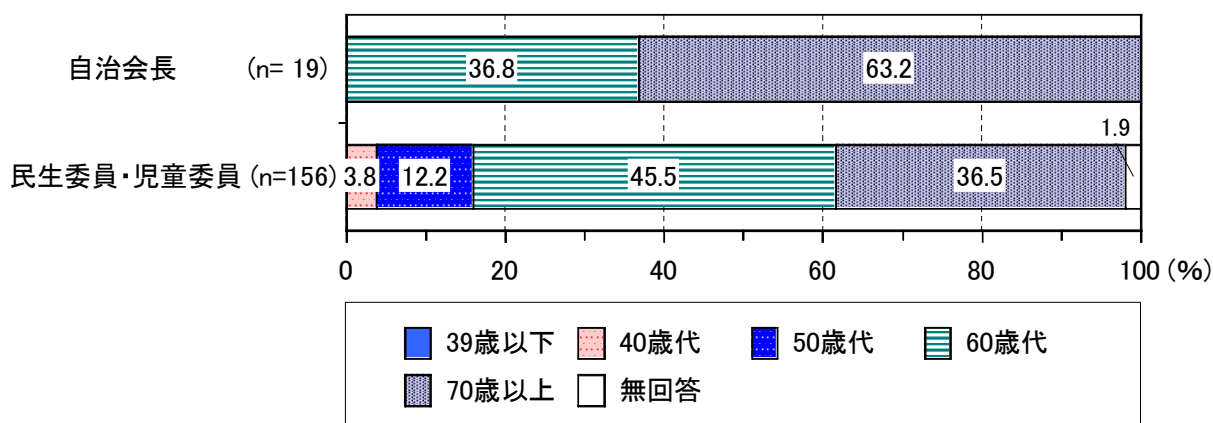
「自治会長」が19名、「民生委員・児童委員」が156名、「不明・無回答」が1名となっています。

##### ②年齢

問2 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、次のどれですか。(単数回答)

年齢は、自治会長では、「70歳以上」が63.2%と最も多く、次いで「60歳代」が36.8%となっています。「40歳代」「50歳代」はいませんでした。

民生委員・児童委員では、「60歳代」が45.5%と最も多く、次いで「70歳以上」が36.5%、「50歳代」が12.2%、「40歳代」が3.8%となっています。

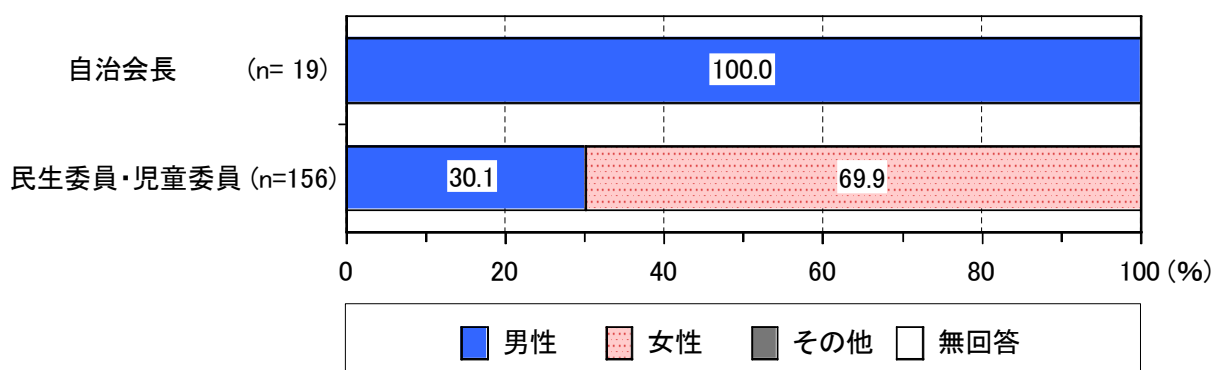


### ③性別

問3 あなたの性別をお答えください。(単数回答)

性別は、自治会長では「男性」のみとなっています。

民生委員・児童委員では、「男性」が30.1%、「女性」が69.9%となっています。

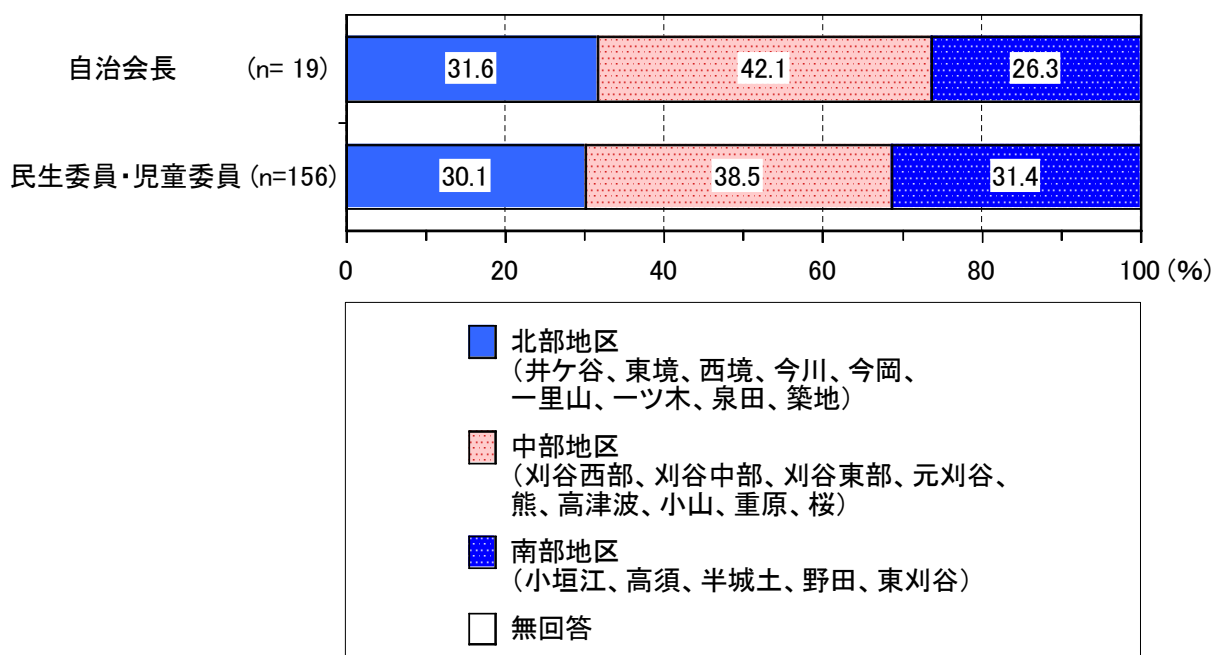


### ④地区

問4 あなたの居住地（地区別）は次のどれですか。(単数回答)

居住地区は、自治会長では、「北部地区」が31.6%、「中部地区」が42.1%、「南部地区」が26.3%となっています。

民生委員・児童委員では、「北部地区」が30.1%、「中部地区」が38.5%、「南部地区」が31.4%となっています。



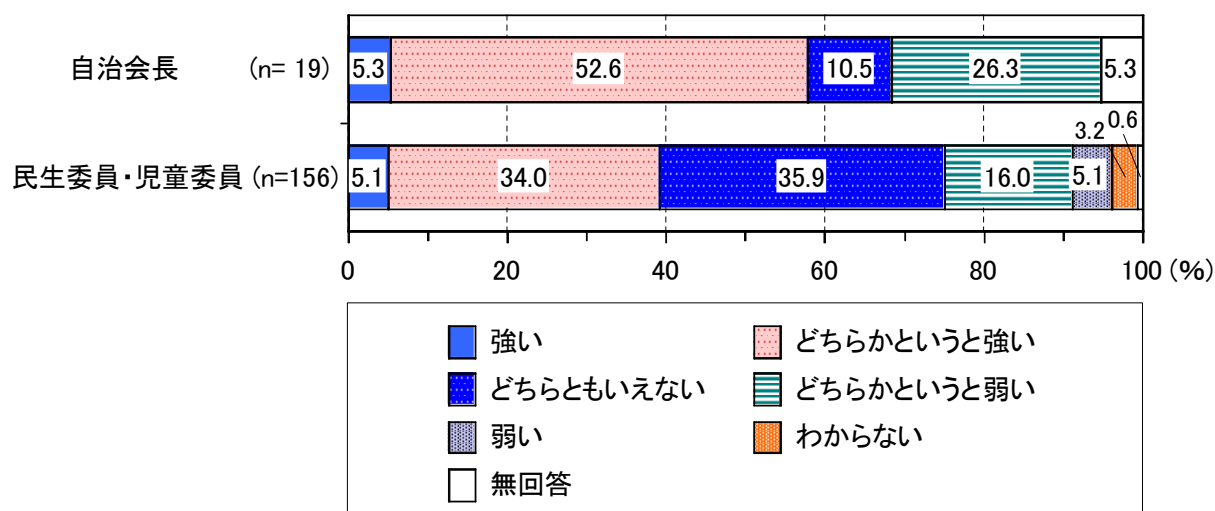
## (2) 地域について

### ①地域のつながりの強さに対する実感

問5 あなたの住んでいる地域は、住民同士による助け合いや支え合いが行われるなど、地域のつながりが強いと思いますか。(単数回答)

地域のつながりの強さは、自治会長では、「どちらかという強い」が52.6%で最も高くなっています。次いで「どちらかという弱い」が26.3%、「どちらともいえない」が10.5%、「強い」が5.3%となっています。「強い」と「どちらかという強い」を合わせると57.9%となっています。

民生委員・児童委員では、「どちらともいえない」が35.9%で高く、次いで「どちらかという強い」が34.0%で、この両者が多数を占めています。「強い」と「どちらかという強い」を合わせると39.1%となっています。

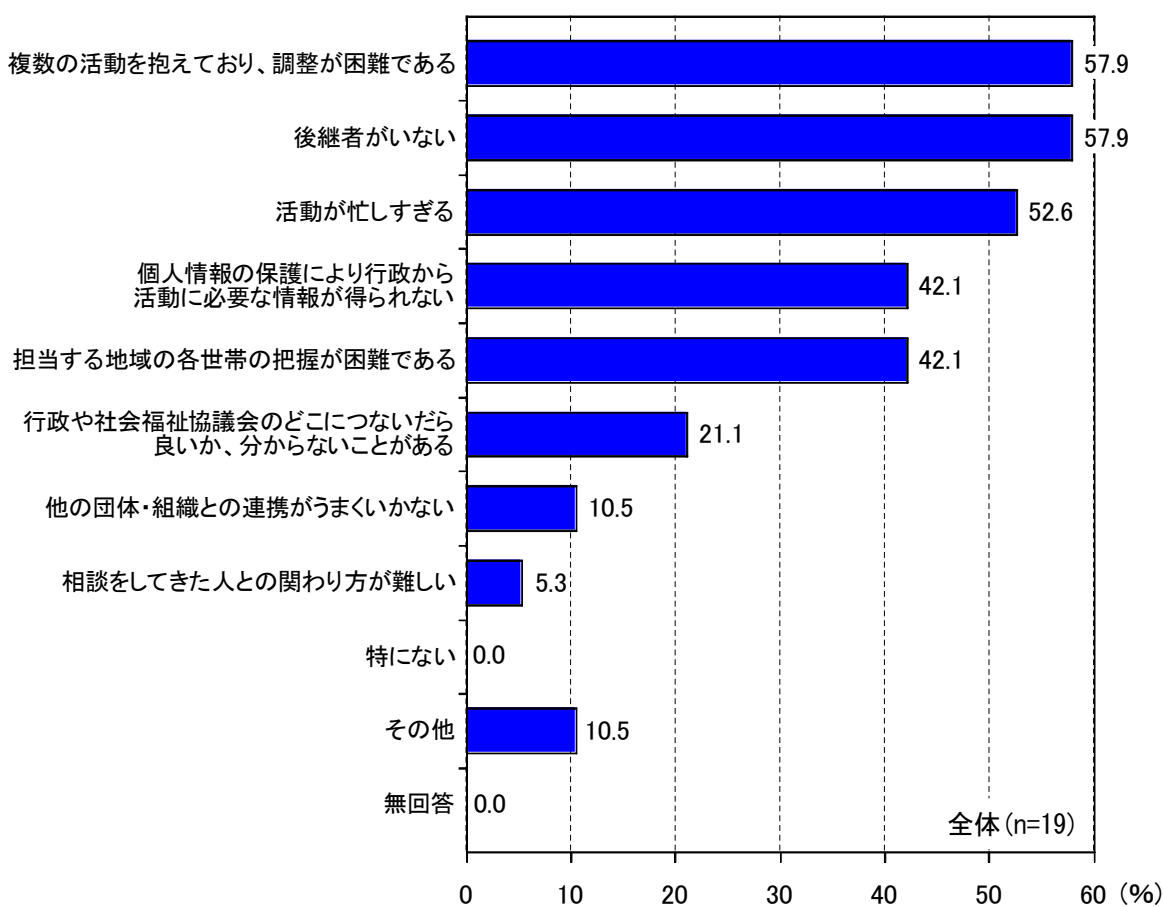


## ②活動を行う上での課題

問6 あなたご自身が活動をする中で抱えている課題は何だと思いますか。  
(複数回答)

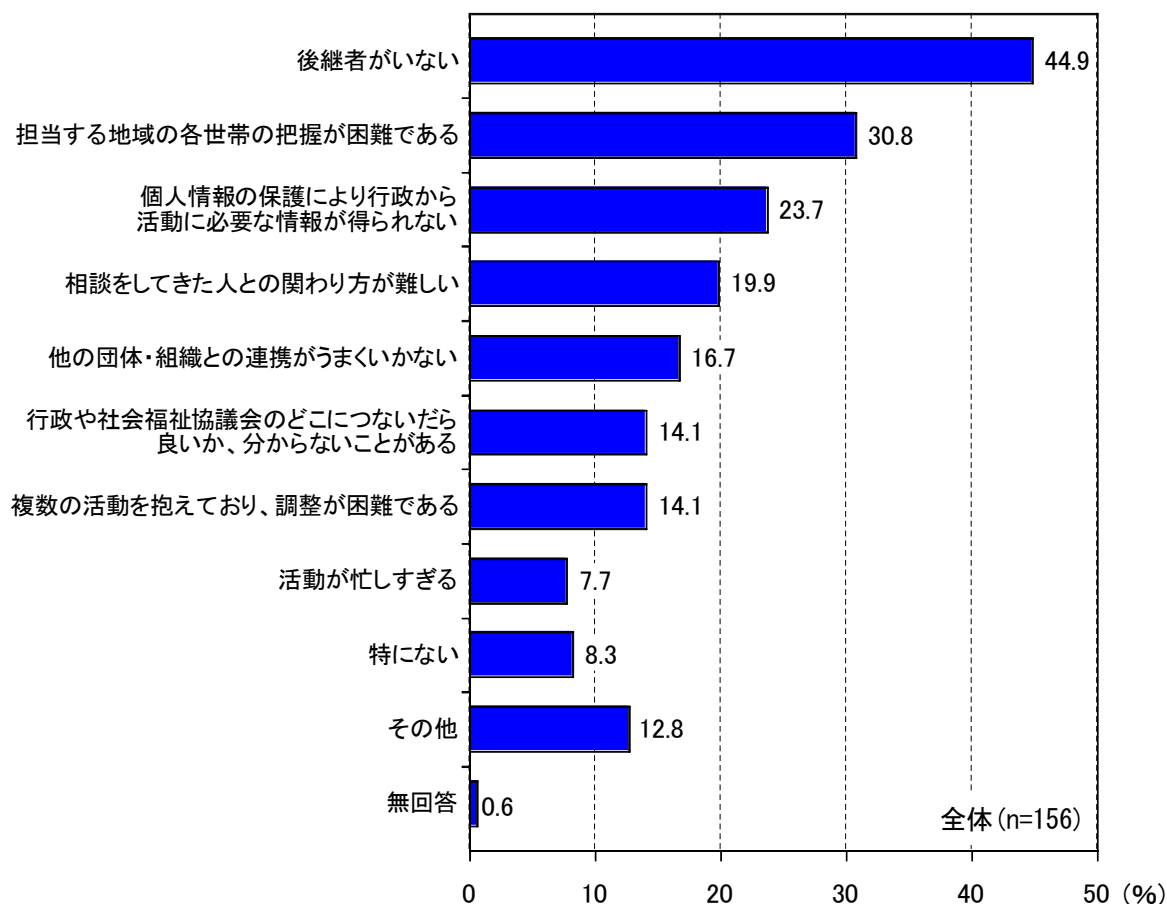
### 《自治会長》

活動する中で抱えている課題は、「複数の活動を抱えており、調整が困難である」と「後継者がいない」がともに57.9%で最も高くなっています。次いで「活動が忙しすぎる」が52.6%となっています。



## 《民生委員・児童委員》

活動する中で抱えている課題は、「後継者がいない」が44.9%で最も高くなっています。次いで、「担当する地域の各世帯の把握が困難である」が30.8%、「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報が得られない」が23.7%となっています。

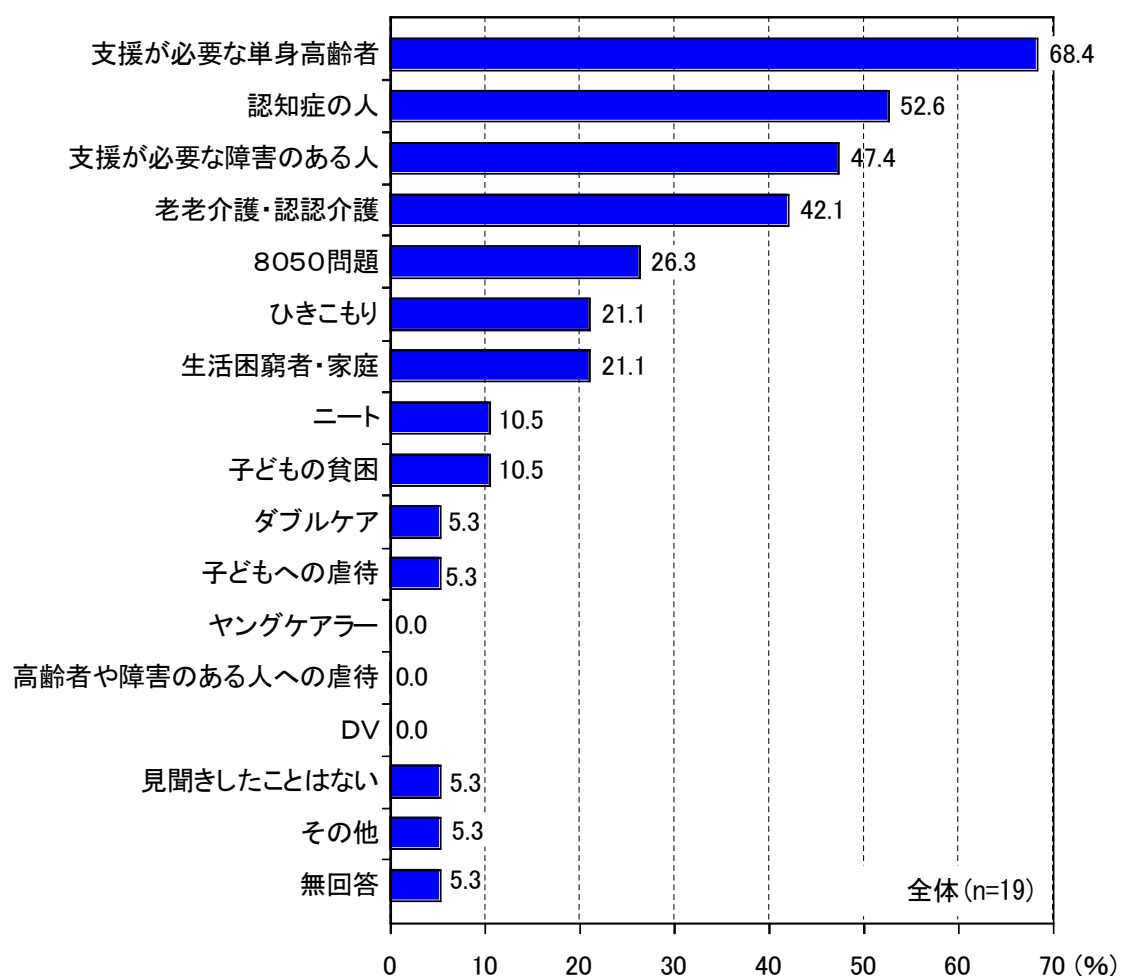


### ③活動している地区内で今後支援が必要な人

問7 あなたが活動されている地区で、以下の様な人を見聞きしたことがありますか。(複数回答)

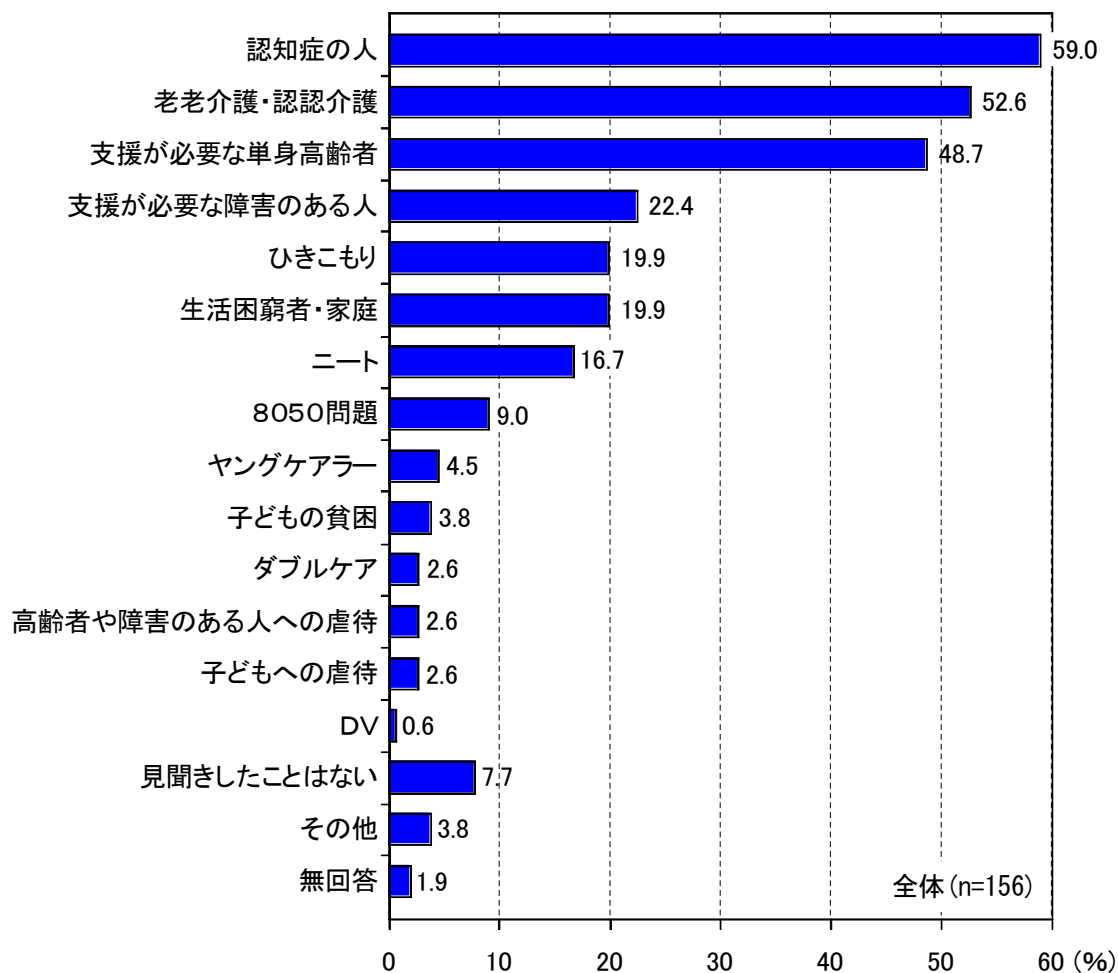
#### 《自治会長》

活動する地区で見聞きしたことがある人は、「支援が必要な単身高齢者」が68.4%と最も高くなっています。次いで「認知症の人」が52.6%、「支援が必要な障害のある人」が47.4%、「老老介護・認認介護」が42.1%となっています。



### 《民生委員・児童委員》

活動する地区で見聞きしたことがある人は、「認知症の人」が59.0%と最も高くなっています。次いで「老老介護・認認介護」が52.6%、「支援が必要な単身高齢者」が48.7%となっています。



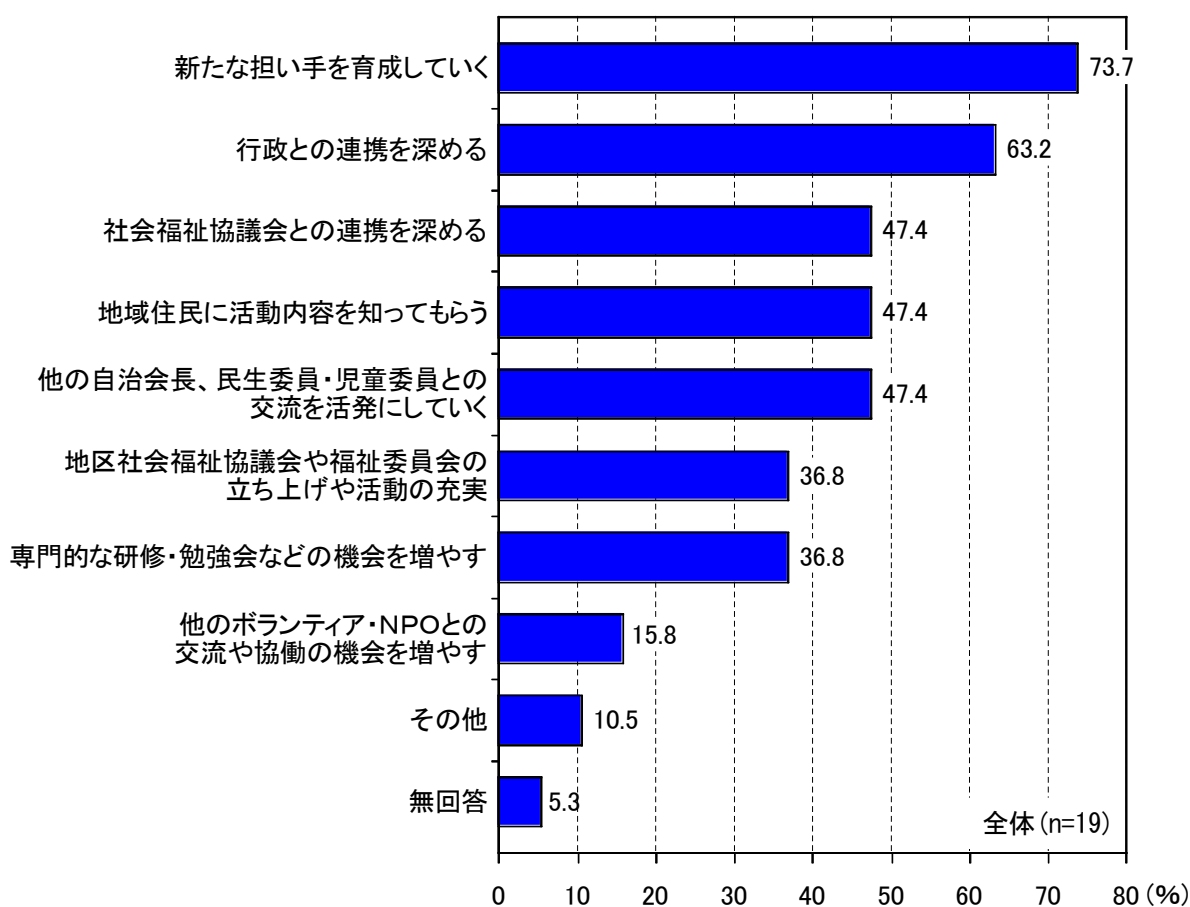


④要支援者に対して地域での支え合いを活性化させるために必要な取り組み

問8 今後、支援が必要な人に対して、地域での支え合いをより活性化していくために、特に必要なことは次のうちどれだと思いますか。(複数回答)

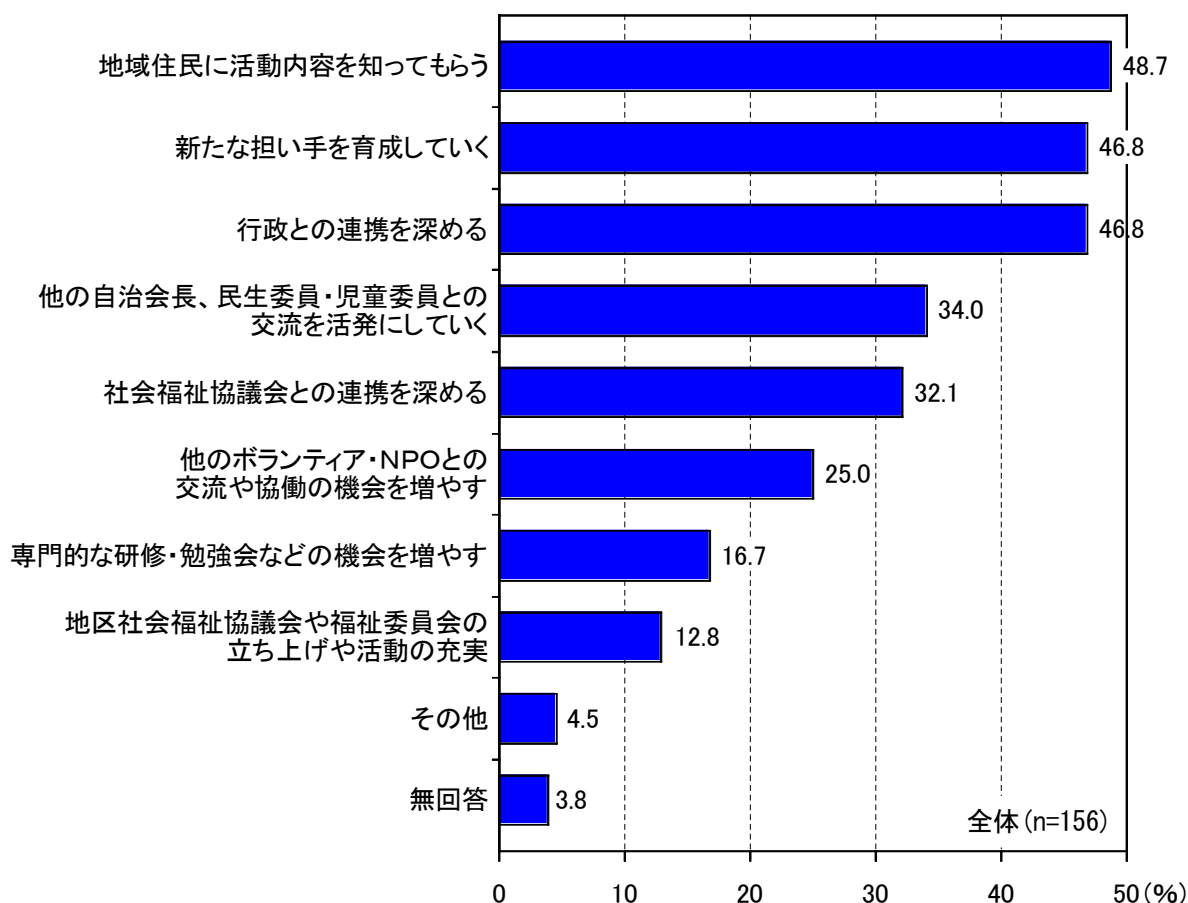
《自治会長》

地域での支え合いをより活性化していくために必要な取り組みは、「新たな担い手を育成していく」が73.7%で最も高くなっています。次いで「行政との連携を深める」が63.2%となっています。



## 《民生委員・児童委員》

地域での支え合いをより活性化していくために必要な取り組みは、「地域住民に活動内容を知ってもらう」が48.7%で最も高くなっています。次いで「新たな担い手を育成していく」と「行政との連携を深める」がともに46.8%となっています。



⑤地域や周辺的环境

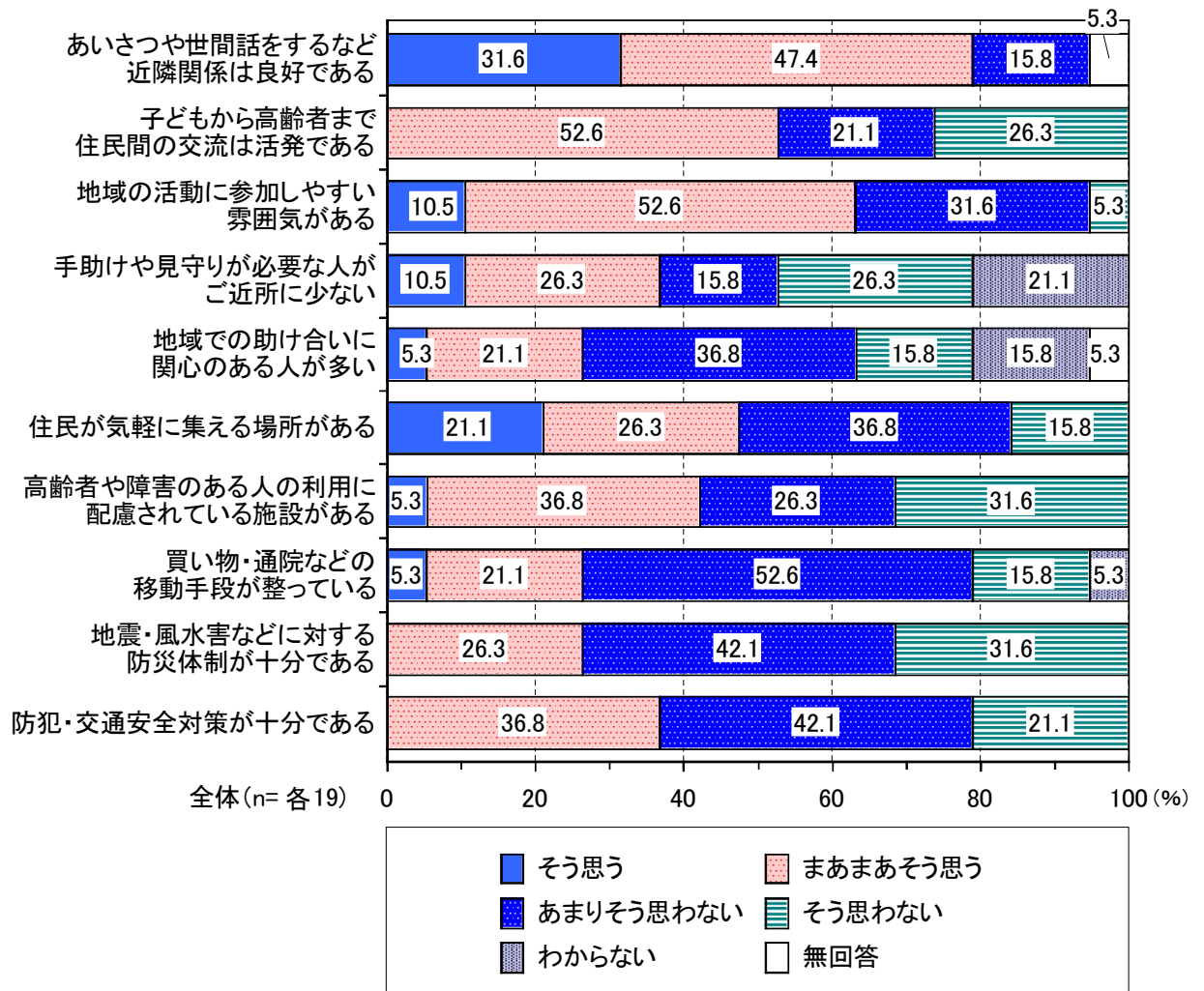
問9 あなたの住んでいる地域や周辺的环境についてどう思いますか。(単数回答)

《自治会長》

地域や周辺的环境について、「あいさつや世間話をするなど近隣関係は良好である」は「そう思う」と「まあまあそう思う」合わせた割合は79.0%と最も高くなっています。

次いで、「そう思う」と「まあまあそう思う」を合わせた割合が高いのは「地域の活動に参加しやすい雰囲気がある」の63.1%で、さらに「子どもから高齢者まで住民間の交流は活発である」の52.6%となっています。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高いのは、「地震・風水害などに対する防災体制が十分である」が73.7%で最も高く、次いで、「買い物・通院などの移動手段が整っている」の68.4%、「防犯・交通安全対策が十分である」の63.2%が高くなっています。

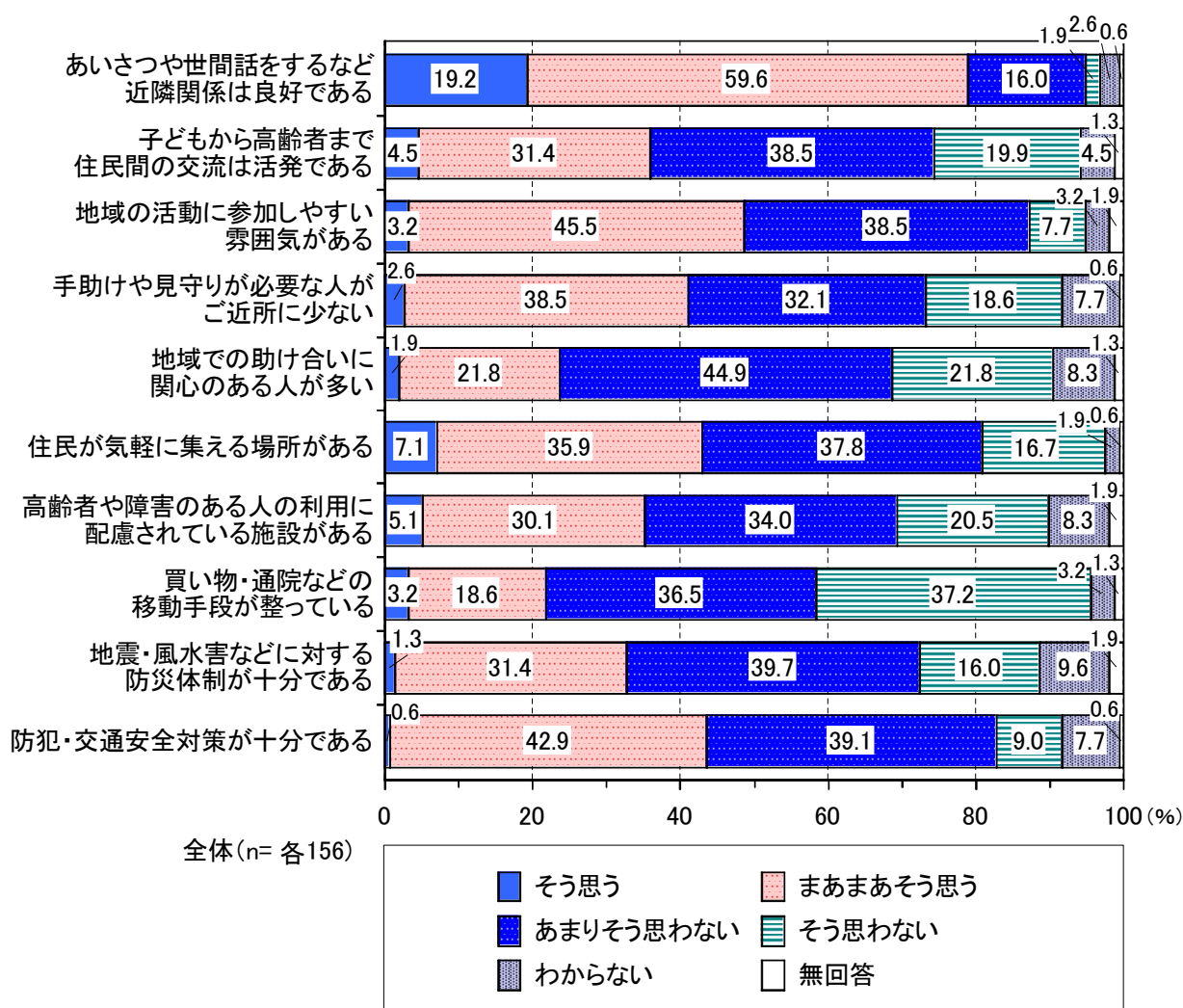


《民生委員・児童委員》

地域や周辺的环境について、自治会長と同様に「あいさつや世間話をするなど近隣関係は良好である」は「そう思う」と「まあまあそう思う」合わせた割合は78.8%と最も高くなっています。

次いで「そう思う」と「まあまあそう思う」を合わせた割合が高いのは「地域の活動に参加しやすい雰囲気がある」の48.7%となっています。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合が高いのは、「買い物・通院などの移動手段が整っている」が73.7%で最も高くなっています。次いで、「地域での助け合いに関心のある人が多い」が66.7%で高くなっています。



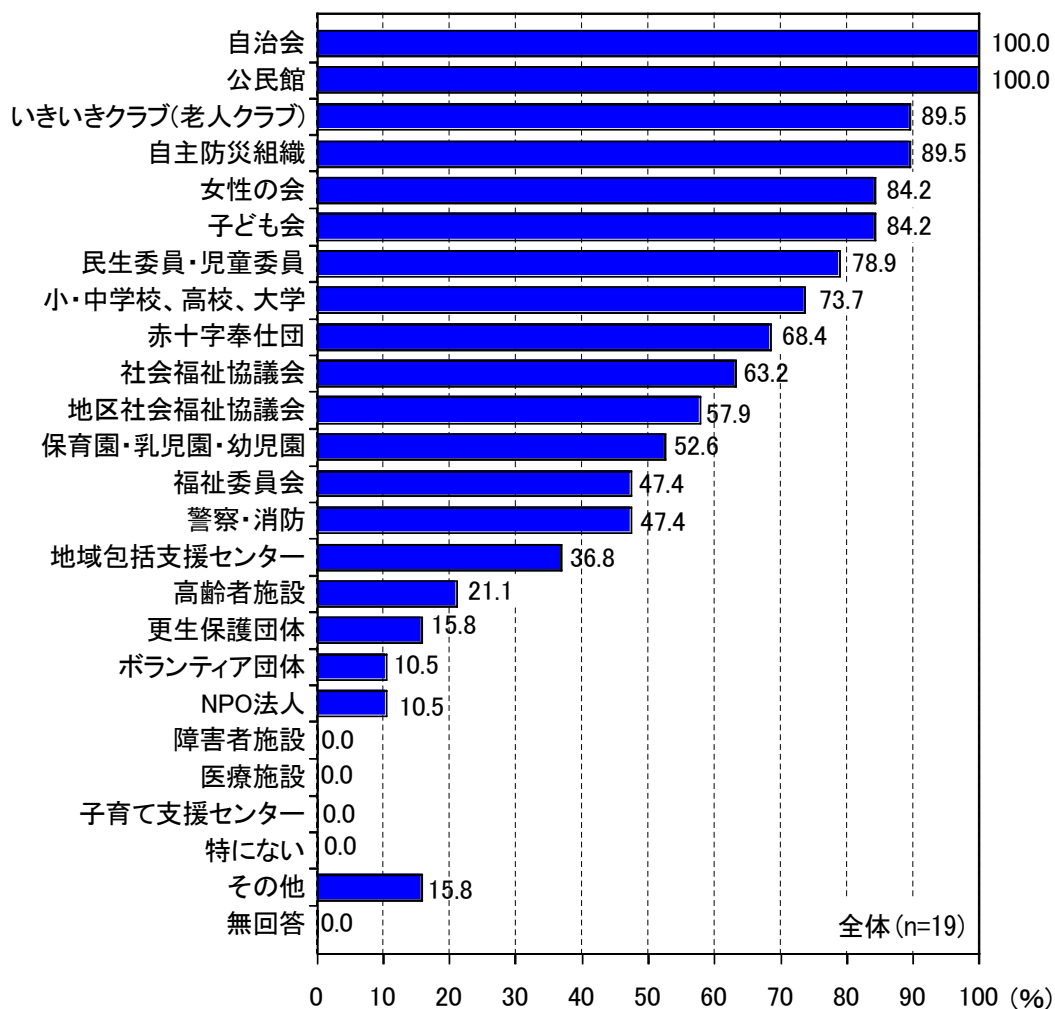
### (3) 他団体との連携について

#### ①他団体などとの連携の状況

問 10 あなたは、地域での活動の際に、どのような団体などと連携して活動されていますか。(複数回答)

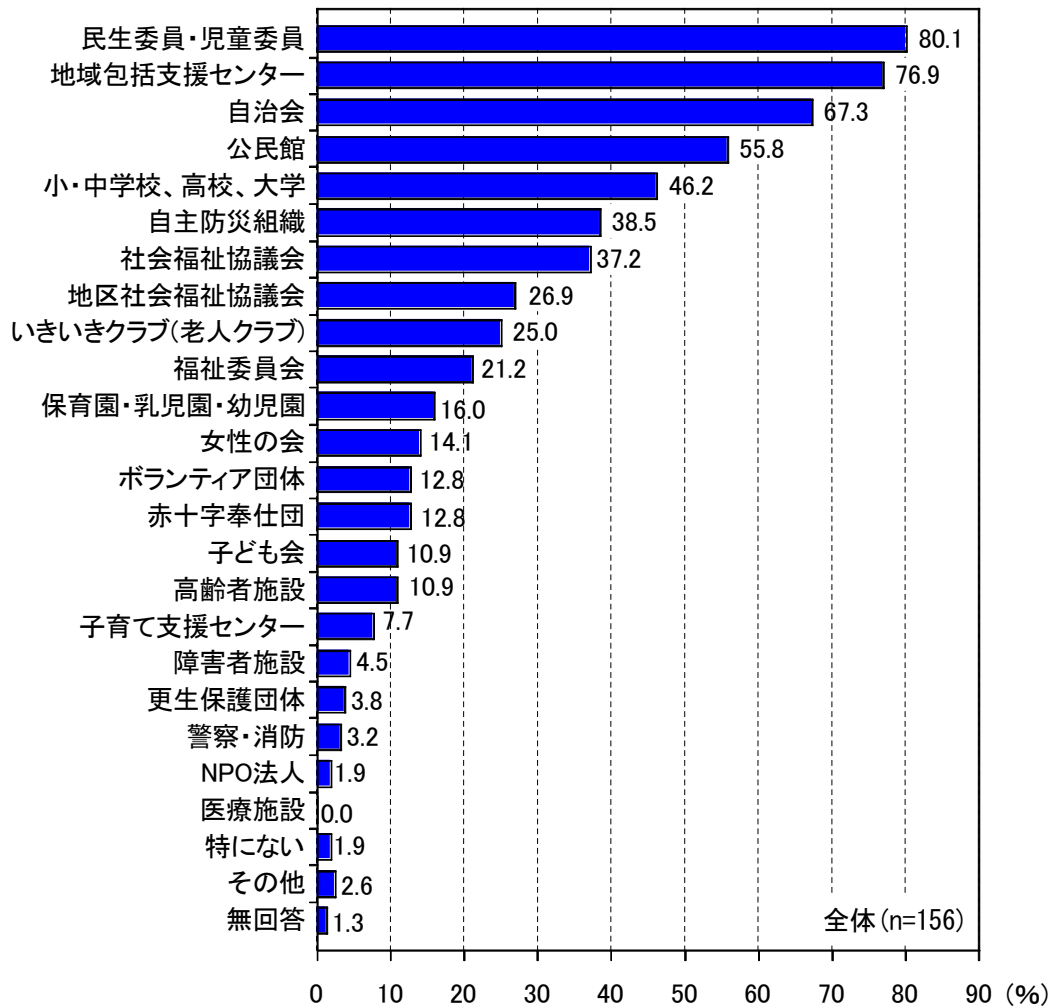
#### 《自治会長》

連携している団体は、「自治会」「公民館」はともに 100.0%となっており、次いで「いきいきクラブ(老人クラブ)」と「自主防災組織」がともに 89.5%、「女性の会」と「子ども会」がともに 84.2%と高くなっています。



## 《民生委員・児童委員》

連携している団体は、「民生委員・児童委員」が80.1%で最も高くなっており、次いで、「地域包括支援センター」の76.9%、「自治会」の67.3%が高くなっています。

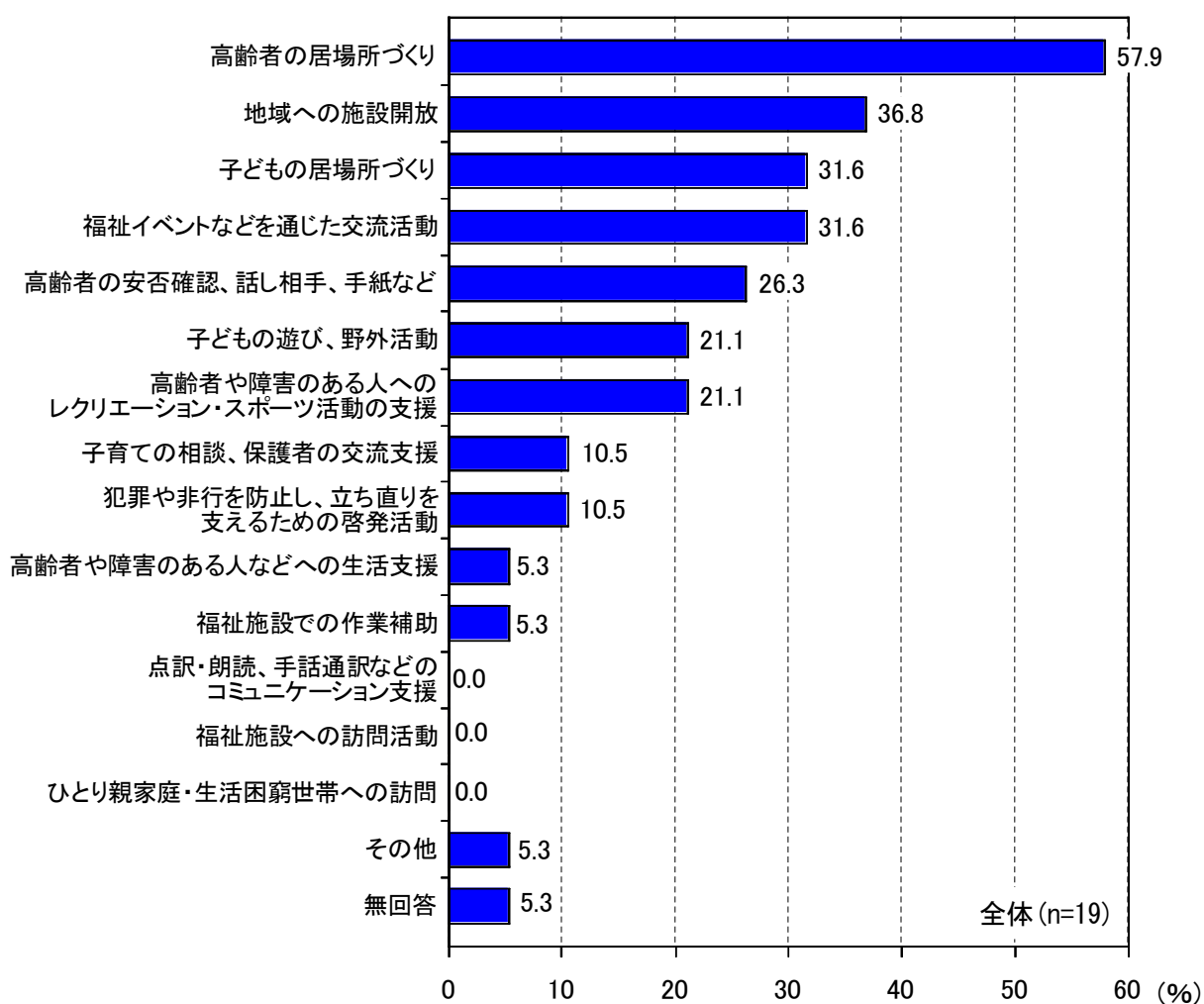


②他の団体などと連携して行っている活動

問11 他の団体などと連携して行っている活動は、どのような活動ですか。  
(複数回答)

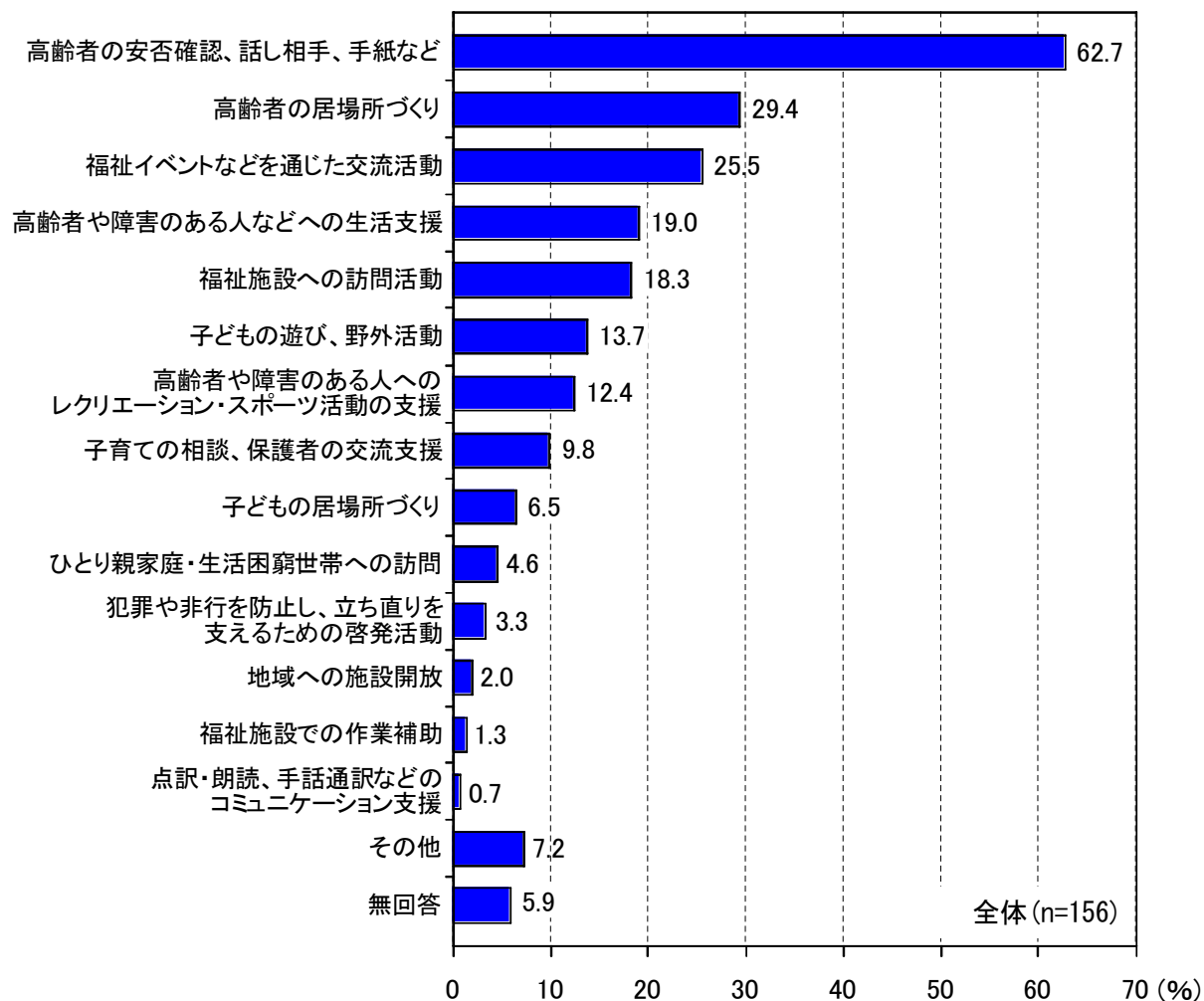
《自治会長》

他の団体との連携して行っている活動は、「高齢者の居場所づくり」が57.9%で最も高くなっています。次いで「地域への施設開放」の36.8%、「子どもの居場所づくり」と「福祉イベントなどを通じた交流活動」の31.6%が高くなっています。



### 《民生委員・児童委員》

他の団体との連携して行っている活動は、「高齢者の安否確認、話し相手、手紙など」が62.7%で最も高くなっています。次いで「高齢者の居場所づくり」の29.4%、「福祉イベントなどを通じた交流活動」の25.5%が高くなっています。



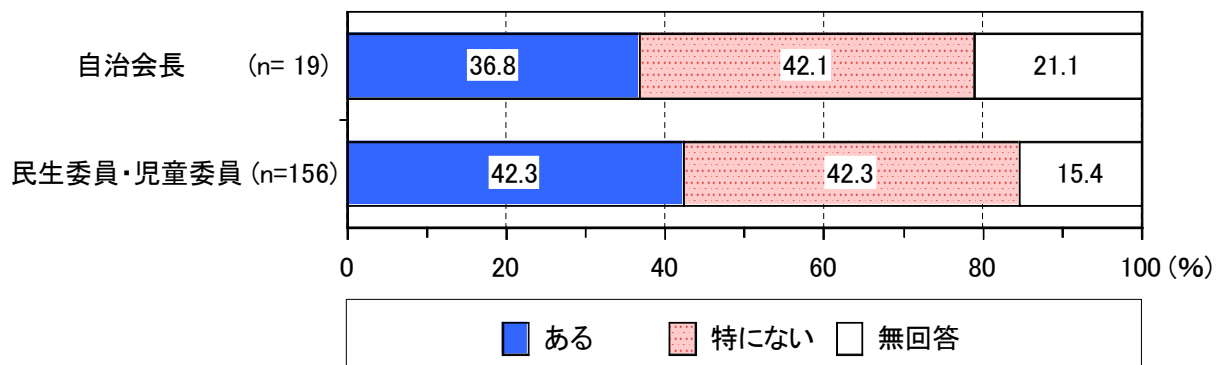


### ③今後連携したい組織や団体の有無

問 12 今後活動を行う中で連携したい組織や団体はありますか。

今後活動を行う中で連携したい組織や団体は、自治会長では、「ある」が36.8%となっています。

民生委員・児童委員では、「ある」が42.3%となっています。



④今後連携したい組織や団体

<問 12 で「ある」と回答した人対象>

問 13 これから連携をしたい組織や団体はどこですか。(複数回答)

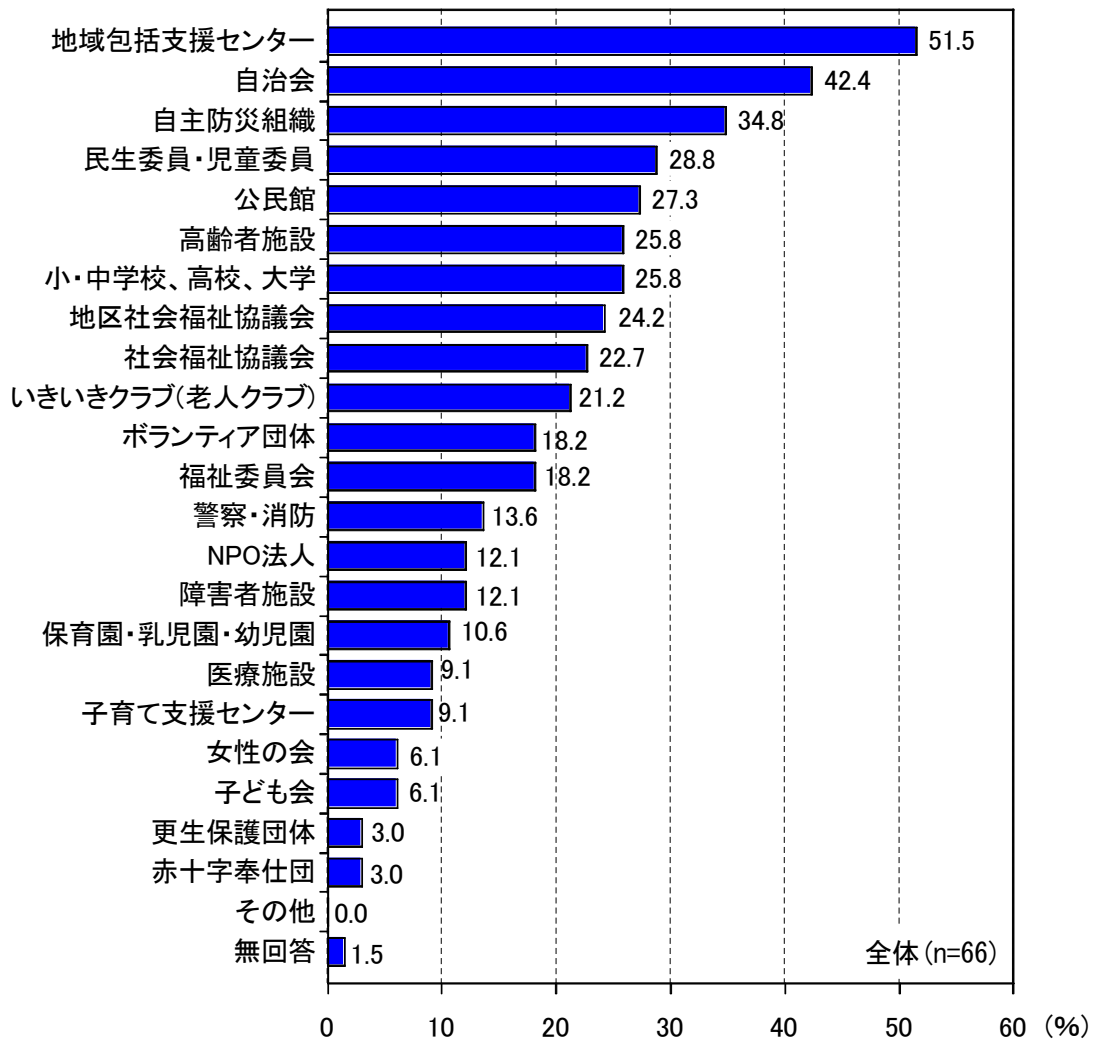
《自治会長》

これから連携をしたい組織や団体は、「ボランティア団体」、「小・中学校、高校、大学」がともに3件で最も高くなっています。

今後連携したい組織や団体	件数 (n=7)
ボランティア団体	3
小・中学校、高校、大学	3
自治会	2
公民館	2
子ども会	2
NPO 法人	2
社会福祉協議会	2
地区社会福祉協議会	2
自主防災組織	2
いきいきクラブ(老人クラブ)	1
女性の会	1
障害者施設	1
医療施設	1
福祉委員会	1
民生委員・児童委員	1
赤十字奉仕団	1
警察・消防	1
高齢者施設	0
保育園・乳児園・幼稚園	0
地域包括支援センター	0
子育て支援センター	0
更生保護団体	0
その他	0
無回答	0

## 《民生委員・児童委員》

「地域包括支援センター」が51.5%で最も高くなっており、次いで「自治会」の42.4%が高くなっています。



⑤他の組織や団体と連携したい内容

問 14 問 13 の回答について、なぜその組織や団体と連携をしたいと思いますか。  
 選択した番号と連携したい内容を記入してください。

自治会長からは7件、民生委員・児童委員からは74件の意見が寄せられました。

《自治会長》

・多くの組織・団体との連携が必要とする意見、防災面から自主防災組織やボランティア団体と連携が必要とする意見など

【連携先】 連携したい内容
【小・中学校、高校、大学】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】 特に防災の面では連携が必要
【自治会】【公民館】【いきいきクラブ】【女性の会】【子ども会】【医療施設】 【保育園・乳児園・幼稚園】【小・中学校、高校、大学】【地域包括支援センター】 【民生委員・児童委員】【赤十字奉仕団】【自主防災組織】【警察・消防】 地域役員との交流
【自主防災組織】 刈谷市に防災育成センターを新設したい
【自治会】【公民館】【いきいきクラブ】【子ども会】【社会福祉協議会】 【地区社会福祉協議会】【保育園・乳児園・幼稚園】【小・中学校、高校、大学】 【地域包括支援センター】【子育て支援センター】【民生委員・児童委員】 【更生保護団体】【赤十字奉仕団】【自主防災組織】【警察・消防】 地域住民の意識を高めるために、多くの組織・団体との連携が必要だ。そこからすべてが始まると思う。問題点・課題を感じるため、見つけられるようにするために、まずは連携をと考えている。
【ボランティア団体】 災害の時に頼りになる団体だと思う。
【いきいきクラブ】【自主防災組織】【安全パトロール隊】 今後も関わりのある組織
【障害者施設】 障害者施設の内容、建物内で実施されていること等を知りたい。

《民生委員・児童委員》

- ・自治会、高齢者施設、障害者施設、地域包括支援センターなどと支援者情報の共有を図りたいとする意見、NPO法人、高齢者施設、障害者施設、更生保護団体等に対して活動内容を詳しく知りたいとする意見、自治会、自主防災組織と連携して避難行動要援護者の対策を含め地域の防災体制を強化したいとの意見など

【連携先】 連携したい内容
【高齢者施設】【地区社会福祉協議会】 自身が高齢者となり関心がある。無関心ではられない。
【自治会】【公民館】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】 自治会に加入している人への支援は組長さんなどもわかると思いますが、加入されていない家の家族構成など、どの程度知っているのかわからないので、協力していけたら良いと思います。
【自治会】 地区に住む上で避けて通れない町内会の役員を高齢・足が不自由などで受けられない時の対応を相談されたことがあり、自治会との連携は必要かと思う。
【子ども会】【ボランティア団体】【保育園・乳児園・幼稚園】【小・中学校、高校、大学】 【子育て支援センター】 子どもの活動や生活実態がわかる取り組みをしたい。
【地域包括支援センター】 高齢者支援の充実。福祉情報の共有。
【小・中学校、高校、大学】 若い大学生の皆さんの力を借りて、子ども達と遊びの場、居場所作りを進めたい。
【自治会】【公民館】【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】【福祉委員会】 【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】 高齢者の世帯把握、相談などの対応方法をスムーズに処置する活動の向上。
【ボランティア団体】 企業ボランティアの人と連携し、高齢者住宅のそうじ等の内容ができないか？
【自治会】【自主防災組織】 地震、風水害など、高齢者の防災体制が心配。もう少し、連携を具体的にした方が良く思う。
【自主防災組織】 「地域住民ともっと身近になる事」をめざしたい。
【いきいきクラブ（老人クラブ）】 元気な高齢者と一緒に、外に出るように声掛けをしていきたい。 【高齢者施設】 入所したら、そのままという状態を改善したい。
【地域包括支援センター】 活動内容などをよく知りたい。
【自治会】【いきいきクラブ（老人クラブ）】 高齢者の「いこいの場」の提供。 【自主防災組織】 避難行動要支援者の異常時の支援対応。

【連携先】 連携したい内容
<p>【地域包括支援センター】 先輩の民生委員から困った事があつたら、地域包括支援センターに連絡するといいとアドバイスされたから。</p>
<p>【ボランティア団体】 ボランティア団体の活動内容を知りたい。</p>
<p>【保育園・乳児園・幼稚園】【小・中学校、高校、大学】【警察・消防】 朝の通学、通勤の時間と、高齢者の散歩の時間が重なり、安全の見守りに少々不安を感じている。</p>
<p>【NPO法人】 活動内容を知りたい。子どもが、参加できる活動を増やしたい。</p>
<p>【高齢者施設】 高齢者施設。子どもと高齢者が触れ合うことで、お互いに良い影響を与えられると思う。</p>
<p>【高齢者施設】【障害者施設】【地域包括支援センター】【自主防災組織】 老人が気軽に集える場がほしい。</p>
<p>【障害者施設】 障害者の人との交流をしたいから。</p>
<p>【自治会】【地区社会福祉協議会】【福祉委員会】【地域包括支援センター】 【民生委員・児童委員】【自主防災組織】 災害時にひとり暮らしのお年寄りに対し、何ができるのか、自治会や防災にかかわっている方と連携できると良いと思う。</p>
<p>【公民館】 地域の横のつながりが薄く、役（地区委員、民生委員、女性の会、子ども会）をやればその時だけで、つながりが消えてしまう。</p>
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】【子ども会】 子どもと高齢者が触れ合う、町の縁側のような場所が作れたら良いと思うので。</p>
<p>【高齢者施設】【障害者施設】【地区社会福祉協議会】 それぞれ団体の活動状況が見えてこない。</p>
<p>【自治会】 地域の人とのつながりが大切だと思う。</p>
<p>【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】 業務内容の対応方法が明らか（既知）ではないので、都度相談がなければ前に進めないため。 （地域包括支援センター／継続・拡大、民生委員・児童委員／継続）</p>
<p>【ボランティア団体】 ボランティア団体の内容を知りたい。</p>
<p>【更生保護団体】 雇用主会に入っているため、お互いの活動をともに知りたい。</p>
<p>【小・中学校、高校、大学】 地域に対する意識作りの育成。</p>
<p>【自主防災組織】【警察・消防】 危機管理の必要性。いざという時の行動確認。</p>

【連携先】 連携したい内容
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】 老人の居場所づくり</p> <p>【高齢者施設】 人手の少なさの補助</p> <p>【障害者施設】 人手の少なさの補助</p>
<p>【ボランティア団体】【NPO法人】【高齢者施設】【障害者施設】【医療施設】 【自主防災組織】【警察・消防】 「つなぎ役」として自分自身がそれぞれの組織、団体と人脈を作っておかないと適切でタイムリーな活動が十分にできないと危惧するから。</p>
<p>【自治会】 地域の人の交流の場としての公園整備</p> <p>【自治会】【ボランティア団体】 高齢者サロンのお手伝い</p> <p>【小・中学校、高校、大学】 子どもの見守り活動</p>
<p>【小・中学校、高校、大学】 子どもたちの安心・安全な居場所づくりを一緒に進めていきたい。</p> <p>【自主防災組織】 近隣の高齢者を地区で見守り、支援できるようにしていきたい。</p>
<p>【医療施設】 災害時、傷病者に対して自治会（自主防災会）との連携をどのように行っていくのか。</p> <p>【福祉委員会】 幼い子ども、親、先生とのつながりを持って、成長を見守りたい。</p> <p>【小・中学校、高校、大学】 高校も避難所として指定されているが、体育館以外の校舎の使用範囲がわからない。平常時に話し合っておきたい。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【自主防災組織】 災害が起きたときにどうしたら高齢者、障害者を助けられるか連携したい。</p> <p>【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】【福祉委員会】 この3つに所属しているが、1年に1回総会に出席するだけで関わりがない。連携する場があるといい。</p>
<p>【医療施設】 高齢者の方などが具合が悪くなった場合、緊急の程度の見極め、対処などアドバイスがほしい。</p>
<p>【自治会】【福祉委員会】【地域包括支援センター】【自主防災組織】 地域の住民を把握して、よりよい支援をしたい</p> <p>【社会福祉協議会】 支援の内容を高めたい</p>

【連携先】 連携したい内容
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【ボランティア団体】 【小・中学校、高校、大学】【自主防災組織】 地域の状況を把握、共有するため。 【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】 支援の必要な人の相談、行政へつなぐ。</p>
<p>【自治会】【公民館】【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】 情報交換</p>
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】 いきいきクラブの人たちとともにクラブに参加していない人たちのサポート。 【NPO法人】 必要としている人たちとNPO法人の活動をつなぐこと。 【子育て支援センター】 前向きに支援を受けることのできない保護者とセンターをつなぐこと。</p>
<p>【自主防災組織】 自主防災組織と民生委員のつながりが弱いため</p>
<p>【高齢者施設】 認知症のため、施設入所されている。顔を見るだけでも良いと思い、時々見に行く。施設の方からも連絡があり、安心できる。</p>
<p>【自治会】 防災、地域福祉の強化のため。 【地域包括支援センター】 支援、見守り強化のため。</p>
<p>【高齢者施設】 単身高齢者の交流、居場所の提供を進めたい。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【ボランティア団体】【福祉委員会】 各団体連携することにより、老人から子どもたちのとのふれあいができたり、行動がわかったりするから</p>
<p>【自治会】 世帯調査で訪問した際、留守等で全く調査ができない時があるが、そういう時に、近所の情報があれば教えてほしい。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【社会福祉協議会】 高齢者の交流活動を活発にしたい。 【小・中学校、高校、大学】 交通安全や防犯面の強化をしたい。 【地域包括支援センター】 高齢者への福祉サービス等を広げたい。 【民生委員・児童委員】 困っている事の相談や情報の共有を強化する。 【自主防災組織】 避難行動要支援者にどのような支援をするのか検討強化。</p>
<p>【社会福祉協議会】 生活支援（金銭管理や貸付金等の紹介など）。</p>



【連携先】 連携したい内容
<p>【地域包括支援センター】 困難事例等のケース相談など。</p> <p>【民生委員・児童委員】 情報共有や各種研修など。</p> <p>【警察・消防】 地域の見守りや防犯対策など。</p>
<p>【自治会】 風水害などのハザードマップを地域ごとに作り、高齢者の自宅をきちんと把握し、避難しなければいけない時、誰が誰を支えるかなど考えておくべき。</p> <p>【高齢者施設】 近所の高齢者にどういうところがあるのか、どういう特色、内容をそれぞれに知り、知らせたい。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【女性の会】【子ども会】 【高齢者施設】【医療施設】【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】【福祉委員会】 【保育園・乳児園・幼児園】【地域包括支援センター】【子育て支援センター】 【民生委員・児童委員】【自主防災組織】【警察・消防】 民生、児童委員の立場が、各団体にとってどういう位置づけになっているのか、今後知っていききたい。</p>
<p>【自治会】 地域の問題はまず地域で解決したい。</p> <p>【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】 民生委員活動を支えてくださる組織。</p> <p>【自主防災組織】 高齢者の問題として災害が起こった時の避難手段は大きなことだから。</p>
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】 高齢者同士の交流を広めたい。</p> <p>【高齢者施設】 見学会などに積極的に参加し実情を知りたい。</p> <p>【地域包括支援センター】 いろいろ相談にのってもらえる。</p> <p>【民生委員・児童委員】 ほかの地区の民生委員の方達とも交流し、意見交換ができれば良い。</p>
<p>【保育園・乳児園・幼児園】 就学前の子ども 2 人だけで道路を横断するところを目にすると育児放棄かな？とか思うので、保育園、幼稚園からの情報がほしい。</p>
<p>【地域包括支援センター】【自主防災組織】 災害の時、地区、一市民として、近所の助け合い、連携について。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】 災害が起きた時に情報を共有したい。</p> <p>【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】 現在、連携していると思うが、まだ個人の情報だけでは十分でないので、続けていきたい。</p>

<b>【連携先】 連携したい内容</b>
<b>【高齢者施設】【障害者施設】【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】</b> <b>【地域包括支援センター】</b> 自分で今何をしようと考えていることはないが、協力する気はある。
<b>【高齢者施設】</b> 高齢者の状況を把握したい。 <b>【小・中学校、高校、大学】</b> 小、中学生の様子を知りたい。
<b>【地域包括支援センター】</b> 単身高齢者の把握。 <b>【自主防災組織】</b> 避難行動要支援者の手助け。
<b>【自治会】【自主防災組織】</b> 毎年市が調査している災害時における避難行動要支援者への対応について、具体的な方策を検討し、整備する必要がある。
<b>【子育て支援センター】</b> 私の地域ではマンションなどが増えています。と同時に、核家族などがとても多いと思います。その中で子育てに悩んでいる人が多いのではないのでしょうか。そういうお父さん、お母さんに少しでも手を差し伸べることができればと思います。
<b>【地域包括支援センター】</b> 他の民生委員の困っている事例に似たケース（支援者の通院対応）があり、その時は家族の方が対応してくれることになり、連絡することはなかったが、すぐ対応してくれるとアドバイスされたので、今回は支援者に進めてみようと思ったため。
<b>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【小・中学校、高校、大学】</b> <b>【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】</b> ひとり暮らしの高齢者が集まれる場所づくりを共に進めたい。 とにかく外に出て、いろいろな人と話をするのが大事だと思います。
<b>【いきいきクラブ（老人クラブ）】</b> 老人クラブに入ることにより、友達を作ったり、おしゃべりをしたり、また同じ趣味を持ったりで、家にこもっているよりはよいと思う。
<b>【自治会】【公民館】【高齢者施設】【医療施設】【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】</b> <b>【保育園・乳児園・幼児園】【小・中学校、高校、大学】【地域包括支援センター】</b> <b>【民生委員・児童委員】</b> 活動するにあたり情報があつたらよいと思います。
<b>【保育園・乳児園・幼児園】</b> 身近な範囲の見守り、助け合う活動。
<b>【いきいきクラブ（老人クラブ）】【民生委員・児童委員】【赤十字奉仕団】【自主防災組織】</b> 地区防災について、定期的に会合がもたれているため、参加しやすいから。 今後災害が起こることが想定されるため、必要だと思う。
<b>【自治会】【公民館】【小・中学校、高校、大学】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】</b> 実際に大きな災害が起こった時に、自分が委託されている地域の方々の安否確認が必要となりますが、その時に大人だけでなく、子どもたちを何人かのグループにして、小さな地域を

【連携先】 連携したい内容
確認してもらったり、メッセージャーとして動いてもらったり、その際、自主防災組織の大人の人と一緒にだと判断に困ったときに助けになると思いました。
【自治会】 ひとり暮らしの高齢者などの災害活動に対し、連携が必要であるため。
【地域包括支援センター】 高齢者が安心してひとりでも自宅で暮らせるように。
【女性の会】【子ども会】【ボランティア団体】【NPO法人】 一緒に活動する中でいろいろな情報を手に入れたい。 【障害者施設】【保育園・乳児園・幼稚園】【子育て支援センター】 交流がほとんどなく、実態を知りたい。
【子育て支援センター】 いろいろな角度から見ることによって解決方法を見いだせるのではないか。
【ボランティア団体】 ひとり暮らしの高齢者が気軽に集え、話し合える場所づくり。
【いきいきクラブ（老人クラブ）】 いきいきクラブとは、特に交流がないので、交流を深め、高齢者の居場所づくりを共に進め、生活の質の向上に努めたい。
【NPO法人】 どういう活動をしている団体なのか、我々と連携できる内容なのかを知りたい。 【高齢者施設】【障害者施設】 施設の内容（どういった患者さんでどのようなケアをしているか）。 【警察・消防】 やはり困ったときは警察を頼りたいが、拒否されることも多い（警察の仕事ではない）。しかし、連携は強めておきたい。
【自治会】【女性の会】【NPO法人】 若者の居場所、困りごとの相談に乗れる手助けがしたい。

⑥他の組織・団体と連携する上で困っていること

問 15 他の組織・団体と連携しようとする上で困っていることがあれば教えてください。

自治会長からは1件、民生委員・児童委員からは25件の意見が寄せられました。

《自治会長》

- ・障害者の方の実状を知ることが難しいとの意見

【連携先】	連携したい内容
【障害者施設】	組織・団体と連携でないが、障害者の家庭を知っているが、家族の人が話を外に漏らしたがない。それ以上関わることを望まないの、次のステップに入っていけない。

《民生委員・児童委員》

- ・他の組織・団体を知る・交流する機会・場がないといった意見、その結果理解が進まないといった意見、地域のつながりが希薄になっているといった意見、個人情報関係で関係を密にできない、情報が共有できていないといった意見など

【連携先】	連携したい内容
【無回答】	やたらに個人情報が、と言われてなかなか踏み込めない。
【その他（今まで通りでよい）】	自治会等は年度ごとにメンバーが変わり、理解のないまま活動することが多い。コロナで希薄になっていることに慣れてしまっていることが多い。その間に時代も動いていて、難しいと感じることが多い。
【NPO法人】【高齢者施設】	連携手段がわからない。
【いきいきクラブ（老人クラブ）】【子ども会】	本当に必要な活動は何か、形ばかりのものは減らして、その分、中身のある活動をしたい。時間を作るのが大変だからです。
【いきいきクラブ（老人クラブ）】【高齢者施設】【障害者施設】	情報の共有が少ないので、個単位的活動になっていると思う。
【ボランティア団体】【NPO法人】【高齢者施設】【障害者施設】【医療施設】 【自主防災組織】【警察・消防】	まず顔合わせの場がほしい。
【医療施設】【福祉委員会】【小・中学校、高校、大学】	自治会加入者が減少した。いきいきクラブ、女性会、子ども会等は自治会加入者の会なので、行事の参加者も減り、顔の見える関係や結びつきが弱くなった。そのため、組織力が弱まり、他の団体との連携につなぐことができない。

【連携先】 連携したい内容
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【社会福祉協議会】 【地区社会福祉協議会】【福祉委員会】【自主防災組織】 他の組織、団体の人と知り合うきっかけがほしい。話せる人がいての連携だと思う。</p>
<p>【医療施設】 単身で高齢であり、身内もなく、協力者もない方に、どのように、どこまで手助けをしたらいいのか、困ります。</p>
<p>【自治会】【社会福祉協議会】【福祉委員会】【地域包括支援センター】【自主防災組織】 情報の共有が難しい。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【ボランティア団体】 【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】【小・中学校、高校、大学】 【地域包括支援センター】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】 他の組織団体との交流が少ない。</p>
<p>【自治会】【公民館】【社会福祉協議会】【地域包括支援センター】 個人情報の関係上情報を密にできない。</p>
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】【NPO法人】【子育て支援センター】 お互いの活動が相互にうまく理解できていないこと。</p>
<p>【自主防災組織】 自治会長の考え方に温度差があり、連携が取れるところと連携がとりにくいところがある。</p>
<p>【自治会】【高齢者施設】 地区で一人住まいの老人の方とお茶会を開催しています。〇〇自治会の肝いりで始めましたが、集会所は場所をタダで貸してやっているという態度で、皆で盛り上げていこうという姿勢が見えず、民生委員の勝手な活動だろうという感じが否めません。</p>
<p>【自治会】【公民館】【いきいきクラブ（老人クラブ）】【地域包括支援センター】 【民生委員・児童委員】 やらなければいけないことが多く、時間が作れない。</p>
<p>【自治会】【自主防災組織】 （避難行動要支援者への対応について） 上記の件について、個人情報に関係者で共有する必要があり、難しい。 地区自治会への加入者が減少している中で、会員外を含めた対応は難しい。</p>
<p>【地域包括支援センター】 まだ1年目でわからないことも多く、どこに連絡したらよいか分かっていないので、先輩方のアドバイスをいただくとありがたいです。</p>
<p>【自治会】【公民館】【高齢者施設】【医療施設】【社会福祉協議会】【地区社会福祉協議会】 【保育園・乳児園・幼児園】【小・中学校、高校、大学】【地域包括支援センター】 【民生委員・児童委員】 組織、団体の代表者の人たちの連絡先がわかればありがたいと思います。</p>
<p>【無回答】 地域の行事に子どもたちが参加協力していただく中で、親と一緒に協力してもよいと思われているか、それとも子どもたちだけならと思われているのか。 （一緒にできないのか？ 一緒にできる楽しさがほしいかな？）</p>
<p>【いきいきクラブ（老人クラブ）】【民生委員・児童委員】【赤十字奉仕団】【自主防災組織】</p>

【連携先】 連携したい内容
<p>個人の自由を尊重することは大切だが、地区の行事や活動に無関心の人が増えている。自分の仕事を大切にすべきだが、地域の連携を必要とすることが今後起こった場合、協力したがない人が多いのは心配です。</p>
<p>【自治会】【公民館】【小・中学校、高校、大学】【民生委員・児童委員】【自主防災組織】            (災害時の安否確認に際して、子どもたちのグループをつくることについて)            上記の組織を作ろうとすると、課題はたくさんあると思いますが、まずボランティアとして協力してもらえた時に、あらかじめシミュレーションをして、小さな組織を作っておくのか、大人たちだけで話し合っ進めるのか、先日ワイワイフェスタ(野田グラウンド)の時に、たくさんの組織が集結できた時に、顔合わせだけでなく、もう少し踏み込んだ話し合いができればと思いました。</p>
<p>【女性の会】【子ども会】【ボランティア団体】【NPO法人】【障害者施設】            【保育園・乳児園・幼稚園】【子育て支援センター】            連携したいと思うが、そういう場がほとんどない。</p>
<p>【ボランティア団体】            それぞれの活動内容を知る機会がないので、まずそこが問題だと思う。</p>
<p>【いきいきクラブ(老人クラブ)】            個人情報の扱い。民生委員は自治会に加入していない人も見守り対象であるが、対象範囲が異なるため、自治会と足並みをそろえることができない時がある。</p>

⑦地域福祉を進めるための取り組み

問 16 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、必要だと思う取り組み、見聞きしたことがある取り組み、今後あなたが取り組んでみたいことなどあれば教えてください。

自治会長からは 12 件、民生委員・児童委員からは 78 件の意見が寄せられました。主な意見は次のとおりです。

《自治会長》

1) 地域のつながりに関すること

- ・地域活動に関すること、自治会離れへの対応、担い手不足、個人情報、情報発信力の強化など

自由意見
小さなことからコツコツと始めようと思っている。 労力を使わずできることから。例：伊藤園の「おーいお茶」への応募（自治会でまとめて）
地区活動に賛同する住民の確保
地域コミュニティを図っていきたいが、自治会離れが進んでおり難しい。 ご近所さんのつながりが大切だと思うので、そこらへんに力を入れてほしい。
子ども会、スポーツ推進員、赤十字奉仕団など、後継者に困っている。「70 歳定年」「共稼ぎ世代」等の時代変化に対して、いつまでも「ボランティア」で続くのか大いに疑問。やる人はいくつもの職務を兼任し、やらない人は何もやらない。頑張れば、頑張るほど、次の人を探すのが難しくなる。地区長もしかり。あらゆる業務が集中しすぎており、次の担い手を探すのは極めて困難。本末転倒かもしれないが、いかに仕事を減らすかを考えないと、今後続いていかないと思う。 すべての担い手の報酬も今のままでよいのか疑問。仕事を早くやめてでもボランティア活動をしてくれる人は少ない。
地域住民との連携ができる活動が必要
個人情報の保護意識が強すぎて、情報が入ってこない。人が亡くなっても連絡がない（地区に）
情報発信力の強化：自治会ホームページ充実、電子回覧
今年度中に地区福祉委員会を設立したい。

2) 安全・安心に関すること

- ・防災訓練、避難訓練、人材育成、子どもの安全確保など

自由意見
地域住民参加の防災訓練（地域コミュニティ）
緊急避難場開設体制確立と避難訓練
防災力向上（共助力向上）のための防災育成センターを新設して、若い人の育成に役立てたい。
子どもの安全確保

### 3) 交通手段に関すること

自由意見
高齢者の交通手段の確保

#### 《民生委員・児童委員》

#### 1) 地域のつながりに関すること

- ・ 交流機会・交流場所の確保、あいさつ・声かけ、地域のつながりの希薄化、多世代交流、担い手育成など

自由意見
助け合い、支え合える地域の基礎は近所にあると思います。隣近所の良い関係が不可欠であると考えます。そこで、各地区の組や班で実施するイベント（花見、バーベキュー、花火見学等）に対して助成する。また、そのような行事を行う場合は、市管理公園を優先的に開放する。
とにかく、集まる場、話し合える場が欲しい。そういう場を市の主催で持ってほしい。
地域のイベントを増やして、地区が交流できる場所を作ることで、その地区に愛着を持ってくれるのでは。
集まりやすい神社や、市民館、たんぼぼを使った行事など。
子ども達へのあいさつ・声かけ
高齢者（全般）の方との会話を増やせたら良いか考える。
私は声かけだと思っています。声をかけ話すことで交流が広がります。地域での交流の広がりによって、助け合う、支え合う地域に近づくのではないかと考えています。
地区の催し物に参加しながら、声かけをしていきたいと思っています。
近頃では、町内のつながりが希薄になってきている。顔のつながりは防犯にもなる。若い世帯と高齢者世帯のつながりになる何かがあればと思っています。
住民の方々に関心を持って頂く事。（広く、知って頂く事）
地区の市民館で子ども会の子どもたちが高齢の方から昔遊び（お手玉など）を教えてもらうというイベントがあり、子どもも大人も共に楽しめたそうで、良い取り組みだと思いました。
・ 高齢者施設と子育てのための施設の融合による相互支援 ・ 北部にも中部にあるような施設（ひまわりなど）の充実を希望します。
住民同士の助け合い。高齢者、子どもと関係なく知り合いたい。
核家族が多い中、子どもと高齢者が触れ合う場所づくりが大切だと思います。
最近では少なくなったけど、地域での子供会、老人会、地域の親睦をはかるような行事等。でも、難しいでしょうね。
子どもと高齢者が一緒に集える（過ごせる）ような場所作り。 （不登校の子でも行けて、過ごせる）
いずれ、両親が、自分自身が年老いる時が来る。 地域活動に参加することで、隣近所のことわかり、何が必要なのかわかることができる。そのためにも若年、中年、高年、世代別参加を促進し、今後の地域づくりの担い手を育成する。
防災、福祉等地域でがんばっておられる人はあるが、30代、40代等次の世代につなげることが難しいと実感している。
ご近所同士が仲良くする
地域が盛り上がる何かがあると良いです。



自由意見
地区社協の必要性を感じているので、取り組みたいと思う。
民生委員の中でも今お仕事をやっている方が多く、地域の活動を手伝っていただける方がいなくて困っています

## 2) 防災に関すること

- ・ 防災訓練・避難訓練、避難行動要支援者への対応など

自由意見
地区で一緒に防災訓練をしたりすることにより、多くの困難者がわかると思う。
自主防災組織。
お祭りのように防災や避難訓練ができればいいなあと思います。小学校の運動会などと連携させたり、市民館や小中学校のグラウンドを手軽に利用できると良いなあと思います。
避難行動要支援者個別計画：対象者が一時避難場所、指定避難所を知らない。周知していく。
地域内の要支援者の情報及び支援方法
避難行動要支援者への具体的な対応を検討する中で、みんなで助け合い、支え合える、地域を考える。

## 3) 自治会・町内会に関すること

- ・ 自治会非加入・脱会への対応、担い手不足への対応、隣組活動の推進、町内会・福祉委員会との連携など

自由意見
現在自治会加入世帯は減る一方、班や自治会に加入していない方は隣家でも名前もわからない、表札もない、誰が住んでいるか知らない。この現状を5～6年前から自治会、市民協働課に相談しているが、何の解決策もない。現在広報を配る人の確保も困っている。そのため、広報を配っている（毎年） 今、取り組んでいること。 組織に加入してなくても、どう近所で仲良くしていくか。今のところ、町内清掃活動が地域全員参加のため、お互い顔の見える活動で功を奏していると思う。
自治会非加入、脱会者が増加、声かけができない。 防災訓練など同じ場所に避難するのに、助け合えない。 若い世代に行事、助け合うことが大切なことを伝えたい。
委員になる方も、なり手がなく、定年退職した方が率先して活動していただけるような仕組みづくり、有償ボランティアにすることによって、率先して活動いただけるのではないかと（60代～75まで）。それからは敬老会に入会という流れを作りたい。
自治会の活用 自治会⇒地区委員⇒班長（担当世帯数10～12軒）で、班単位で生活環境、実態把握ができる隣組活動の推進
自治会、福祉委員会と協力して、高齢者を見守り支えていく。つながりを強くする。
市営住宅があり、そこには自治会がない。が、高齢者が障害をもった方の割合が他の地域より高いと思う。その見守り等のケアが隣の下重原にかかってくる。民生委員の実態調査や防災要支援の負担が他地域よりも重いので、不安である。

#### 4) 子どもに関すること

- ・子どもの居場所・遊び場、子ども食堂、子どもたちとの交流、子どもの安全確保、学校支援ボランティアなど

自由意見
実態調査等で高齢者の方々は、ある程度把握していますが、子育て家族についてはあまり把握しておりません。
朝の通学団などを見ますと、この地域にこんなに沢山の子どもたちがいるのかと驚かされます。学校から帰ってからの居場所・あそび場等、地域でも考えていかなければいけないかなと思います。
公民館や市民センターがあり、良いが、子どもも気軽に利用できる施設があるといい。
子ども食堂。
子どもたちとの交流を持てる活動を増やしたい。
子どもと親との活動（一緒に楽しめる）
子ども会の充実：会員数の減少、役員負担を減らす。
出没する不審者から、子どもを守る団体作り
小学校区における学校支援ボランティアの仕組みは良いと思います。幅広い年齢の人の登録があれば、みんなで地域の子どもの成長を見守ることができる。
ヤングケアラーの子どもたちに何かできないかと考えている。
子ども達に興味を持って頂く何か？ を考え出したいと思っています。

#### 5) 高齢者に関すること

- ・高齢者の交流機会・場所、移動支援、見守り・戸別訪問など

自由意見
高齢者の遊び場
公民館などで受け付けできるような高齢者も気軽に参加できる体操などがあるとよいと思います。
高齢者の参加できる場所、活動
高齢者調査で「近所に住民が気軽に集える場所がほしいな」と多くの意見や感想があった。今の市民館は遠くで、場所になじみもない。
高齢者会食の場。
上沢渡市営住宅では集会所でお茶会やラジオ体操などを月に何回か実施されているようだ。身近な場所、歩いて5～8分くらいで、自力で行けるところでの活動がいいのでは
老人の為の憩いの場（お茶会が出来、ゲーム等出来る場所）
古いマンションは、独居老人や老々介護の方が多いので、なるべくその人達が交流できる機会があれば…。
元気な高齢者には、どんどんボランティアに出られる場所を作って、支援される側から、する側へ互助になると良いです。
取り組みたいことではありませんが、高齢者の方と話をしている、運転免許を返納したいが市内循環バスが不便すぎる。停留所が遠い、本数が少ない等。もっとバスを小型にして、本数を増やしてほしい。もっと市民の足としての利便性を考えてほしいという声が非常に多い。無料の必要はないので、お金を払っても便利な方がよい。客のいない大型バスはむだ使い等。

自由意見
高齢者で家から自由に出れない人の交流の場への交通機関の充実があればよいと思う。
今年5月に多くの人の協力で、老人会で「グリーンケア」を立ち上げる事ができました。色々、難しさも感じますが、地域の人々の心の支えになれるよう続けていきたい。
デイサービスなど一日体験をし、良さを高齢者に伝えることができるようにしたい。
今年70歳以上の単身独居の方で、公共の通知物やインターホンを何度時間を変えて鳴らしても、応答のない方が2人ほど見えました。ほかの地区にも、何人かみえるようで、警戒心が強いのかも知れませんが、とりあえずは長い眼で見守りたいと思います。何かよいお知恵があれば接触できる機会が見つかるのでしょうか？
地域包括支援センターの職員と一緒に、老人宅を何度も訪問し、在宅は無理と思われた方を、長い時間・日を持ち、施設へと導いて下さり本当にホッとしました。

## 6) 障害者に関すること

- ・ 障害者家族との接点確保、障害者の社会参加、情報不足など

自由意見
以前は社協や市役所からのお見舞金等をお預かりして、障害者家族に手渡ししながら、近況等を話し合う機会がありました。しかし、振り込みになった現在、我々との関わりがなくなったため、訪問することもなく、家族との接点がありません。しかし、家族の中には「民生委員が来てくれなくて、話もできないので、さびしい」と言ってくださるところもあるとのことで、受け入れが可能などころから訪問の取り組みができたかと考えています。
障害のある方々の社会参加
障害者についての情報がない

## 7) 意識啓発に関すること

- ・ 福祉教育、防災意識、民生委員や地域包括支援センターについての周知・PR、支援される側への意識啓発など

自由意見
地域住民に対する理解活動。 自分自身、民生委員になる前は疎かったから。具体的策はよくわからないが。
高齢者、障害者、子どもたちへの助け合い、また、今後発生するだろう震災対応には地域の活動は必要です。しかし、一番効果がある助けが隣保精神とってます。どのようにしたらその精神を育むことができるか、取り組んでみたいです。
心のバリアフリー、差別や偏見のない社会づくりに取り組んで欲しいと思います。 最近、新聞かSNSで見かけたんですが、車いすの人がエレベーターに何分も待たなくてはいけない状況があり、エレベーターが満員で乗れない、と書いてありました。 何故、元気な人が降りて、ゆずることができないのでしょうか？ 助け合い、ゆずりあう「心」を育てる必要があると思います。
防災意識を高めたい。そのためにも高齢者、障害者にやさしい社会になってほしい
支援を必要としている高齢者、障害者の方などの情報を地域住民（近隣者）から得るために、民生委員・地域包括支援センターの存在を知ってもらう。

自由意見
地域包括センターの役割・活動をもっと一般の人が知るべきだと思う。非常に困った人に寄り添った活動をしていると思う。
助け合うにしてもまずは、私本人を知ってもらうことが大切かと思うので、調査で知り合った方と近所で会った際には挨拶、声かけ、話などして親しくなっていきたいと思っています。
支援する側だけでなく、支援が必要な住人の意識を高める動きを各団体・組織がしていってほしい。
若者の苦しみや自殺者などの手助けや相談のボランティアがしたいと思っていますが、どのように行動したりする仕方がよくわからない。

## 8) 自己啓発に関すること

- ・ 民生委員自身の自己研鑽・学習

自由意見
そんな地域にするために、自分自身がもっと知識や勉強できる環境。
未だ現状把握できておりませんので、もう少しお勉強しながら1つでも多く知識を付けたいと思います。

## 9) 情報共有に関すること

- ・ 地区委員と民生委員の連携、問題を抱える人・世帯の情報の入手など

自由意見
地区委員と民生委員が連携し、地域の福祉の問題点をあげ、福祉の増進に努めたい
ひきこもりや 8050 など把握しにくいので、そういった家庭をどうやって知るか、また、どう関わったらいいのか知りたいです。
民生委員をしても、地区内の家庭の情報は、入りにくいので、健保や班の活動を福祉の面まで広げた方が効率が良いのではないかと思います。
今、自分が持っている情報、各々が交換できる場所があれば良いと思います。
どこと連携したらよいかよくわからないが、老人との接点なので、ひとり暮らしで体調もよくない。不安（これから）がいっぱいあり、お金もない。こちらも手取り、足取りはできない。不安を少しでも和らげたらと思う。

## 10) その他

- ・ 多様性の受け入れなど

自由意見
公園での犬の糞尿マナー。地域の憩いの場が台無しになっている。
一部の人だけが利用するのではなく一般に開かれた、自治会の運営や福祉団体であってほしい。昔からの人のみ利用しやすい閉ざされた地域にするべきではない。多様性を受け入れる、地域になっていくことを望んでいます。
福祉社会の構築には、国の基本的な取り組みが欠かせないが、福祉は言葉だけにとどまっている。いや、後退している。

## 資料編

調査票

18 歳以上市民用

若年者（15～17 歳）用

自治会長 民生委員・児童委員用

## 18歳以上市民用

### 「地域福祉に関する市民意識調査」のお願い

皆さまには、日頃から福祉行政の推進にご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、刈谷市と刈谷市社会福祉協議会では、地域住民・ボランティア・NPO法人・サービス事業者・福祉関係団体などと協力して、障害の有無や年齢などにかかわらず、家庭や地域の中で安心した生活が送れるように、地域福祉を推進しています。

このたび、地域の福祉課題や今後の刈谷市の地域福祉の推進方向など、皆さまからのご意見をお聞きするアンケート調査を実施して、「第5次刈谷市地域福祉計画」の策定に活用したいと考えています。

この調査は、18歳以上の市民の皆さまの中から無作為に抽出した2,500人を対象に実施しています。回答は無記名であり、集計結果は公表させていただきますが、個人が特定されることはありません。ぜひ、皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和5年10月

刈谷市長 稲垣 武

刈谷市社会福祉協議会会長 杉浦 芳一

### 回答期限 令和5年11月7日（火）

《ご回答にあたって》

- この調査票は、あて名のご本人のお考えでご記入ください。（あて名の方がお答えできない場合は、ご本人に代わって18歳以上のご家族の方がお答えください。）
- 令和5年10月1日現在の内容でご記入ください。
- お答えは、質問のあてはまる番号に○をつけてください。
- お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）に具体的に書いてください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、回答期限までに投函してください（切手不要）。
- この調査票での回答のほか、Web回答も可能です。右の二次元コード  
又は下記URLからWebページにアクセスしご回答ください。  
(<https://questant.jp/q/7ZOAW2H1>)  
Web回答をされた場合は、調査票の返送は不要です。



二次元コード

#### ▼ 問い合わせ先

刈谷市役所 福祉総務課 総務係  
担当 川井・金原

TEL：0566-62-1012

FAX：0566-24-3481

電子メール：fukusou@city.kariya.lg.jp

刈谷市社会福祉協議会 総務課

担当 磯村・鮎澤

TEL：0566-29-0888

FAX：0566-27-0678

電子メール：soumu@kariyashi.jp

はじめにお読みください・・・

## 地域福祉とは…？

みなさんは、「福祉」という言葉から何を思い浮かべますか？

高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などといった対象者ごとにわかれた「行政などによるサービスの提供」という「福祉」を思いつくのではないのでしょうか？

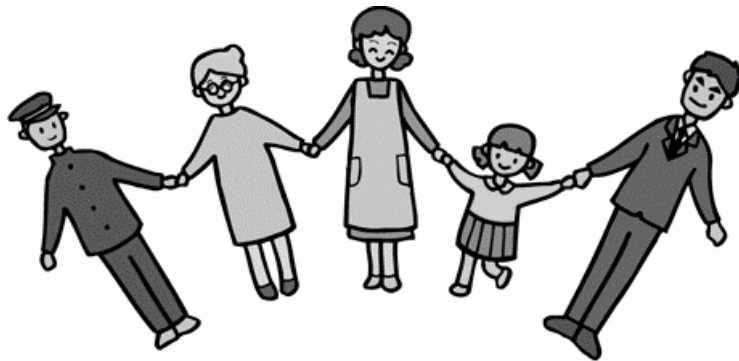
しかし、本来の「福祉」という言葉の意味は、「しあわせ」なのです。

私たちの住んでいる地域を見渡すと、ひとり暮らしのお年寄り、子育てに悩む親、障害のある人、病気の人など、不安を感じながら暮らしている人、また何らかの支援を必要としている人がたくさんいますが、誰もがみんな「地域で幸せに暮らしたい」と願っています。

そして、私たちの住んでいる地域が「幸せな地域」になるためには、行政などによるサービスだけでは手の届きにくい部分（見守りやちょっとした助けなど）を、皆さまがお互いに助け合い、支え合っていくことが大切です。

このように、

**誰もが幸せに暮らせる地域であるために、皆さま一人ひとりがお住まいの地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「幸せづくりの担い手」となって、みんなで支え合うことが「地域福祉」なのです。**



A あなたの年齢、ご家族などについておたずねします

問1 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、次のどれですか。(○は1つだけ)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 18歳～29歳 | 4 50歳～59歳 |
| 2 30歳～39歳 | 5 60歳～69歳 |
| 3 40歳～49歳 | 6 70歳以上   |

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

問3 あなたは現在同居されている方はいますか。

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 いる →問4へ | 2 いない →問5へ |
|-----------|------------|

問3で「1 いる」に○をつけた方におたずねします。

問4 あなたの世帯では、次のような方が同居されていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 小学校入学前の子ども   | 3 18歳以上65歳未満の人 |
| 2 小学生から18歳までの人 | 4 65歳以上の高齢者    |

問5 あなたの居住地(自治会別)は次のどれですか。(○は1つだけ)  
わからない場合はお住まいの町名をご記入ください。

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 1 刈谷西部 | 9 桜    | 17 泉田  |
| 2 刈谷中部 | 10 井ヶ谷 | 18 築地  |
| 3 刈谷東部 | 11 東境  | 19 小垣江 |
| 4 元刈谷  | 12 西境  | 20 高須  |
| 5 熊    | 13 今川  | 21 半城土 |
| 6 高津波  | 14 今岡  | 22 野田  |
| 7 小山   | 15 一里山 | 23 東刈谷 |
| 8 重原   | 16 一ツ木 |        |

※ わからない → 町名 ( )

地区を判別するため、野田町にお住まいの方は字名まで記入してください。

問6 あなたの就業・就学状況は次のどれですか。(○は1つだけ)

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1 自営業(農林業等従事者も含む)        | 4 パート・アルバイト    |
| 2 会社員など(公務員・会社役員・専門職も含む) | 5 無職(家事従事者も含む) |
| 3 学生・専門学校生               | 6 その他 ( )      |



問7 あなたは、刈谷市に住んで通算して何年になりますか。(〇は1つだけ)

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 1年未満     | 4 10年～20年未満 |
| 2 1年～5年未満  | 5 20年以上     |
| 3 5年～10年未満 |             |

問8 あなたが日常生活を送る上で、現在お困りのことはどんなことですか。

(〇はいくつでも)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 食事・洗濯・掃除などの日常の家事 | 9 急病など緊急時に支援者がいないこと |
| 2 ごみ出し             | 10 子どもを預ける先がないこと    |
| 3 通院や買い物のための外出     | 11 子育てのこと           |
| 4 ちょっとした力仕事        | 12 治安に関すること         |
| 5 お金の管理、支払い手続き等    | 13 介護・医療のこと         |
| 6 市役所等からの書類手続き     | 14 死後のこと(葬儀・相続など)   |
| 7 話し相手(相談相手)がいないこと | 15 今のところ特に困りごとはない   |
| 8 気軽に行ける居場所がないこと   | 16 その他              |
|                    | (具体的に )             |

問9 あなたが日常生活を送る上で、将来不安なこと(困りそうなこと)はどんなことですか。(〇はいくつでも)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 食事・洗濯・掃除などの日常の家事 | 9 急病など緊急時に支援者がいないこと |
| 2 ごみ出し             | 10 子どもを預ける先がないこと    |
| 3 通院や買い物のための外出     | 11 子育てのこと           |
| 4 ちょっとした力仕事        | 12 治安に関すること         |
| 5 お金の管理、支払い手続き等    | 13 介護・医療のこと         |
| 6 市役所等からの書類手続き     | 14 死後のこと(葬儀・相続など)   |
| 7 話し相手(相談相手)がいないこと | 15 特に困りそうなことはない     |
| 8 気軽に行ける居場所がないこと   | 16 その他              |
|                    | (具体的に )             |

## B 地域意識についておたずねします

問10 あなたにとって身近に感じられる「地域」とは、どの範囲をいいますか。

(〇は1つだけ)

- |        |          |
|--------|----------|
| 1 隣近所  | 4 中学校区   |
| 2 自治会  | 5 市内全域   |
| 3 小学校区 | 6 その他( ) |

問11 あなたは、ふだん近所の方との程度のおつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 家を行き来するつきあい   | 3 あいさつをする程度のつきあい |
| 2 立ち話をする程度のつきあい | 4 ほとんどつきあいはない    |

問12 あなたのご近所とのおつきあいに対する考え方は次のどれに最も近いですか。

(○は1つだけ)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 お互いに相談したり、助け合ったりすることはとても良いことである |
| 2 お互いにわずらわしくない程度は必要なことである         |
| 3 なくても困らないので、できればしたくない            |
| 4 わずらわしいことが多かったり、必要性を感じないので、したくない |
| 5 その他 ( )                         |

問13 あなたの住んでいる地域は、住民同士による助け合いや支え合いが行われるなど、地域のつながりが強いと思いますか。(○は1つだけ)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 強い         | 4 どちらかといえば弱い |
| 2 どちらかといえば強い | 5 弱い         |
| 3 どちらともいえない  | 6 わからない      |

問14 あなたは地域の活動や行事にどの程度参加していますか。(○は1つだけ)

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1 積極的に参加している  | →問16へ |
| 2 ほどほどに参加している |       |
| 3 あまり参加していない  | →問15へ |
| 4 参加していない     |       |

問14で「3 あまり参加していない」「4 参加していない」に○をつけた方におたずねします。

問15 あまり参加していない、参加していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 興味のある活動・行事がないから    | 5 行ったことがないので参加しにくいから |
| 2 時間的な余裕がないから        | 6 知らない人ばかりで参加しにくいから  |
| 3 地域との関係をあまり持ちたくないから | 7 活動に関心がないから         |
| 4 活動・行事の情報を知らないから    | 8 その他 ( )            |

問16 あなたの住んでいる地域や周辺の環境についてどう思いますか。

(それぞれあてはまるものに○)

	そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い
①あいさつや世間話をするなど近隣関係は良好である	1	2	3	4	5
②子どもから高齢者まで住民間の交流は活発である	1	2	3	4	5
③地域の活動に参加しやすい雰囲気がある	1	2	3	4	5
④手助けや見守りが必要な人がご近所に少ない	1	2	3	4	5
⑤地域での助け合いに関心のある人が多い	1	2	3	4	5
⑥住民が気軽に集える場所がある	1	2	3	4	5
⑦高齢者や障害のある人の利用に配慮されている施設がある	1	2	3	4	5
⑧買い物・通院などの移動手段が整っている	1	2	3	4	5
⑨地震・風水害などに対する防災体制が十分である	1	2	3	4	5
⑩防犯・交通安全対策が十分である	1	2	3	4	5

問17 地域で、ひとり暮らし高齢者、介護や病気、子育てなどで困っている世帯があったら、あなたにできることは何ですか。(○は3つまで)

1 日頃の声かけ・見守り	7 子育ての相談
2 話し相手	8 介護の相談
3 買い物	9 関係機関の紹介(情報提供)
4 ごみ出しや掃除などの家事	10 災害時などの緊急時の支援
5 病院・学校などへの送り迎え	11 特になし
6 短時間の子どもの預かり	12 その他(具体的に )

問18 あなた自身やあなたのご家族が、介護や病気、子育てなどで困った時、以下に示したようなことを、地域の人たちに支援してほしいですか。(○は3つまで)

1 日頃の声かけ・見守り	7 子育ての相談
2 話し相手	8 介護の相談
3 買い物	9 関係機関の紹介(情報提供)
4 ごみ出しや掃除などの家事	10 災害時などの緊急時の支援
5 病院・学校などへの送り迎え	11 特になし
6 短時間の子どもの預かり	12 その他(具体的に )



C 地域福祉活動についておたずねします

問22 あなたは、今までにボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 参加している
- 2 以前に参加したことがある
- 3 参加したことがない

問23 あなたは、今後ボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したいと思いませんか。(○は1つだけ)

- |   |       |
|---|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 ぜひ参加したい</li> <li>2 友人などが一緒なら参加したい</li> <li>3 時間ができたら参加したい</li> <li>4 機会(きっかけ)があったら参加したい</li> </ul> | →問25へ |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>5 参加できない</li> <li>6 参加したくない</li> </ul>   | →問24へ |

問23で「5 参加できない」「6 参加したくない」に○をつけた方におたずねします。

問24 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(○は1つだけ)

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 興味や関心がないから          | 5 わずらわしいことが多いから |
| 2 恥ずかしいから             | 6 報酬がない・少額だから   |
| 3 活動の内容や参加の仕方がわからないから | 7 その他           |
| 4 自分の生活のことで精一杯だから     | ( )             |

問25 刈谷市には6つの地域型地域包括支援センター<sup>(※)</sup>がありますが、地域包括支援センターを知っていますか。(○は1つだけ)

※「地域包括支援センター」…高齢者に係る相談や介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。

- 1 名前も活動内容も知っている
- 2 名前は知っているが活動内容はよく知らない
- 3 名前も活動内容も知らない

問26 あなたは、刈谷市社会福祉協議会ボランティアセンター<sup>(※)</sup>、刈谷市民ボランティア活動センターを知っていますか。(○は1つだけ)

※「ボランティアセンター」…ボランティアの相談・紹介・育成など様々なボランティア活動を支援する組織。

- 1 どちらも知っている
- 2 刈谷市社会福祉協議会ボランティアセンターのみ知っている
- 3 刈谷市民ボランティア活動センターのみ知っている
- 4 どちらも知らない

問27 あなたは、成年後見制度<sup>(※)</sup>を知っていますか。また、刈谷市成年後見支援センター<sup>(※)</sup>を知っていますか。(○は1つだけ)

※「成年後見制度」…認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分な人が、契約や財産管理などを行う際、家庭裁判所が選任した「成年後見人」などが本人の権利や財産などを保護し、支援する制度。

※「成年後見支援センター」…判断能力が不十分な人が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、成年後見制度の利用のお手伝いと、制度の普及啓発を行っている機関。

- |                        |
|------------------------|
| 1 どちらも知っている            |
| 2 成年後見制度のみ知っている        |
| 3 刈谷市成年後見支援センターのみ知っている |
| 4 どちらも知らない             |

問28 あなたは、あなたの地域の民生委員・児童委員<sup>(※)</sup>と活動内容を知っていますか。(○は1つだけ)

※「民生委員・児童委員」…住民の立場にたって、地域福祉に関する相談、支援を行う方。

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 人も活動内容も知っている        | 3 人は知らないが活動内容は知っている |
| 2 人は知っているが活動内容はよく知らない | 4 人も活動内容も知らない       |

#### D 地域防災への取り組みについておたずねします

問29 あなたは、地域の自主防災組織<sup>(※)</sup>を知っていますか。(○は1つだけ)

※「自主防災組織」…自治会など地域住民による任意の防災組織。

- |                        |
|------------------------|
| 1 名前も活動内容も知っている        |
| 2 名前は知っているが活動内容はよく知らない |
| 3 名前も活動内容も知らない         |

問30 あなたは、避難行動要支援者<sup>(※)</sup>を知っていますか。(○は1つだけ)

※「避難行動要支援者」…高齢者や障害のある人など、災害時に自力で避難することが困難な人のこと。

- |                      |
|----------------------|
| 1 名前も内容も知っている        |
| 2 名前は知っているが内容はよく知らない |
| 3 名前も内容も知らない         |

問31 万一の災害時に、高齢者や障害のある人など避難行動要支援者への情報伝達、避難所への誘導などを行うのは、主に誰だと考えますか。(○は1つだけ)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 家族        | 5 民生委員・児童委員 |
| 2 隣近所       | 6 市役所や消防署   |
| 3 地域の自主防災組織 | 7 その他       |
| 4 地域の消防団    | ( )         |

問32 地震などの災害に備えて、日頃からどのような取り組みがあれば地域での助け合いがしやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

- |                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| 1 自分や同居する家族の避難方法の確認             | 5 地域での防災訓練への参加     |
| 2 災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと | 6 危険箇所の把握          |
| 3 日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい       | 7 避難の際に手助けが必要な人の把握 |
| 4 災害対策の学習会への参加                  | 8 特にない             |
|                                 | 9 その他 ( )          |

問33 問32で回答したもののうち、日頃から「あなた」が取り組めるものはありますか。(〇はいくつでも)

- |                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| 1 自分や同居する家族の避難方法の確認             | 5 地域での防災訓練への参加     |
| 2 災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと | 6 危険箇所の把握          |
| 3 日頃からの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい       | 7 避難の際に手助けが必要な人の把握 |
| 4 災害対策の学習会への参加                  | 8 特にない             |
|                                 | 9 その他 ( )          |

### E 地域福祉の推進についておたずねします

問34 福祉水準が高いまち（福祉が充実しているまち）とはどのようなまちだと思いますか。あなたの考えに最も近いものは次のどれですか。(〇は1つだけ)

- |   |
|---|
| 1 福祉施設や福祉サービス事業者が多いまち                                       |
| 2 基本的な公的サービスはもちろんだが、市民の福祉意識が高く、地域の支え合いやボランティア活動が地域に根づいているまち |
| 3 公的サービスの種類が多く、福祉関係手当の金額などが高いまち                             |
| 4 その他 ( )   |

問35 あなたは、刈谷市の現在の福祉水準（公的<sup>(※)</sup>・非公的<sup>(※)</sup>な福祉サービスも含め）についてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

※「公的」…行政、社会福祉協議会など。※「非公的」…公的以外のもの。

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1 非常に高い | 5 非常に低い   |
| 2 やや高い  | 6 わからない   |
| 3 普通    | 7 その他 ( ) |
| 4 やや低い  |           |





問38で「1 名前も活動内容も知っている」に○をつけた方におたずねします。

問39 刈谷市社会福祉協議会に何を求めますか。(○はいくつでも)

- 1 福祉に関する情報の発信と提供
- 2 児童や生徒に対する福祉教育の充実
- 3 社会人に対する福祉教育の充実
- 4 ボランティアなどの地域福祉を支える人づくり
- 5 住民による地域福祉活動の支援
- 6 様々な地域課題に対するための包括的なネットワークづくり
- 7 困りごとのある人に対する相談体制の充実
- 8 介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化
- 9 特にない
- 10 その他 ( )

問40 刈谷市社会福祉協議会では、より身近な地域での支え合いを推進するため、地区社会福祉協議会(以下「地区社協」<sup>※</sup>)といひます。)及び福祉委員会<sup>※</sup>の設立・活動を支援しています。あなたは、地区社協、福祉委員会を知っていますか。(○は1つだけ)

※「地区社協」…地域にある高齢者、子育て、障害のある人等に関するさまざまな福祉課題について、地域住民が情報共有をしながら互いに助け合い、支え合う活動をしていくことを目的とした住民組織で、福祉委員会で構成されています。

※「福祉委員会」…自治会、民生委員・児童委員、ボランティア団体など地域で活動をしている人が集まり、地域課題を見つけ、課題解決に向けた取り組みをします。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 どちらも知っている   | 3 福祉委員会のみ知っている |
| 2 地区社協のみ知っている | 4 どちらも知らない     |

問41 福祉委員会の活動としてどのようなことができるとよいと思いますか。

(○はいくつでも)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 ひとり暮らし高齢者などの見守り  | 6 地域ボランティアの育成と支援    |
| 2 介護予防の取り組み        | 7 地域の福祉に関する困りごと相談窓口 |
| 3 「子育てサロン」などの子育て支援 | 8 特にない              |
| 4 多世代交流の場づくり       | 9 その他 ( )           |
| 5 災害時の支援体制づくり      |                     |

## G その他

問42 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、必要だと思う取り組み、見聞きしたことがある取り組み、今後あなたが取り組んでみたいことなどありましたら、教えてください。

ご協力ありがとうございました。

## 若年者（15～17 歳）用

### 「地域福祉に関する市民意識調査」のお願い

刈谷市と刈谷市社会福祉協議会では、多くの市民のみなさんに参加していただきながら、障害の有無や年齢などにかかわらず、家庭や地域の中でみんなが安心して生活が送れるように、地域住民・ボランティア・福祉に関係する人たちと協力して、「自分や家族が住みたい地域を自分たちで作る地域」、「地域で困っていることを自分たちで解決する地域」をつくるにはどうしたらよいかを検討しています。

この調査は、15歳から17歳までの若いみなさんの中から無作為に抽出した1,000人を対象に実施しています。みなさんの率直な意見をお聞きして、地域福祉の計画づくりに活用したいと考えています。回答は無記名であり、集計結果は公表させていただきますが、個人が特定されることはありません。ぜひ、みなさんの率直なご意見をお聞かせください。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和5年10月

刈谷市長 稲垣 武  
刈谷市社会福祉協議会会長 杉浦 芳一

### 回答期限 令和5年11月7日（火）

《ご回答にあたって》

- この調査票は、あて名のご本人のお考えでご記入ください。
- 令和5年10月1日現在の内容でご記入ください。
- お答えは、質問のあてはまる番号に○をつけてください。
- お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）に具体的に書いてください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、回答期限までに投函してください（切手不要）。
- この調査票での回答のほか、Web回答も可能です。右の二次元コード  
又は下記URLからWebページにアクセスしご回答ください。  
(<https://questant.jp/q/KLDKPJVF>)  
Web回答をされた場合は、調査票の返送は不要です。



二次元コード

#### ▼ 問い合わせ先

刈谷市役所 福祉総務課 総務係  
担当 川井・金原

TEL：0566-62-1012

FAX：0566-24-3481

電子メール：fukusou@city.kariya.lg.jp

刈谷市社会福祉協議会 総務課

TEL：0566-29-0888

担当 磯村・鮎澤

FAX：0566-27-0678

電子メール：soumu@kariyashi.jp

はじめにお読みください・・・

## 地域福祉とは…？

みなさんは、「福祉」という言葉から何を思い浮かべますか？

お年寄りや障害のある人などが困っているのを助ける、という「福祉」を思い浮かべるのではないのでしょうか？

しかし、本来の「福祉」という言葉の意味は、「しあわせ」なのです。

みなさんの住んでいる地域を見渡すと、お年寄りや障害のある人のほかにも、子育てに悩んでいる人、病気の人など、不安を感じながら暮らしている人、また何らかの助けを必要としている人がたくさんいますが、誰もがみんな「地域で幸せに暮らしたい」と願っています。

そして、私たちの住んでいる地域が「幸せな地域」になるためには、市役所では手の届きにくい部分（見守りやちょっとした助けなど）を、地域に住んでいるみなさんがお互いに助け合い、支え合っていくことが大切です。

このように、

**誰もが幸せに暮らせる地域であるために、皆さま一人ひとりがお住まいの地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「幸せづくりの担い手」となって、みんなで支え合うことが「地域福祉」なのです。**



**A あなたの年齢、ご家族などについておたずねします**

問1 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、何歳ですか。(○は1つだけ)

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 1 15歳 | 2 16歳 | 3 17歳 |
|-------|-------|-------|

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

問3 あなたは現在同居されている方はいますか。

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 いる →問4へ | 2 いない →問5へ |
|-----------|------------|

**問3で「1 いる」に○をつけた方におたずねします。**

問4 あなたの世帯では、次のような方が同居されていますか。(○はいくつでも)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 小学校入学前の子ども   | 3 18歳以上65歳未満の人 |
| 2 小学生から18歳までの人 | 4 65歳以上の高齢者    |

問5 あなたの居住地(自治会別)は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

わからない場合はお住まいの町名をご記入ください。

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 1 刈谷西部 | 9 桜    | 17 泉田  |
| 2 刈谷中部 | 10 井ヶ谷 | 18 築地  |
| 3 刈谷東部 | 11 東境  | 19 小垣江 |
| 4 元刈谷  | 12 西境  | 20 高須  |
| 5 熊    | 13 今川  | 21 半城土 |
| 6 高津波  | 14 今岡  | 22 野田  |
| 7 小山   | 15 一里山 | 23 東刈谷 |
| 8 重原   | 16 一ツ木 |        |

※ わからない → 町名 ( )

地区を判別するため、野田町にお住まいの方は字名まで記入してください。

**B 福祉教育などについておたずねします**

問6 あなたはこれまで学校やボランティア活動などで福祉を学んだことがありますか。(○は1つだけ)

- |            |
|------------|
| 1 ある → 問7へ |
| 2 ない → 問9へ |

問6で「1 ある」に○をつけた方におたずねします。

問7 学んだ前と後で福祉についての意識が変わりましたか。(○は1つだけ)

1 変わった →問8へ

2 変わらなかった

3 その他( )

→問9へ

問7で「1 変わった」に○をつけた方におたずねします。

問8 どんな福祉教育が意識を変えましたか。(○はいくつでも)

1 高齢者との交流

2 障害のある人との交流

3 保育体験

4 ボランティアや障害のある人など当事者の体験や講演会を聞くこと

5 教科書や補助教材など

6 体験を通じた当事者理解(車いす、アイマスクなど)

7 災害・防災に関する体験や講義

8 その他( )

問9 あなたは、世の中には、障害のある人に対して、差別や偏見があると思いますか。  
(○は1つだけ)

1 あると思う

2 少しはあると思う

3 ないと思う

→問10へ

→問11へ

問9で「1 あると思う」「2 少しはあると思う」に○をつけた方におたずねします。

問10 あなたは、障害のある人に対する差別や偏見を解消するためにはどのような取り組みが必要だ  
と思いますか。(○は1つだけ)

1 障害や障害のある人への理解を深めるための情報発信(広報紙・ホームページなど)

2 障害のある人との交流

3 福祉施設での体験学習(車いす体験、手話、要約筆記、点字など)

4 その他( )

## C 地域意識についておたずねします

問11 あなたにとって身近に感じられる「地域」とは、どの範囲ですか。(○は1つだけ)

1 隣近所

2 自治会

3 小学校区

4 中学校区

5 市内全域

6 その他( )

問12 あなたは、友達以外の近所の方とふだんの程度おつきあいをしていますか。  
(○は1つだけ)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 家を行き来するつきあい   | 3 あいさつをする程度のつきあい |
| 2 立ち話をする程度のつきあい | 4 ほとんどつきあいはない    |

問13 ご近所の方と話をしたり、家を行き来したりするなどのおつきあいをするということについて、あなたの考え方は次のどれに最も近いですか。(○は1つだけ)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 お互いに相談したり、助け合ったりすることはとても良いことである |
| 2 お互いにわずらわしくない程度は必要なことである         |
| 3 なくても困らないので、できればしたくない            |
| 4 わずらわしいことが多かったり、必要性を感じないので、したくない |
| 5 その他 ( )                         |

問14 あなたがこの1年間に参加した地域のイベントや活動は何ですか。(○はいくつでも)

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| 1 子ども会活動               | 7 障害者施設などでの行事 |
| 2 地域の運動会               | 8 公園や道路の清掃    |
| 3 主に近所の人が集まる祭り         | 9 地域の資源回収やバザー |
| 4 市が行う祭り(わんさか祭り、万燈祭など) | 10 地域のスポーツクラブ |
| 5 保育所などの行事(夏祭り、バザーなど)  | 11 参加していない    |
| 6 地域の老人ホームなどの行事        | 12 その他 ( )    |

問15 あなたは、地震などの災害に備えて、どのようなことが大切だと思いますか。  
(○はいくつでも)

- |               |                            |
|---------------|----------------------------|
| 1 自分のことは自分で守る | 5 ボランティア活動                 |
| 2 家族や親族とのつながり | 6 住民と行政との協働 <sup>(※)</sup> |
| 3 友人や知人とのつながり | 7 その他 ( )                  |
| 4 地域住民とのつながり  |                            |

※「協働」…同じ目標を達成しようとする者同士が、各々の考えや行動の仕方が違って、お互いの特性を活かし合って協力すること。

## D 地域福祉活動についておたずねします

問16 あなたは、今までにボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

- |                |
|----------------|
| 1 参加している       |
| 2 以前に参加したことがある |
| 3 参加したことがない    |

問17 あなたは、今後ボランティア活動や地域の支え合い活動に参加したいと思いますか。(○は1つだけ)

1 ぜひ参加したい	→問 19 へ
2 友人などが一緒なら参加したい	
3 時間ができたら参加したい	
4 機会があったら参加したい	
5 参加できない	→問 18 へ
6 参加したくない	

問17で「5 参加できない」「6 参加したくない」に○をつけた方におたずねします。

問18 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(○は1つだけ)

1 興味や関心がないから
2 恥ずかしいから
3 活動の内容や参加の仕方がわからないから
4 自分の生活のことで精一杯だから
5 わずらわしいことが多いから
6 報酬がない・少額だから
7 その他 ( )

問19 次の活動の中であなたができることや、やってみたいことがありますか。(○はいくつでも)

1 ひとり暮らしの高齢者や障害のある人への声かけ
2 ひとり暮らしの高齢者や障害のある人の買い物やごみ出しなどの手助け
3 ひとり暮らしの高齢者や障害のある人の緊急時の連絡や対応
4 児童館などでの小学生などとの交流
5 スポーツクラブなどでの小学生などの指導
6 福祉施設での手伝いや話し相手
7 点訳・朗読、手話通訳などのコミュニケーション支援
8 寄付や募金への協力
9 特にない
10 その他 ( )

## E その他

問20 あなたは、刈谷市社会福祉協議会<sup>(※)</sup>を知っていますか。(○は1つだけ)

※「社会福祉協議会」…社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であり、社会福祉法に基づきすべての都道府県・市町村に設置されている、営利を目的としない民間組織です。

刈谷市社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会や福祉委員会などの住民による地域活動の支援、ボランティアの育成や活動支援、福祉教育、共同募金、福祉の相談、障害のある人や高齢者への福祉サービスの提供などを行っています。

1 名前も活動内容も知っている →問21へ

2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない

3 名前も活動内容も知らない

→問22へ

問20で「1 名前も活動内容も知っている」に○をつけた方におたずねします。

問21 刈谷市社会福祉協議会に求めることは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 福祉に関する情報の発信と提供
- 2 児童や生徒に対する福祉教育の充実
- 3 社会人に対する福祉教育の充実
- 4 ボランティアなどの地域福祉を支える人づくり
- 5 住民による地域福祉活動の支援
- 6 様々な地域課題に対するための包括的なネットワークづくり
- 7 困りごとのある人に対する相談体制の充実
- 8 介護保険や障害福祉サービス事業者としての機能強化
- 9 特になし
- 10 その他 ( )

問22 あなたは、あなたの地域の民生委員・児童委員<sup>(※)</sup>と活動内容を知っていますか。(○は1つだけ)

※「民生委員・児童委員」…住民の立場にたって、地域福祉に関する相談、支援を行う方。

- 1 人も活動内容も知っている
- 2 人は知っているが、活動内容はよく知らない
- 3 人は知らないが、活動内容は知っている
- 4 人も活動内容も知らない

ご協力ありがとうございました。



## 「地域福祉に関する市民意識調査」のお願い

皆さまには、日頃から福祉行政の推進にご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、刈谷市と刈谷市社会福祉協議会では、地域住民・ボランティア・NPO法人・サービス事業者・福祉関係団体などと協力して、障害の有無や年齢などにかかわらず、家庭や地域の中で安心した生活が送れるように、地域福祉を推進しています。

このたび、地域の福祉課題や今後の刈谷市の地域福祉の推進方向など、皆さまからのご意見をお聞きするアンケート調査を実施して、「第5次刈谷市地域福祉計画」の策定に活用したいと考えています。

この調査は、自治会長、民生委員・児童委員の皆さまを対象に実施しています。回答は無記名であり、集計結果は公表させていただきますが、個人が特定されることはありません。ぜひ、皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和5年10月

刈谷市長 稲垣 武  
刈谷市社会福祉協議会会長 杉浦 芳一

### 回答期限 令和5年11月7日（火）

《ご回答にあたって》

- この調査票は、ご自分のお考えでご記入ください。
- 令和5年10月1日現在の内容でご記入ください。
- お答えは、質問のあてはまる番号に○をつけてください。
- お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）に具体的に書いてください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、回答期限までに投函してください（切手不要）。
- この調査票での回答のほか、Web 回答も可能です。右の二次元コード又は下記 URL から Web ページにアクセスして回答ください。  
(<https://questant.jp/q/7B601RQM>)  
Web 回答をされた場合は、調査票の返送は不要です。



二次元コード

#### ▼ 問い合わせ先

刈谷市役所 福祉総務課 総務係  
担当 川井・金原

TEL：0566-62-1012

FAX：0566-24-3481

電子メール：fukusou@city.kariya.lg.jp

刈谷市社会福祉協議会 総務課  
担当 磯村・鮎澤

TEL：0566-29-0888

FAX：0566-27-0678

電子メール：soumu@kariyashi.jp

はじめにお読みください・・・

## 地域福祉とは…？

みなさんは、「福祉」という言葉から何を思い浮かべますか？

高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などといった対象者ごとにわかれた「行政などによるサービスの提供」という「福祉」を思いつくるのではないのでしょうか？

しかし、本来の「福祉」という言葉の意味は、「しあわせ」なのです。

私たちの住んでいる地域を見渡すと、ひとり暮らしのお年寄り、子育てに悩む親、障害のある人、病気の人など、不安を感じながら暮らしている人、また何らかの支援を必要としている人がたくさんいますが、誰もがみんな「地域で幸せに暮らしたい」と願っています。

そして、私たちの住んでいる地域が「幸せな地域」になるためには、行政などによるサービスだけでは手の届きにくい部分（見守りやちょっとした助けなど）を、皆さまがお互いに助け合い、支え合っていくことが大切です。

このように、

**誰もが幸せに暮らせる地域であるために、皆さま一人ひとりがお住まいの地域にある困りごとを「自分のこと」としてとらえ、「幸せづくりの担い手」となって、みんなで支え合うことが「地域福祉」なのです。**



## A あなたの回答区分や年齢などについておたずねします

問1 回答区分をお答えください。

- |        |             |
|--------|-------------|
| 1 自治会長 | 2 民生委員・児童委員 |
|--------|-------------|

問2 あなたの年齢は、令和5年10月1日現在、次のどれですか。(〇は1つだけ)

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 39歳以下 | 4 60歳代  |
| 2 40歳代  | 5 70歳以上 |
| 3 50歳代  |         |

問3 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

問4 あなたの居住地(地区別)は次のどれですか。(〇は1つだけ)

- |  |
|--|
| 1 北部地区(井ヶ谷、東境、西境、今川、今岡、一里山、一ツ木、泉田、築地)    |
| 2 中部地区(刈谷西部、刈谷中部、刈谷東部、元刈谷、熊、高津波、小山、重原、桜) |
| 3 南部地区(小垣江、高須、半城土、野田、東刈谷)                |

## B 地域についておたずねします

問5 あなたの住んでいる地域は、住民同士による助け合いや支え合いが行われるなど、地域のつながりが強いと思いますか。(〇は1つだけ)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 強い        | 4 どちらかという弱い |
| 2 どちらかという強い | 5 弱い        |
| 3 どちらともいえない | 6 わからない     |

問6 あなたご自身が活動をする中で抱えている課題は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

- |                                     |                       |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1 相談をしてきた人との関わり方が難しい                | 6 他の団体・組織との連携がうまくいかない |
| 2 個人情報の保護により行政から活動に必要な情報が得られない      | 7 活動が忙しすぎる            |
| 3 行政や社会福祉協議会のどこにつないだら良いか、分からないことがある | 8 後継者がいない             |
| 4 複数の活動を抱えており、調整が困難である              | 9 特になし                |
| 5 担当する地域の各世帯の把握が困難である               | 10 その他<br>(具体的に )     |

問7 あなたが活動されている地区で、以下の様な人を見聞きしたことがありますか。

(○はいくつでも)

1 ひきこもり	9 老老介護・認知介護 (老老介護は高齢者の介護を高齢者が行うこと。認知介護は高齢の認知症患者の介護を認知症である高齢の家族が行うこと)
2 ニート (仕事に就いておらず、家事も通学もしていない若者)	10 生活困窮者・家庭 (病気や障害などにより経済的に生活のしづらさを抱えている人)
3 8050問題 (80代の親が収入のない50代の子どもの生活を支える問題)	11 子どもの貧困
4 認知症の人	12 高齢者や障害のある人への虐待
5 支援が必要な単身高齢者	13 子どもへの虐待
6 支援が必要な障害のある人	14 DV (配偶者等からの暴力)
7 ヤングケアラー (家族の介護をする18歳未満の子ども)	15 見聞きしたことはない
8 ダブルケア (子育てと家族の介護など複数のケアに携わる人)	16 その他 (具体的に )

問8 今後、支援が必要な人に対して、地域での支え合いをより活性化していくために、特に必要なことは次のうちどれだと思いますか。(○はいくつでも)

1 新たな担い手を育成していく	7 他の自治会長、民生委員・児童委員との交流を活発にしていく
2 行政との連携を深める	8 他のボランティア・NPOとの交流や協働の機会を増やす
3 社会福祉協議会との連携を深める	9 その他 (具体的に )
4 地区社会福祉協議会や福祉委員会の立ち上げや活動の充実	
5 地域住民に活動内容を知ってもらう	
6 専門的な研修・勉強会などの機会を増やす	

問9 あなたの住んでいる地域や周辺の環境についてどう思いますか。(各項目○は1つずつ)

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
①あいさつや世間話をするなど近隣関係は良好である	1	2	3	4	5
②子どもから高齢者まで住民間の交流は活発である	1	2	3	4	5
③地域の活動に参加しやすい雰囲気がある	1	2	3	4	5
④手助けや見守りが必要な人がご近所に少ない	1	2	3	4	5
⑤地域での助け合いに関心のある人が多い	1	2	3	4	5
⑥住民が気軽に集える場所がある	1	2	3	4	5
⑦高齢者や障害のある人の利用に配慮されている施設がある	1	2	3	4	5
⑧買い物・通院などの移手段が整っている	1	2	3	4	5
⑨地震・風水害などに対する防災体制が十分である	1	2	3	4	5
⑩防犯・交通安全対策が十分である	1	2	3	4	5

C 他団体との連携についておたずねします

問10 あなたは、地域での活動の際に、どのような団体などと連携して活動されていますか。  
(○はいくつでも)

1 自治会	10 医療施設	19 更生保護団体
2 公民館	11 社会福祉協議会	20 赤十字奉仕団
3 いきいきクラブ(老人クラブ)	12 地区社会福祉協議会	21 自主防災組織
4 女性の会	13 福祉委員会	22 警察・消防
5 子ども会	14 保育園・乳児園・幼児園	23 特にない
6 ボランティア団体	15 小・中学校、高校、大学	24 その他
7 NPO法人	16 地域包括支援センター	( )
8 高齢者施設	17 子育て支援センター	
9 障害者施設	18 民生委員・児童委員	(→23の方は問12へ)

問11 他の団体などと連携して行っている活動は、どのような活動ですか。(○はいくつでも)

1 子育ての相談、保護者の交流支援
2 子どもの遊び、野外活動
3 子どもの居場所づくり
4 高齢者の安否確認、話し相手、手紙など
5 高齢者の居場所づくり
6 高齢者や障害のある人などへの生活支援
7 点訳・朗読、手話通訳などのコミュニケーション支援
8 高齢者や障害のある人へのレクリエーション・スポーツ活動の支援
9 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支えるための啓発活動
10 福祉施設への訪問活動
11 福祉施設での作業補助
12 福祉イベントなどを通じた交流活動
13 ひとり親家庭・生活困窮世帯への訪問
14 地域への施設開放
15 その他 ( )

問12 今後活動を行う中で連携したい組織や団体はありますか。

1 ある →問13へ
2 特にない →問16へ

問13 これから連携をしたい組織や団体はどこですか。(〇はいくつでも)

1 自治会	10 医療施設	19 更生保護団体
2 公民館	11 社会福祉協議会	20 赤十字奉仕団
3 いきいきクラブ(老人クラブ)	12 地区社会福祉協議会	21 自主防災組織
4 女性の会	13 福祉委員会	22 警察・消防
5 子ども会	14 保育園・乳児園・幼稚園	23 その他
6 ボランティア団体	15 小・中学校、高校、大学	( )
7 NPO法人	16 地域包括支援センター	
8 高齢者施設	17 子育て支援センター	
9 障害者施設	18 民生委員・児童委員	

問14 問13の回答について、なぜその組織や団体と連携をしたいと思いますか。選択した番号と連携したい内容を記入してください。

**記入例: 「6 子どもの居場所づくりを共に進めたい」**

問15 他の組織・団体と連携しようとする上で困っていることがあれば教えてください。

## D その他

問16 みんなで助け合い・支え合える地域をつくるために、必要だと思う取り組み、見聞きしたことがある取り組み、今後あなたが取り組んでみたいことなどあれば教えてください。

ご協力ありがとうございました。